



Cisco IP Phone 8841/8851/ 8861 アドミニストレーションガイド for Cisco Unified Communications Manager 10.5

初版：2014年05月29日

シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー
<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター
0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00
<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（www.cisco.com/jp/go/safety_warning/）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

FCC クラス A 準拠装置に関する記述：この装置はテスト済みであり、FCC ルール Part 15 に規定された仕様のクラス A デジタル装置の制限に準拠していることが確認済みです。これらの制限は、商業環境で装置を使用したときに、干渉を防止する適切な保護を規定しています。この装置は、無線周波エネルギーを生成、使用、または放射する可能性があり、この装置のマニュアルに記載された指示に従って設置および使用しなかった場合、ラジオおよびテレビの受信障害が起こることがあります。住宅地でこの装置を使用すると、干渉を引き起こす可能性があります。その場合には、ユーザ側の負担で干渉防止措置を講じる必要があります。

FCC クラス B 準拠装置に関する記述：この装置はテスト済みであり、FCC ルール Part 15 に規定された仕様のクラス B デジタル装置の制限に準拠していることが確認済みです。これらの制限は、住宅地で使用したときに、干渉を防止する適切な保護を規定しています。この装置は、無線周波エネルギーを生成、使用、または放射する可能性があり、指示に従って設置および使用しなかった場合、ラジオおよびテレビの受信障害が起こることがあります。ただし、特定の設置条件において干渉が起きないことを保証するものではありません。装置がラジオまたはテレビ受信に干渉する場合には、次の方法で干渉が起きないようにしてください。干渉しているかどうかは、装置の電源のオン/オフによって判断できます。

- 受信アンテナの向きを変えるか、場所を移動します。
- 装置と受信機との距離を離します。
- 受信機と別の回路にあるコンセントに装置を接続します。
- 販売業者またはラジオやテレビに詳しい技術者に連絡します。

シスコでは、この製品の変更または改造を認めていません。変更または改造した場合には、FCC 認定が無効になり、さらに製品を操作する権限を失うことになります。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワークトポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: <http://www.cisco.com/go/trademarks>. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)



目次

はじめに **xiii**

概要 **xiii**

対象読者 **xiii**

ガイドの表記法 **xiii**

関連資料 **xv**

Cisco Unified IP Phone 8800 シリーズのマニュアル **xv**

Cisco Unified Communications Manager のマニュアル **xv**

Cisco Business Edition 3000 のマニュアル **xv**

Cisco Business Edition 6000 のマニュアル **xvi**

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート **xvi**

シスコ製品のセキュリティ **xvi**

Cisco IP Phone について **1**

技術的な詳細情報 **3**

物理仕様および動作環境仕様 **3**

ケーブル仕様 **4**

ネットワーク ポートとコンピュータ ポートのピン割り当て **5**

ネットワーク ポート コネクタ **5**

コンピュータ ポート コネクタ **5**

電話機の所要電力 **6**

停電 **7**

電力削減 **8**

LLDP での電力ネゴシエーション **8**

ネットワーク プロトコル **9**

VLAN の連携 **14**

Cisco Unified Communications Manager の連携 **15**

Cisco Unified Communications Manager Express の連携 **15**

ボイス メッセージ システムの連携	16
電話機起動の概要	16
外部デバイス	18
USB ポート情報	19
電話機設定ファイル	19
Cisco IP Phone ハードウェア	21
Cisco IP Phone 8841、8851、8861 の概要	21
Cisco IP Phone 8841	23
電話機の接続	23
ボタンとハードウェア	24
Cisco IP Phone 8851	27
電話機の接続	27
ボタンとハードウェア	29
Cisco IP Phone 8861	32
電話機の接続	32
ボタンとハードウェア	34
用語の違い	37
Cisco IP Phone の設置	39
Cisco IP Phone の設置	41
ネットワーク設定の確認	41
電話機の自動登録の有効化	42
Cisco IP Phone の設置	44
セットアップ メニューからの電話の設定	45
電話機パスワードの適用	47
電話機からのテキスト メニューの入力	47
ワイヤレス LAN のセットアップ	48
Cisco Unified Communications Manager からのワイヤレス LAN のセットアップ	49
電話機からのワイヤレス LAN のセットアップ	49
ネットワークの設定	54
IPv4 のセットアップ	59
IPv6 のセットアップ	63
[ドメイン名 (Domain Name)] フィールドの設定	67

[管理 VLAN ID (Admin VLAN ID)] フィールドの設定	67
[PC VLAN] フィールドの設定	67
[SW ポートのセットアップ (SW Port Setup)] フィールドの設定	68
[PC ポートのセットアップ (SW Port Setup)] フィールドの設定	68
[ワイヤレス (Wireless)] フィールドの設定	68
[WLAN サインインアクセス (WLAN Sign In Access)] フィールドの設定	69
[SSID] フィールドの設定	69
[セキュリティ モード (Security Mode)] フィールドの設定	69
[802.11 モード (802.11 Mode)] フィールドの設定	69
[DHCP を使う (DHCP Enabled)] フィールドの設定	70
[IP アドレス (IP Address)] フィールドの設定	70
[サブネット マスク (Subnet Mask)] フィールドの設定	70
[デフォルトルータ (Default Router)] フィールドの設定	71
[DNS サーバ (DNS Server)] フィールドの設定	71
[代替 TFTP (Alternate TFTP)] フィールドの設定	71
[TFTP サーバ 1 (TFTP Server 1)] フィールドの設定	72
[TFTP サーバ 2 (TFTP Server 2)] フィールドの設定	72
DHCP を使用するための電話機のセットアップ	72
DHCP を使用しないための電話機のセットアップ	73
電話機の起動確認	73
ユーザの電話サービスの設定	74
Cisco Unified Communications Manager での電話機の設定	77
Cisco IP Phone のセットアップ	77
電話機の MAC アドレスの決定	81
電話機の追加方法	82
電話機の個別の追加	82
BAT 電話テンプレートを使用した電話機の追加	83
Cisco Unified Communications Manager へのユーザの追加	83
外部 LDAP ディレクトリからのユーザの追加	84
Cisco Unified Communications Manager へのユーザの直接追加	84
エンドユーザ グループへのユーザの追加	85
電話機とユーザの関連付け	86

Survivable Remote Site Telephony	86
Cisco Unified Communications Manager 機能のセットアップ	90
セルフ ケア ポータルの管理	93
セルフ ケア ポータルの概要	93
セルフ ケア ポータルへのアクセスの設定	94
セルフ ケア ポータルの表示のカスタマイズ	94
ハードウェアとアクセサリの設置	97
Cisco IP Phone のアクセサリ	99
アクセサリ サポート	99
フットスタンドの接続	100
ケーブルロックによる電話機の固定	101
外部スピーカおよびマイクロフォン	101
ヘッドセット	102
音質	102
アナログのヘッドセット	103
アナログヘッドセットでのワイドバンドの有効化	103
アナログヘッドセットでのワイドバンドコーデックの有効化	103
有線ヘッドセット	104
有線ヘッドセットへの接続	104
有線ヘッドセットの無効化	104
USB ヘッドセット	105
USB ヘッドセットの有効化	105
USB ヘッドセットの無効化	105
ワイヤレスヘッドセット	106
電子フックスイッチの有効化	106
Bluetooth ワイヤレスヘッドセット	107
Bluetooth ワイヤレスヘッドセットの有効化	109
Cisco IP Phone キー拡張モジュール	111
Cisco IP Phone キー拡張モジュールセットアップの概要	111
KEM 電源情報	112
Cisco IP Phone への 1 台の KEM の接続	112
Cisco IP Phone への 2 ～ 3 台の KEM の接続	116

- キー拡張モジュールの Cisco Unified CM の管理でのセットアップ 120
- キー拡張モジュール セットアップへのアクセス 123
- キー拡張モジュールのリセット 124
- キー拡張モジュールのトラブルシューティング 124
- 壁面取り付け 125**
 - 壁面取り付けオプション 125
 - 電話機のロック非対応壁面取り付けコンポーネント 125
 - 電話へのロック非対応壁面取り付けキットの取り付け 127
 - ロック非対応壁面取り付けからの電話機の取り外し 131
 - キー拡張モジュール付き電話用ロック非対応壁面取り付けコンポーネント 132
 - キー拡張モジュール付き電話用ロック非対応壁面取り付けキットの装着 134
 - ロック非対応壁面取り付けからの電話機とキー拡張モジュールの取り外し 138
 - ハンドセット レストの調整 139
- Cisco IP Phone の管理 141**
 - Cisco IP Phone のセキュリティ 143**
 - 電話機の現在のセキュリティ機能の表示 143
 - セキュリティ プロファイルの表示 143
 - サポート対象のセキュリティ機能 144
 - ローカルで有効な証明書のセットアップ 149
 - 電話コールのセキュリティ 150
 - セキュアな会議コールの特定 151
 - セキュアな電話コールの識別 152
 - 割り込みの暗号化 153
 - WLAN セキュリティ (WLAN Security) 153
 - 802.1X 認証 157
 - 802.1X 認証へのアクセス 158
 - [802.1X 認証 (802.1X Authentication)] オプション 158
 - [デバイス認証 (Device Authentication)] フィールドの設定 159
 - Cisco IP Phone のカスタマイズ 161**
 - カスタム電話呼出音 161
 - カスタム電話呼出音のセットアップ 161
 - カスタム呼出音のファイル形式 162

カスタム背景イメージ	163
カスタム背景イメージのセットアップ	164
カスタム背景ファイル形式	165
ワイドバンドコーデックのセットアップ	166
未使用時画面のセットアップ	167
電話機の機能および設定	169
電話機の機能および設定の概要	170
Cisco IP Phone ユーザのサポート	171
テレフォニー機能	171
機能ボタンとソフトキー	192
スピーカーフォンを無効にする	194
Cisco IP Phone での省電力のスケジュール	194
Cisco IP Phone での Power Save Plus (EnergyWise) のスケジュール	196
エージェント グリーティングの有効化	200
DF ビットのセットアップ	201
サイレントの設定	202
モニタリングと録音のセットアップ	203
LLDP の電力ネゴシエーションのセットアップ	204
Bluetooth プロファイルのセットアップ	204
自動ポート同期の設定	205
SSH アクセスの設定	205
コールの転送通知のセットアップ	206
クライアント識別コードのセットアップ	207
コールの回線ステータスのリストの有効化	208
デュアルバンク情報のセットアップ	208
強制承認コードの設定	209
着信コール Toast タイマーの設定	209
ピア ファームウェア共有の設定	210
リモートポート設定のセットアップ	211
ヘッドセットの側音制御の設定	212
デバイスから呼び出された録音を有効化	213
Release ボタンからのダイヤル トーンのセットアップ	214

パーク モニタリング	214
パーク モニタリング タイマーのセットアップ	215
電話番号のパーク モニタリング パラメータ設定	216
ハントリストのパーク モニタリングのセットアップ	217
実行可能な着信呼警告の有効化	218
コール履歴表示拡張の有効化	219
共有回線のコール履歴の有効化	220
デフォルト回線フィルタのセットアップ	220
カスタム回線フィルタのセットアップ	221
電話ボタンテンプレート	221
電話ボタンテンプレートの変更	221
すべてのコールの電話ボタンテンプレートの割り当て	222
IP Phone サービスとしての PAB またはスピードダイヤルのセットアップ	223
PAB またはファストダイヤル用の電話ボタンテンプレートの変更	224
電話機の Web ページへのアクセスの制御	225
ソフトキーテンプレートの設定	226
RTP/sRTP ポート範囲のセットアップ	229
TLS 再開タイマーのセットアップ	230
ビジュアルボイスメールのセットアップ	231
特定ユーザのビジュアルボイスメールのセットアップ	232
ユーザグループのビジュアルボイスメールのセットアップ	232
社内ディレクトリとパーソナルディレクトリ	233
社内ディレクトリのセットアップ	233
パーソナルディレクトリのセットアップ	233
ユーザのパーソナルディレクトリのエントリのセットアップ	234
Cisco IP Phone Address Book Synchronizer のダウンロード	234
Cisco IP Phone Address Book Synchronizer の導入	235
Synchronizer のインストール	235
Synchronizer のセットアップ	236
Cisco IP Phone のトラブルシューティング	239
電話システムの監視	241
Cisco IP Phone のステータス	241

[モデル情報 (Model Information)] ウィンドウの表示	241
[モデル情報 (Model Information)] のフィールド	242
[ステータス (Status)] メニューの表示	243
[ステータス メッセージ (Status Messages)] ウィンドウの表示	244
ステータス メッセージフィールド	244
[イーサネット統計 (Ethernet Statistics)] 画面の表示	254
イーサネット統計情報	254
[ワイヤレス統計 (Wireless Statistics)] 画面の表示	258
WLAN 統計	259
[コール統計 (Call Statistics)] ウィンドウの表示	261
コール統計のフィールド	261
[現在のアクセス ポイント (Current Access Point)] ウィンドウの表示	263
[現在のアクセス ポイント (Current Access Point)] のフィールド	264
Cisco IP Phone Web ページ	266
電話機の Web ページへのアクセス	266
デバイス情報	267
ネットワークのセットアップ	269
ネットワーク統計 (Network Statistics)	275
[イーサネット情報 (Ethernet Information)] Web ページ	275
[アクセス領域 (Access Area)] と [ネットワーク領域 (Network Area)] の Web ページ	276
デバイス ログ	279
ストリームの統計	279
XML での電話からの情報要求	284
CallInfo の出力例	285
LineInfo の出力例	285
ModeInfo の出力例	286
トラブルシューティング	287
一般的なトラブルシューティング情報	287
起動時の問題	289
Cisco IP Phone が通常の起動プロセスを実行しない	289
Cisco IP Phone が Cisco Unified Communications Manager に登録されない	290

電話機にエラーメッセージが表示される	290
電話機が TFTP サーバまたは Cisco Unified Communications Manager に接続できない	291
電話機が TFTP サーバに接続できない	291
電話機がサーバに接続できない	291
電話機が DNS を使用して接続できない	291
Cisco Unified Communications Manager および TFTP サービスの未作動	292
設定ファイルの破損	292
Cisco Unified Communications Manager での電話機の登録	292
Cisco IP Phone が IP アドレスを取得できない	293
Cisco IP Phone のリセットの問題	293
断続的なネットワークの停止による電話機のリセット	293
DHCP の設定エラーによって電話機がリセットされる	294
誤ったスタティック IP アドレスによる電話機のリセット	294
ネットワーク使用量が多いときの電話機のリセット	294
意図的なリセットでの電話機リセット	294
DNS エラーまたは他の接続の問題による電話機のリセット	295
電話機に電源が入らない	295
電話機が LAN に接続できない	295
Cisco IP Phone のセキュリティの問題	296
CTL ファイルの問題	296
認証エラー。電話機が CTL ファイルを認証できない	296
電話機が CTL ファイルを認証できない	296
CTL ファイルは認証されるが、他の設定ファイルが認証されない	296
ITL ファイルは認証されるが、他の設定ファイルが認証されない	297
TFTP 認証が失敗する	297
電話機が登録されない	297
署名付き設定ファイルが要求されない	298
802.1X 認証の問題	298
802.1X が電話機で有効だが、電話機が認証されない	299
802.1X が有効になっていない問題	300

電話機を工場出荷時の状態にリセットすると、802.1X 共有秘密が削除される	300
コールに関する一般的な問題	300
コールを確立できない	300
電話機が DTMF デジットを認識しないか、または数字が遅い	301
トラブルシューティング手順	301
TFTP 設定の確認	302
DNS または接続の問題の特定	302
DHCP 設定の確認	303
新しい電話機設定ファイルの作成	304
802.1X 認証の問題の識別	305
DNS 設定の確認	305
サービスの開始	305
その他のトラブルシューティング情報	306
メンテナンス	307
基本的なリセット	307
電話機のキーパッドからの工場出荷時状態へのリセット	308
電話機のメニューからの工場出荷時状態へのリセット	309
ネットワーク設定のリセット	309
ユーザとネットワークの設定のリセット	309
CTL ファイルの削除	310
Quality Report Tool	310
音声品質のモニタリング	311
音声品質のトラブルシューティングのヒント	311
Cisco IP Phone のクリーニング	312
各言語ユーザのサポート	315
Unified Communications Manager Endpoints Locale インストーラ	315
国際コールのロギングのサポート	315



はじめに

- 概要, [xiii ページ](#)
- 対象読者, [xiii ページ](#)
- ガイドの表記法, [xiii ページ](#)
- 関連資料, [xv ページ](#)
- マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート, [xvi ページ](#)

概要

『*Cisco Unified IP Phone 8841, 8851, and 8861 Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager (SIP)*』では、VoIP ネットワーク上の電話機の理解、設置、設定、管理、およびトラブルシューティングに必要な情報について説明します。

IP テレフォニー ネットワークは複雑なため、このマニュアルでは、Cisco Unified Communications Manager またはその他のネットワーク デバイスで実行する必要がある手順のすべてについては説明していません。

対象読者

このマニュアルは、ネットワーク技術者、システム管理者、および電気通信技術者を対象としており、Cisco IP Phone をセットアップするために必要な手順について説明しています。このマニュアルで説明されている作業には、電話機のユーザを対象にしているネットワーク設定値の設定が含まれます。このマニュアルの作業を実行するには、Cisco Unified Communications Manager に精通していることが必要です。

ガイドの表記法

このマニュアルでは、次の表記法を使用しています。

表記法	説明
太字	コマンドおよびキーワードは太字で示しています。
イタリック体	ユーザが値を指定する引数は、イタリック体で表記されています。
[]	角カッコの中の要素は、省略可能です。
{ x y z }	必ずどれか1つを選択しなければならない必須キーワードは、波カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
[x y z]	どれか1つを選択できる省略可能なキーワードは、角カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
string	引用符を付けない一組の文字。string の前後には引用符を使用しません。引用符を使用すると、その引用符も含めて string とみなされます。
screen フォント	システムが表示する端末セッションおよび情報は、screen フォントで示しています。
input フォント	ユーザが入力しなければならない情報は、input フォントで示しています。
イタリック体の screen フォント	ユーザが値を指定する引数は、イタリック体の screen フォントで示しています。
^	^記号は、Ctrl キーを表します。たとえば、画面に表示される ^D というキーの組み合わせは、Ctrl キーを押しながら D キーを押すことを意味します。
< >	パスワードのように出力されない文字は、山カッコで囲んで示しています。



(注) 「注釈」です。役立つ情報や、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。



注意 「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。

警告は、次のように表しています。

**注目** 安全上の重要事項

「危険」の意味です。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。機器の取り扱い作業を行うときは、電気回路の危険性に注意し、一般的な事故防止対策に留意してください。警告の各国語版については、各警告文の末尾に提示されている番号をもとに、この機器に付属している各国語で記述された安全上の警告を参照してください。警告文 1071

これらの注意事項を保存しておいてください。

関連資料

次の項を使用して、関連情報を取得してください。

Cisco Unified IP Phone 8800 シリーズのマニュアル

お使いの言語、電話機モデル、および Cisco Unified Communications Manager リリース向けの資料を参照してください。次のドキュメント URL から参照してください。

<http://www.cisco.com/c/en/us/support/collaboration-endpoints/unified-ip-phone-8800-series/tsd-products-support-series-home.html>

Cisco Unified Communications Manager のマニュアル

『Cisco Unified Communications Manager Documentation Guide』およびご使用の Cisco Unified Communications Manager リリースに特化したその他の文書を参照してください。次のドキュメント URL から参照してください。

<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/tsd-products-support-series-home.html>

Cisco Business Edition 3000 のマニュアル

『Cisco Business Edition 3000 Documentation Guide』およびご使用の Cisco Business Edition 3000 リリースに特化したその他の文書を参照してください。次のドキュメント URL から参照してください。

<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/business-edition-3000/tsd-products-support-series-home.html>

Cisco Business Edition 6000 のマニュアル

『Cisco Business Edition 6000 Documentation Guide』およびお使いの Cisco Business Edition 6000 リリースに対応した資料を参照してください。次の URL から入手できます。

<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/business-edition-6000/tsd-products-support-series-home.html>

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、その他の有用な情報について、次の URL で、毎月更新される『What's New in Cisco Product Documentation』を参照してください。シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示されています。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

『What's New in Cisco Product Documentation』は RSS フィードとして購読できます。また、リーダーアプリケーションを使用してコンテンツがデスクトップに直接配信されるように設定することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。シスコは現在、RSS バージョン 2.0 をサポートしています。

シスコ製品のセキュリティ

この製品には、輸入、輸出、譲渡、使用を規制する米国またはその他の国の法律の対象となる暗号化機能が含まれています。シスコの暗号化製品を譲渡された第三者は、その暗号化技術の輸入、輸出、配布、および使用を許可されたわけではありません。輸入業者、輸出業者、販売業者、およびユーザは、米国および他の国での法律を順守する責任があります。本製品を使用するにあたっては、関係法令の順守に同意する必要があります。米国および他の国の法律を順守できない場合は、本製品を至急送り返してください。

米国の輸出規制の詳細については、次の URL <http://www.bis.doc.gov/policiesandregulations/ear/index.htm> で参照できます。



第 **1** 部

Cisco IP Phone について

- [技術的な詳細情報, 3 ページ](#)
- [Cisco IP Phone ハードウェア, 21 ページ](#)



第 1 章

技術的な詳細情報

- [物理仕様および動作環境仕様, 3 ページ](#)
- [ケーブル仕様, 4 ページ](#)
- [電話機の所要電力, 6 ページ](#)
- [ネットワーク プロトコル, 9 ページ](#)
- [VLAN の連携, 14 ページ](#)
- [Cisco Unified Communications Manager の連携, 15 ページ](#)
- [Cisco Unified Communications Manager Express の連携, 15 ページ](#)
- [ボイス メッセージ システムの連携, 16 ページ](#)
- [電話機起動の概要, 16 ページ](#)
- [外部デバイス, 18 ページ](#)
- [USB ポート情報, 19 ページ](#)
- [電話機設定ファイル, 19 ページ](#)

物理仕様および動作環境仕様

次の表は、Cisco IP Phone 8841、8851、8861 の物理仕様および動作環境仕様を示します。

表 1: 物理仕様および動作環境仕様

仕様	値または範囲
動作温度	32 ~ 104°F (0 ~ 40°C)
動作時の相対湿度	動作時 : 10 ~ 90 % (結露なし) 非動作時 : 10 ~ 95% (結露なし)

仕様	値または範囲
保管温度	14 ~ 140°F (-10 ~ 60°C)
高さ	9.02 インチ (229.1 mm)
幅	10.13 インチ (257.34 mm)
奥行	1.57 インチ (40 mm)
重量	2.62 ポンド (1.19 kg)
電源	AC アダプタ使用時 : 100 ~ 240 VAC、50 ~ 60 Hz、0.5 A ネットワーク ケーブル経由のインライン電源使用時 : 48 VDC、0.2 A
ケーブル	10-Mbps ケーブルの場合はカテゴリ 3/5/5e/6 を 4 ペア 100-Mbps ケーブルの場合はカテゴリ 5/5e/6 を 4 ペア 1000-Mbps ケーブルの場合はカテゴリ 5e/6 を 4 ペア (注) ケーブルは、合計 8 本のコンダクタに対して 4 ペアのワイヤで構成されています。
距離要件	イーサネット仕様でサポートされているとおり、各 Cisco IP Phone とスイッチ間のケーブル長は最大 330 フィート (100 m) とします。

ケーブル仕様

次の情報は、ケーブル仕様の一覧です。

- ハンドセットおよびヘッドセット接続用の RJ-9 ジャック (4 コンダクタ)。
- LAN 10/100/1000BaseT 接続 (Cisco IP Phone 8841、8851、8861 の 10/100/1000 ネットワークポート) 用の RJ-45 ジャック
- 2 つ目の 10/100/1000BaseT 準拠接続 (Cisco IP Phone 8841、8851、8861 の 10/100/1000 コンピュータポート) 用の RJ-45 ジャック
- スピーカー接続用の 3.5 mm ジャック
- 48 ボルト電源コネクタ

ネットワークポートとコンピュータポートのピン割り当て

ネットワークポートとコンピュータ（アクセス）ポートはいずれもネットワーク接続に使用されますが、それぞれ異なる目的で使用され、ポートのピン割り当ても異なっています。

- ネットワークポートは、Cisco IP Phone 上の 10/100/1000 SW ポートです。
- コンピュータ（アクセス）ポートは、Cisco Unified IP Phone 上の 10/100/1000 PC ポートです。

ネットワークポートコネクタ

次の表に、ネットワークポートコネクタのピン割り当てを示します。

表 2: ネットワークポートコネクタのピン割り当て

PIN 番号	機能
1	BI_DA+
2	BI_DA-
3	BI_DB+
4	BI_DC+
5	BI_DC-
6	BI_DB-
7	BI_DD+
8	BI_DD-
(注) BI は双方向を表し、DA、DB、DC、および DD はそれぞれ、データ A、データ B、データ C、およびデータ D を表します。	

コンピュータポートコネクタ

次の表に、コンピュータポートコネクタのピン割り当てを示します。

表 3: コンピュータ（アクセス）ポートコネクタのピン割り当て

PIN 番号	機能
1	BI_DB+
2	BI_DB-

PIN 番号	機能
3	BI_DA+
4	BI_DD+
5	BI_DD-
6	BI_DA-
7	BI_DC+
8	BI_DC-
(注) BI は双方向を表し、DA、DB、DC、および DD はそれぞれ、データ A、データ B、データ C、およびデータ D を表します。	

電話機の所要電力

Cisco IP Phone 8841、8851、8861 には、外部電源または Power over Ethernet (PoE) で電力を供給できます。外部電源は個別の電源装置によって提供されます。スイッチは電話機のイーサネットケーブル経由で PoE を提供できます。



- (注) 外部電源を使用する場合、イーサネットケーブルを電話機に接続する前に、電源装置を電話機に接続する必要があります。外部電源から電力が供給されている電話機を取り外す場合は、電源装置を取り外す前に、イーサネットケーブルを電話機から取り外してください。

次の表に、Cisco IP Phone 8841、8851、8861 の電源に関するガイドラインを示します。

表 4: Cisco IP Phone 8841、8851、8861 の電源に関するガイドライン

電源の種類	ガイドライン
外部電源： CP-PWR-CUBE-4 外部電源を通じて電力を供給	Cisco IP Phone 8841、8851、8861 は、CP-PWR-CUBE-4 電源を使用します。
外部電源：Cisco IP Phone パワーインジェクタを通じて電力を供給。	Cisco IP Phone パワーインジェクタは、どの Cisco IP Phone にも使用できます。インジェクタは、ミッドスパンデバイスとして機能し、接続されている電話機にインラインパワーを供給します。Cisco IP Phone パワーインジェクタは、スイッチポートと IP Phone 間に接続されます。また、通電していないスイッチと IP Phone 間で最大 100 m のケーブル長をサポートします。

電源の種類	ガイドライン
PoE 電源：イーサネットケーブルを介して電話機に接続されているスイッチを通じて電力を供給。	<p>Cisco IP Phone 8841、8851、8861 は、IEEE 802.3af Class 1 の電力供給（シグナルペアおよびスペアペア）をサポートしています。</p> <p>Cisco IP Phone 8841、8851、8861 は、外部アドオンデバイス対応の IEEE 802.3af をサポートしています。</p> <p>電話機を無停電で運用するには、スイッチがバックアップ電源を備えている必要があります。</p> <p>スイッチ上で実行されている CatOS または IOS のバージョンが、予定している電話機配置をサポートしていることを確認します。オペレーティングシステムのバージョンに関する情報については、スイッチのマニュアルを参照してください。</p> <p>802.3at のサポート：Cisco IP Phone 8841、8851、8861 は、802.3at スイッチのサポートがある場合に限り、IEEE 802.3af よりも強力なパワーを引き出すことができます。</p>

Cisco IP Phone 8800 キー拡張モジュールの電力要件の詳細については、[KEM 電源情報](#)、（112 ページ）を参照してください。

次の表にあるドキュメントは、次のトピックに関する詳細情報を提供します。

- Cisco IP Phone と連携する Cisco スイッチ
- 双方向電力ネゴシエーションをサポートしている Cisco IOS リリース
- 電力に関するその他の要件および制限事項

ドキュメントのトピック	URL
Cisco IP Phone パワーインジェクタ	http://www.cisco.com/en/US/products/ps6951/index.html
PoE ソリューション	http://www.cisco.com/en/US/netsol/ns340/ns394/ns147/ns412/index.html
Cisco Catalyst スイッチ	http://www.cisco.com/en/US/products/hw/switches/index.html
サービス統合型ルータ	http://www.cisco.com/en/US/products/hw/routers/index.html
Cisco IOS ソフトウェア	http://www.cisco.com/en/US/products/sw/iosswrel/products_ios_cisco_ios_software_category_home.html

停電

停電や他のデバイスが Cisco IP Phone に影響することがあります。

電話機を経由して緊急サービスにアクセスするには、その電話機が電力を受信する必要があります。停電が発生した場合は、電源が復旧するまで、利用および緊急コール サービス ダイヤルは機能しません。電源の異常および障害が発生した場合は、装置をリセットまたは再設定してから、利用および緊急コール サービスへのダイヤルを行う必要があります。

電力削減

省電力モードまたは EnergyWise (Power Save Plus) モードを使用して、Cisco IP Phone が消費する電力を削減できます。

電力節約

省電力モードでは、電話機を使用していない間、スクリーンのバックライトが消灯します。電話機は、ユーザがハンドセットを持ち上げるか、任意のボタンを押さない限り、スケジュールされた期間にわたって、電力節約モードのままになります。

省電力設定は、電話機ごとに有効または無効に設定します。スケジュールに従ってバックライトを薄暗くするように電話機を設定できます。

Power Save Plus (EnergyWise)

Cisco IP Phone は Cisco EnergyWise (Power Save Plus) モードをサポートします。ネットワークに EnergyWise (EW) コントローラが含まれている場合 (たとえば、Cisco スイッチで EnergyWise 機能が有効になっている場合)、これらの電話機をスケジュールに基づいてスリープ状態 (電源オフ) およびウェイク状態 (電源オン) になるように設定して、電力消費をさらに抑えることができます。

EnergyWise は、電話機ごとに有効または無効に設定します。EnergyWise を有効にした場合は、他のパラメータとともに、スリープと復帰の時刻を設定します。これらのパラメータは、電話機設定 XML ファイルの一部として電話機へ送信されます。

関連トピック

[Cisco IP Phone での Power Save Plus \(EnergyWise\) のスケジュール, \(196 ページ\)](#)

[Cisco IP Phone での省電力のスケジュール, \(194 ページ\)](#)

LLDP での電力ネゴシエーション

電話機とスイッチは、電話機で消費する電力のネゴシエーションを行います。Cisco IP Phone 8841、8851、8861 は、複数の電源構成で実行され、使用可能な電力が少ない場合、電力消費量を削減します。

電話機のリポートの後、スイッチは電力ネゴシエーションの1つのプロトコル (CDPまたはLLDP) にロックされます。スイッチは、電話機が送信した最初のプロトコル (電力の [しきい値限度値 (TLV) (Threshold Limit Value (TLV))] を含む) にロックされます。システム管理者が電話機上でそのプロトコルを無効にすると、スイッチがもう一方のプロトコルでの電力要求に対して応答しないため、電話機がアクセサリの電源を投入できなくなります。

電力ネゴシエーションをサポートしているスイッチに接続する場合は、常に電力ネゴシエーションを有効にすることを推奨します（デフォルト）。

無効にした場合、スイッチが電話機に対して電力を供給しない可能性があります。スイッチが電力ネゴシエーションをサポートしていない場合は、アクセサリの電源を PoE+ で投入する前に、電力ネゴシエーション機能を無効にします。電力ネゴシエーション機能を無効にすると、電話機は IEEE 802.3af-2003 規格で許容されている最大値まで、アクセサリに電源を供給できます。



(注) CDP および電力ネゴシエーション機能を無効にすると、電話機は 15.4 W までアクセサリに電力を供給できます。

ネットワーク プロトコル

Cisco IP Phone は、音声通信に必要ないくつかの業界標準ネットワーク プロトコルとシスコ ネットワーク プロトコルをサポートしています。次の表は、Cisco IP Phone 8841、8851 および 8861 でサポートされているネットワーク プロトコルの概要を示しています。

表 5: Cisco IP Phone でサポートされているネットワーク プロトコル

ネットワーク プロトコル	目的	使用上の注意
Bluetooth	Bluetooth は、短距離におけるデバイスの通信方法を指定する Wireless Personal Area Network (WPAN) プロトコルです。	Cisco IP Phone 8851 および 8861 は、Bluetooth 4.0 をサポートします。
ブートストラッププロトコル (BootP)	BootP は、特定の起動情報（自身の IP アドレスなど）を Cisco IP Phone などのネットワーク デバイスが検出できるようにするものです。	—
Cisco Audio Session Tunnel (CAST)	CAST プロトコルを使用すると、Cisco IP Phone およびその関連アプリケーションでリモート IP Phone を検出し、その IP Phone と通信することができます。その際、Cisco Unified Communications Manager (CM) や ゲートウェイなどの従来のシグナリングコンポーネントに変更を加える必要はありません。	Cisco IP Phone は CAST を CUVA と Cisco Unified CM の間のインターフェイスとして使用し、Cisco IP Phone を SIP プロキシとして使用します。
Cisco Discovery Protocol (CDP)	CDP は、シスコの製造するすべての装置で動作するデバイス検出プロトコルです。 デバイスは、CDP を使用して自身の存在をネットワーク内の他のデバイスにアドバタイズし、他のデバイスの情報を受信することができます。	Cisco IP Phone では、補助 VLANID、ポートごとの電源管理の詳細情報、Quality of Service (QoS) 設定情報などの情報を、CDP を使用して Cisco Catalyst スイッチとやり取りしています。

ネットワーク プロトコル	目的	使用上の注意
Cisco Peer-to-Peer Distribution Protocol (CPPDP)	<p>CPPDPは、デバイスのピアツーピア階層を形成するために使用するシスコ独自のプロトコルです。この階層はピアデバイスからネイバーデバイスにファームウェアファイルを配布するために使用されます。</p>	<p>CPPDPは、ピアファームウェア共有機能で使用されます。</p>
ダイナミックホストコンフィギュレーションプロトコル (DHCP)	<p>DHCPは、IPアドレスを動的に確保して、ネットワークデバイスに割り当てるものです。</p> <p>DHCPを使用すると、IP電話機をネットワークに接続すれば、その電話機が機能するようになります。IPアドレスを手動で割り当てたり、ネットワークパラメータを別途設定したりする必要はありません。</p>	<p>DHCPは、デフォルトで有効になっています。無効にした場合は、個々の電話機がある場所で、IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、およびTFTPサーバを手動で設定する必要があります。</p> <p>シスコでは、DHCPのカスタムオプション150を使用することを推奨します。この方法では、TFTPサーバのIPアドレスをオプション値として設定します。サポートされているその他のDHCP設定については、『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Dynamic Host Configuration Protocol」と「Cisco TFTP」の章を参照してください。</p> <p>(注) オプション150を使用できない場合、DHCPオプション66の使用を試みることができます。</p>
ハイパーテキスト転送プロトコル (HTTP)	<p>HTTPは、インターネットやWeb経由で情報を転送し、ドキュメントを移送するための標準的な手段です。</p>	<p>Cisco IP Phoneでは、XMLサービスおよびトラブルシューティングにHTTPを使用します。</p>
Hypertext Transfer Protocol Secure (HTTPS)	<p>Hypertext Transfer Protocol Secure (HTTPS)は、サーバの暗号化とセキュアなIDを確保できるように、ハイパーテキスト転送プロトコルとSSL/TLSプロトコルを組み合わせましたものです。</p>	<p>HTTPとHTTPSの両方をサポートするWebアプリケーションには2つのURLが設定されています。HTTPSをサポートするCisco IP Phoneは、HTTPS URLを選択します。</p>

ネットワーク プロトコル	目的	使用上の注意
IEEE 802.1X	<p>IEEE 802.1X 標準は、クライアント/サーバベースのアクセスコントロールと認証プロトコルを定義します。これにより、未承認のクライアントが一般にアクセス可能なポートから LAN に接続するのを制限します。</p> <p>クライアントが認証されるまでは、802.1X アクセスコントロールによって、クライアントが接続されているポートを経由する Extensible Authentication Protocol over LAN (EAPOL) トラフィックのみが許可されません。認証が完了すると、標準トラフィックがポートを通過できます。</p>	<p>Cisco IP Phone では、EAP-FAST および EAP-TLS 認証方式をサポートすることによって、IEEE 802.1X 標準が実装されています。</p> <p>電話機で 802.1X 認証が有効になっている場合、PC ポートとボイス VLAN を無効にする必要があります。</p>
IEEE 802.11n/802.11ac	<p>IEEE 802.11 標準は、ワイヤレス ローカルエリア ネットワーク (WLAN) におけるデバイスの通信方法を指定します。</p> <p>802.11n は 2.4 GHz 帯域と 5 GHz 帯域で動作し、802.11ac は 5 GHz 帯域で動作します。</p>	<p>802.11 インターフェイスは、イーサネットのケーブル接続が利用できないか望ましくない場合の展開オプションです。</p>
インターネット プロトコル (IP)	<p>IP は、パケットの宛先アドレスを指定し、ネットワーク経由で送信するメッセージング プロトコルです。</p>	<p>IP を使用して通信するには、ネットワーク デバイスに対して、IP アドレス、サブネット、およびゲートウェイが割り当てられている必要があります。</p> <p>IP アドレス、サブネット、およびゲートウェイの識別情報は、Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) を通じて Cisco IP Phone を使用する場合は、自動的に割り当てられます。DHCP を使用しない場合は、個々の電話機がある場所で、これらのプロパティを手動で割り当てる必要があります。</p> <p>Cisco IP Phone は、IPv6 アドレスをサポートしています。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Internet Protocol Version 6 (IPv6)」の章を参照してください。</p>

ネットワーク プロトコル	目的	使用上の注意
Link Layer Discovery Protocol (LLDP)	LLDP は、CDP と同様の標準化されたネットワーク検出プロトコルで、一部のシスコデバイスとサードパーティ製デバイスでサポートされています。	Cisco IP Phone は、PC ポートで LLDP をサポートします。
Link Layer Discovery Protocol-Media Endpoint Devices (LLDP-MED)	LLDP-MED は、音声製品用 LLDP 標準の拡張です。	<p>Cisco IP Phone は、次のような情報をやり取りするために、SW ポートで LLDP-MED をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ボイス VLAN の設定 • デバイスの検出 • 電源管理 • インベントリ管理 <p>LLDP-MED サポートの詳細については、LLDP-MED および『Cisco Discovery Protocol』ホワイトペーパーを参照してください。</p> <p>http://www.cisco.com/en/US/tech/tk652/tk701/technologies_white_paper0900aecd804cd46d.shtml</p>
リアルタイム転送プロトコル (RTP)	RTP は、インタラクティブな音声のようなリアルタイムデータをデータ ネットワーク経由で転送するための標準プロトコルです。	Cisco IP Phone では、RTP プロトコルを使用して、リアルタイム音声トラフィックを他の電話機やゲートウェイとやり取りします。
リアルタイム制御プロトコル (RTCP)	RTCP は RTP と連動して、RTP ストリーム上で QoS データ (ジッター、遅延、ラウンドトリップ遅延など) を伝送します。	RTCP はデフォルトで有効になっています。
セッション記述プロトコル (SDP)	SDP は SIP プロトコルの一部であり、2つのエンドポイント間で接続が確立されている間に、どのパラメータを使用できるかを決定します。会議は、会議に参加するすべてのエンドポイントがサポートする SDP 機能だけを使用して確立されます。	コーデック タイプ、DTMF 検出、コンフォート ノイズなどの SDP 機能は、通常は運用中の Cisco Unified Communications Manager またはメディア ゲートウェイでグローバルに設定されています。SIP エンドポイントの中には、これらのパラメータをエンドポイント上で設定できるものがあります。

ネットワーク プロトコル	目的	使用上の注意
Session Initiation Protocol (SIP)	SIP は、IP を介したマルチメディア会議のためのインターネット技術特別調査委員会 (IETF) 標準です。SIP は、アプリケーション層の ASCII ベースの制御プロトコルであり (RFC 3261 で規定)、2 つ以上のエンドポイント間でコールを確立、維持、および終了するために使用できます。	他の VoIP プロトコルと同様に、SIP はシグナリングとセッション管理の機能をパケットテレフォニー ネットワークの内部で処理します。シグナリングによって、ネットワーク境界を越えてコール情報を伝送することが可能になります。セッション管理とは、エンドツーエンドコールの属性を制御する機能を提供することです。 Cisco IP Phone は、電話機が IPv6 アドレス モード、IPv4 アドレス モード、またはデュアルスタック モードで実行されているときに SIP プロトコルをサポートします。
伝送制御プロトコル (TCP)	TCP は、コネクション型の転送プロトコルです。	Cisco IP Phone では、Cisco Unified Communications Manager への接続、および XML サービスへのアクセスに TCP を使用します。
トランスポート レイヤ セキュリティ (TLS)	TLS は、通信のセキュリティ保護と認証に使用される標準プロトコルです。	セキュリティが実装されると、Cisco IP Phone では、Cisco Unified Communications Manager へのセキュアな登録で TLS プロトコルが使用されます。

ネットワーク プロトコル	目的	使用上の注意
トリビアルファイル転送プロトコル (TFTP)	TFTP を使用すると、ファイルをネットワーク経由で転送できます。 Cisco IP Phone で TFTP を使用すると、電話タイプ固有の設定ファイルを取得できます。	TFTP は DHCP サーバが自動的に識別する TFTP サーバがネットワーク内に必要です。DHCP サーバが指定する以外の TFTP サーバを電話機で使用する場合は、電話機の [ネットワークの設定 (Network Configuration)] メニューを使用して、TFTP サーバの IP アドレスを手動で割り当てる必要があります。 詳細については、『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco TFTP」の章を参照してください。
ユーザ データグラム プロトコル (UDP)	UDP は、データパケットを配信するためのコネクションレス型メッセージング プロトコルです。	UDP は RTP ストリームにのみ使用されます。電話機の SIP シグナリングは UDP をサポートしていません。

VLAN の連携

Cisco IP Phone は内蔵イーサネットスイッチを備えているため、電話機や、電話機の背面にあるコンピュータ (アクセス) ポートおよびネットワーク ポートにパケットを転送できます。

コンピュータ (アクセス) ポートにコンピュータを接続した場合、コンピュータと電話機は、スイッチへの同じ物理リンクとスイッチ上の同じポートを共有します。このように物理リンクが共有されるため、ネットワークの VLAN 設定について、次のような考慮事項が存在します。

- 現在の VLAN を IP サブネットベースで設定することは可能です。ただし、追加の IP アドレスを取得して、同じポートに接続している他のデバイスと同じサブネットに電話機を割り当てることはできません。
- VLAN をサポートしている電話機上に存在するデータトラフィックによって、VoIP トラフィックの品質が低下することがあります。
- ネットワークセキュリティを確保するために、VLAN 音声トラフィックと VLAN データトラフィックの分離が必要になることがあります。

これらの問題は、音声トラフィックを別の VLAN 上に分離することで解決できます。電話機の接続先となるスイッチポートには、伝送用に、それぞれ別個の VLAN を設定します。

- IP Phone で送受信される音声トラフィック (Cisco Catalyst 6000 上などの補助 VLAN)

- IP Phone のコンピュータ（アクセス）ポート経由でスイッチに接続されている PC で送受信されるデータトラフィック（ネイティブ VLAN）

電話機を独立した補助 VLAN に分離すると、音声トラフィックの品質が向上するとともに、各電話機に割り当てるための IP アドレスが十分でない既存ネットワークに対しても、多数の電話機を追加できるようになります。

詳細については、Cisco スイッチに添付されているマニュアルを参照してください。スイッチに関する情報には、次の URL からアクセスできます。

<http://cisco.com/en/US/products/hw/switches/index.html>

Cisco Unified Communications Manager の連携

Cisco Unified Communications Manager は、業界標準のオープンなコール処理システムです。Cisco Unified Communications Manager ソフトウェアは、従来の PBX 機能を企業の IP ネットワークに統合して、電話機間でコールを確立および切断します。Cisco Unified Communications Manager は、電話会議やルートプランなどの機能で必要になる IP テレフォニーシステムのコンポーネント（電話機、アクセスゲートウェイ、およびリソース）を管理します。また、Cisco Unified Communications Manager には、次の機能もあります。

- 電話機のファームウェアの提供
- TFTP サービスを使用した設定信頼リスト（CTL）および Identity Trust List（ITL）
- 電話機の登録
- コールの保存。この機能により、プライマリ Communications Manager と電話機間でシグナリングが消失してもメディアセッションが継続されます。

この章で説明されている IP Phone と連携するための Cisco Unified Communications Manager の設定方法については、『*Cisco Communications Manager Administration Guide*』の「Cisco IP Phone Configuration」の章を参照してください。



(注) 設定しようとする Cisco IP Phone のモデルが、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [電話のタイプ (Phone Type)] ドロップダウンリストに表示されない場合は、Cisco.com にアクセスして、使用している Cisco Unified Communications Manager の最新のサポートパッチをインストールします。

Cisco Unified Communications Manager Express の連携

Cisco IP Phone が Cisco Unified Communications Manager Express (Unified CME) と連携する場合は、電話機を CME モードにする必要があります。

ユーザが会議機能を起動すると、タグにより、電話機はローカルまたはネットワークハードウェアのどちらかの会議ブリッジを使用できます。

Cisco IP Phone では、次のアクションはサポートされていません。

- [転送 (Transfer)] : 接続されたコール転送のシナリオでのみサポートされます。
- [会議 (Conference)] : 接続されたコール転送のシナリオでのみサポートされます。
- [参加 (Join)] : [会議 (Conference)] ボタンまたはフックフラッシュアクセスを使用してサポートされます。
- [保留 (Hold)] : [保留 (Hold)] を使用してサポートされます。
- [割り込み (Barge)] : サポートされていません。
- [直接転送 (Direct Transfer)] : サポートされていません。
- [選択 (Select)] : サポートされていません。

ユーザは、異なる回線にわたる会議および転送コールを作成できません。

ボイスメッセージシステムの連携

Cisco Unified Communications Manager を使用すると、Cisco Unity ボイスメッセージングシステムなどのさまざまなボイスメッセージングシステムと統合できます。各種システムと統合できるため、特定のシステムの使用法に関する情報をユーザに提供する必要があります。

次の情報を、各ユーザに提供してください。

- ボイスメッセージシステムアカウントへのアクセス方法。
Cisco Unified Communications Manager を使用して、Cisco IP Phone のメッセージボタンを設定しておく必要があります。
- ボイスメッセージシステムにアクセスするための初期パスワード。
すべてのユーザが使用できる、ボイスメッセージシステムのデフォルトパスワードを設定しておく必要があります。
- ボイスメッセージの受信が電話機でどのように示されるか。
Cisco Unified Communications Manager を使用して、メッセージ受信インジケータ (MWI) メソッドを設定しておく必要があります。

電話機起動の概要

VoIP ネットワークへの接続時に、Cisco IP Phone 8841、8851、8861 は標準起動プロセスを実行します。実際のネットワークの設定に応じて、Cisco IP Phone で次の手順の一部のみが発生します。

- 1 スイッチからの電力の取得。電話機が外部電源を使用していない場合、電話機に接続されているイーサネットケーブル経由でスイッチからのインラインパワーが供給されます。
- 2 (ワイヤレス LAN 上の Cisco IP Phone 8861 のみ) アクセスポイントのスキャン。Cisco IP Phone 8861 は、RF カバレッジ区域を無線でスキャンします。電話機はネットワークプロファ

イルを検索し、SSID と認証タイプが一致するアクセス ポイントをスキャンします。電話機は、ネットワーク プロファイルと一致する最も高い RSSI をアクセス ポイントに関連付けます。

- 3 (ワイヤレス LAN 上の Cisco IP Phone 8861 のみ) アクセス ポイントの認証。Cisco IP Phone は、認証プロセスを開始します。次の表では、認証プロセスについて説明します。

認証タイプ	キー管理オプション	説明
オープン	なし	すべてのデバイスでアクセス ポイントに認証できます。セキュリティを高めるため、オプションとして静的 WEP 暗号化を使用できます。
共有キー	なし	電話機は WEP キーを使用してチャレンジテキストを暗号化します。アクセス ポイントは、チャレンジテキストの暗号化に使用された WEP キーを検証してから、ネットワーク アクセスを使用可能にする必要があります。
PEAP または EAP-FAST	なし	RADIUS サーバがユーザ名とパスワードを認証してから、ネットワーク アクセスが使用可能になります。

- 4 保存されている電話イメージのロード。Cisco IP Phone は、ファームウェア イメージとユーザ定義の設定値を保存するための不揮発性フラッシュ メモリを備えています。起動時に、電話機はブートストラップローダーを実行して、フラッシュメモリに保存されている電話機ファームウェアをロードします。このイメージを使用して、電話機はソフトウェアとハードウェアを初期化します。
- 5 VLAN の設定。Cisco IP Phone を Cisco Catalyst スイッチに接続している場合、スイッチは、スイッチ上に定義されているボイス VLAN を電話機に通知します。電話機は、Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) 要求を使用して IP アドレスの取得を開始するには、VLAN メンバーシップをあらかじめ把握している必要があります。
- 6 IP アドレスの取得。Cisco IP Phone で DHCP を使用して IP アドレスを取得する場合、電話機は DHCP サーバにクエリを発行してアドレスを取得します。ネットワークで DHCP を使用していない場合は、個々の電話機がある場所でスタティック IP アドレスを手動で割り当てる必要があります。
- 7 CTL ファイルの要求 TFTP サーバに、CTL ファイルが保管されています。このファイルには、電話機と Cisco Unified Communications Manager の間の安全な接続を確立するために必要な証明書も含まれています。

詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Security Guide』の「Configuring the Cisco CTL Client」の章を参照してください。

- 8 ITL ファイルの要求 電話機は、まず CTL ファイルを要求し、次に ITL ファイルを要求します。ITL ファイルは電話機が信頼できるエンティティの証明書を含んでいます。証明書がサーバとのセキュア接続の認証、またはサーバによるデジタル署名の認証に使用されます。Cisco Unified Communications Manager 8.5 以降は ITL ファイルをサポートします。
- 9 TFTP サーバへのアクセス。DHCP サーバは、IP アドレスを割り当てる以外に、Cisco IP Phone に対して TFTP サーバも指定します。電話機の IP アドレスを静的に定義した場合は、電話機がある場所で TFTP サーバを設定する必要があります。設定すると、電話機は TFTP サーバに直接アクセスします。



(注) DHCP で割り当てられる TFTP サーバの代わりに、代替 TFTP サーバを割り当てて使用することもできます。

- 10 設定ファイルの要求。TFTP サーバは、設定ファイルを保持しています。このファイルは、Cisco Unified Communications Manager に接続するためのパラメータに加え、電話機に関するその他の情報を定義しています。
- 11 Cisco Unified Communications Manager への接続。設定ファイルは、Cisco IP Phone と Cisco Unified CM との間の通信方法、およびロード ID を電話機に提供する方法を定義します。電話機は、このファイルを TFTP サーバから取得すると、リストで優先順位が最も高い Cisco Unified CM への接続を確立しようとします。

(暗号化または認証された) セキュアなシグナリングのために電話機のセキュリティブロファイルを設定し、Cisco Unified Communications Manager をセキュアモードに設定している場合、電話機は TLS 接続を実行します。それ以外の場合は、電話機は非セキュア TCP 接続を実行します。

電話機をデータベースに手動で追加した場合は、Cisco Unified Communications Manager が電話機を識別します。電話機がデータベースに手動で追加されていない場合、自動登録が Cisco Unified Communications Manager で有効になっていれば、その電話機は、Cisco Unified Communications Manager データベースに対してその電話機自体の自動登録を試みます。



(注) CTL クライアントを設定している場合、自動登録は無効になっています。その場合、電話機を手動で Cisco Unified Communications Manager データベースに追加する必要があります。

外部デバイス

弊社では、不要な無線周波数 (RF) および可聴周波数 (AF) を遮断するヘッドセット、ケーブル、コネクタなどの高品質の外部デバイスの使用を推奨しています。



(注) すべての Cisco IP Telephony 製品が外部デバイス、コードまたはケーブルをサポートしているわけではありません。詳細については、電話機のマニュアルを参照してください。

これらのデバイスの品質や、携帯電話および双方向ラジオなど他のデバイスとの間隔によっては、雑音が入ることもあります。その場合は、次の方法で対処してください。

- RF または AF の信号源から外部デバイスを離す。
- RF または AF の信号源から外部デバイスのケーブルの経路を離す。
- 外部デバイス用にシールドされたケーブルを使用するか、シールドおよびコネクタが高品質のケーブルを使用する。
- 外部デバイスのケーブルを短くする。
- 外部デバイスのケーブルに、フェライトまたは同様のデバイスを適用する。

シスコでは、外部デバイス、ケーブル、およびコネクタのパフォーマンスを保証できません。



注意

欧州連合諸国では、EMC Directive (89/336/EC) に完全に準拠した外部スピーカー、マイクロフォン、ヘッドセットだけを使用してください。

USB ポート情報

Cisco IP Phone 8851 および 8861 は、各 USB ポートに接続される最大 5 台のデバイスをサポートします。電話機に接続された各デバイスは、最大デバイス数に含まれます。たとえば、ご使用の電話機は側面ポートで 5 台の USB デバイス、背面ポートでさらに 5 台の標準 USB デバイスをサポートできます。多くのサードパーティ製 USB 製品は複数の USB デバイスとしてカウントされます。たとえば、USB ハブとヘッドセットを含むデバイスは、2 台の USB デバイスとしてカウントできます。詳細については、USB デバイスのマニュアルを参照してください。



(注)

- 通電していないハブはサポートされません。また、電力供給されていても 5 個以上のポートを備えたハブはサポートされません。
- USB ハブを経由して電話機に接続している USB ヘッドセットはサポートされません。

電話機に接続された Cisco IP Phone 8800 シリーズキー拡張モジュール (KEM) は、USB デバイスとしてカウントされます。3 台の KEM が電話機に接続されている場合、3 台の USB デバイスとしてカウントされます。

電話機設定ファイル

電話機設定ファイルは TFTP サーバに保存されており、Cisco Unified Communications Manager に接続するためのパラメータを定義しています。通常、電話機のリセットが必要となるような変更を Cisco Unified Communications Manager に加えると、その変更内容は、電話機設定ファイルに自動的に反映されます。

設定ファイルには、電話機がどのイメージロードを実行するかも記述されています。このイメージロードが電話機にロードされているものと異なる場合、電話機は TFTP サーバにアクセスし、必要なロードファイルを要求します。

Cisco Unified CM の管理 でセキュリティ関連の設定値を設定すると、電話機のコンフィギュレーションファイルに機密情報が保存されます。設定ファイルのプライバシーを確保するには、そのファイルを暗号化用に設定する必要があります。詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Security Guide*』の「Configuring Encrypted Phone Configuration Files」の章を参照してください。Cisco Unified Communications Manager でリセットおよび登録されるたびに、電話機は設定ファイルを要求します。

次の条件を満たしている場合、電話機は、TFTP サーバにある XmlDefault.cnf.xml という名前のデフォルト設定ファイルにアクセスします。

- Cisco Unified Communications Manager で自動登録を有効にした。
- 該当する電話機が、Cisco Unified Communications Manager データベースにまだ追加されていない。
- 該当する電話機を初めて登録する。



第 2 章

Cisco IP Phone ハードウェア

- [Cisco IP Phone 8841、8851、8861 の概要, 21 ページ](#)
- [Cisco IP Phone 8841, 23 ページ](#)
- [Cisco IP Phone 8851, 27 ページ](#)
- [Cisco IP Phone 8861, 32 ページ](#)
- [用語の違い, 37 ページ](#)

Cisco IP Phone 8841、8851、8861 の概要

Cisco IP Phone 8841、8851、および 8861 はインターネットプロトコル (IP) ネットワーク経由の音声通信を提供します。Cisco IP Phone は、デジタル ビジネス フォンとほぼ同様に機能し、電話コールの発受信に加えて、ミュート、保留、転送、スピードダイヤル、コール転送などの機能を使用できます。また、データ ネットワークに接続するため、IP テレフォニー機能が拡張され、ネットワーク情報やサービス、およびカスタマイズ可能な機能やサービスにアクセスできるようになります。

Cisco IP Phone 8841、8851、8861 の機能は次のとおりです。

- 24 ビット カラー LCD 画面
- 最大 5 回線をサポートするプログラム可能な機能ボタン。このボタンには他の機能をプログラムすることもできます。
- ギガビット イーサネット 接続機能
- ワイヤレス ヘッドセット用 Bluetooth のサポート (Cisco IP Phone 8851 および 8861 のみ)
- 外部マイクロフォンとスピーカーのサポート (Cisco IP Phone 8861 のみ)
- Wi-Fi による ネットワーク 接続機能 (Cisco IP Phone 8861 のみ)
- USB ポート :
 - Cisco IP Phone 8851 には USB ポート x 1

° Cisco IP Phone 8861 には USB ポート x 2

Cisco IP Phone は、他のネットワーク デバイスと同様に設定と管理を行う必要があります。これらの電話機は、次のコードのエンコードとデコードを行います。

- G.711 a-law
- G.711 mu-law
- G.722
- G.729a/G.729ab
- G.726
- iLBC
- L16
- OPUS
- iSAC



注意

セル方式の電話、携帯電話、GSM 電話、または双方向ラジオを Cisco IP Phone のすぐ近くで使用すると、相互干渉が発生することがあります。詳細については、干渉が発生するデバイスの製造元のマニュアルを参照してください。

Cisco IP Phone は、コール転送や転送、リダイヤル、スピードダイヤル、会議コール、ボイスメッセージング システムへのアクセスなど、従来のテレフォニー機能を提供します。Cisco Unified IP Phone では、さらにその他の各種の機能も提供します。

Cisco Unified IP Phone は、他のネットワーク デバイスと同様に、Cisco Unified Communications Manager および IP ネットワークの他の部分にアクセスできるように設定する必要があります。DHCP を使用すると、電話機上で設定する内容が少なくなります。ただし、ネットワークで必要な場合は、IP アドレス、TFTP サーバ、サブネット情報などの情報を手動で設定できます。

Cisco Unified IP Phone は、IP ネットワーク上の他のサービスやデバイスと連携することで、高度な機能を提供できます。たとえば、Cisco Unified Communications Manager を社内の Lightweight Directory Access Protocol 3 (LDAP3) 標準ディレクトリと統合すると、ユーザが同僚の連絡先情報を IP Phone で直接検索できるようになります。XML を使用すると、天気予報、株価情報、商品相場などの Web ベースの情報にユーザがアクセスできるようになります。

さらに、Cisco Unified IP Phone はネットワーク デバイスであるため、詳細なステータス情報を IP Phone から直接取得することができます。この情報は、ユーザが IP Phone を使用しているときに生じた問題をトラブルシューティングするのに役立ちます。また、現在のコールに関する統計情報や、ファームウェアのバージョンも電話機で取得できます。

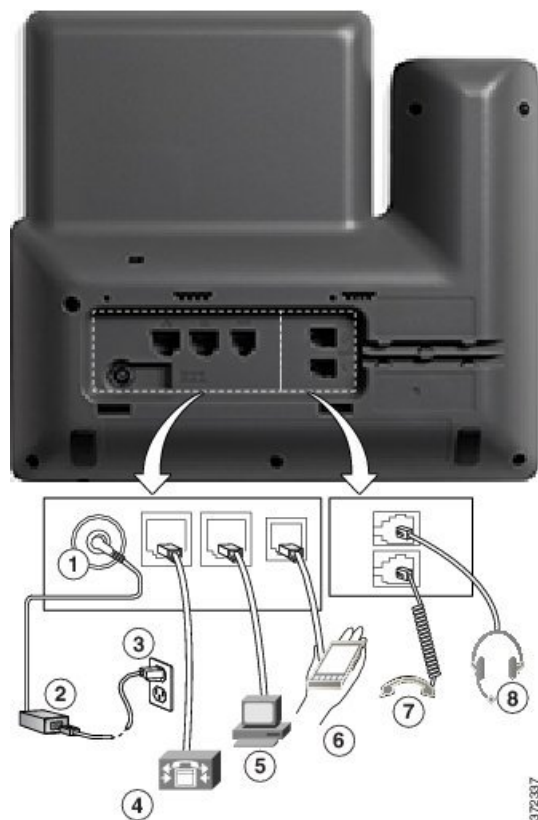
Cisco IP Phone を IP テレフォニー ネットワークで機能させるには、IP Phone を Cisco Catalyst スイッチなどのネットワーク デバイスに接続する必要があります。また、コールを送受信する前に、Cisco IP Phone を Cisco Unified Communications Manager システムに登録する必要があります。

Cisco IP Phone 8841

ここでは、Cisco IP Phone 8841 の属性について説明します。

電話機の接続

次の図を使用して、企業 IP テレフォニー ネットワークに電話機を接続します。



1	DC アダプタ ポート (DC48V)	5	アクセス ポート (10/100/1000 PC) 接続
2	AC-DC 電源装置 (任意)	6	補助ポート
3	AC 電源コンセント (任意)	7	ハンドセットの接続
4	ネットワーク ポート (10/100/1000 SW) 接続 IEEE 802.3at 電源対応。	8	アナログ ヘッドセット接続 (任意)













(注) Cisco IP Phone 8841 は Cisco IP Phone 8800 キー拡張モジュール をサポートしません。






ボタンとハードウェア



1	ハンドセットのライトストリップ	着信コール（赤く点滅）または新しいボイスメッセージ（赤く点灯）があることを示します。
2	電話スクリーン	電話機に関する情報（電話番号、アクティブコールと回線のステータス、ソフトキーオプション、スピードダイヤル、発信コール、および電話機のメニューなど）を表示します。

<p>3</p> <p>プログラム可能な機能ボタンとセッションボタン</p> 	<p>電話機には、電話回線、機能、コールセッションに簡単にアクセスできる次のようなボタンがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • プログラム可能な機能ボタン（左側）：回線のコールの表示、またはスピードダイヤルやすべてのコールなどの機能へのアクセスに使用します これらのボタンは機能ボタンとも呼ばれます。 • セッションボタン（右側）：コールへの応答、保留中のコールの再開、または（アクティブコールで使用していない場合）不在着信の表示などの電話機能の開始を含むタスクに使用します。電話機の各コールは、セッションボタンに関連付けられています。 <p>(注) アラビア語など右から左に読むロケールを使用する場合、ラインボタンとセッションボタンの位置は入れ替わります。</p> <p>システム管理者が行った電話機の設定に応じて、ボタンは次のいずれかにアクセスします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 電話回線およびインターコム回線 • 短縮ダイヤル番号（短縮ダイヤルボタン、回線ステータス短縮ダイヤル機能を含む） • Web ベースのサービス（個人アドレス帳ボタンなど） • コール機能（プライバシーボタンなど） <p>表示されるボタンの色によって、回線の状態が次のように示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 緑、点灯：アクティブコールまたは双方向のインターコムコール • 緑、点滅：保留コール • オレンジ、点灯：プライバシー機能が使用中、一方向のインターコムコール、サイレントがアクティブ、またはハントグループにログイン中 • オレンジ、点滅：着信コールまたは復帰コール • 赤色、点灯：リモート回線の使用中（共有回線または回線ステータス） • 赤、点滅：リモート回線が保留中 	<p>電話機には、電話回線、機能、コールセッションに簡単にアクセスできる次のようなボタンがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • プログラム可能な機能ボタン（左側）：回線のコールの表示、またはスピードダイヤルやすべてのコールなどの機能へのアクセスに使用します これらのボタンは機能ボタンとも呼ばれます。 • セッションボタン（右側）：コールへの応答、保留中のコールの再開、または（アクティブコールで使用していない場合）不在着信の表示などの電話機能の開始を含むタスクに使用します。電話機の各コールは、セッションボタンに関連付けられています。 <p>(注) アラビア語など右から左に読むロケールを使用する場合、ラインボタンとセッションボタンの位置は入れ替わります。</p> <p>システム管理者が行った電話機の設定に応じて、ボタンは次のいずれかにアクセスします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 電話回線およびインターコム回線 • 短縮ダイヤル番号（短縮ダイヤルボタン、回線ステータス短縮ダイヤル機能を含む） • Web ベースのサービス（個人アドレス帳ボタンなど） • コール機能（プライバシーボタンなど） <p>表示されるボタンの色によって、回線の状態が次のように示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 緑、点灯：アクティブコールまたは双方向のインターコムコール • 緑、点滅：保留コール • オレンジ、点灯：プライバシー機能が使用中、一方向のインターコムコール、サイレントがアクティブ、またはハントグループにログイン中 • オレンジ、点滅：着信コールまたは復帰コール • 赤色、点灯：リモート回線の使用中（共有回線または回線ステータス） • 赤、点滅：リモート回線が保留中
--	---	---

4	ソフトキー ボタン 	システム管理者が行った電話機の設定に応じて、有効なソフトキー オプションが電話スクリーンに表示されます。
5	ナビゲーション クラスタと選択ボタン 	ナビゲーション クラスタと選択ボタンにより、メニューのスクロールや項目の強調表示、強調表示された項目の選択ができます。
6	リリース ボタン 	接続されたコールまたはセッションを終了します。
7	保留/復帰ボタン 	アクティブ コールを保留にしたり、保留中のコールを再開したりします。
8	会議ボタン 	会議コールを開始します。
9	転送ボタン 	コールを転送します。
10	スピーカーフォン ボタン 	スピーカーフォン モードのオン/オフを切り替えます。スピーカーフォンがオンになっているとき、ボタンは点灯しています。
11	ミュート ボタン 	マイクロフォン モードのオン/オフを切り替えます。マイクロフォンがミュートになっているとき、ボタンは点灯しています。
12	ヘッドセット ボタン 	ヘッドセット モードのオン/オフを切り替えます。ヘッドセットがオンになっているときは、ボタンが点灯します。

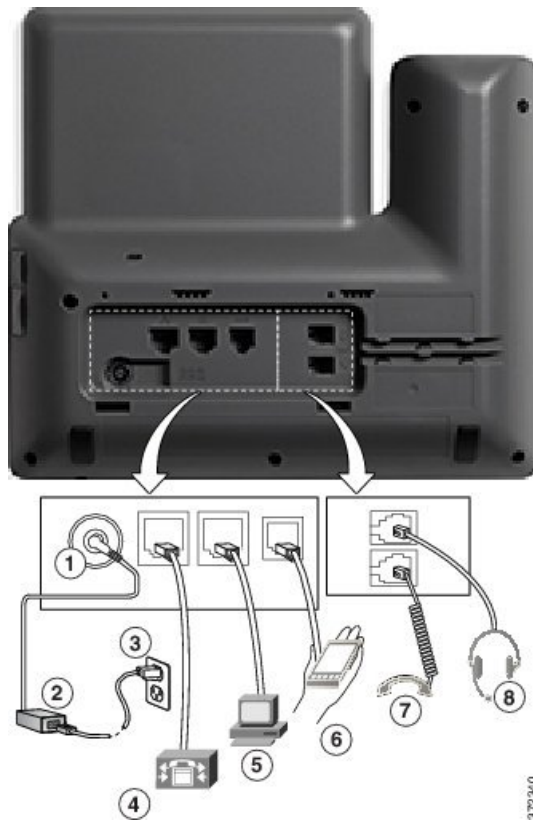
13	キーパッド	電話番号のダイヤル、文字の入力、また項目番号を入力してメニュー項目の選択を行います。
14	音量ボタン 	受話器、ヘッドセット、スピーカフォンの音量（オフフック）および呼出音の音量（オンフック）を制御します。
15	連絡先ボタン 	[ディレクトリ (Directories)]メニューを開閉します。連絡先ボタンを使用して、個人および社内のディレクトリにアクセスします。
16	アプリケーションボタン 	[アプリケーション (Applications)]メニューを開閉します。アプリケーションボタンを使用して、電話履歴、ユーザ設定、電話機の設定、電話機のモデル情報にアクセスします。
17	メッセージボタン 	ボイスメッセージングシステムを自動的にダイヤルします（システムによって異なります）。
18	戻るボタン 	直前の画面またはメニューに戻ります。
19	[ハンドセット (Handset)]	電話機のハンドセットです。

Cisco IP Phone 8851

ここでは、Cisco IP Phone 8851 の属性について説明します。

電話機の接続

次の図を使用して、企業 IP テレフォニー ネットワークに電話機を接続します。



1	DC アダプタ ポート (DC48V)	5	アクセス ポート (10/100/1000 PC) 接続
2	AC-DC 電源装置 (任意)	6	補助ポート
3	AC 電源コンセント (任意)	7	ハンドセットの接続
4	ネットワーク ポート (10/100/1000 SW) 接続 IEEE 802.3at 電源対応。	8	アナログ ヘッドセット接続 (任意)












(注) 各 USB ポートは、電話機に接続されたサポート対象およびサポート対象外のデバイスを最大 5 台サポートします。電話機に接続された各デバイスは、最大デバイス数に含まれます。たとえば、電話機は 5 台の USB デバイスをサポートできます。多くのサードパーティ製 USB 製品は複数の USB デバイスとしてカウントされます。たとえば、USB ハブとヘッドセットを含むデバイスは、2 台の USB デバイスとしてカウントできます。詳細については、USB デバイスのマニュアルを参照してください。

ボタンとハードウェア



1	ハンドセットのライトストリップ	着信コール（赤く点滅）または新しいボイスメッセージ（赤く点灯）があることを示します。
2	電話スクリーン	電話機に関する情報（電話番号、アクティブコールと回線のステータス、ソフトキーオプション、スピードダイヤル、発信コール、および電話機のメニューなど）を表示します。

<p>3</p> <p>プログラム可能な機能ボタンとセッションボタン</p> 	<p>電話機には、電話回線、機能、コールセッションに簡単にアクセスできる次のようなボタンがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • プログラム可能な機能ボタン（左側）：回線のコールの表示、またはスピードダイヤルやすべてのコールなどの機能へのアクセスに使用します これらのボタンは機能ボタンとも呼ばれます。 • セッションボタン（右側）：コールへの応答、保留中のコールの再開、または（アクティブコールで使用していない場合）不在着信の表示などの電話機能の開始を含むタスクに使用します。電話機の各コールは、セッションボタンに関連付けられています。 <p>(注) アラビア語など右から左に読むロケールを使用する場合、ラインボタンとセッションボタンの位置は入れ替わります。</p> <p>システム管理者が行った電話機の設定に応じて、ボタンは次のいずれかにアクセスします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 電話回線およびインターコム回線 • 短縮ダイヤル番号（短縮ダイヤルボタン、回線ステータス短縮ダイヤル機能を含む） • Web ベースのサービス（個人アドレス帳ボタンなど） • コール機能（プライバシーボタンなど） <p>表示されるボタンの色によって、回線の状態が次のように示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 緑、点灯：アクティブコールまたは双方向のインターコムコール • 緑、点滅：保留コール • オレンジ、点灯：プライバシー機能が使用中、一方方向のインターコムコール、サイレントがアクティブ、またはハントグループにログイン中 • オレンジ、点滅：着信コールまたは復帰コール • 赤色、点灯：リモート回線の使用中（共有回線または回線ステータス） • 赤、点滅：リモート回線が保留中
--	--

4	ソフトキー ボタン 	システム管理者が行った電話機の設定に応じて、有効なソフトキー オプションが電話スクリーンに表示されます。
5	ナビゲーション クラス タと選択ボタン 	ナビゲーション クラスタと選択ボタンにより、メニューのスクロールや項目の強調表示、強調表示された項目の選択ができます。
6	リリース ボタン 	接続されたコールまたはセッションを終了します。
7	保留/復帰ボタン 	アクティブ コールを保留にしたり、保留中のコールを再開したりします。
8	会議ボタン 	会議コールを開始します。
9	転送ボタン 	コールを転送します。
10	スピーカーフォン ボタ ン 	スピーカーフォン モードのオン/オフを切り替えます。スピーカーフォンがオンになっているとき、ボタンは点灯しています。
11	ミュート ボタン 	マイクフォン モードのオン/オフを切り替えます。マイクフォンがミュートになっているとき、ボタンは点灯しています。
12	ヘッドセット ボタン 	ヘッドセット モードのオン/オフを切り替えます。ヘッドセットがオンになっているときは、ボタンが点灯します。

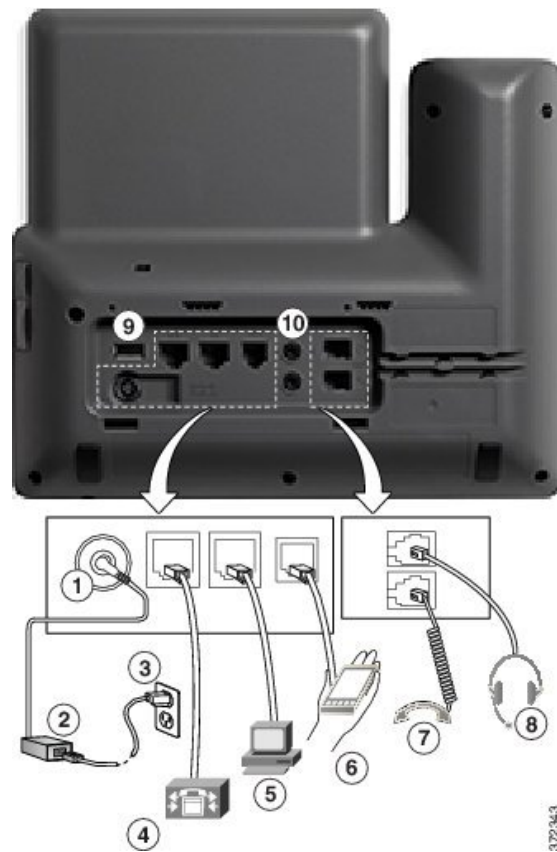
13	キーパッド	電話番号のダイヤル、文字の入力、また項目番号を入力してメニュー項目の選択を行います。
14	音量ボタン 	受話器、ヘッドセット、スピーカフォンの音量（オフフック）および呼出音の音量（オンフック）を制御します。
15	連絡先ボタン 	[ディレクトリ (Directories)] メニューを開閉します。連絡先ボタンを使用して、個人および社内のディレクトリにアクセスします。
16	アプリケーション ボタン 	[アプリケーション (Applications)] メニューを開閉します。アプリケーション ボタンを使用して、電話履歴、ユーザ設定、電話機の設定、電話機のモデル情報にアクセスします。
17	メッセージ ボタン 	ボイス メッセージング システムを自動的にダイヤルします (システムによって異なります)。
18	戻るボタン 	直前の画面またはメニューに戻ります。
19	ハンドセット	電話機のハンドセットです。

Cisco IP Phone 8861

ここでは、Cisco IP Phone 8861 の属性について説明します。

電話機の接続

次の図を使用して、企業 IP テレフォニー ネットワークに電話機を接続します。



1	DC アダプタ ポート (DC48V)	6	補助ポート
2	AC-DC 電源装置 (任意)	7	ハンドセットの接続
3	AC 電源コンセント (任意)	8	アナログ ヘッドセット接続 (任意)
4	ネットワーク ポート (10/100/1000 SW) 接続 IEEE 802.3at 電源対応。	9	USB ポート
5	アクセス ポート (10/100/1000 PC) 接続	10	オーディオ イン/アウト ポート













(注) 各 USB ポートは、最大 5 個のサポート対象デバイスおよびサポート外デバイスとの接続をサポートします。電話機に接続された各デバイスは、最大デバイス数に含まれます。たとえば、電話機では 5 台の USB デバイス（たとえば 3 台の Cisco Unified IP Color Key Expansion Module、1 台のハブ、もう 1 台の標準 USB デバイス）を側面ポートでサポートし、さらに 5 台の標準 USB デバイスを背面ポートでサポートできます。多くのサードパーティ製 USB 製品は複数の USB デバイスとしてカウントされます。たとえば、USB ハブとヘッドセットを含むデバイスは、2 台の USB デバイスとしてカウントできます。詳細については、USB デバイスのマニュアルを参照してください。






ボタンとハードウェア



1	ハンドセットのライトストリップ	着信コール（赤く点滅）または新しいボイスメッセージ（赤く点灯）があることを示します。
2	電話スクリーン	電話機に関する情報（電話番号、アクティブコールと回線のステータス、ソフトキーオプション、スピードダイヤル、発信コール、および電話機のメニューなど）を表示します。

<p>3</p> <p>プログラム可能な機能ボタンとセッションボタン</p> 	<p>電話機には、電話回線、機能、コールセッションに簡単にアクセスできる次のようなボタンがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • プログラム可能な機能ボタン（左側）：回線のコールの表示、またはスピードダイヤルやすべてのコールなどの機能へのアクセスに使用します これらのボタンは機能ボタンとも呼ばれます。 • セッションボタン（右側）：コールへの応答、保留中のコールの再開、または（アクティブコールで使用していない場合）不在着信の表示などの電話機能の開始を含むタスクに使用します。電話機の各コールは、セッションボタンに関連付けられています。 <p>(注) アラビア語など右から左に読むロケールを使用する場合、ラインボタンとセッションボタンの位置は入れ替わります。</p> <p>システム管理者が行った電話機の設定に応じて、ボタンは次のいずれかにアクセスします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 電話回線およびインターコム回線 • 短縮ダイヤル番号（短縮ダイヤルボタン、回線ステータス短縮ダイヤル機能を含む） • Web ベースのサービス（個人アドレス帳ボタンなど） • コール機能（プライバシーボタンなど） <p>表示されるボタンの色によって、回線の状態が次のように示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 緑、点灯：アクティブコールまたは双方向のインターコムコール • 緑、点滅：保留コール • オレンジ、点灯：プライバシー機能が使用中、一方向のインターコムコール、サイレントがアクティブ、またはハントグループにログイン中 • オレンジ、点滅：着信コールまたは復帰コール • 赤色、点灯：リモート回線の使用中（共有回線または回線ステータス） • 赤、点滅：リモート回線が保留中 	<p>電話機には、電話回線、機能、コールセッションに簡単にアクセスできる次のようなボタンがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • プログラム可能な機能ボタン（左側）：回線のコールの表示、またはスピードダイヤルやすべてのコールなどの機能へのアクセスに使用します これらのボタンは機能ボタンとも呼ばれます。 • セッションボタン（右側）：コールへの応答、保留中のコールの再開、または（アクティブコールで使用していない場合）不在着信の表示などの電話機能の開始を含むタスクに使用します。電話機の各コールは、セッションボタンに関連付けられています。 <p>(注) アラビア語など右から左に読むロケールを使用する場合、ラインボタンとセッションボタンの位置は入れ替わります。</p> <p>システム管理者が行った電話機の設定に応じて、ボタンは次のいずれかにアクセスします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 電話回線およびインターコム回線 • 短縮ダイヤル番号（短縮ダイヤルボタン、回線ステータス短縮ダイヤル機能を含む） • Web ベースのサービス（個人アドレス帳ボタンなど） • コール機能（プライバシーボタンなど） <p>表示されるボタンの色によって、回線の状態が次のように示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 緑、点灯：アクティブコールまたは双方向のインターコムコール • 緑、点滅：保留コール • オレンジ、点灯：プライバシー機能が使用中、一方向のインターコムコール、サイレントがアクティブ、またはハントグループにログイン中 • オレンジ、点滅：着信コールまたは復帰コール • 赤色、点灯：リモート回線の使用中（共有回線または回線ステータス） • 赤、点滅：リモート回線が保留中
--	---	---

4	ソフトキー ボタン 	システム管理者が行った電話機の設定に応じて、有効なソフトキー オプションが電話スクリーンに表示されます。
5	ナビゲーション クラスタと選択ボタン 	ナビゲーション クラスタと選択ボタンにより、メニューのスクロールや項目の強調表示、強調表示された項目の選択ができます。
6	リリース ボタン 	接続されたコールまたはセッションを終了します。
7	保留/復帰ボタン 	アクティブ コールを保留にしたり、保留中のコールを再開したりします。
8	会議ボタン 	会議コールを開始します。
9	転送ボタン 	コールを転送します。
10	スピーカーフォン ボタン 	スピーカーフォン モードのオン/オフを切り替えます。スピーカーフォンがオンになっているとき、ボタンは点灯しています。
11	ミュート ボタン 	マイクrophon モードのオン/オフを切り替えます。マイクrophonがミュートになっているとき、ボタンは点灯しています。
12	ヘッドセット ボタン 	ヘッドセット モードのオン/オフを切り替えます。ヘッドセットがオンになっているときは、ボタンが点灯します。

13	キーパッド	電話番号のダイヤル、文字の入力、また項目番号を入力してメニュー項目の選択を行います。
14	音量ボタン 	受話器、ヘッドセット、スピーカフォンの音量（オフフック）および呼出音の音量（オンフック）を制御します。
15	連絡先ボタン 	[ディレクトリ (Directories)] メニューを開閉します。連絡先ボタンを使用して、個人および社内のディレクトリにアクセスします。
16	アプリケーション ボタン 	[アプリケーション (Applications)] メニューを開閉します。アプリケーション ボタンを使用して、電話履歴、ユーザ設定、電話機の設定、電話機のモデル情報にアクセスします。
17	メッセージ ボタン 	ボイス メッセージング システムを自動的にダイヤルします (システムによって異なります)。
18	戻るボタン 	直前の画面またはメニューに戻ります。
19	ハンドセット	電話機のハンドセットです。

用語の違い

次の表に、『Cisco IP Phone 8841, 8851, and 8861 User Guide for Cisco Unified Communications Manager』、『Cisco IP Phone 8841/8851/ 8861 アドミニストレーション ガイド for Cisco Unified Communications Manager』、および『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』に見られる用語の違いの一部を強調表示します。

表 6: 用語の違い

ユーザ ガイド	アドミニストレーション ガイド
回線ステータス	ビジー ランプ フィールド (BLF)

ユーザガイド	アドミニストレーションガイド
メッセージインジケータ	メッセージ受信インジケータ (MWI) またはメッセージ受信ランプ
プログラム可能な機能ボタン	プログラム可能なボタンまたはプログラム可能な回線キー (PLK)
[簡易発信 (New Call)] ウィンドウ	[簡易発信 (New Call)] バブル
ボイスメールシステム	ボイスメッセージシステム



第 **II** 部

Cisco IP Phone の設置

- [Cisco IP Phone の設置, 41 ページ](#)
- [Cisco Unified Communications Manager での電話機の設定, 77 ページ](#)
- [セルフ ケア ポータルの管理, 93 ページ](#)



第 3 章

Cisco IP Phone の設置

- ネットワーク設定の確認, 41 ページ
- 電話機の自動登録の有効化, 42 ページ
- Cisco IP Phone の設置, 44 ページ
- セットアップメニューからの電話の設定, 45 ページ
- ワイヤレス LAN のセットアップ, 48 ページ
- ネットワークの設定, 54 ページ
- 電話機の起動確認, 73 ページ
- ユーザの電話サービスの設定, 74 ページ

ネットワーク設定の確認

新しいIPテレフォニーシステムを導入するときは、システム管理者とネットワーク管理者がいくつかの初期設定作業を実施して、ネットワークをIPテレフォニーサービス用に準備する必要があります。Cisco IP テレフォニー ネットワークおよびそのセットアップと設定のチェックリストについては、『*Cisco Unified Communications Manager System Guide*』の「System Configuration Overview」の章を参照してください。

電話機がネットワークでエンドポイントとして正常に動作するためには、ネットワークが次の要件を満たしている必要があります。



(注) 電話機がCisco Unified Communications Managerから日時を表示する。電話機に表示される時間は、Cisco Unified Communications Managerの時間と 10 秒以内の誤差がある場合があります。

手順

-
- ステップ 1** 次の要件を満たすように VoIP ネットワークを設定します。
- Cisco ルータおよびゲートウェイ上で VoIP が設定されている。
 - Cisco Unified Communications Managerがネットワークにインストールされ、コール処理用に設定されている。
- ステップ 2** (任意) 次の要件を満たすように Voice over Wireless LAN (VoWLAN) を設定します。
- Cisco Aironet アクセスポイント (APs) が VoWLAN をサポートするように設定されている。
 - VoWLAN をサポートするためのコントローラおよびスイッチが設定されている。
 - ワイヤレス音声デバイスおよびユーザを認証するためのセキュリティが実装されている。
-

電話機の自動登録の有効化

Cisco IP Phone は、コールの処理に Cisco Unified Communications Manager を必要とします。Cisco Unified Communications Manager を正しくセットアップして、電話機を管理し、コールを適切にルーティングおよび処理するには、『*Cisco Unified Communications Manager Administration Guide*』または Cisco Unified Communications Manager Administration の状況依存ヘルプを参照してください。

Cisco IP Phone を設置する前に、電話機を Cisco Unified Communications Manager データベースに追加する方法を選択しておく必要があります。

電話機を設置する前に自動登録を有効にしておく、次のことが可能になります。

- 事前に電話機から MAC アドレスを収集することなく、電話機を追加する。
- Cisco IP Phone を IP テレフォニー ネットワークに物理的に接続したときに、その電話機を Cisco Unified Communications Manager データベースに自動的に追加する。自動登録中に、Cisco Unified Communications Manager は連続する電話番号の中から次に使用可能なものを電話機に割り当てます。
- 電話機を Cisco Unified Communications Manager データベースにすばやく登録し、電話番号などの設定を Cisco Unified Communications Manager から変更する。
- 自動登録された電話機を新しい場所に移動し、電話番号を変更しないまま別のデバイスプールに割り当てる。

自動登録は、ネットワークに追加する電話機が 100 台未満の場合に使用することを推奨します。100 台を超える電話機をネットワークに追加するには、一括管理ツール (BAT) を使用します。

自動登録は、デフォルトでは無効になっています。たとえば特定の電話番号を電話に割り当てる場合や、『*Cisco Unified Communications Manager Security Guide*』に説明されているように、Cisco

Unified Communications Manager による安全な接続を使用する場合など、自動登録を使用しないこともあります。自動登録の有効化については、『*Cisco Unified Communications Manager Administration Guide*』の「Enabling Autoregistration」を参照してください。Cisco CTL クライアントを通じてクラスタを混合モードに設定すると、自動登録は自動的に無効になります。Cisco CTL クライアントを通じてクラスタを非セキュアモードに設定すると、自動登録は自動的に有効になりません。

自動登録と TAPS (Tool for AutoRegistered Phones Support) を使用すると、MAC アドレスを最初に電話機から収集しなくても、電話機を追加することができます。

TAPS は、一括管理ツール (BAT) と連携して、Cisco Unified Communications Manager データベースにダミー MAC アドレスを使用して追加された一連の電話機をアップデートします。TAPS を使用して、MAC アドレスを更新し、デバイス向けに事前定義された設定をダウンロードします。

自動登録と TAPS は、ネットワークに追加する電話機が 100 台未満の場合に使用することを推奨します。100 台を超える電話機をネットワークに追加するには、一括管理ツール (BAT) を使用します。

TAPS を利用するには、管理者またはエンドユーザが TAPS の電話番号をダイヤルして、音声プロンプトに従います。このプロセスが完了した後、電話機には電話番号とその他の設定値が含まれており、電話機は正しい MAC アドレスを使用して Cisco Unified Communications Manager の管理ページで更新されます。

ネットワークに Cisco IP Phone を接続する前に、自動登録が Cisco Unified Communications Manager の管理ページで有効になっていて、正しく設定されていることを確認します。自動登録の有効化と設定については、『*Cisco Unified Communications Manager Administration Guide*』を参照してください。

TAPS が機能するためには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで自動登録を有効にする必要があります。

手順

-
- ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager の管理で、[システム (System)] > [Cisco Unified CM] をクリックします。
 - ステップ 2 必要なサーバを選択し、[自動登録 (Autoregister)] チェックボックスを選択します。
 - ステップ 3 [保存 (Save)] をクリックします。
-

関連トピック

[電話機の追加方法, \(82 ページ\)](#)

Cisco IP Phone の設置

電話機がネットワークに接続されると、電話機の起動プロセスが開始され、電話機が Cisco Unified Communications Manager に登録されます。電話機の設置を完了するには、DHCP サービスを有効にするかどうかに応じて、電話機上でネットワーク設定値を設定します。

自動登録を使用した場合は、電話機をユーザに関連付ける、ボタンテーブルや電話番号を変更するなど、電話機の特定の設定情報をアップデートする必要があります。



(注) 外部デバイスを使用する前に、[外部デバイス](#)、(18 ページ) を参照してください。

手順

ステップ 1 電話機の電源を次の中から選択します。

- Power over Ethernet (PoE)
- 外部電源

詳細については、[電話機の所要電力](#)、(6 ページ) を参照してください。

ステップ 2 ハンドセットをハンドセットポートに接続します。

ワイドバンド対応ハンドセットは、Cisco IP Phone で使用するために特別に設計されたものです。ハンドセットは、着信コールやボイスメッセージがあることを通知する、ライトストリップを備えています。

ステップ 3 ヘッドセットまたはワイヤレスヘッドセットを接続します。ヘッドセットは設置の際に接続しなくても、後から追加できます。詳細については、[ヘッドセット](#)、(102 ページ) または [ワイヤレスヘッドセット](#)、(106 ページ) を参照してください。

ステップ 4 ストレートイーサネットケーブルを使用して、スイッチを Cisco IP Phone の 10/100/1000 SW というラベルの付いたネットワークポートに接続します。Cisco IP Phone には、イーサネットケーブルが 1 箱に 1 本添付されています。10 Mbps 接続にはカテゴリ 3/5/5e のいずれかのケーブルを使用し、100 Mbps 接続にはカテゴリ 5/5e ケーブル、1000 Mbps 接続の場合はカテゴリ 5e ケーブルを使用してください。詳細については、[ネットワークポートとコンピュータポートのピン割り当て](#)、(5 ページ) を参照してください。

ステップ 5 ストレートイーサネットケーブルを使用して、デスクトップコンピュータなど、他のネットワークデバイスを Cisco IP Phone のコンピュータポートに接続します。別のネットワークデバイスは、ここで接続しなくても後で接続できます。10Mbps 接続にはカテゴリ 3/5/5e のいずれかのケーブルを使用し、100Mbps 接続にはカテゴリ 5/5e ケーブル、1000 Mbps 接続の場合はカテゴリ 5e ケーブルが使用できます。詳細については、[ネットワークポートとコンピュータポートのピン割り当て](#)、(5 ページ) を参照してください。

ステップ 6 電話機が机の上にある場合は、フットスタンドを調節します。詳細については、[フットスタンドの接続](#)、(100 ページ) を参照してください。電話機が壁に取り付けられている場合は、受話器が

受け台から滑り落ちないようにハンドセットの受け台を調整する必要があります。詳細については、次を参照してください。[ハンドセットレストの調整](#)、(139 ページ)

- ステップ 7** 電話機の起動プロセスをモニタします。この手順では、プライマリとセカンダリの電話番号、および電話番号に関連付ける機能を電話機に追加し、電話機が正しく設定されていることを確認します。
- ステップ 8** 電話上でネットワーク設定値を設定する場合、DHCP を使用するか、手動で IP アドレスを入力して、電話機の IP アドレスを設定します。
[ネットワークの設定](#)、(54 ページ) および [ネットワークのセットアップ](#)、(269 ページ) を参照してください。
- ステップ 9** 最新のファームウェア イメージに電話機をアップグレードしてください。ワイヤレス接続の品質と帯域幅によっては、WLAN インターフェイスを通じたファームウェアのアップグレードは、有線インターフェイスより時間がかかることがあります。一部のアップグレードでは完了までに 1 時間を超える場合があります。
- ステップ 10** Cisco IP Phone を使用してコールを発信し、電話機と機能が正常に動作することを確認します。『*Cisco IP Phone 8841, 8851, and 8861 User Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。
- ステップ 11** エンドユーザーに対して、電話機の使用法および電話機のオプションの設定方法を通知します。この手順では、ユーザーが十分な情報を得て、Cisco IP Phone を有効に活用できるようにします。

セットアップメニューからの電話の設定

Cisco IP Phone には、次の設定メニューが用意されています。

- [ネットワークのセットアップ (Network Setup)] : IPv4、IPv6、WLAN、イーサネットといったネットワーク設定の表示や設定のオプションを提供します。
 - [イーサネットのセットアップ (Ethernet Setup)] : このサブメニューのメニュー項目には、イーサネット ネットワークを介して Cisco IP Phone を設定するための設定オプションがあります。
 - [Wi-Fi クライアントのセットアップ (Wi-Fi client setup)] : このサブメニューのメニュー項目には、ワイヤレス ローカルエリア ネットワーク (WLAN) を介して Cisco IP Phone を設定するための設定オプションがあります。
 - [IPv4 のセットアップ (IPv4 Setup)] と [IPv6 のセットアップ (IPv6 Setup)] : これらのサブメニューは、[イーサネットのセットアップ (Ethernet Setup)] メニューと [Wi-Fi クライアントのセットアップ (Wi-Fi client setup)] メニューのサブメニューで、ネットワーク オプションを追加します。
- [セキュリティのセットアップ (Security Setup)] : セキュリティモード、信頼リスト、802.1X 認証といったセキュリティ設定などの表示や設定のオプションを提供します。

[ネットワークのセットアップ (Network Setup)]メニューにあるオプション設定値を変更するには、オプションのロックを編集のために解除しておく必要があります。



(注) Cisco Unified CM の管理の [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウにある [設定アクセス (Settings Access)] フィールドを使用すると、電話機から [設定 (Settings)] メニューやこのメニューのオプションにアクセスできるかどうかを制御できます。設定アクセス フィールドでは、次の値を設定できます。

- [有効 (Enabled)] : [設定 (Settings)] メニューへのアクセスを許可します。
- [無効 (Disabled)] : [設定 (Settings)] メニューへのアクセスを禁止します。
- [非許可 (Restricted)] : [ユーザ設定 (User Preferences)] メニューへのアクセスを許可し、音量の設定変更の保存を許可します。 [設定 (Settings)] メニューの他のオプションへのアクセスは禁止します。

[管理者設定 (Administrator Settings)]メニューのオプションにアクセスできない場合は、設定アクセス フィールドを確認してください。

手順

ステップ 1 アプリケーション



を押します。

ステップ 2 [管理者設定 (Administrator Settings)] を選択します。


ステップ 3 [ネットワークのセットアップ (Network Setup)] または [セキュリティのセットアップ (Security Setup)] を選択します。

ステップ 4 必要な場合はユーザ ID とパスワードを入力し、[ログイン (Sign-In)] をクリックします。

ステップ 5 次のいずれかの操作を実行して、目的のメニューを表示します。

- ナビゲーションの矢印を使用して目的のメニューを選択し、[選択 (Select)] を押します。
- 電話機のキーパッドを使用して、メニューに対応する番号を入力します。

ステップ 6 サブメニューを表示するには、ステップ 5 を繰り返します。

ステップ 7 メニューを終了するには、[終了 (Exit)] または U ターン型の矢印  を押します。

電話機パスワードの適用


[管理者設定 (Admin Settings)] 電話スクリーンでパスワードを入力しない限り、電話機の管理者オプションを変更できないよう、電話機にパスワードを適用できます。

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified Communications Manager Administration)] で、[デバイス (Device)] > [デバイス設定 (Device Settings)] > [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] を使用して [共通の電話プロファイルの設定 (Common Phone Profile Configuration)] ウィンドウに移動します。
- ステップ 2** [電話ロック解除パスワード (Local Phone Unlock Password)] オプションで、パスワードを入力します。
- ステップ 3** 電話機が使用する共通の電話プロファイルに、パスワードを適用します。
-

電話機からのテキストメニューの入力

オプション設定値を編集するときは、次のガイドラインに従ってください。

- 編集するフィールドを強調表示するには、ナビゲーションパッドの矢印を使用します。次にナビゲーションパッドの [選択 (Select)] を押すとフィールドがアクティブになります。フィールドがアクティブになったら、値を入力できます。
- 数値と文字を入力するには、キーパッド上のキーを使用します。
- キーパッドを使用して文字を入力するには、対応する数値キーを使用します。キーを 1 回または何回か押して、個々の文字を表示します。たとえば、[2] を 1 回押して「a」を、すばやく 2 回押して「b」を、すばやく 3 回押して「c」を表示します。一時停止した後、カーソルは自動的に進み、次の文字を入力できます。
- 入力を誤ったときは、矢印ソフトキー  を押します。このソフトキーを押すと、カーソルの左側にある文字が削除されます。
- 変更内容を保存しない場合は、[保存 (Save)] を押す前に、[キャンセル (Cancel)] を押します。
- IP アドレスを入力するには、ユーザ用に分割されている 4 個のセグメントに値を入力します。左端からピリオドまでの数字を入力し終わったら、右向き矢印キーを使用して次のセグメントに移動します。左端の数字の後のピリオドは自動的に挿入されます。
- IPv6 アドレスのコロンを入力するには、キーパッドの * を押します。



(注) Cisco IP Phone では、必要に応じて、いくつかの方法でオプション設定値をリセットまたは復元することができます。

関連トピック

[電話機パスワードの適用](#), (47 ページ)

[基本的なリセット](#), (307 ページ)

ワイヤレス LAN のセットアップ

ワイヤレス LAN が導入されている場所の Wi-Fi カバレッジが音声パケットの送信に最適であることを確認します。

音声用の Wi-Fi 接続が Cisco IP Phone に有効にされていて、EAP-FAST または PEAP セキュリティモードを使用している場合、アプリケーションメニュー内の WLAN サインインを使用して、Wi-Fi ネットワークを認証します。WEP、PSK、オープンセキュリティモードは、Wi-Fi ネットワークで認証します。

詳細については、次の場所にある『*Cisco IP Phone 8800 Wireless LAN Deployment Guide*』を参照してください。

<http://www-author.cisco.com/c/en/us/support/collaboration-endpoints/unified-ip-phone-8800-series/products-technical-reference-list.html>

『*Cisco IP Phone 8800 Wireless LAN Deployment Guide*』には、次の設定情報が含まれています。

- ワイヤレス ネットワークの設定
- Cisco Unified Communications Manager Administration でのワイヤレス ネットワーク設定
- Cisco IP Phone でのワイヤレス ネットワーク設定

手順

- ステップ 1** アプリケーションを有効にするには、[アプリケーション (Applications)] > [管理者設定 (Administrator Settings)] > [ネットワークのセットアップ (Network Setup)] > [Wi-Fi クライアントのセットアップ (Wi-Fi Client Setup)] > [Wi-Fi ログインアクセス (Wi-Fi Sign in Access)] と移動します。
- ステップ 2** ワイヤレス ネットワークを有効にします。
- ステップ 3** ユーザー名またはパスワードを変更するには、[アプリケーション (Applications)] > [管理者設定 (Administrator Settings)] に移動します。

Cisco Unified Communications Manager からのワイヤレス LAN のセットアップ

[Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified Communications Manager Administration)] で、ワイヤレス Cisco Unified IP Phone の [Wi-Fi] というパラメータを有効にする必要があります。



(注) Cisco Unified Communications Manager Administration の [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウ ([デバイス (Device)] > [電話機 (Phone)]) で、MAC アドレスの設定時に、有線の MAC アドレスを使用します。Cisco Unified Communications Manager の登録では、無線 MAC アドレスを使用しません。

[Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified Communications Manager Administration)] で、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** 特定の電話機でワイヤレス LAN を有効にするには、次の手順を実行します。
- [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。
 - 必要な電話を特定します。
 - [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] セクションの [Wi-Fi] パラメータに [設定の有効化 (Enable Setting)] を選択します。
 - [共通設定の上書き (Override Common Settings)] チェックボックスをチェックします。
- ステップ 2** 電話機のグループに対してワイヤレス LAN を有効にするには、
- [デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] の順に選択します。
 - [Wi-Fi] パラメータに [設定の有効化 (Enable Setting)] を選択します。
 - [共通設定の上書き (Override Common Settings)] チェックボックスをチェックします。
 - [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を使用して、電話機を共通プロファイルと関連付けます。
- ステップ 3** ネットワークのすべての WLAN 対応電話機に対してワイヤレス LAN を有効にするには、
- [システム (System)] > [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)] を選択します。
 - [Wi-Fi] パラメータに [設定の有効化 (Enable Setting)] を選択します。
 - [共通設定の上書き (Override Common Settings)] チェックボックスをチェックします。

電話機からのワイヤレス LAN のセットアップ

Cisco IP Phone を WLAN に接続可能にするには、先に適切な WLAN 設定で電話機のネットワークプロファイルを設定する必要があります。電話機の [ネットワークのセットアップ (Network

Setup)]メニューを使用して [Wi-Fi クライアントのセットアップ (Wi-Fi client setup)]サブメニューにアクセスし、WLAN 設定をセットアップすることができます。



(注) ワイヤレス設定の値は、Cisco IP Phone キーパッドでのみ設定できます。Cisco IP Phone をワイヤレスモードで使用している場合は、ACアダプタを使用する必要があります。イーサネットに接続すると、ワイヤレスは無効になります。



(注) WiFi が Cisco Unified Communications Manager で無効にされている場合、[ネットワーク設定 (Network Setup)]メニューには [Wi-Fi クライアントのセットアップ (Wi-Fi client setup)]オプションが表示されません。

手順

- ステップ 1 [アプリケーション (Applications)]を押します。
- ステップ 2 [管理者設定 (Administrator Settings)]>[ネットワークのセットアップ (Network Setup)]>[Wi-Fi クライアントのセットアップ (Wi-Fi client setup)]を選択します。
- ステップ 3 次の表に示すようにワイヤレス設定をセットアップします。

表 7: [Wi-Fi クライアントのセットアップ (Wi-Fi client setup)]メニューオプション

オプション	説明	変更の手順
ワイヤレス (Wireless)	<p>Cisco IP Phone の無線をオンまたはオフにします。次の有効な値を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オン (On)]: 電話機の無線をオンにします。 • [オフ (Off)]: 電話機の無線をオフにします。 <p>デフォルト: [オン (On)]</p>	<p>[ワイヤレス (Wireless)]フィールドの設定、(68 ページ) を参照してください。</p>

オプション	説明	変更の手順
ワイヤレスサイン インアクセス (Wireless Sign in Access)	<p>メインの [アプリケーション (Applications)]メニューで、[ワイヤレスサインインアクセス (Wireless Sign in Access)] ウィンドウの表示を有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オン (On)] : [ワイヤレスサインインアクセス (Wireless Sign in Access)] ウィンドウが表示されます。この値をオンにすると、メインの [アプリケーション (Applications)]メニューで、ワイヤレスユーザIDおよびパスワードのサインインまたは変更ができます。オンにせずにサインイン情報を変更するには、[セキュリティ (Security)]メニュー レベルまで移動してから、サインインクレデンシャルが必要な PEAP または EAP-FAST のいずれかの方法を選択します。 • [オフ (Off)] : [ワイヤレスサインインアクセス (Wireless Sign in Access)] ウィンドウは表示されません。 <p>デフォルト : Off</p>	[WLAN サインインアクセス (WLAN Sign In Access)] フィールドの設定, (69 ページ) を参照してください。
IPv4 のセットアップ (IPv4 Setup)	<p>[IPv4 のセットアップ (IPv4 Setup)] 設定サブメニューでは、次の作業を実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • DHCP サーバが割り当てた IP アドレスの、電話機による使用のオン/オフ。 • IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトルータ、DNS サーバ、および代替 TFTP サーバの手動設定。 <p>IPv4 アドレス フィールドの詳細については、IPv4 のセットアップ, (59 ページ) を参照してください。</p>	[IPv4 のセットアップ (IPv4 Setup)] までスクロールし、選択を押します。

オプション	説明	変更の手順
IPv6 のセットアップ (IPv6 Setup)	<p>[IPv6 のセットアップ (IPv4 Setup)] 設定サブメニューでは、次の作業を実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • IPv6 対応ルータを介して SLAAC が取得した、または DHCPv6 サーバによって割り当てられた IPv6 アドレスの使用を、電話機で有効または無効にします。 • IPv6 アドレス、プレフィックス長、デフォルトルータ、DNS サーバ、および代替 TFTP サーバを手動設定します。 <p>IPv6 アドレス フィールドの詳細については、IPv6 のセットアップ、(63 ページ) を参照してください。</p>	<p>[IPv6 のセットアップ (IPv6 Setup)] までスクロールし、選択ボタンを押します。</p>
MAC アドレス (MAC Address)	<p>電話機固有のメディア アクセス コントロール (MAC) アドレス。</p>	<p>表示専用。変更不可。</p>
ドメイン名 (Domain Name)	<p>電話機が所属するドメイン ネーム システム (DNS) ドメインの名前。</p>	<p>[ドメイン名 (Domain Name)] フィールドの設定、(67 ページ) を参照してください。</p>
SSID	<p>ワイヤレス アクセス ポイントにアクセスする固有識別情報、サービス セット ID (SSID) を指定します。</p>	<p>[SSID] フィールドの設定、(69 ページ) を参照してください。</p>

オプション	説明	変更の手順
セキュリティモード (Security Mode)	<p>電話機が WLAN へのアクセスに使用する認証のタイプです。次の有効な値を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オープン (Open)] : 暗号化せず、すべてのアクセスポイント (AP) にアクセスします。 • [WEP] : 802.11 認証を行ったうえでオープンにするが、データの暗号化に有線と同等のプライバシー (WEP) を使用します。すべての AP へのアクセスおよび、ローカル AP での WEP キーを通じた認証を指定します。 • [PSK] : WEP を使用した共有キーの認証です。 • [EAP-FAST] : Extensible Authentication Protocol Flexible Authentication via Secure Tunneling (EAP-FAST) では、ユーザ名と暗号化されたセキュアなパスワードをネットワークの RADIUS サーバと交換します。このネットワークでは、Protected Access Credential (PAC) を使用することで認証用のセキュアなトンネルが確立されています。EAP-FAST では WPA および WPA2 をサポートしています。 • [PEAP(MSCHAPV2)] : Protected Extensible Authentication Protocol (LEAP) の認証では、ユーザ名と暗号化されたセキュアなパスワードをネットワークの RADIUS サーバと交換します。PEAP は、シスコ独自バージョンの EAP です。PEAP では WPA および WPA2 をサポートしています。 	<p>[セキュリティモード (Security Mode)] フィールドの設定、(69 ページ) を参照してください。</p>

オプション	説明	変更の手順
802.11 モード (802.11 Mode)	<p>WLAN で使用されるワイヤレス信号規格を指定します。 次の有効な値を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [自動 (Auto)] : デフォルト値。 • 2.4 Ghz • 5.0 Ghz 	<p>[802.11 モード (802.11 Mode)] フィールドの設定, (69 ページ) を参照してください。</p>

ネットワークの設定

ネットワークでDHCPを使用していない場合は、Cisco IP Phone をネットワークに設置した後に、電話機上で次のネットワーク設定値を設定する必要があります。

- IP アドレス
- IP サブネット情報
- IPv6 形式のアドレス
- TFTP サーバの IP アドレス

必要に応じて、ドメイン名と DNS サーバ設定値も設定できます。

[イーサネットの設定 (Ethernet Configuration)]メニューは、さまざまなネットワーク設定値を表示および変更するためのオプションを提供します。 次の表に、これらのオプションの説明を示します。また、該当する場合には、それらの変更方法についても併せて説明します。



(注) VPN 接続を確立してイーサネット データ フィールドを上書きします。

表 8: [イーサネットのセットアップ (Ethernet Setup)]メニューのオプション

オプション	説明	変更の手順
IPv4 のセットアップ (IPv4 Setup)	<p>[IPv4 のセットアップ (IPv4 Setup)]設定サブメニューでは、次の作業を実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • DHCP サーバが割り当てた IP アドレスの、電話機による使用のオン/オフ。 • IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトルータ、DNS サーバ、および代替 TFTP サーバの手動設定。 <p>このオプションは、電話機が IPv4 専用モードまたはデュアルスタックモードで設定されている場合にのみ表示されます。</p>	<p>[IPv4 のセットアップ (IPv4 Setup)]までスクロールし、選択を押します。</p> <p>IPv4 のセットアップ, (59 ページ) を参照してください。</p>
IPv6 のセットアップ (IPv6 Setup)	電話機の IPv6 設定。	<p>[IPv6 のセットアップ (IPv6 Setup)]までスクロールし、選択を押します。</p> <p>IPv6 のセットアップ, (63 ページ) を参照してください。</p>
MAC アドレス (MAC Address)	電話機固有のメディアアクセスコントロール (MAC) アドレス。	表示専用。変更不可。
ドメイン名 (Domain Name)	電話機が所属するドメインネームシステム (DNS) ドメインの名前。	[ドメイン名 (Domain Name)] フィールドの設定, (67 ページ) を参照してください。

オプション	説明	変更の手順
<p>接続先 VLAN ID (Operational VLAN ID)</p>	<p>電話機が所属する、Cisco Catalyst スイッチに設定された補助 VLAN。</p> <p>電話機が補助 VLAN をまだ受信していない場合、このオプションは管理 VLAN を示しています。</p> <p>補助 VLAN と管理 VLAN のいずれも設定されていない場合、このオプションは空白になります。</p>	<p>表示専用。変更不可。</p> <p>電話機は、Cisco Discovery Protocol (CDP) または Link Level Discovery Protocol Media Endpoint Discovery (LLDP-MED) を通じて接続先 VLAN ID を取得します。ID の情報は電話機が接続されているスイッチから提供されます。VLAN ID を手動で割り当てるには、[管理 VLAN ID (Admin VLAN ID)] オプションを使用します。</p>
<p>管理 VLAN ID (Admin VLAN ID)</p>	<p>電話機がメンバーになっている補助 VLAN。</p> <p>電話機がスイッチから補助 VLAN を受信していない場合のみ使用され、その他の場合は値が無視されます。</p>	<p>[管理 VLAN ID (Admin VLAN ID)] フィールドの設定、(67 ページ) を参照してください。</p>
<p>PC VLAN</p>	<p>ボイス VLAN をサポートしないサードパーティ スイッチと電話機が連携できるようにします。</p> <p>このオプションを変更する前に、[管理 VLAN ID (Admin VLAN ID)] オプションを設定する必要があります。</p>	<p>[PC VLAN] フィールドの設定、(67 ページ) を参照してください。</p>

オプション	説明	変更の手順
SW ポートのセットアップ (SW Port Setup)	<p>ネットワーク ポートの速度と二重化モード。次の有効な値を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 自動ネゴシエーション (Auto Negotiate) • [1000 フル (1000 Full)] : 1000-BaseT/全二重 • [100 ハーフ (100 Half)] : 100-BaseT/半二重 • [100 フル (100 Full)] : 100-BaseT/全二重 • [10 ハーフ (10 Half)] : 10-BaseT/半二重 • [10 フル (10 Full)] : 10-BaseT/全二重 <p>電話機がスイッチに接続されている場合は、スイッチ上のポートを電話機と同じ速度および二重化方式に設定するか、両方を自動ネゴシエーションに設定します。</p> <p>このオプションの設定値を変更する場合は、[PC ポート設定 (PC Port Configuration)] オプションを同じ設定値に変更する必要があります。</p>	<p>[SW ポートのセットアップ (SW Port Setup)] フィールドの設定、(68ページ) を参照してください。</p>

オプション	説明	変更の手順
<p>PC ポートのセットアップ (PC Port Setup)</p>	<p>コンピュータ (アクセス) ポートの速度とデュプレックス。有効な値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 自動ネゴシエーション (Auto Negotiate) • [1000 フル (1000 Full)] : 1000-BaseT/全二重 • [100 ハーフ (100 Half)] : 100-BaseT/半二重 • [100 フル (100 Full)] : 100-BaseT/全二重 • [10 ハーフ (10 Half)] : 10-BaseT/半二重 • [10 フル (10 Full)] : 10-BaseT/全二重 <p>電話機がスイッチに接続されている場合は、スイッチ上のポートを電話機と同じ速度および二重化方式に設定するか、両方を自動ネゴシエーションに設定します。</p> <p>このオプションの設定値を変更する場合は、[SW ポート設定 (SW Port Configuration)] オプションを同じ設定値に変更する必要があります。</p>	<p>[PC ポートのセットアップ (SW Port Setup)] フィールドの設定、(68 ページ) を参照してください。</p> <p>複数の電話機の設定を同時に行うには、[エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)] ウィンドウ ([システム (System)] > [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configurations)]) で [リモートポート設定 (Remote Port Configuration)] を有効化します。</p> <p>(注) Cisco Unified Communications Manager で [リモートポート設定 (Remote Port Configuration)] にポートが設定されている場合は、電話機でデータを変更することはできません。</p>

手順

ステップ 1

アプリケーション  を押します。

ステップ 2

[ネットワーク設定 (Network Settings)] メニューにアクセスするには、[管理者設定 (Administrator Settings)] > [ネットワークのセットアップ (Network Setup)] を選択します。

IPv4 のセットアップ

次の表で、[IPv4 のセットアップ (IPv4 Setup)]メニューのオプションを説明します。

表 9: [IPv4 のセットアップ (IPv4 Setup)]メニューのオプション

オプション	説明	変更の手順
DHCP を使う (DHCP Enabled)	電話機の DHCP が有効か無効かを示します。 DHCP が有効な場合、DHCP サーバによって電話に IP アドレスが割り当てられます。 DHCP が無効な場合、管理者が、電話機に手動で IP アドレスを割り当てる必要があります。 詳細については、 DHCP を使用するための電話機のセットアップ, (72 ページ) および DHCP を使用しないための電話機のセットアップ, (73 ページ) を参照してください。	[DHCP を使う (DHCP Enabled)]フィールドの設定, (70 ページ) を参照してください。
IP アドレス (IP Address)	電話機のインターネットプロトコル (IP) アドレス。 IP アドレスをこのオプションで割り当てる場合は、サブネットマスクとデフォルトルータも割り当てる必要があります。この表の [サブネットマスク (Subnet Mask)]オプションと [デフォルトルータ (Default Router)]オプションを参照してください。	[IP アドレス (IP Address)]フィールドの設定, (70 ページ) を参照してください。
サブネットマスク (Subnet Mask)	電話機で使用されるサブネットマスク。	[サブネットマスク (Subnet Mask)]フィールドの設定, (70 ページ) を参照してください。
デフォルトルータ (Default Router)	電話機で使用される、デフォルトルータ。	[デフォルトルータ (Default Router)]フィールドの設定, (71 ページ) を参照してください。


オプション	説明	変更の手順
DNS サーバ 1 (DNS Server 1) DNS サーバ 2 (DNS Server 2) DNS サーバ 3 (DNS Server 3)	電話機で使用されるプライマリ DNS サーバ ([DNS サーバ 1 (DNS Server 1)]) およびオプションのバックアップ DNS サーバ ([DNS サーバ 2 (DNS Server 2)] ~ [DNS サーバ 3 (DNS Server 3)])。	[DNS サーバ (DNS Server)] フィールドの設定 , (71 ページ) を参照してください。
代替 TFTP (Alternate TFTP)	電話機が代替 TFTP サーバを使用しているかどうかを示します。	[代替 TFTP (Alternate TFTP)] フィールドの設定 , (71 ページ) を参照してください。

オプション	説明	変更の手順
TFTP サーバ 1 (TFTP Server 1)	<p>電話機で使用される、プライマリの Trivial File Transfer Protocol (TFTP) サーバ。ネットワークで DHCP を使用していない場合、このサーバを変更するには [TFTP サーバ 1 (TFTP Server 1)] オプションを使用する必要があります。</p> <p>[代替 TFTP (Alternate TFTP)] オプションを [オン (On)] に設定した場合は、[TFTP サーバ 1 (TFTP Server 1)] オプションに 0 以外の値を入力する必要があります。</p> <p>プライマリ TFTP サーバもバックアップ TFTP サーバも、電話機の CTL ファイルまたは ITL ファイルに記述されていない場合は、[TFTP サーバ 1 (TFTP Server 1)] オプションの変更内容を保存する前に、これらのファイルをロック解除する必要があります。この場合、[TFTP サーバ 1 (TFTP Server 1)] オプションへの変更を保存すると、ファイルは削除されます。新しい CTL ファイルまたは ITL ファイルが新しい TFTP サーバ 1 アドレスからダウンロードされます。</p> <p>電話機が TFTP サーバを探すとき、プロトコルに関係なく、手動で割り当てられた TFTP サーバが優先されます。IPv6 と IPv4 の両方の TFTP サーバが設定に含まれる場合、電話機は、手動で割り当てられた IPv6 TFTP サーバおよび IPv4 TFTP サーバを優先することによって、TFTP サーバを探す順序の優先順位を決定します。電話機は、次の順序で TFTP サーバを探します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 手動で割り当てられた IPv4 TFTP サーバ 2 手動で割り当てられた IPv6 サーバ 3 DHCP が割り当てられた TFTP サーバ 4 DHCPv6 が割り当てられた TFTP サーバ <p>(注) CTL ファイルおよび ITL ファイルの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Security Guide』を参照してください。</p>	<p>[TFTP サーバ 1 (TFTP Server 1)] フィールドの設定、(72 ページ) を参照してください。</p>

オプション	説明	変更の手順
<p>TFTP サーバ 2 (TFTP Server 2)</p>	<p>プライマリの TFTP サーバが使用不能の場合に、電話機で使用されるオプションのバックアップ TFTP サーバ。</p> <p>プライマリ TFTP サーバもバックアップ TFTP サーバも、電話機の CTL ファイルまたは ITL ファイルに記述されていない場合は、[TFTP サーバ 2 (TFTP Server 2)] オプションの変更内容を保存する前に、これらのファイルのいずれかをロック解除する必要があります。この場合、[TFTP サーバ 2 (TFTP Server 2)] オプションへの変更を保存すると、ファイルのいずれかは削除されます。新しい CTL ファイルまたは ITL ファイルが新しい TFTP サーバ 2 アドレスからダウンロードされます。</p> <p>電話機が TFTP サーバを探すとき、プロトコルに関係なく、手動で割り当てられた TFTP サーバが優先されます。IPv6 と IPv4 の両方の TFTP サーバが設定に含まれる場合、電話機は、手動で割り当てられた IPv6 TFTP サーバおよび IPv4 TFTP サーバを優先することによって、TFTP サーバを探す順序の優先順位を決定します。電話機は、次の順序で TFTP サーバを探します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 手動で割り当てられた IPv4 TFTP サーバ 2 手動で割り当てられた IPv6 サーバ 3 DHCP が割り当てられた TFTP サーバ 4 DHCPv6 が割り当てられた TFTP サーバ <p>(注) CTL または ITL ファイルの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Security Guide』を参照してください。</p>	<p>[TFTP サーバ 2 (TFTP Server 2)] フィールドの設定、(72 ページ) を参照してください。</p> <p>CTL ファイルまたは ITL ファイルのロックを解除し忘れた場合、どちらかのファイルで TFTP サーバ 2 アドレスを変更した後、[セキュリティ設定 (Security Configuration)] メニューから [削除 (Erase)] を押すことによって、それらのファイルを削除できます。新しい CTL ファイルまたは ITL ファイルが新しい TFTP サーバ 2 アドレスからダウンロードされます。</p>
<p>BOOTP サーバ (BOOTP Server)</p>	<p>電話機が IP アドレスを DHCP サーバではなく BOOTP サーバから受信するかどうかを示します。</p>	<p>表示専用。</p>

オプション	説明	変更の手順
DHCP アドレス解放 (DHCP Address Released)	DHCP で割り当てられた IP アドレスを解放します。	このフィールドは DHCP が有効な場合に編集できます。VLAN から電話機を削除して、再割り当てのために電話機の IP アドレスを解放する場合は、このオプションを [はい (Yes)] に設定し、[適用 (Apply)] を押します。

手順

-
- ステップ 1** アプリケーション  を押します。
- ステップ 2** [ネットワーク設定 (Network Settings)] メニューにアクセスするには、[管理者設定 (Administrator Settings)] > [ネットワークのセットアップ (Network Setup)] を選択します。
- ステップ 3** [IPv4 設定 (IPv4 settings)] メニューにアクセスするには、[イーサネットの設定 (Ethernet configuration)] > [IPv4 のセットアップ (IPv4 Setup)] から IPv4 のオプションに移動します。
-

IPv6 のセットアップ

IPv6 アドレッシングが電話機でサポートされます。有効な IPv6 アドレスはサブネットプレフィックスを含めて最大 128 ビットです。

IPv6 アドレスは、次の形式のいずれかでなければなりません。

- コロンで区切られた、4 桁の 16 進数の 8 つのグループで構成され、左端の数字が最上位ビットを表します。各グループの先行する 0 または末尾の 0 は省略されることがあります。
- 圧縮形式では、ゼログループが連続する 1 箇所を二重コロンに短縮して表します。これは、あるアドレスについて 1 度だけ可能なことに注意してください。

IPv6 セットアップ オプションをデバイスで設定する前に、IPv6 を Cisco Unified Communication Administration で有効化し、設定する必要があります。次のデバイス設定フィールドが IPv6 設定に適用されます。

- IP アドレッシング モード (IP Addressing Mode)
- シグナリング用の IP アドレッシングモード設定

IPv6 が Unified クラスタで有効な場合、[IP アドレッシング モード (IP Addressing Mode)] のデフォルトは [IPv4 と IPv6 (IPv4 and IPv6)] (デュアルスタック) です。このアドレッシングモードでは、電話機は IPv4 アドレス 1 個と IPv6 アドレス 1 個を取得して使用します。メディアの必

要に応じて IPv4 および IPv6 アドレスを使用できます。電話機は、Unified CM へのコール制御シグナリングに IPv4 または IPv6 アドレスのいずれかを使用します。

詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Feature and Services Guide』の「IPv6 Support in Cisco Unified Communications Devices」から「Common Device Configuration」についてのセクションを参照してください。



(注) シスコは電話アドレッシングモードの設定として [IPv4 と IPv6 (IPv4 and IPv6)] を推奨します。[IPv6 のみ (IPv6 Only)] は実稼働環境では推奨されません。

IPv6 は、次のメニューのいずれかからセットアップします。

- WiFi が無効にされている場合：[イーサネットの設定 (Ethernet configuration)] > [IPv6 のセットアップ (IPv6 Setup)]
- WiFi が有効にされている場合：[Wi-Fi クライアントのセットアップ (Wi-Fi client setup)] > [IPv6 のセットアップ (IPv6 Setup)]


次の表は、[IPv6] メニューにある IPv6 関連情報について説明します。

表 10: [IPv6 のセットアップ (IPv6 Setup)] メニューのオプション

オプション	デフォルト値	説明
DHCPv6 有効 (DHCPv6 Enabled)	Yes	<p>電話機が IPv6 アドレスを取得するために使用する方法を示します。</p> <p>DHCPv6 が有効の場合、電話機は IPv6 対応ルータによって送信された RA によって SLAAC からまたは DHCPv6 サーバから IPv6 アドレスを取得します。DHCPv6 が無効の場合、電話機がステートフル (DHCPv6 サーバからの) またはステートレス (SLAAC から) の IPv6 アドレスを持つことはありません。</p> <p>(注) DHCPv4 とは異なり、DHCPv6 が無効の場合でも、自動設定が有効になっていれば電話機が SLAAC アドレスを生成できます。</p>

オプション	デフォルト値	説明
IPv6 アドレス (IPv6 Address)	::	<p>電話機の現在の IPv6 アドレスを表示したり、新しい IPv6 アドレスを入力したりすることができます。</p> <p>次の 2 種類のアドレス形式がサポートされます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • コロンによって区切られた、8 グループの 16 進数 X:X:X:X:X:X:X • 圧縮形式では、ゼロ グループが連続する 1 箇所を二重コロンに短縮して表します。 <p>このオプションを使用して IP アドレスを割り当てる場合は、IPv6 プレフィックス長とデフォルトルータも割り当てる必要があります。</p>
IPv6 プレフィックス長 (IPv6 Prefix Length)	0	<p>サブネットの現在のプレフィックス長を表示したり、新しいプレフィックス長を入力したりすることができます。</p> <p>サブネットプレフィックス長は、10 進数で 1～128 です。</p>
IPv6 デフォルトルータ (IPv6 Default Router)	::	<p>電話機で使用されるデフォルトルータを表示したり、新しい IPv6 デフォルトルータを入力したりすることができます。</p>
IPv6 DNS サーバ 1 (IPv6 DNS Server 1)	::	<p>電話機で使用されるプライマリ DNSv6 サーバを表示したり、新しいサーバを入力したりすることができます。</p>
IPv6 DNS サーバ 2 (IPv6 DNS Server 2)	::	<p>電話機で使用されるセカンダリ DNSv6 サーバを表示したり、新しいセカンダリ DNSv6 サーバを設定したりすることができます。</p>
IPv6 代替 TFTP (IPv6 Alternate TFTP)	No	<p>ユーザが代替 (セカンダリ) IPv6 TFTP サーバを使用できるようにします。</p>
IPv6 TFTP サーバ 1 (IPv6 TFTP Server 1)	::	<p>電話機で使用されるプライマリ IPv6 TFTP サーバを表示したり、新しいプライマリ TFTP サーバを設定したりすることができます。</p>
IPv6 TFTP サーバ 2 (IPv6 TFTP Server 2)	::	<p>(任意) プライマリ IPv6 TFTP サーバが使用できないときにセカンダリ IPv6 TFTP サーバを表示するか、ユーザに新しいセカンダリ TFTP サーバの設定を許可します。</p>
IPv6 アドレス解放 (IPv6 Address Released)	No	<p>ユーザが IPv6 関連情報を解放できるようにします。</p>

手順

- ステップ 1** アプリケーション  を押します。
- ステップ 2** [ネットワーク設定 (Network Settings)] メニューにアクセスするには、[管理者設定 (Administrator Settings)] > [ネットワークのセットアップ (Network Setup)] を選択します。
- ステップ 3** [IPv6 設定 (IPv6 settings)] メニューにアクセスするには、次の手順のいずれかを実行します。
- Cisco Unified Communications Manager で Wi-Fi が無効になっている場合：[イーサネットの設定 (Ethernet Configuration)] > [IPv6 のセットアップ (IPv6 Setup)] に移動します。
 - Cisco Unified Communications Manager で Wi-Fi が無効になっている場合：[Wi-Fi クライアントのセットアップ (Wi-Fi client setup)] > [IPv6 のセットアップ (IPv6 Setup)] に移動します。

- ステップ 4** IPv6 アドレスを入力するには、
- 入力するフィールドをクリックします。
 - フィールドの内容を変更します (次の情報を参照してください)。
- 次の表では、アドレス形式について説明します。

フォーマット	説明
X:X:X:X:X:X:X	コロンによって区切られた、8 グループの 16 進数。各グループの先行する 0 または末尾の 0 は省略されることがあります。 例：2001:db8:0:0:0:52:0:1
圧縮	ゼロ グループが連続する 1 箇所を二重コロンに短縮して表します。 例：2001:db8::52:0:1

- アドレスにコロン (:) を入力するには、キーパッドのアスタリスク (*) を押します。
- 16 進数の a、b、c を入力するには、キーパッドの 2 を押し、スクロールして数字を選んでから、Enter を押します。
- 16 進数の d、e、f を入力するには、キーパッドの 3 を押し、スクロールして数字を選んでから、Enter を押します。
- アドレスの各部分を入力してから、[適用 (Apply)] または [復帰 (Revert)] を押します。

- ステップ 5** 次の手順でトグル フィールドを変更します。
- オプションが [いいえ (No)] に設定されている場合、[はい (Yes)] を押して有効にします。オプションが [はい (Yes)] に設定されている場合、[いいえ (No)] を押して無効にします。

- b) [適用 (Apply)]を押して変更を適用するか、[復帰 (Revert)]を押して変更をキャンセルします。
-

[ドメイン名 (Domain Name)]フィールドの設定

手順

- ステップ 1** [DHCP を使う (DHCP Enabled)] オプションを [いいえ (No)] に設定します。
- ステップ 2** [ドメイン名 (Domain Name)] オプションまでスクロールし、[選択 (Select)] を押して、新しいドメイン名を入力します。
- ステップ 3** [適用 (Apply)] を押します。
-

[管理 VLAN ID (Admin VLAN ID)]フィールドの設定

手順

- ステップ 1** [管理 VLAN ID (Admin VLAN ID)] オプションまでスクロールし、[選択 (Select)] を押して、新しい管理 VLAN ID の設定を入力します。
- ステップ 2** [適用 (Apply)] を押します。
-

[PC VLAN] フィールドの設定

手順

- ステップ 1** [管理 VLAN ID (Admin VLAN ID)] オプションが設定されていることを確認します。
- ステップ 2** [PC VLAN] オプションまでスクロールし、[選択 (Select)] を押して、新しい PC VLAN 設定値を入力します。
- ステップ 3** [適用 (Apply)] を押します。
-

[SW ポートのセットアップ (SW Port Setup)] フィールドの設定

手順

-
- ステップ1 [ネットワークの設定 (Network Configuration)] のオプションのロックを解除します。
 - ステップ2 [SW ポートのセットアップ (SW Port Setup)] オプションまでスクロールし、[選択 (Select)] を押します。
 - ステップ3 目的の設定値までスクロールし、[選択 (Select)] を押します。
-

[PC ポートのセットアップ (SW Port Setup)] フィールドの設定

手順

-
- ステップ1 [ネットワークの設定 (Network Configuration)] のオプションのロックを解除します。
 - ステップ2 [PC ポートのセットアップ (SW Port Setup)] オプションまでスクロールし、[選択 (Select)] を押します。
 - ステップ3 目的の設定値までスクロールし、[選択 (Select)] を押します。
-

[ワイヤレス (Wireless)] フィールドの設定

手順

-
- ステップ1 [ワイヤレス (Wireless)] オプションまでスクロールしてからトグルスイッチを使用すると、オンとオフの設定値を切り替えることができます。
 - ステップ2 [適用 (Apply)] を押します。
-

[WLAN サインインアクセス (WLAN Sign In Access)] フィールドの設定

手順

-
- ステップ 1** [ワイヤレス サインイン (Wireless Sign In)] オプションまでスクロールしてから、トグルスイッチを使用すると、オンとオフの設定値を切り替えることができます。
- ステップ 2** [適用 (Apply)] を押します。
-

[SSID] フィールドの設定

手順

-
- ステップ 1** [SSID] オプションにスクロールし、[選択 (Select)] を押し、SSID を入力します。
- ステップ 2** [適用 (Apply)] を押します。
-

[セキュリティ モード (Security Mode)] フィールドの設定

手順

-
- ステップ 1** [セキュリティ モード (Security Mode)] オプションまでスクロールし、目的の値を強調表示します。
- ステップ 2** [適用 (Apply)] をクリックします。
-

[802.11 モード (802.11 Mode)] フィールドの設定

手順

-
- ステップ 1** [802.11 モード (802.11 Mode)] オプションまでスクロールし、目的の値を強調表示します。
- ステップ 2** [適用 (Apply)] をクリックします。
-

[DHCP を使う (DHCP Enabled)] フィールドの設定

手順

-
- ステップ 1** [DHCP を使う (DHCP Enabled)] オプションまでスクロールします。
- ステップ 2** DHCP を無効にするには、[いいえ (No)] を押し、DHCP を有効にするには、[はい (Yes)] を押しします。
-

[IP アドレス (IP Address)] フィールドの設定

手順

-
- ステップ 1** [DHCP を使う (DHCP Enabled)] オプションを [いいえ (No)] に設定します。
- ステップ 2** [IP アドレス (IP Address)] オプションまでスクロールし、[選択 (Select)] を押して、新しい IP アドレスを入力します。
- ステップ 3** [適用 (Apply)] を押しします。
-

[サブネット マスク (Subnet Mask)] フィールドの設定

手順

-
- ステップ 1** [DHCP を使う (DHCP Enabled)] オプションを [いいえ (No)] に設定します。
- ステップ 2** [サブネット マスク (Subnet Mask)] オプションまでスクロールし、[選択 (Select)] を押して、新しいサブネット マスクを入力します。
- ステップ 3** [適用 (Apply)] を押しします。
-

[デフォルト ルータ (Default Router)] フィールドの設定

手順

-
- ステップ 1 [DHCP を使う (DHCP Enabled)] オプションを [無効 (Disable)] に設定します。
 - ステップ 2 適切な [デフォルト ルータ (Default Router)] オプションまでスクロールし、[選択 (Select)] を押して、新しいルータの IP アドレスを入力します。
 - ステップ 3 [適用 (Apply)] を押します。
-

[DNS サーバ (DNS Server)] フィールドの設定

手順

-
- ステップ 1 [DHCP を使う (DHCP Enabled)] オプションを [いいえ (No)] に設定します。
 - ステップ 2 適切な [DNS サーバ (DNS Server)] オプションまでスクロールし、[選択 (Select)] を押して、新しい DNS サーバの IP アドレスを入力します。
 - ステップ 3 [適用 (Apply)] を押します。
 - ステップ 4 複数の DNS サーバが設定できる場合、必要に応じて手順 2 と 3 を繰り返してバックアップ DNS サーバを割り当てます。
-

[代替 TFTP (Alternate TFTP)] フィールドの設定

手順

-
- ステップ 1 [代替 TFTP (Alternate TFTP)] オプションにスクロールします。
 - ステップ 2 電話機で代替 TFTP サーバを使用する場合は、[はい (Yes)] を押します。
 - ステップ 3 電話機で代替 TFTP サーバを使用しない場合は、[いいえ (No)] を押します。
-

[TFTP サーバ 1 (TFTP Server 1)] フィールドの設定

手順

-
- ステップ 1 必要に応じて（電話機の管理ドメインを変更する場合など）、CTL ファイルまたは ITL ファイルをロック解除します。CTL ファイルと ITL ファイルの両方がある場合は、いずれかのファイルをロック解除します。
 - ステップ 2 DHCP を有効にしている場合は、[代替 TFTP (Alternate TFTP)] オプションを [はい (Yes)] に設定します。
 - ステップ 3 [TFTP サーバ 1 (TFTP Server 1)] オプションまでスクロールし、[選択 (Select)] を押して、新しい TFTP サーバの IP アドレスを入力します。
 - ステップ 4 [適用 (Apply)] を押し、[保存 (Save)] を押します。
-

[TFTP サーバ 2 (TFTP Server 2)] フィールドの設定

手順

-
- ステップ 1 必要に応じて（電話機の管理ドメインを変更する場合など）、CTL ファイルまたは ITL ファイルをロック解除します。CTL ファイルと ITL ファイルの両方がある場合は、どちらかのファイルをロック解除します。
 - ステップ 2 [ネットワークの設定 (Network Configuration)] のオプションのロックを解除します。
 - ステップ 3 [TFTP サーバ 1 (TFTP Server 1)] オプションに IP アドレスを入力します。
 - ステップ 4 [TFTP サーバ 2 (TFTP Server 2)] オプションまでスクロールし、[選択 (Select)] を押して、新しいバックアップ TFTP サーバの IP アドレスを入力します。セカンダリの TFTP サーバがない場合は、[削除 (Delete)] を使用して前の値のフィールドをクリアします。
 - ステップ 5 [適用 (Apply)] を押してから、[保存 (Save)] を押します。
-

DHCP を使用するための電話機のセットアップ

DHCP を有効にして、DHCP サーバが自動的に IP アドレスを Cisco IP Phone に割り当て、TFTP サーバに電話を転送できるようにするには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** アプリケーションを押して、[管理者設定 (Administrator Settings)] > [ネットワークのセットアップ (Network Setup)] > [イーサネットのセットアップ (Ethernet Setup)] > [IPv4 のセットアップ (IPv4 Setup)] を選択します。
- ステップ 2** DHCP を有効にするには、[DHCP を使う (DHCP Enabled)] を [はい (Yes)] に設定します。DHCP は、デフォルトで有効になっています。
- ステップ 3** 代替 TFTP サーバを使用するには、[代替 TFTP サーバ (Alternate TFTP Server)] を [はい (Yes)] に設定し、TFTP サーバの IP アドレスを入力します。
(注) DHCP で割り当てられる TFTP サーバを使用する代わりに、代替 TFTP サーバを割り当てる必要があるかどうかを、ネットワーク管理者に相談してください。
- ステップ 4** [適用 (Apply)] を押します。
-

DHCP を使用しないための電話機のセットアップ

DHCP を使用しない場合は、IP アドレス、サブネット マスク、TFTP サーバ、およびデフォルトのルータを電話機でローカルに設定する必要があります。

手順

-
- ステップ 1** アプリケーションを押して、[管理者設定 (Administrator Settings)] > [ネットワークのセットアップ (Network Setup)] > [イーサネットのセットアップ (Ethernet Setup)] > [IPv4 のセットアップ (IPv4 Setup)] を選択します。
- ステップ 2** DHCP を無効にして、IP アドレスを手動で設定する場合：
- [DHCP を使う (DHCP Enabled)] を [いいえ (No)] に設定します。
 - 電話機のスタティック IP アドレスを入力します。
 - サブネット マスクを入力します。
 - デフォルトルータの IP アドレスを入力します。
 - [代替 TFTP サーバ (Alternate TFTP Server)] を [はい (Yes)] に設定し、TFTP サーバ 1 の IP アドレスを入力します。
- ステップ 3** [適用 (Apply)] を押します。
-

電話機の起動確認

Cisco IP Phone を電源に接続すると、次の手順が繰り返され、電話機の起動診断プロセスが開始されます。

- 1 起動時のさまざまな段階で、電話機がハードウェアをチェックする間、機能ボタンとセッションボタンがオレンジ色に点滅し、続いて緑色に点滅します。
- 2 メイン画面に [Cisco Unified Communications Manager への登録 (Registering to Cisco Unified Communications Manager)] と表示されます。

電話機がこれらの段階を正常に完了すると、正常に起動し、選択されるまで [選択 (Select)] ボタンが点灯します。

ユーザの電話サービスの設定

ユーザが IP フォンの Cisco IP Phone サービスにアクセスできるように設定することができます。また、さまざまな電話のサービスにボタンを割り当てることも可能です。これらのサービスは、テキストと画像によるインタラクティブ コンテンツを電話機に表示するための XML アプリケーションとシスコ署名付き Java MIDlet を含んでいます。IP フォンは各サービスを個別のアプリケーションとして管理します。サービスの例としては、映画の上映時刻、株式相場、天気予報などがあります。

ユーザがサービスにアクセスできるようにするには、前もって次の作業が必要です。

- Cisco Unified CM の管理 を使用して、デフォルトで提供されないサービスを設定する必要があります。
- ユーザが Cisco Unified Communications セルフケア ポータルを使用してサービスを登録する必要があります。この Web ベース アプリケーションは、IP フォンのアプリケーションをエンドユーザが設定するための限定的なグラフィカルユーザインターフェイス (GUI) を提供します。ただし、エンタープライズ登録として設定するサービスにユーザは登録できません。

詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Administration Guide*』の「Cisco Unified IP Phone Services Configuration」の章と『*Cisco Unified Communications Manager System Guide*』の「Cisco Unified IP Phone Services」の章を参照してください。



(注) ユーザ用に Cisco エクステンションモビリティを設定するには、『*Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide*』の「Cisco Extension Mobility」の章を参照してください。

サービスを設定する前に、設定するサイトの URL アドレスをすべて入手し、ユーザが社内 IP テレフォニーネットワークからこれらのサイトにアクセスできるかどうかを確認してください。このアクティビティは、シスコが提供するデフォルト サービスには適用されません。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理で、[デバイス (Device)]>[デバイスの設定 (Device Settings)]>[IP Phone サービス (Phone Services)]を選択します。
- ステップ 2** ユーザがCisco Unified Communications セルフ ケア ポータルにアクセスでき、そこから設定済みのサービスを選択して登録できることを確認します。
エンドユーザに提供する必要がある情報については、[セルフ ケア ポータルの管理, \(93 ページ\)](#)を参照してください。
-



第 4 章

Cisco Unified Communications Manager での電話機の設定

- [Cisco IP Phone のセットアップ](#), 77 ページ
- [電話機の MAC アドレスの決定](#), 81 ページ
- [電話機の追加方法](#), 82 ページ
- [Cisco Unified Communications Manager へのユーザの追加](#), 83 ページ
- [エンドユーザグループへのユーザの追加](#), 85 ページ
- [電話機とユーザの関連付け](#), 86 ページ
- [Survivable Remote Site Telephony](#), 86 ページ
- [Cisco Unified Communications Manager 機能のセットアップ](#), 90 ページ

Cisco IP Phone のセットアップ

自動登録が有効ではなく、電話機が Cisco Unified Communications Manager データベースに存在しない場合、Cisco Unified Communications Manager の管理で Cisco IP Phone を手動で設定する必要があります。この手順の一部のタスクは、システムおよびユーザのニーズによっては省略できます。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページの詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Administration Guide*』を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して、次の手順で設定を実行してください。

手順

ステップ 1 電話機について、次の情報を収集します。

- 電話機モデル
- MAC アドレス
- 電話機の設置場所
- 電話機のユーザの名前または ID
- デバイス プール
- パーティション、コーリング サーチ スペース、およびロケーションの情報
- 回線の数と、それに関連して電話機に割り当てる電話番号 (DN)
- 電話機に関連付ける Cisco Unified Communications Manager ユーザ
- 電話ボタンテンプレート、電話機能、IP Phone サービス、または電話アプリケーションに影響する、電話機の使用状況情報

この情報では、電話機をセットアップするための設定要件のリストを示します。また、個々の電話機を設定する前に実施する必要がある、電話ボタンテンプレートなどの前提的な設定作業を特定します。

詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Cisco Unified IP Phone」の章を参照してください。

- ステップ 2** 電話機に対応する十分なユニットライセンスがあることを確認します。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Licensing」の項を参照してください。
- ステップ 3** (必要に応じて) 回線ボタン、スピードダイヤルボタン、サービス URL ボタンを変更して、電話ボタンテンプレートカスタマイズします。[デバイス (Device)] > [デバイス設定 (Device Settings)] > [電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)] を選択して、テンプレートの作成と更新を行います。
プライバシー、すべてのコール、モビリティ ボタンを追加して、ユーザのニーズに対応します。
詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Phone button template setup」の章、および[電話ボタンテンプレート](#)、(221 ページ) を参照してください。
- ステップ 4** デバイス プールを定義します。[システム (System)] > [デバイス プール (Device Pool)] を選択します。
デバイスプールは、デバイスに共通の特性 (リージョン、日時グループ、ソフトキーテンプレート、および MLPP 情報など) を定義します。デバイス プール設定の詳細については、『Cisco Communications Manager Administration Guide』の「Device pool setup」の章を参照してください。
- ステップ 5** 共通の電話プロファイルを定義します。[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] の順に選択します。
共通の電話プロファイルは Cisco TFTP サーバが要求するデータとともに、サイレントオプションおよび機能制御オプションなど、共通の電話の設定を提供します。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Common phone profile setup」の章を参照してください。

- ステップ 6** コーリング サーチ スペースを定義します。Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[コールルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] > [コーリング サーチ スペース (Calling Search Space)] をクリックします。
コーリング サーチ スペースは、着信番号のルーティング方法を決定するために検索されるパーティションのコレクションです。デバイス用のコーリング サーチ スペースと電話番号用のコーリング サーチ スペースは併用することができます。電話番号の CSS は、デバイスの CSS に優先します。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Calling search space setup」の章を参照してください。
- ステップ 7** デバイスタイプおよびプロトコルのセキュリティプロファイルを設定します。[システム (System)] > [セキュリティ (Security)] > [電話セキュリティプロファイル (Phone Security Profile)] を選択します。
詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Security Guide』の「Phone security profile setup」の章を参照してください。
- ステップ 8** [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの必須フィールドに値を入力して、電話機を追加および設定します。フィールド名の横にあるアスタリスク (*) は、MAC アドレスやデバイスプールなどの必須フィールドを示します。
この手順は、デバイスをデフォルトの設定で Cisco Unified Communications Manager データベースに追加します。
詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Cisco Unified IP Phone Configuration」の章を参照してください。
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] フィールドについては「?」を参照してください。ボタン ヘルプ ([電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウ内)
(注) Cisco Unified Communications Manager データベースに電話機とユーザの両方を同時に追加する場合は、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「User/Phone Add Configuration」の章を参照してください。
- ステップ 9** [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウの必須フィールドに値を入力して、電話機に電話番号 (回線) を追加し、設定します。フィールド名の横にあるアスタリスク (*) は、電話番号やプレゼンス グループなどの必須フィールドを示します。
この手順では、プライマリとセカンダリの電話番号、および電話番号に関連付ける機能を電話機に追加します。
詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Directory Number Configuration」の章を参照してください。
- ステップ 10** 短縮ダイヤル ボタンを設定し、短縮ダイヤル番号を割り当てます。
ユーザは、Cisco Unified Communications セルフ ケア ポータルを使用することで、スピードダイヤルの設定値を電話機上で変更できます。
詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Cisco Unified IP Phone Configuration」の章にある「Configuring Speed-Dial Buttons or Abbreviated Dialing」の項を参照してください。
- ステップ 11** Cisco Unified IP Phone サービスを設定し、IP Phone サービスを提供するサービス (任意) を割り当てます。

ユーザは、Cisco Unified Communications セルフ ケア ポータルを使用して、電話機のサービスを追加または変更できます。

- (注) ユーザが IP Phone サービスに登録できるのは、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで IP Phone のサービスを最初に設定したときに、[エンタープライズ登録 (Enterprise Subscription)] チェックボックスをオフにしている場合だけです。
- (注) シスコが提供する一部のデフォルト サービスは、エンタープライズ登録に分類されているため、ユーザはそれらをセルフ ケア ポータルから追加することはできません。このサービスは電話機にデフォルトで実装されているため、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで無効にした場合に限り電話機から削除できます。

詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「IP Phone Services Configuration」の章を参照してください。

ステップ 12 IP Phone のサービスや URL へのアクセスを提供するために、プログラム可能なボタン (オプション) にサービスを割り当てます。

詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Cisco Unified IP Phone Configuration」の章の「Adding a Service URL Button」の項を参照してください。

ステップ 13 必須フィールドを設定して、ユーザ情報を追加します。フィールド名の横にあるアスタリスク

(*) は、ユーザ ID や姓などの必須フィールドを示します。この手順では、Cisco Unified Communications Manager のグローバル ディレクトリにユーザ情報を追加します。

- (注) パスワード (セルフケア ポータルの場合) と PIN (Cisco Extension Mobility またはパーソナル ディレクトリの場合) を割り当てます。

詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「End User Configuration」の章を参照してください。

- (注) ユーザに関する情報を保存するために会社が Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) ディレクトリを使用している場合、既存の LDAP ディレクトリを使用するために Cisco Unified Communications をインストールして設定できます。

- (注) Cisco Unified Communications Manager データベースに電話機とユーザの両方を同時に追加する場合は、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「User/Phone Add Configurations」の章を参照してください。

ステップ 14 ユーザをユーザ グループに関連付けます。この手順では、ユーザ グループ内のすべてのユーザに適用される、共通のロールと権限のリストをユーザに割り当てます。管理者は、ユーザグループ、ロール、および権限を管理することによって、システムユーザのアクセスレベル (つまり、セキュリティのレベル) を制御できます。たとえば、ユーザをシスコの標準 CCM エンドユーザグループに追加する必要があります。こうすると、ユーザが Cisco Unified Communications Manager のセルフ ケア ポータルにアクセスできるようになります。

詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の次の項を参照してください。

- 「End User Configuration」の章にある「End User Configuration Settings」。
- 「User Group Configuration」の章にある「Adding Users to a User Group」。

ステップ 15 ユーザを電話機に割り当てます (任意)。この手順では、コールの転送、スピードダイヤル番号やサービスの追加などについて、ユーザが電話機を制御できるようになります。

電話機の中には、会議室にある電話機など、ユーザが関連付けられないものもあります。

詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「End User Configuration」の章にある「Associating Devices to an End User」を参照してください。

- ステップ 16** [エンド ユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウが表示されていない場合は、[ユーザ管理 (User Management)]>[エンドユーザ (End User)]を選択して、設定の最後の作業を行います。[検索 (Search)]フィールドと[検索 (Find)]を使用してユーザ (例 : John Doe) を見つけた後、ユーザ ID をクリックして、そのユーザの [エンド ユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウを開きます。
- ステップ 17** 画面の [電話番号の割り当て (Directory Number Associations)] 領域で、ドロップダウン リストからプライマリ内線を設定します。
- ステップ 18** [モビリティ情報 (Mobility Information)] 領域で、[モビリティの有効化 (Enable Mobility)] ボックスをオンにします。
- ステップ 19** [権限情報 (Permissions Information)] 領域で、[ユーザ グループ (User Group)] ボタンを使用して、このユーザを任意のユーザ グループに追加します。
たとえば、「標準 CCM エンド ユーザ グループ」として定義されたグループに、ユーザを追加することができます。
- ステップ 20** 設定されているすべてのユーザ グループを表示するには、[ユーザ管理 (User Management)]>[ユーザ グループ (User Groups)] の順に選択します。
- ステップ 21** [エクステンション モビリティ (Extension Mobility)] 領域で、ユーザがクラスタ間のエクステンション モビリティ サービスを許可している場合は、[クラスタ間のエクステンション モビリティの有効化 (Enable Extension Mobility Cross Cluster)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 22** [保存 (Save)] を選択します。

電話機の MAC アドレスの決定

Cisco Unified Communications Manager に電話機を追加するには、Cisco IP Phone の MAC アドレスを決定する必要があります。

手順

次のいずれかの操作を実行します。

- 電話機の [アプリケーション (Applications)]> [電話の情報 (Phone Information)] を押し、[MAC アドレス (MAC Address)] フィールドを確認する。
- 電話機の背面にある MAC ラベルを確認する。
- 電話機の Web ページを表示し、[デバイス情報 (Device Information)] を選択する。

電話機の追加方法

Cisco IP Phone をインストールしたら、次のオプションの 1 つを選択して、電話機を Cisco Unified Communications Manager データベースに追加できます。

- Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して、個別の電話機を追加します。
- 一括管理ツール（BAT）を使用して複数の電話を追加します。
- 自動登録
- BAT と Tool for Auto-Registered Phones Support（TAPS）

電話機を個別に追加するか BAT を使用して追加するには、電話機の MAC アドレスを特定する必要があります。詳細については、[電話機の MAC アドレスの決定](#)、（81 ページ）を参照してください。

一括管理ツールの詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration Guide*』を参照してください。

関連トピック

[電話機の自動登録の有効化](#)、（42 ページ）

電話機の個別の追加

Cisco Unified Communications Manager に追加する電話機の MAC アドレスおよび電話機情報を収集します。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス（Device）]>[電話（Phone）]を選択し、[新規追加（Add New）]をクリックします。
 - ステップ 2** 電話機のタイプを選択します。
 - ステップ 3** [次へ（Next）]を選択します。
 - ステップ 4** 要求された場合にはプロトコルを選択し、[次へ（Next）]をクリックします。
 - ステップ 5** MAC アドレスを含む電話機の情報を入力します。
詳細な手順および Cisco Unified Communications Manager の概念については、『*Cisco Unified Communications Manager System Guide*』の「Cisco Unified Communications Manager Overview」の章を参照してください。
 - ステップ 6** [保存（Save）]を選択します。
-

BAT 電話テンプレートを使用した電話機の追加

Cisco Unified Communications 一括管理ツール (BAT) を使用すると、複数の電話機の登録などのバッチ操作を実行できます。

(TAPS と組み合わせずに) BAT だけを使用して電話機を追加するには、各電話機の適切な MAC アドレスを取得する必要があります。

[一括管理 (Bulk Administration)] メニューによる電話機の追加に関する詳しい説明は、『*Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration Guide*』の「Phone insertion」の章を参照してください。

BAT の使用方法の詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration Guide*』を参照してください。BAT 電話テンプレートの作成方法の詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration Guide*』の「Phone Template」の章を参照してください。

手順

-
- ステップ 1 Cisco Unified Communications Administration から、[一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話テンプレート (Phone Template)] の順に選択します。
 - ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。
 - ステップ 3 [電話のタイプ (Phone Type)] を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
 - ステップ 4 必要に応じて、デバイスプロトコルを選択し、[次へ (Next)] を選択します。
 - ステップ 5 [デバイスプール (Device Pool)]、[電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)]、[デバイスセキュリティプロファイル (Device Security Profile)] など、電話固有の詳細なパラメータを入力します。
 - ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。
 - ステップ 7 BAT 電話テンプレートを使用して電話機を追加するには、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] > [新規追加 (Add New)] を選択します。
-

Cisco Unified Communications Manager へのユーザの追加

Cisco Unified Communications Manager に登録されているユーザに関する情報を表示および管理できます。Cisco Unified Communications Manager によって、各ユーザは次のタスクを実行できます。

- Cisco IP Phone から、社内ディレクトリや他のカスタマイズ済みディレクトリにアクセスする。
- パーソナルディレクトリを作成する。
- 短縮ダイヤルとコール転送の番号をセットアップする。
- Cisco IP Phone からアクセスできるサービスに登録する。

手順

- ステップ 1** ユーザを個別に追加するには、[Cisco Unified Communications Manager へのユーザの直接追加](#)、(84 ページ) を参照してください。
- ステップ 2** ユーザを一括して追加するには、一括管理ツールを使用します。この方法では、すべてのユーザに対して同一のデフォルト パスワードを設定することもできます。詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Administration Guide*』の「Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration」の章を参照してください。
-

外部 LDAP ディレクトリからのユーザの追加

ユーザが LDAP ディレクトリ (Cisco Unified Communications Server でないディレクトリ) に追加されている場合は、次の手順に従って LDAP ディレクトリを同期化することで、そのユーザとその電話機を Cisco Unified Communications Manager に追加できます。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページにサイン インします。
- ステップ 2** [システム (System)] > [LDAP] > [LDAP ディレクトリ (LDAP Directory)] の順に選択します。
- ステップ 3** [検索 (Find)] を使用して LDAP ディレクトリを見つけます。
- ステップ 4** LDAP ディレクトリ名をクリックします。
- ステップ 5** [完全同期を今すぐ実施 (Perform Full Sync Now)] をクリックします。
- (注) LDAP ディレクトリを Cisco Unified Communications Manager に即座に同期化する必要がない場合は、[LDAP ディレクトリ (LDAP Directory)] ウィンドウの [LDAP ディレクトリ同期スケジュール (LDAP Directory Synchronization Schedule)] で、次の自動同期化のスケジュールを決定します。ただし、新規ユーザをデバイスに関連付けるには、その前に同期を完了する必要があります。
-

Cisco Unified Communications Manager へのユーザの直接追加

Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) ディレクトリを使用しない場合、次の手順に従って、Cisco Unified Communications Manager Administration で直接ユーザを追加することができます。



- (注) LDAP が同期している場合、ユーザを Cisco Unified Communications Manager の管理ページに追加できません。
-

手順

- ステップ 1** [ユーザ管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End User)] を選択して、[新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 2** [ユーザ情報 (User Information)] ペインで、次の情報を入力します。
- [ユーザ ID (User ID)] : エンドユーザの識別名を入力します。Cisco Unified Communications Manager では、ユーザ ID の作成後の変更はできません。使用できる特殊文字は、=、+、<、>、#、;、\、,、"、および空白です。例 : johndoe
 - [パスワード (Password)] および [パスワードの確認 (Confirm Password)] : エンドユーザのパスワードとして、5 文字以上の英数字または特殊文字を入力します。使用できる特殊文字は、=、+、<、>、#、;、\、,、"、および空白です。
 - [姓 (Last Name)] : エンドユーザの姓を入力します。使用できる特殊文字は、=、+、<、>、#、;、\、,、"、および空白です。例 : doe
 - [電話番号 (Telephone Number)] : エンドユーザのプライマリ電話番号を入力します。エンドユーザは、電話機に複数の回線を接続できます。例 : 26640 (John Doe の社内電話番号)
- ステップ 3** [保存 (Save)] をクリックします。

エンドユーザグループへのユーザの追加

ユーザを Cisco Unified Communications Manager の標準エンドユーザグループに追加するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページから、[ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザグループ (User Groups)] の順に選択します。
[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 適切な検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 3** [標準 CCM エンドユーザ (Standard CCM End Users)] リンクを選択します。対象の標準 CCM エンドユーザについての [ユーザグループの設定 (User Group Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** [グループにエンドユーザを追加 (Add End Users to Group)] を選択します。[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** [ユーザの検索 (Find User)] ドロップダウンリスト ボックスを使用して、追加するユーザを探し、[検索 (Find)] をクリックします。
検索条件に一致するユーザのリストが表示されます。

- ステップ 6** 表示されるレコードのリストで、このユーザグループに追加するユーザのチェックボックスをクリックします。リストが長い場合は、下部のリンクを使用すると、さらに多くの結果を表示できます。
- (注) 検索結果のリストには、すでにそのユーザグループに属しているユーザは表示されません。
- ステップ 7** [選択項目の追加 (Add Selected)] を選択します。

電話機とユーザの関連付け

Cisco Unified Communications Manager の [エンドユーザ (End User)] ウィンドウから、電話機をユーザに関連付けます。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページから、[ユーザ管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End User)] の順に選択します。
[ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 適切な検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 3** 表示されるレコードのリストで、ユーザのリンクを選択します。
- ステップ 4** [デバイスの割り当て (Device Associations)] を選択します。
[ユーザデバイス割り当て (User Device Association)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** 適切な検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 6** デバイスの左にあるボックスをオンにして、ユーザに関連付けるデバイスを選択します。
- ステップ 7** [選択/変更の保存 (Save Selected/Changes)] を選択して、デバイスをユーザに関連付けます。
- ステップ 8** ウィンドウの右上にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストから、[ユーザの設定に戻る (Back to User)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウが表示され、選択した関連付けられたデバイスが [制御するデバイス (Controlled Devices)] ペインに表示されます。
- ステップ 9** [選択/変更の保存 (Save Selected/Changes)] を選択します。

Survivable Remote Site Telephony

Survivable Remote Site Telephony (SRST) は、制御する Cisco Unified Communications Manager との通信が切断されたときに、電話機の基本的な機能へのアクセスを確保します。このシナリオでは、電話機は進行中のコールをアクティブなまま保持し、ユーザは使用可能な機能のサブセット

にアクセスできます。フェールオーバーが発生すると、ユーザの電話機にアラートメッセージが表示されます。

次の表は、フェールオーバー中の機能の利用可能性について説明します。

表 11 : **SRST** 機能のサポート

機能	サポート済み	注記
発信	Yes	
終了	Yes	
リダイヤル	Yes	
応答	Yes	
保留	Yes	
復帰	Yes	
会議	Yes	
会議のアクティブ コール (参加)	No	[アクティブ コール (Active Calls)] ソフトキーが表示されません。
会議リスト	No	
転送	Yes	
アクティブ コールへの転送 (直接転送)	No	
自動応答	Yes	
コール待機	Yes	
発信者 ID	Yes	
オーディオ メッセージ受信インジケータ	Yes	
すべてのコールのプログラム可能な回線キー	Yes	
応答のプログラム可能な回線キー	Yes	

機能	サポート済み	注記
ユニファイドセッションプレゼンテーション	Yes	他の機能により制限されるため、会議が唯一サポートされている機能です。
ボイスメール	Yes	ボイスメールは Cisco Unified Communications Manager クラスターの他のユーザと同期されません。
すべてのコールの転送	Yes	転送ステートは SRST モードにシェアドラインアピアランスがないため転送を設定する電話機でのみ使用できます。[すべてのコールの転送 (Call Forward All)] 設定は、Cisco Unified Communications Manager から SRST へのフェールオーバーまたは SRST から Communications Manager へのフェールバックには保存されません。Communications Manager で引き続きアクティブな元の [すべてのコールの転送 (Call Forward All)] は、フェールオーバー後にデバイスが Communications Manager に再接続されると表示される必要があります。
スピードダイヤル	Yes	
サービス IRL のプログラム可能な回線キー	Yes	
ボイスメールへの転送 (即転送)	No	[即転送 (iDivert)] ソフトキーが表示されません。
回線のフィルタ	一部	回線はサポートされていますが、共有できません。
パーク モニタリング	No	[パーク (Park)] ソフトキーが表示されません。

機能	サポート済み	注記
割込み	No	「この機能は現在使用できません」というメッセージが表示されます。
拡張されたメッセージ待機インジケータ	No	メッセージのカウント バッジが電話の画面に表示されません。 [メッセージ受信 (Message Waiting)] アイコンのみが表示されます。
ダイレクト コール パーク	No	ソフトキーが表示されません。
BLF	一部	BLF 機能キーはスピードダイヤルキーのように動作します。
保留復帰	No	コールは無期限に保留状態のままになります。
リモート回線の保留	No	コールはローカル保留のコールとして表示されます。
ミーティング	No	[ミーティング (Meet Me)] ソフトキーが表示されません。
ピック	No	ソフトキーによるアクションがありません。
グループ ピックアップ	No	ソフトキーによるアクションがありません。
その他のグループ ピックアップ	No	ソフトキーによるアクションがありません。
迷惑呼 ID	No	ソフトキーによるアクションがありません。
QRT	No	ソフトキーによるアクションがありません。
ハント グループ	No	ソフトキーによるアクションがありません。

機能	サポート済み	注記
インターコム	No	ソフトキーによるアクションがありません。
モビリティ	No	ソフトキーによるアクションがありません。
プライバシー	No	ソフトキーによるアクションがありません。
折り返し	No	[折返し (Call Back)] ソフトキーが表示されません。

Cisco Unified Communications Manager 機能のセットアップ

Cisco Unified CM の管理で、Cisco IP Phone のプロダクト固有の設定パラメータを設定できます。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理で、次のいずれかのウィンドウを選択してください。
- [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] ([電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウ) [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 部分
 - [デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] ([共通の電話プロファイルの設定 (Common Phone Profile Configuration)] ウィンドウ)
 - [システム (System)] > [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)] ([エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)] ウィンドウ)
- ステップ 2** ? を [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified Communications Manager Administration)] でクリックすると、パラメータの説明を表示します。
- ステップ 3** パラメータを設定するときは、更新する設定ごとに [共通設定の上書き (Override Common Settings)] チェックボックスを選択します。
このボックスをチェックしないと、対応するパラメータ設定が有効になりません。
3つの設定ウィンドウでパラメータを設定した場合、設定の優先順序は次のとおりです。
- 1 [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウ
 - 2 [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] ウィンドウ
 - 3 [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)] ウィンドウ



第 5 章

セルフ ケア ポータルの管理

- セルフ ケア ポータルの概要, 93 ページ
- セルフ ケア ポータルへのアクセスの設定, 94 ページ
- セルフ ケア ポータルの表示のカスタマイズ, 94 ページ

セルフ ケア ポータルの概要

Cisco Unified Communications セルフ ケア ポータルから、電話の機能や設定をカスタマイズし、制御できます。セルフ ケア ポータルについては、http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/products_user_guide_list.html にある『Cisco Unified Communications Self Care Portal User Guide』を参照してください。

管理者は、セルフ ケア ポータルへのアクセスを制御します。また、ユーザがセルフ ケア ポータルにアクセスできるように、情報を提供する必要があります。

ユーザを Cisco Unified Communications セルフ ケア ポータルにアクセス可能にする前に、Cisco Unified Communications Manager Administration を使用して、ユーザを標準の Cisco Unified Communications Manager エンドユーザ グループに追加する必要があります。

エンドユーザには、必ず [セルフケアポータル (Self Care Portal)] に関する次の情報を提供してください。

- アプリケーションにアクセスするための URL。この URL は、次のとおりです。
`http://<server_name>:portnumber>/ucmuser/` (server_name は Web サーバがインストールされているホスト、portnumber はホストのポート番号です)。
- アプリケーションにアクセスするために必要なユーザ ID とデフォルト パスワード。
- ユーザがポータルを使用して実行できるタスクの概要。

これらの設定値は、ユーザを Cisco Unified Communications Manager に追加したときに入力した値と同じです。

詳細については、以下を参照してください。

- 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「User Group Configuration」
- 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「End User Configuration」の章
- 『Cisco Unified Communications Manager Administrator Guide』の「Role Configuration」の章

セルフケアポータルへのアクセスの設定

ユーザがセルフケアポータルにアクセスできるようにするには、この手順を使用します。

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified Communications Manager Administration)]で、[ユーザ管理 (User Management)]>[エンドユーザ (End User)]を選択します。
- ステップ 2** ユーザを検索し、ユーザ ID のリンクをクリックします。
- ステップ 3** ユーザのパスワードと PIN が設定されていることを確認します。
- ステップ 4** [保存 (Save)]を選択します。
-

セルフケアポータルの表示のカスタマイズ

セルフケアポータルにはほとんどのオプションが表示されます。ただし、Cisco Unified Communications Manager Administration のエンタープライズパラメータ設定で次のオプションを指定する必要があります。

- 呼出音設定の表示 (Show Ring Settings)
- 回線のラベル設定の表示 (Show Line Label Settings)



(注) この設定値は、サイトのすべてのセルフケアポータルページに適用されます。

手順

-
- ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager Administration で、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] を選択します。
 - ステップ 2 [セルフケアポータル (Self Care Portal)] 領域で、[セルフケアポータルのデフォルトサーバ (Self Care Portal Default Server)] フィールドを設定します。
 - ステップ 3 ポータルでユーザがアクセスできるパラメータをイネーブルまたはディセーブルにします。
 - ステップ 4 [保存 (Save)] を選択します。
-



第 III 部

ハードウェアとアクセサリの設置

- [Cisco IP Phone のアクセサリ, 99 ページ](#)
- [Cisco IP Phone キー拡張モジュール, 111 ページ](#)
- [壁面取り付け, 125 ページ](#)



第 6 章

Cisco IP Phone のアクセサリ

- [アクセサリ サポート, 99 ページ](#)
- [フットスタンドの接続, 100 ページ](#)
- [ケーブルロックによる電話機の固定, 101 ページ](#)
- [外部スピーカおよびマイクロフォン, 101 ページ](#)
- [ヘッドセット, 102 ページ](#)

アクセサリ サポート

次のリストは、Cisco IP Phone 8841、8851、8861 がサポートするアクセサリを示します。「X」は特定の電話モデルのサポートを示し、ダッシュ（—）はサポートされていないことを意味します。

表 12: Cisco IP Phone 8841、8851、8861 のアクセサリのサポート

アクセサリ	タイプ	Cisco IP Phone 8841	Cisco IP Phone 8851	Cisco IP Phone 8861
シスコ製アクセサリ				
Cisco IP Phone 8800 キー拡張モジュール	アドオンモジュール	-	X	X
サードパーティ製アクセサリ				

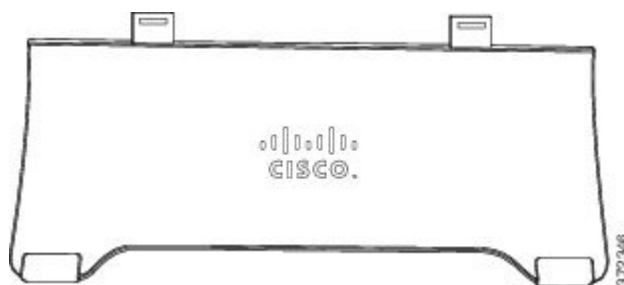
アクセサリ	タイプ	Cisco IP Phone 8841	Cisco IP Phone 8851	Cisco IP Phone 8861
ヘッドセット：ヘッドセット、(102ページ)を参照してください。この項では、各ヘッドセットタイプについて説明しています。	アナログ	X	X	X
	アナログ ワイドバンド	X	X	X
	Bluetooth	-	X	X
	USB (有線またはワイヤレス)	-	X	X
マイクロフォン：外部スピーカおよびマイクロフォン、(101ページ)を参照してください。	外部 PC	-	-	X
スピーカー：外部スピーカおよびマイクロフォン、(101ページ)を参照してください。	外部 PC	-	-	X

フットスタンドの接続

ユーザの電話機を卓上や机上に設置する場合、フットスタンドを電話機の背面に接続します。電話機には、調整可能なフットスタンドが含まれます。電話機を卓上の表面に設置する場合は、35～50度の間のいくつかの角度でチルトの高さを調整できます。



(注) 必要な角度にフットスタンドを調整する場合、思ったより大きな力が必要になる場合があります。



手順

-
- ステップ1** コネクタを所定のスロットに挿入します。
- ステップ2** コネクタが所定の位置に収まるまでフットスタンドを押し込みます。
-

ケーブルロックによる電話機の固定

ラップトップケーブルロックを使用して、電話機をデスクトップに固定できます。ロックを電話機の背面にある盗難防止用セキュリティコネクタに接続し、ケーブルをデスクトップに固定できます。

セキュリティスロットには最大20mmの幅のケーブルを挿入できます。互換性のあるラップトップケーブルロックとして Kensington 製のラップトップケーブルロックの他、電話機の背面にあるセキュリティスロットに適合するその他のメーカー製ラップトップケーブルロックがあります。

手順

-
- ステップ1** ケーブルロックのループの端を折り返し、電話機を固定したい物の周りに巻き付けます。
- ステップ2** ロックをケーブルのループの端まで通します。
- ステップ3** ケーブルロックのロックを解除します。
 (注) ケーブルロックには、鍵付き錠とダイヤル錠の2種類があります。使用しているロックの種類に従って、鍵または正しいダイヤルの組み合わせを使用してロックを解除します。
- ステップ4** ロックボタンを押したままにして、ロックの歯の位置を合わせます。
- ステップ5** ケーブルロックを電話機のロックスロットに挿入し、ロックボタンを放します。
- ステップ6** ケーブルロックをロックします。
 (注) 鍵付き錠の場合、鍵を時計回りに90度回転させて、ロックから鍵を抜きます。ダイヤル錠の場合、ロックを90度回して、ダイヤルの組み合わせを乱します。
-

外部スピーカおよびマイクロフォン

外部スピーカおよびマイクロフォンは、プラグアンドプレイ式のアクセサリです。Cisco IP Phone では、外部 PC タイプのマイクロフォン、および増幅器で電力が供給されるスピーカを、ラインイン/アウトのジャックを使用して接続できます。外部マイクロフォンを接続すると内部マイクロフォンが無効になり、外部スピーカを接続すると電話機の内部スピーカが無効になります。



(注) 低品質の外部オーディオデバイスを使用してラウドスピーカーを極端な大音量で再生したり、マイクロフォンをラウドスピーカーのごく近くに設置したりすると、スピーカーフォンの通話相手に不快なエコーが聞こえる場合があります。

ヘッドセット

シスコでは、Cisco IP Phone で使用するサードパーティ製ヘッドセットについて社内でテストを実施していますが、ヘッドセットや受話器のベンダーの製品については動作の保証やサポートは行っていません。

電話機を使用すると、ヘッドセットのマイクロフォンが検出するバックグラウンドノイズの一部が軽減されますが、さらにこのバックグラウンドノイズを削減して全体的なオーディオ品質を改善するには、ノイズを遮断するヘッドセットを使用することを推奨します。

シスコでは、不要な無線周波数 (RF) および可聴周波数 (AF) が遮蔽された高品質のヘッドセットなどの外部デバイスの使用を推奨しています。ヘッドセットの品質や、携帯電話および双方向ラジオなど他のデバイスとの間隔によっては、雑音やエコーが入ることもあります。可聴ハム雑音などのノイズは、相手方だけに聞こえる場合もあれば、Cisco IP Phone のユーザおよび相手方の両方に聞こえる場合もあります。ハム音やブザーのような雑音は、電灯、電気モーター、大型の PC モニタなど、さまざまな外部ソースが原因となり得ます。



(注) 場合によっては、ローカル電源キューブやパワーインジェクタを使用することにより、ハム雑音を軽減または除去できることがあります。

Cisco IP Phone を実際に展開する場合、環境やハードウェアにより不整合が発生することがあるので、すべての環境に対して最適な唯一のヘッドセットを見出すことは不可能です。

ヘッドセットを選定して環境で大規模に展開する前に、実際の環境での使用に最適かどうかをテストすることを推奨します。

関連トピック

[外部デバイス, \(18 ページ\)](#)

音質

物理的、機械的、および技術的な性能以上に、ヘッドセットの音質がユーザと通話相手の双方にとって良質である必要があります。音質の判断は主観によるので、シスコが特定のヘッドセットのパフォーマンスを保証することは不可能です。しかし、大手メーカーのさまざまなヘッドセットについて、Cisco IP Phone で良好に作動することが報告されています。

詳細については、http://www.cisco.com/en/US/partner/prod/voicesw/ucphone_headsets.html を参照してください。

アナログのヘッドセット

アナログのヘッドセットは、Cisco IP Phone 8841、8851、および 8861 でサポートされます。ただし、アナログのヘッドセットが接続されても、電話機は検出できません。このため、アナログのヘッドセットは、電話スクリーンの [アクセサリ (Accessories)] ウィンドウにデフォルトで表示されます。

デフォルトでアナログヘッドセットを表示すると、ユーザはアナログヘッドセットに対してワイドバンドを有効にすることができます。


アナログヘッドセットでのワイドバンドの有効化

電話機ではアナログヘッドセットがサポートされていますが、電話機はアナログヘッドセットが接続されても検出できません。このため、アナログのヘッドセットはデフォルトで、電話スクリーンの [アクセサリ (Accessories)] ウィンドウに表示されます。

デフォルトでアナログヘッドセットを表示すると、ユーザはアナログヘッドセットに対してワイドバンドを有効にすることができます。

電話機はヘッドセットでワイドバンドコーデックをサポートしているかどうかを検出できませんが、ユーザは次の手順でアナログのヘッドセットでワイドバンドを有効化できます。

手順

-
- ステップ 1 Cisco IP Phone で、アプリケーション  を押します。
 - ステップ 2 [アクセサリ (Accessories)] を選択します。
 - ステップ 3 アナログのヘッドセットを強調表示し、[セットアップ (Setup)] を押します。
 - ステップ 4 [オン/オフ (on/off)] トグルを使用して選択したヘッドセットのワイドバンドをオンまたはオフにします。
-

アナログヘッドセットでのワイドバンドコーデックの有効化

電話機ではアナログヘッドセットがサポートされていますが、電話機はアナログヘッドセットが接続されても検出できません。このため、アナログのヘッドセットはデフォルトで、電話スクリーンの [アクセサリ (Accessories)] ウィンドウに表示されます。

デフォルトでアナログヘッドセットを表示すると、ユーザはアナログヘッドセットに対してワイドバンドを有効にすることができます。

ワイドバンドの [オン/オフ (on/off)] トグルが使用できない場合は、次の手順に従ってユーザがアナログのヘッドセットでワイドバンドコーデックを有効にできることを確認してください。

手順

-
- ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。
 - ステップ 2 [電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウで、アナログのヘッドセットを追加する電話機の検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックします。
 - ステップ 3 目的の [デバイス名 (Device Name)] をクリックします。[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 4 [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] のレイアウト部分で、[ワイドバンドヘッドセット UI 設定 (Wideband Headset UI Control)] というオプションが有効になっていることを確認します。このオプションは、デフォルトで有効です。
 - ステップ 5 [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] レイアウト部分で、[ワイドバンドヘッドセット (Wideband Headset)] オプションを設定することもできます。（このオプションもデフォルトで有効です）。
-

有線ヘッドセット

有線ヘッドセットでは、音量ボタンやミュートボタンも含めて、Cisco IP Phone のすべての機能を使用できます。これらのボタンを使用して、ヘッドセットの音量を調整したり、ヘッドセットマイクからの音声相手が聞こえないようにしたりすることができます。

有線ヘッドセットへの接続

有線ヘッドセットを Cisco IP Phone に接続するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1 ヘッドセットを電話機の背面にあるヘッドセットポートに差し込みます。
 - ステップ 2 電話の発信または応答を行うには、電話機のヘッドセットボタンを押します。
-

有線ヘッドセットの無効化

ヘッドセットを無効にするには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用します。ヘッドセットを無効にすると、スピーカーフォンも無効になります。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページでヘッドセットを無効にするには、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択し、変更する電話機を見つけます。
- ステップ 2** [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウ ([プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] レイアウト部分) で、[スピーカフォンとヘッドセットの無効化 (Disable Speakerphone and Headset)] チェックボックスをオンにします。
-

USB ヘッドセット

有線およびワイヤレスの USB ヘッドセットがサポートされています。背面 USB ポート (ユーザーの電話機にこのポートがある場合) または側面 USB ポートに USB ヘッドセット (またはワイヤレスヘッドセットの場合はベースステーション) を接続できます

USB ヘッドセットの有効化

Cisco Unified Communications Manager の管理ページ (表示されるウィンドウの [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] のレイアウト部分) で、使用可能な USB ポート (背面 USB ポートのパラメータまたは側面 USB ポートのパラメータ) を有効にする必要があります。また、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、USB クラスを有効化/無効化するパラメータとして [オーディオクラス (Audio Class)] が選択されていることも確認します。

手順

-
- ステップ 1** 次のいずれかのウィンドウで USB ヘッドセットを有効にします。
- [電話の設定 (Phone Configuration)] ([デバイス (Device)] > [電話 (Phone)])。
 - [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)] ([システム (System)] > [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)])。
 - [共通の電話プロファイルの設定 (Common Phone Profile Configuration)] ([デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)])。
- ステップ 2** 設定ウィンドウで対応する [共通設定の上書き (Override Common Settings)] パラメータを確認します。
-

USB ヘッドセットの無効化

USB ヘッドセットを無効化するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで有効化した USB ポート (またはオーディオクラスのパラメータ) を無効化します。また、電話機の

[アクセサリ (Accessories)] ウィンドウから別のタイプのヘッドセットを選択することもできます。この選択により、直前に有効にしていたヘッドセットが無効になります。

手順

ステップ 1 次のいずれかのウィンドウで USB ヘッドセットを無効にします。

- [電話の設定 (Phone Configuration)] ([デバイス (Device)] > [電話 (Phone)]) 。
- [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)] ([システム (System)] > [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)]) 。
- [共通の電話プロファイルの設定 (Common Phone Profile Configuration)] ([デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)]) 。

ステップ 2 設定ウィンドウで対応する [共通設定の上書き (Override Common Settings)] パラメータを確認します。

ワイヤレス ヘッドセット

Cisco IP Phone では、ワイヤレス ヘッドセットを使用できます。

シスコの Web サイトではご使用の IP 電話機で動作するワイヤレス ヘッドセットについて説明しています。次の URL にアクセスします。

http://www.cisco.com/en/US/partner/prod/voicesw/ucphone_headsets.html

ヘッドセットの接続およびこの機能の使用については、ワイヤレス ヘッドセットのマニュアルを参照してください。

電子フックスイッチの有効化

電子フックスイッチ機能は、次のヘッドセット デバイスをサポートします。

- Jabra
 - PRO9400 および GO6400 シリーズ
 - PRO930
 - GN9300 シリーズ
 - GN9120
- Plantronics
 - Savi DECT 740、CS5xx DECT

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified Communications Manager Administration)]で [デバイス (Device)]>[電話 (Phone)]を選択します。
- ステップ 2** [ワイヤレス ヘッドセット フックスイッチ コントロール (Wireless Headset Hookswitch Control)]セクションにスクロールします。
- ステップ 3** [有効 (Enable)]または[無効 (Disable)]を選択します。
-

Bluetooth ワイヤレス ヘッドセット

Cisco IP Phone 8851 および 8861 は、次の Bluetooth ワイヤレス ヘッドセットをサポートしています。


- Jabra Motion
- Jabra Speak 510
- Jabra PRO 9470
- Jawbone ICON for Cisco
- Plantronics Voyager Pro+
- Plantronics Voyager PRO UC v2

Bluetooth では、30 フィート (10 m) 以内の範囲の低帯域幅でワイヤレス接続を行えます。最大のパフォーマンスが得られるのは、1 ~ 2 m (3 ~ 6 フィート) の範囲内です。Bluetooth ワイヤレステクノロジーは、2.4 GHz 帯域で動作します。これは 802.11b/g 帯域と同じです。これは干渉が発生する可能性があります。シスコでは次を推奨しています。

- 5 GHz 帯域で動作する 802.11a、802.11n または 802.11ac を使用します。
- 他の 802.11b/g デバイス、Bluetooth デバイス、電子レンジ、大型の金属製品との間隔をあけます。

Cisco IP Phone は、共有キーによる認証と暗号化方式を利用してヘッドセットと接続します。Cisco IP Phone は最大 50 のヘッドセットをひとつずつ接続できます。最後に接続されたヘッドセットがデフォルトとして使用されます。通常、ペアリングはヘッドセットごとに 1 回実行されます。

デバイスがペア化された後、両方のデバイス (電話機とヘッドセット) が有効化済みで、相互の有効範囲内にある限り、その Bluetooth 接続が維持されます。この接続は通常、一方のデバイスの電源が切断された後、再び電源が投入されると、自動的に接続を再確立します。ただし、一部のヘッドセットでは、ユーザによる接続の再確立が必要です。

Bluetooth アイコン  は、デバイスが接続されているかどうかに関係なく、Bluetooth がオンかどうかを示します。

干渉が発生する可能性が考えられます。シスコでは、他の 802.11b/g デバイス、Bluetooth デバイス、電子レンジ、大型の金属製の物体を近くに置かないように推奨しています。可能であれば、他の 802.11 デバイスで 802.11a チャンネルを使用するように設定してください。

Bluetooth ワイヤレスヘッドセットが動作するために、ヘッドセットが電話機の直接の見通し線内にある必要はありませんが、壁やドアなどの障害物、および他の電子デバイスからの干渉が接続に影響を及ぼすことがあります。

ヘッドセットが Cisco IP Phone から 30 フィート (10 m) を超えて離れていると、Bluetooth の接続は 15 ~ 20 秒間のタイムアウト後にドロップされます。ペア化されたヘッドセットが Cisco IP Phone の範囲内に戻ってきたときに、当該電話機が別の Bluetooth ヘッドセットに接続されていなければ、範囲内にある Bluetooth ヘッドセットと自動的に再接続します。電力節約モードで動作する一部のタイプの電話機では、再接続を開始するために、ユーザがオペレーション ボタンを押してヘッドセットを「ウェイクアップ」させることができます。

ヘッドセットを有効にしてから、電話アクセサリとして追加します。

電話機はさまざまなハンズフリープロファイル機能をサポートしており、電話機を操作しなくてもハンズフリーデバイス (Bluetooth ワイヤレスヘッドセットなど) を使用して特定のタスクを実行できます。たとえば、電話機で [リダイヤル (Redial)] を押す代わりに、Bluetooth ワイヤレスヘッドセットからそのメーカーの手順に従って電話番号をリダイヤルできます。

次の各ハンズフリー機能は、Cisco IP Phone 8851 および 8861 で使用する Bluetooth ワイヤレスヘッドセットに適用されます。

- コールへの応答
- コールの終了
- ヘッドセットのコールの音量を変更する
- リダイヤル
- 発信者 ID
- 即転送
- 保留して許可
- リリースして許可

各種ハンズフリーデバイスは、それぞれ機能のアクティブ化方法が異なります。デバイスのメーカーが、同じ機能を指すときに異なる用語を使用している可能性もあります。

**重要**

常に1つのヘッドセットタイプしか機能しないため、Bluetooth ヘッドセットとアナログ ヘッドセットの両方を使用しており、アナログ ヘッドセットを電話機に接続している場合は、Bluetooth ヘッドセットを有効にするとアナログ ヘッドセットが無効になります。アナログ ヘッドセットを有効にする場合は、Bluetooth ヘッドセットを無効にします。Bluetooth ヘッドセットが有効になっている電話機に USB ヘッドセットを接続すると、Bluetooth とアナログの両方のヘッドセットが無効になります。USB ヘッドセットの接続を外した場合は、Bluetooth ヘッドセットの有効化またはアナログ ヘッドセットを使用するための Bluetooth ヘッドセットの無効化のいずれかができるようになります。

Bluetooth ワイヤレス ヘッドセットの使用方法については、次の資料を参照してください。

- 『Cisco IP Phone 8841, 8851, and 8861 User Guide for Cisco Unified Communications Manager』
- ヘッドセットに付属するユーザ ガイド

Bluetooth ワイヤレス ヘッドセットの有効化

ユーザが Bluetooth ワイヤレス ヘッドセットを使用する前にイネーブルにする必要があります。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。
- ステップ 2** 変更する電話機を特定し、その電話機の [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウに進みます。
- ステップ 3** [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで、Bluetooth の設定に [有効 (Enable)] を選択し、[Bluetooth のプロファイル (Bluetooth Profiles)] の設定に [ハンズフリー (Handsfree)] を選択します。
- ステップ 4** 変更を保存します。



第 7 章

Cisco IP Phone キー拡張モジュール

- [Cisco IP Phone キー拡張モジュールセットアップの概要](#), 111 ページ
- [KEM 電源情報](#), 112 ページ
- [Cisco IP Phone への 1 台の KEM の接続](#), 112 ページ
- [Cisco IP Phone への 2 ~ 3 台の KEM の接続](#), 116 ページ
- [キー拡張モジュールの Cisco Unified CM の管理でのセットアップ](#), 120 ページ
- [キー拡張モジュールセットアップへのアクセス](#), 123 ページ
- [キー拡張モジュールのリセット](#), 124 ページ
- [キー拡張モジュールのトラブルシューティング](#), 124 ページ

Cisco IP Phone キー拡張モジュール セットアップの概要

Cisco IP Phone 8800 キー拡張モジュール (KEM) を Cisco IP Phone 8851 および 8861 に接続し、ラインアピランス、スピードダイヤル、またはプログラム可能ボタンを電話機に追加します。プログラム可能ボタンは、電話回線ボタン、スピードダイヤルボタンまたは電話機能ボタンとして設定できます。



次の表に、電話機のモデルと、各モデルでサポートされるキー拡張モジュールの数を示します。

表 13 : Cisco IP Phone とサポートされる KEM の数

Cisco IP Phone モデル	サポートされる KEM の数
Cisco IP Phone 8861	KEM 3 台 (108 の回線またはボタン)
Cisco IP Phone 8851	KEM 2 台 (72 の回線またはボタン)



(注) Cisco IP Phone 8841 は Cisco IP Phone 8800 キー拡張モジュールをサポートしません。

KEM 電源情報

Cisco IP Phone 8800 キー拡張モジュールには、次の電力消費量と電源要件があります。

消費電力

KEM 1 台あたり 48V DC、5W

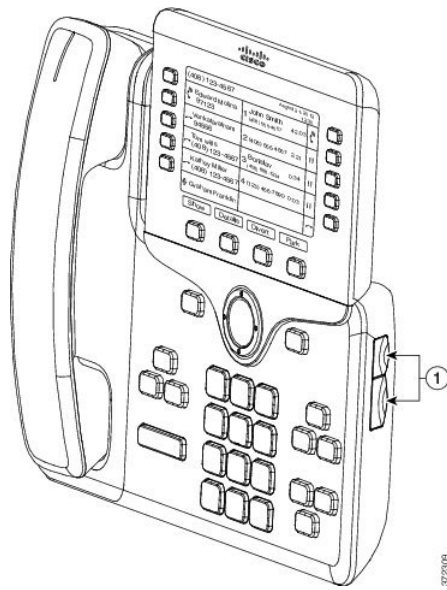
電源要件

電話機が直接 KEM に電源を供給する。追加電源の要求はありません。

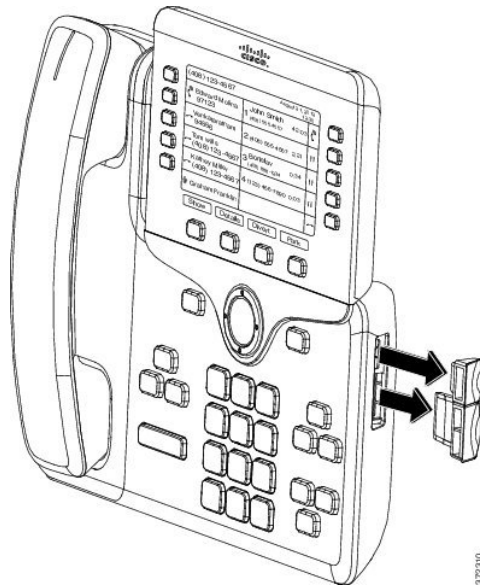
Cisco IP Phone への 1 台の KEM の接続

手順

- ステップ 1 電話機からイーサネットケーブルを抜き取ります。
- ステップ 2 装着されている場合、電話機からフットスタンドを取り外します。
- ステップ 3 電話機側面のアクセサリ コネクタ カバーを探します。
次の図は、アクセサリ コネクタ カバーの位置を示します。



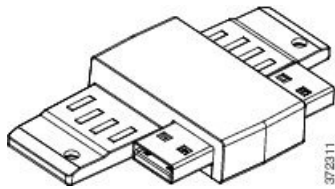
- ステップ 4** 2つのアクセサリ コネクタ カバーを取り外します。
次の図は、アクセサリ コネクタ カバーの取り外しを示します。



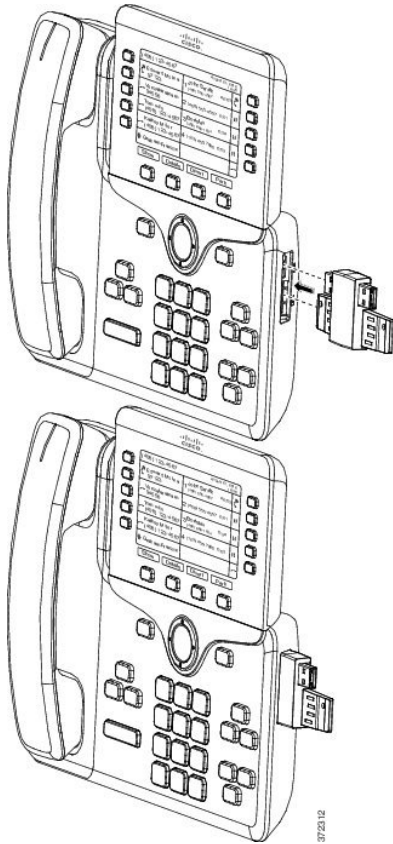
注目 スロットはスパイン コネクタ専用設計されています。他の物体を挿入すると、修理が必要な損傷が電話機に発生します。

- ステップ 5** 電話機の正面を上に向けます。

- ステップ 6** KEM スパイン コネクタの一端を Cisco IP Phone のアクセサリ コネクタに差し込みます。
- a) アクセサリ コネクタ ポートとスパイン コネクタの位置を合わせます。
 - b) 電話機へスパイン コネクタをしっかりと押し込みます。
- 次の図は、スパイン コネクタを示します。

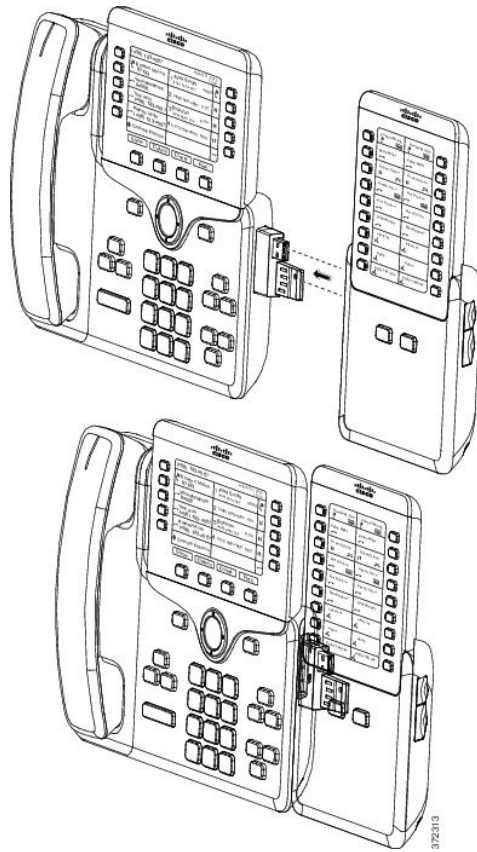


次の図は、スパイン コネクタの取り付けを示します。

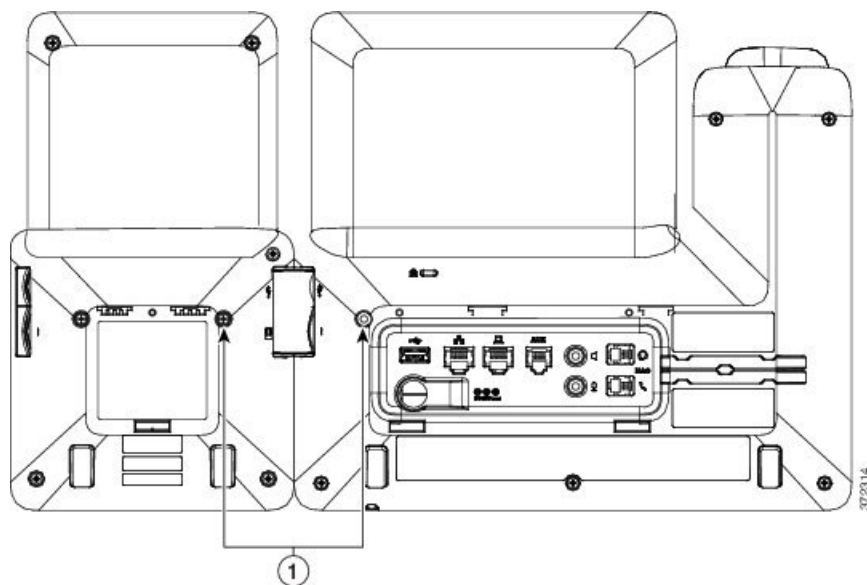


ステップ 7 次の図に示すように、スパイン コネクタのもう一方の端を KEM に接続します。

- a) KEM アクセサリ コネクタ ポートとスパイン コネクタの位置を合わせます。
- b) KEM をスパイン コネクタにしっかり押し込みます。



- ステップ 8** ドライバを使用して電話機にネジを固定します。
この手順によって、電話機と KEM が確実に常時接続されるようにします。次の図は、電話機と KEM のネジ穴の位置を示します。



- (注) ネジが電話機にしっかり挿入され、締め付けられていることを確認します。

ステップ 9 (任意) フットスタンドを電話機と KEM に装着し、作業場所に平らに置けるよう両方のフットスタンドを調節します。

ステップ 10 電話機にイーサネット ケーブルを挿入します。

Cisco IP Phone への 2 ～ 3 台の KEM の接続

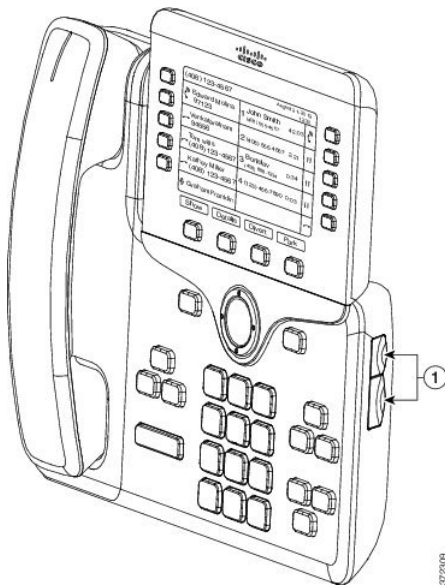
手順

ステップ 1 電話機からイーサネット ケーブルを抜き取ります。

ステップ 2 装着されている場合、電話機からフットスタンドを取り外します。

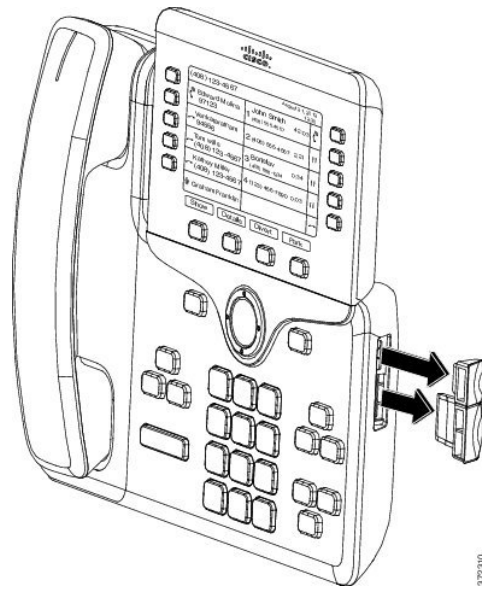
ステップ 3 電話機側面のアクセサリ コネクタ カバーを探します。

次の図は、アクセサリ コネクタ カバーの位置を示します。



ステップ 4 2つのアクセサリ コネクタ カバーを取り外します。

次の図は、アクセサリ コネクタ カバーの取り外しを示します。



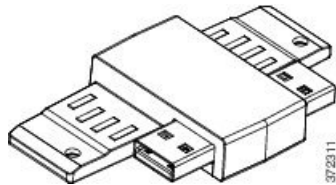
注目 スロットはスパイン コネクタ専用設計されています。他の物体を挿入すると、修理が必要な損傷が電話機に発生します。

ステップ 5 電話機の正面を上に向けます。

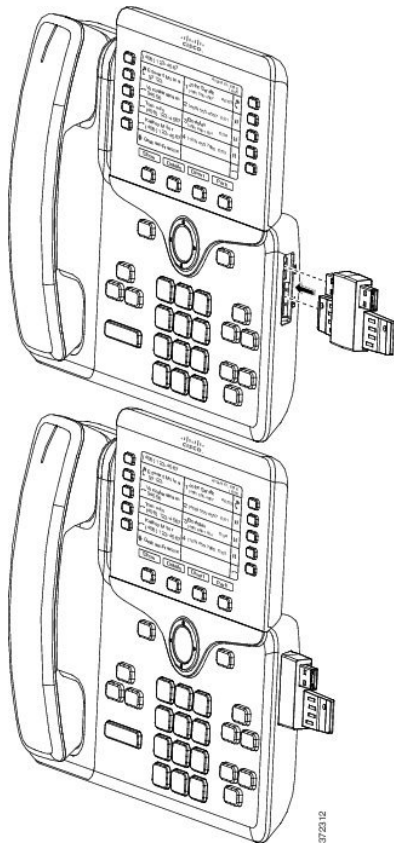
ステップ 6 KEM スパイン コネクタの一端を Cisco IP Phone のアクセサリ コネクタに差し込みます。

- a) アクセサリ コネクタ ポートとスパイン コネクタの位置を合わせます。
- b) 電話機へスパイン コネクタをしっかり押し込みます。

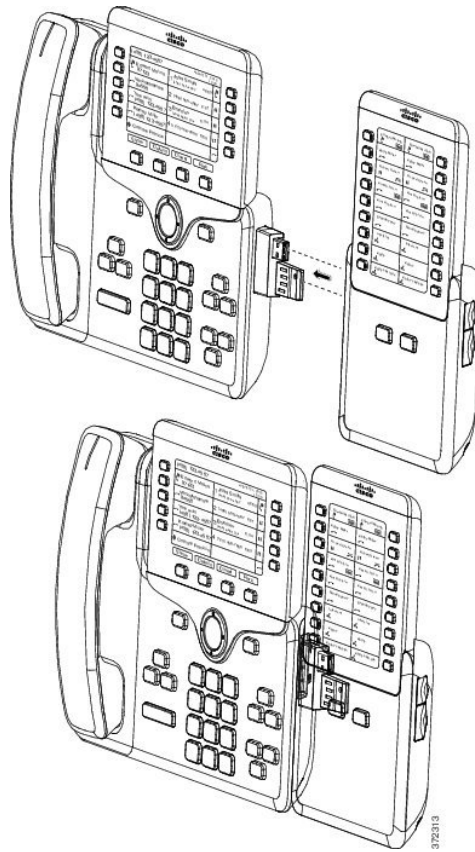
次の図は、スパイン コネクタを示します。



次の図は、スパイン コネクタの取り付けを示します。



- ステップ 7** 次の図に示すように、スパイン コネクタのもう一方の端を KEM に接続します。
- a) KEM アクセサリ コネクタ ポートとスパイン コネクタの位置を合わせます。
 - b) KEM をスパイン コネクタにしっかり押し込みます。



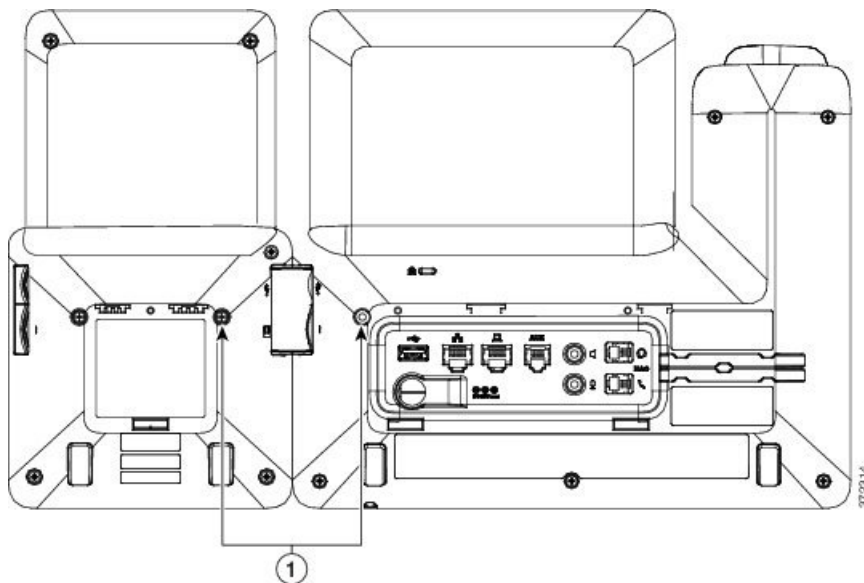
1 台目の KEM が Cisco IP Phone に接続されました。

ステップ 8 別の KEM スパイン コネクタを使用して、2 台目の KEM を 1 台目の KEM に接続します。

ステップ 9 3 つ目の KEM スパイン コネクタを使用して、3 台目の KEM を 2 台目（中間）の KEM に接続します。次の図は、3 台の KEM を接続した Cisco IP Phone です。



ステップ 10 ドライバを使用して電話機および各 KEM にネジを固定します。この手順によって、電話機と KEM が確実に常時接続されるようにします。次の図は、ネジ穴の位置を示します。



(注) ネジが電話機にしっかり挿入され、締め付けられていることを確認します。

ステップ 11 (任意) フットスタンドを電話機と KEM に装着し、作業場所に平らに置けるようすべてのフットスタンドを調節します。

ステップ 12 電話機にイーサネット ケーブルを挿入します。

キー拡張モジュールの Cisco Unified CM の管理でのセットアップ

キー拡張モジュールセットアップの間に、KEM を 1 列モードまたは 2 列モードで表示するよう設定できます。

1 列モード

1 列モードでは、画面の各行が 1 本の回線に対応し、この回線には左側のボタンと右側のボタンのいずれかでアクセスできます。この設定では、キー拡張モジュールは 1 ページ目に 9 回線、2 ページ目に 9 回線を表示します。次の図は、1 列モードを示します。



2 列モード

2列モードでは、画面の左側のボタンと右側のボタンとが、それぞれ異なる回線に割り当てられます。この設定では、キー拡張モジュールは1ページ目に18回線、2ページ目に18回線を表示します。次の図は、2列モードを示します。



(注) 1列モードおよび2列モードの両方で、ラベルが表示スペースより長い場合、テキスト省略記号 (...) が含まれます。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager Administration で、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。
[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウが表示されます。Cisco IP Phone 8800 キー拡張モジュールを設定する1つ以上の電話機を検索できます。
- ステップ 2 検索条件を選択するか入力して、[検索 (Find)] をクリックします
[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウに、検索基準を満たす電話機の一覧が表示されます。
- ステップ 3 Cisco IP Phone 8800 キー拡張モジュールを設定する電話機をクリックします。[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4 [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの右側にあるペインで [拡張モジュール情報 (Expansion Module Information)] セクションまでスクロールダウンし、[モジュール 1 (Module

1)]、[モジュール2 (Module2)]、[モジュール3 (Module3)]の順にこれらのフィールドで適切な拡張モジュールを選択します（または[なし (none)]）。

電話機のモデルごとにサポートされる KEM 台数については、[Cisco IP Phone キー拡張モジュールセットアップの概要](#)、(111 ページ) を参照してください。

- ステップ 5** 電話機に接続されている KEM を最大限に活用できるように設定された電話ボタン テンプレート ([電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [デバイス情報 (Device Information)]) を選択してください。
- ステップ 6** 要件に応じて、1 列モードの場合は [KEM を 1 列表示 (One Column Display for KEM)] フィールドを有効にし、2 列モードの場合は無効にします。
- ステップ 7** [保存 (Save)] をクリックします。

キー拡張モジュールセットアップへのアクセス

電話機に 1 台以上の KEM を取り付けて、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定すると、KEM は電話機によって自動的に認識されます。


複数の KEM が取り付けられている場合は、電話機に接続された順に番号が付きます。

- キー拡張モジュール 1 は電話機に一番近い KEM です。
- キー拡張モジュール 2 は中央の KEM です。
- キー拡張モジュール 3 は一番右側の KEM です。

KEM を選択してから、次のいずれかのソフトキーを選択します。

- [終了 (Exit)] : [アプリケーション (Applications)] メニューに戻ります。
- [詳細 (Details)] : 選択された KEM の詳細を提供します。
- [セットアップ (Setup)] : 選択した KEM の明るさを設定できます。明るさの設定は、電話機の [設定 (Preferences)] メニューでも実行できます。詳細については、『*Cisco IP Phone 8841, 8851, and 8861 User Guide for Cisco Unified Communications Manager (SIP)*』を参照してください。

手順

- ステップ 1** 電話機でアプリケーション  を押します。
- ステップ 2** [アクセサリ (Accessories)] を押します。
適切に取り付けられ、設定された KEM はすべて、アクセサリのリストに表示されます。

キー拡張モジュールのリセット

この手順では、拡張モジュールを工場出荷時の状態にリセットする方法を説明します。

手順

-
- ステップ 1 KEM に電源を入れ、[ページ 1 (Page 1)] を押し、キーを押したままにします。LCD が白に変わってから少なくとも 1 秒間、ページ 1 を押し続けます。
 - ステップ 2 ページ 1 を離すと、LED が赤くなります。すぐに [ページ 2 (Page 2)] を押し、少なくとも 1 秒間は [ページ 2 (Page 2)] を押し続けます。
 - ステップ 3 ページ 2 を離すと、すべての LED がオレンジになります。
 - ステップ 4 回線 5、14、1、18、10、9 の順に押します。
LCD が青に変わり、スピニング ローダのアイコンが中央に表示されます。
KEM がリセットされます。
-

キー拡張モジュールのトラブルシューティング

キー拡張モジュール (KEM) のトラブルシューティング情報を取得するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1 CLI を開きます。
 - ステップ 2 次のコマンドを入力してデバッグ モードを開始します。
`debugsh`
 - ステップ 3 ? を入力します。使用可能なすべてのコマンドとオプションが表示されます。
 - ステップ 4 適切なコマンドとオプションを使用して、必要な KEM 情報を検索します。
 - ステップ 5 デバッグ モードを終了するには、Ctrl キーを押した状態で C キーを押します。
-



第 8 章

壁面取り付け

- [壁面取り付けオプション, 125 ページ](#)
- [電話機のロック非対応壁面取り付けコンポーネント, 125 ページ](#)
- [キー拡張モジュール付き電話用ロック非対応壁面取り付けコンポーネント, 132 ページ](#)
- [ハンドセットレストの調整, 139 ページ](#)

壁面取り付けオプション

Cisco IP Phone 壁面取り付けキットに含まれている特殊な金具を使用して、電話機を壁面に取り付けることができます。壁面取り付けキットは、電話機とは別にご注文ください。

次の壁面取り付けオプションを入手できます。

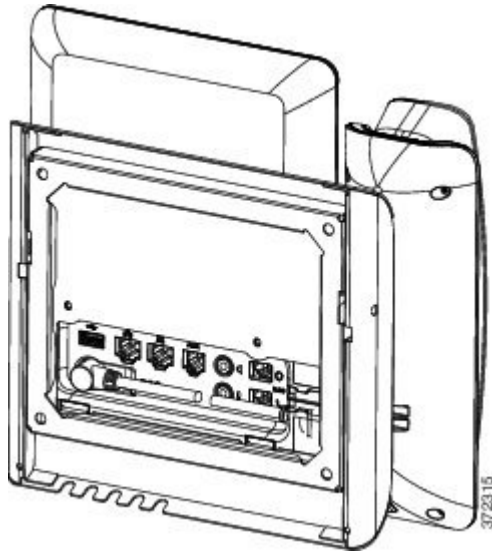
- Cisco IP Phone 8800 シリーズ壁面取り付けキット : Cisco IP Phone 8841、8851、および 8861 用ロック非対応壁面取り付けキット。
- Cisco IP Phone 8800 シリーズ壁面取り付けキットと 1 台の KEM : Cisco IP Phone 8800 キー拡張モジュールが接続された Cisco IP Phone 8841、8851、および 8861 に装着されるロック非対応壁面取り付けキット。

電話機のロック非対応壁面取り付けコンポーネント

ここでは、Cisco IP Phone 8800 シリーズ壁面取り付けキットの取り付け方法について説明します。

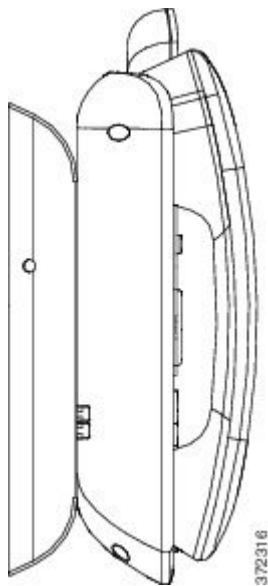
次の図は、電話機に設置されている壁面取り付けキットを示します。

図 1：電話機に装着した壁面取り付けキットの背面



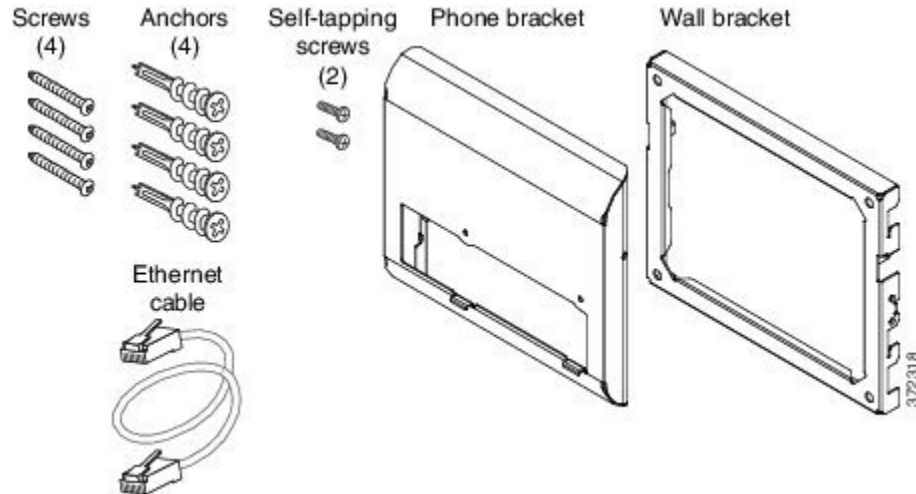
次の図は、壁面取り付けキットが設置された電話機の側面を示します。

図 2：電話機に装着した壁面取り付けキットの側面



次の図は、Cisco IP Phone 8800 シリーズ壁面取り付けキットのコンポーネントを示しています。

図 3: コンポーネント



同梱物は、次のとおりです。

- 電話機用ブラケット x 1 個
- 壁面用ブラケット x 1 個
- #8-18 x 1.25 インチのプラス ネジ x 4 個、アンカー x 4 個
- K30 x 8 mm のセルフタッピング ネジ x 2 本
- 6 インチのイーサネット ケーブル X 1 本

電話へのロック非対応壁面取り付けキットの取り付け

壁面取り付けキットはコンクリート、れんが、または同様の硬い表面を含むほとんどの表面に配置できます。コンクリート、れんが、または同様の硬い表面にキットを取り付けるには、壁の表面に合ったネジとアンカーを用意する必要があります。

はじめる前に

ブラケットの取り付けには、次の工具が必要です。

- #1 と #2 のプラス ドライバー
- 水準器
- 鉛筆

現在、目的の位置に電話用のイーサネットジャックが存在しない場合は、イーサネットジャックも設置します。このジャックには、イーサネット接続のために適切に配線されている必要があります。通常の電話ジャックは使用できません。

手順

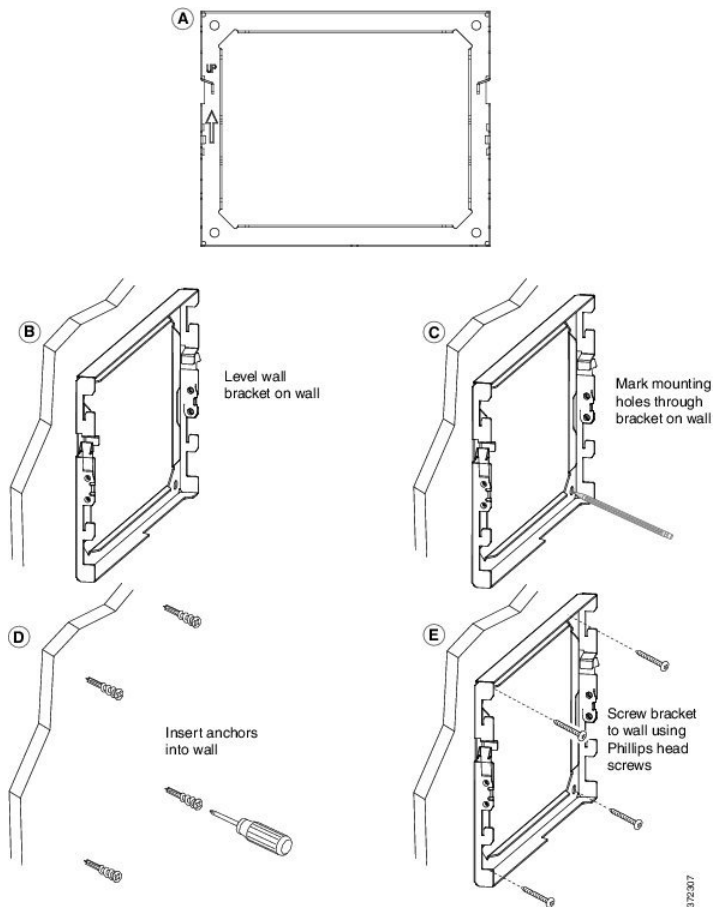
ステップ 1 取り付け位置に、壁面用ブラケットを取り付けます。ブラケットをイーサネットジャックにかぶせて取り付けることも、近くのジャックまでイーサネットネットワークケーブルを配線することもできます。

(注) ジャックを電話機の背面に配置する場合は、イーサネット ジャックを壁にぴったり付けるか、埋め込む必要があります。

- a) ブラケットの背面の矢印が上向きになるように、ブラケットを壁に設置します。
- b) 水準器を使用してブラケットが水平であることを確認した後、鉛筆でネジ穴の位置に印を付けます。
- c) #2 のプラス ドライバーを使用して、鉛筆で付けた印にアンカーの中心を慎重に合わせ、アンカーを壁面に押し込みます。
- d) アンカーを時計回りの方向に回し、壁面と平らになるまで押し込みます。
- e) 付属のネジと #2 のプラス ドライバーを使用して、ブラケットを壁面に装着します。

次の図は、ブラケットの取り付け手順を示します。

図 4: ブラケットの取り付け

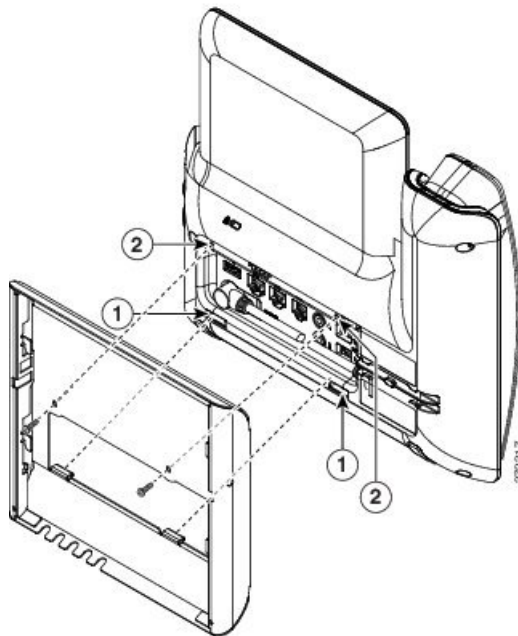


ステップ 2 IP Phone に電話機用ブラケットを装着します。

- a) 電話本体から、ハンドセットのコード（ヘッドセットがある場合はヘッドセットコード）以外、電源コードと他のすべてのコードを抜きます。
- b) ブラケットのタブを電話機背面の取り付け用タブに挿入して、電話機用ブラケットを装着します。ブラケットの穴から、電話機のポートにアクセスできることを確認してください。
- c) 1 番のプラスドライバを使用し、電話機用ブラケットをセルフタッピングネジで IP Phone に固定します。
- d) コードを元通りに装着し、電話本体に付いているクリップで固定します。

次の図に、ブラケットを電話機に装着する方法を示します。

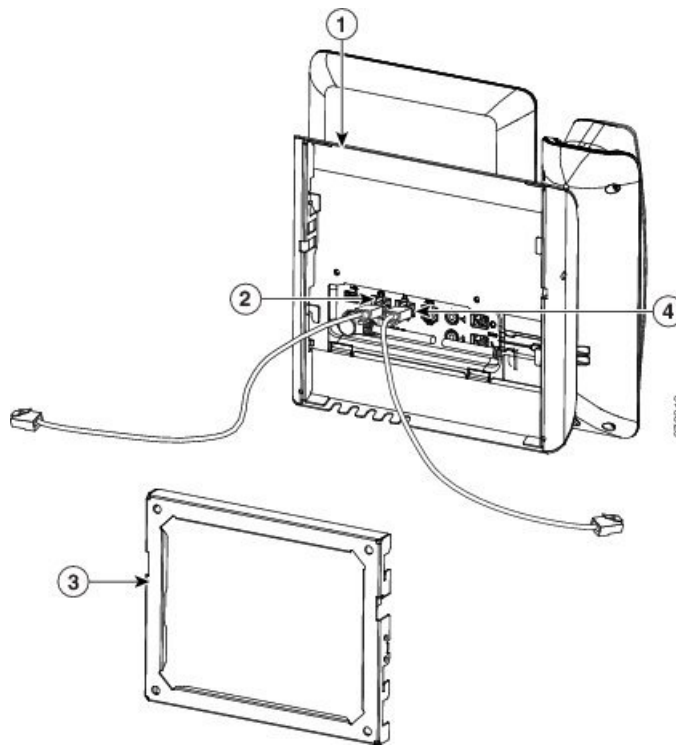
図 5: 電話機用ブラケットの装着

**ステップ 3** ケーブルを電話機に接続します。

- a) イーサネットケーブルを 10/100/1000 SW ネットワークポートと壁面のジャックに接続します。
- b) (任意) 電話機にネットワークデバイス（コンピュータなど）を接続する場合、ケーブルを 10/100/1000 コンピュータ（PC アクセス）ポートに装着します。
- c) (任意) 外部電源を使用する場合、電源コードを電話機に差し込み、電話本体の PC ポートの横に付いているクリップで、コードをはさんで固定します。
- d) (任意) ケーブルの終端が壁面ブラケットの中にある場合は、ケーブルをジャックに接続します。

次の図は、ケーブルを示します。

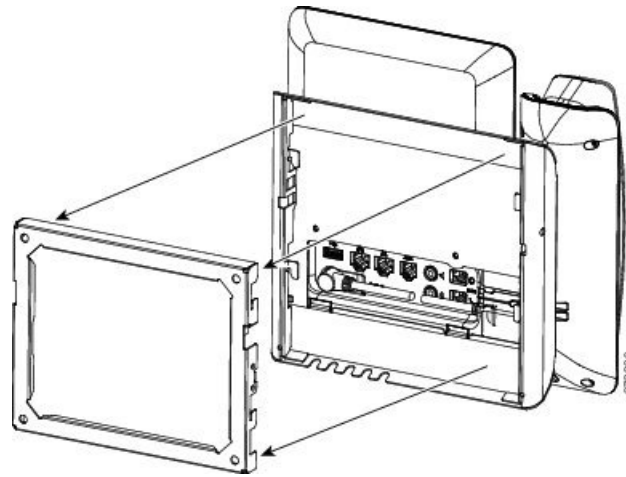
図 6: ケーブルの接続



- ステップ 4** 壁面ブラケットの上部にあるタブを電話機ブラケットのスロットに挿入して、電話機をブラケットに装着します。
- ケーブルの終端がブラケットの外に出る場合は、ブラケット下部のケーブル差し込み口を使用して、ブラケット背面の壁に終端がない電源コードやその他のケーブルを配置します。電話機用ブラケットと壁面用ブラケットの開口部によって、複数の円形の開口部ができ、1つの開口部に1本のケーブルを通すことができるようになっています。

次の図は、壁面用ブラケットへの電話機の設置方法を示します。

図 7: 壁面用ブラケットへの電話の設置



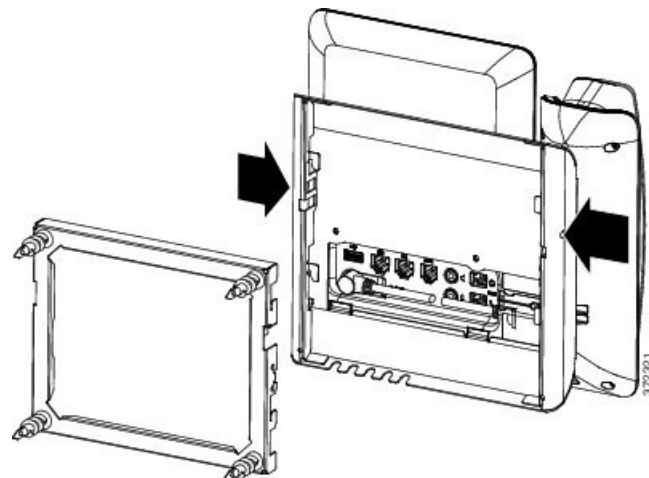
ステップ 5 電話機を壁面ブラケットにしっかりと押し付け、下にスライドします。カチッという音がしてブラケットのタブが位置に収まります。

ステップ 6 [ハンドセットレストの調整](#)、(139 ページ) に進みます。

ロック非対応壁面取り付けからの電話機の取り外し

電話機のマウントプレートには、壁面用ブラケットにプレートをロックするための 2 個のタブが付いています。次の図は、タブの位置と形状を示します。

図 8: タブの位置



壁面用ブラケットから電話とマウントプレートを取り外すには、これらのタブを外す必要があります。

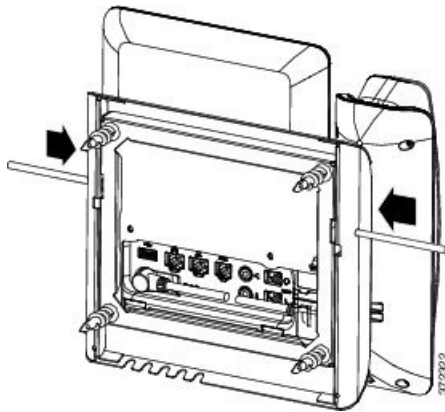
はじめる前に

金属棒 2 本が必要です。

手順

- ステップ 1 電話マウントプレートにある左右の穴に棒を 0.25 インチ (0.5 cm) ほど差し込みます。
- ステップ 2 内側にしっかりと押して (電話に向けて) タブを解除し、電話機を持ち上げて壁面用ブラケットから電話を取り外し、自分の方に電話を引き寄せます。

図 9: タブの解除

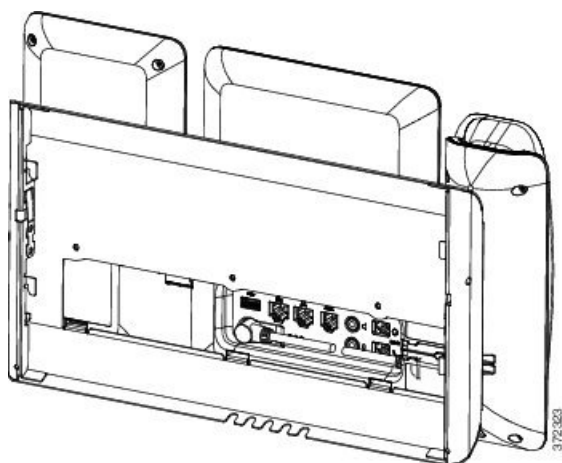


- ステップ 3 タブをしっかりと押し込んで外すと同時に電話機を持ち上げ、壁面用ブラケットから電話機を取り外します。

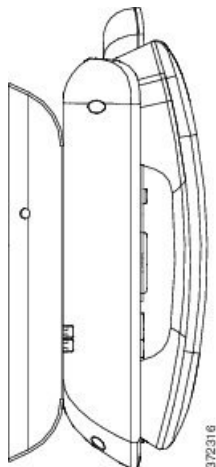
キー拡張モジュール付き電話用ロック非対応壁面取り付けコンポーネント

ここでは、電話機がキー拡張モジュールと接続された場合に、電話機へ Cisco IP Phone 8800 シリーズ壁面取り付けキットと 1 台の KEM を取り付けする方法について説明します。

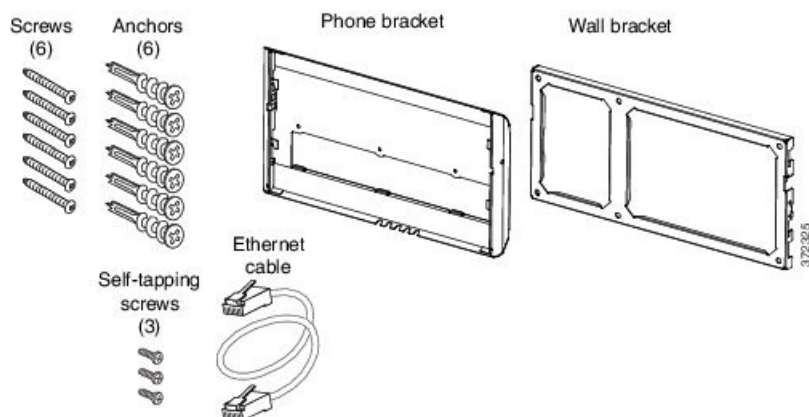
次の図は、電話機に設置されている壁面取り付けキットを示します。



次の図は、壁面取り付けキットが設置された電話機の側面を示します。



次の図は、Cisco IP Phone 8800 シリーズ壁面取り付けキットと 1 台の KEM のコンポーネントを示しています。



同梱物は、次のとおりです。

- 電話機用ブラケット x 1 個
- 壁面用ブラケット x 1 個

- #8-18 x 1.25 インチのプラス ネジ x 6 個、アンカー x 6 個
- K30 x 8 mm のセルフタッピング ネジ x 3 本
- 6 インチのイーサネット ケーブル X 1 本

キー拡張モジュール付き電話用ロック非対応壁面取り付けキットの装着

壁面取り付けキットはコンクリート、れんが、または同様の硬い表面を含むほとんどの表面に配置できます。コンクリート、れんが、または同様の硬い表面にキットを取り付けるには、壁の表面に合ったネジとアンカーを用意する必要があります。

はじめる前に

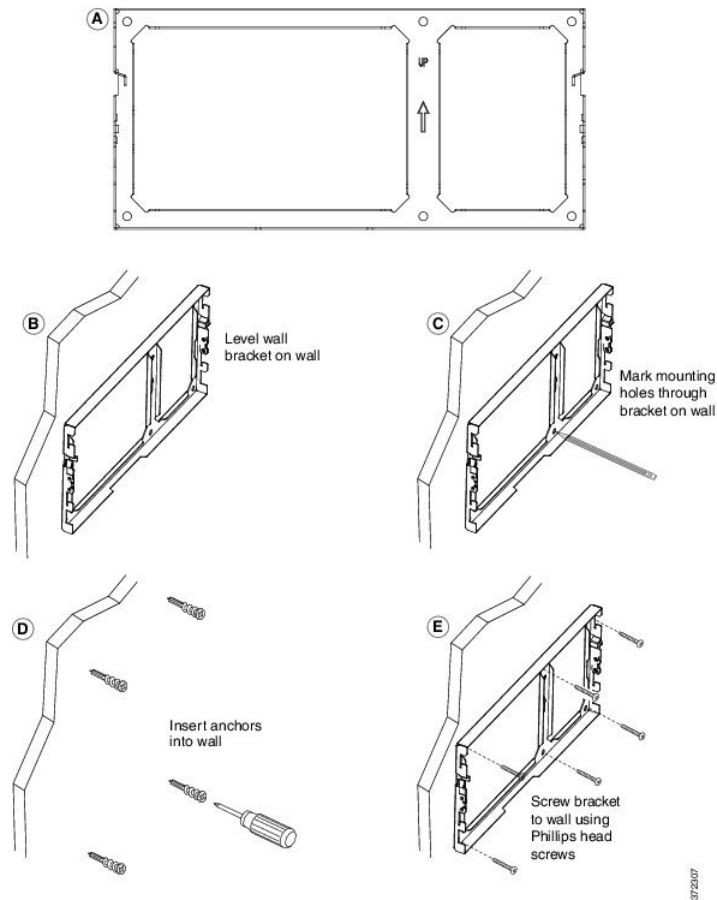
ブラケットの取り付けには、次の工具が必要です。

- #1 と #2 のプラス ドライバー
- 水準器
- 鉛筆

現在、目的の位置に電話用のイーサネットジャックが存在しない場合は、イーサネットジャックも設置します。このジャックには、イーサネット接続のために適切に配線されている必要があります。通常の電話ジャックは使用できません。

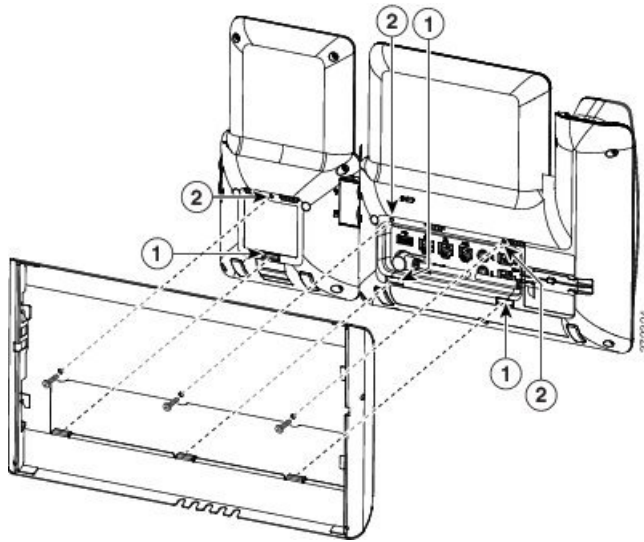
手順

- ステップ 1** 取り付け位置に、壁面用ブラケットを取り付けます。ブラケットをイーサネットジャックにかぶせて取り付けることも、近くのジャックまでイーサネットネットワークケーブルを配線することもできます。
- (注) ジャックを電話機の背面に配置する場合は、イーサネット ジャックを壁にぴったり付けるか、埋め込む必要があります。
- a) 壁面用ブラケットを壁面に合わせます。壁面用ブラケットの向きについては、次の図を参照してください。
 - b) 水準器を使用してブラケットが水平であることを確認した後、鉛筆でネジ穴の位置に印を付けます。
 - c) #2 のプラス ドライバーを使用して、鉛筆で付けた印にアンカーの中心を慎重に合わせ、アンカーを壁面に押し込みます。
 - d) アンカーを時計回りの方向に回し、壁面と平らになるまで押し込みます。
 - e) 付属のネジと #2 のプラス ドライバーを使用して、ブラケットを壁面に装着します。



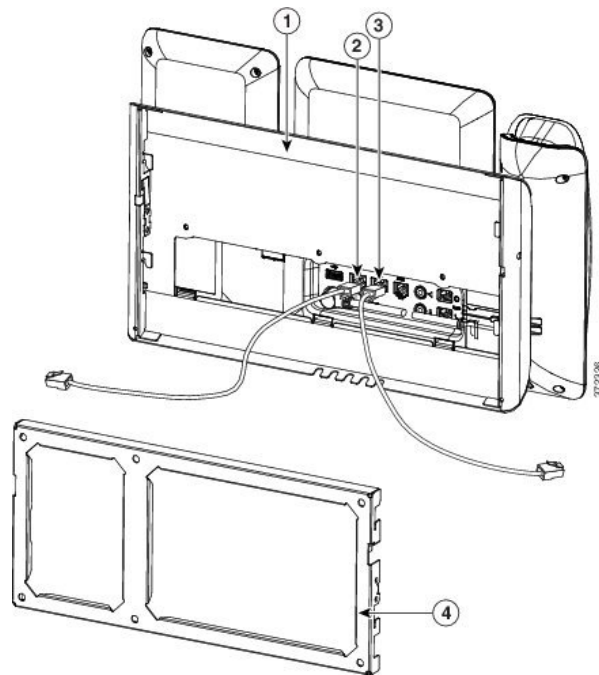
ステップ2 電話機用ブラケットを IP Phone とキー拡張アセンブリに取り付けます。

- 電話本体からハンドセットのコード（およびヘッドセットがある場合は、ヘッドセットのコード）、電源コード、その他のすべてのコードを取り外します。
- ブラケットのタブを電話機背面の取り付け用タブに挿入して、電話機用ブラケットを装着します。ブラケットの穴から、電話機のポートにアクセスできることを確認してください。
- 1 番のプラス ドライバを使用し、電話機用ブラケットをセルフタッピング ネジで IP Phone に固定します。
- ハンドセットのコード（および使用する場合は、ヘッドセットのコード）をブラケットの穴に通します。コードを元通りに装着し、電話本体に付いているクリップで固定します。ヘッドセット コネクタとハンドセット コネクタは、壁面マウント ブラケットの外側からアクセスできる必要があります。

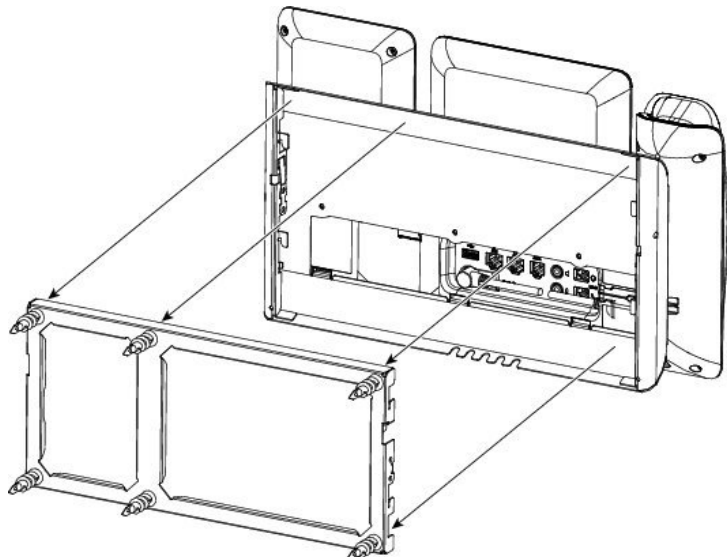


ステップ 3 ケーブルを接続します。

- a) イーサネット ケーブルを 10/100/1000 SW ネットワーク ポートと壁面のジャックに接続します。
- b) (任意) 電話機にネットワーク デバイス (コンピュータなど) を接続する場合、ケーブルを 10/100/1000 コンピュータ (PC アクセス) ポートに装着します。
- c) (任意) 外部電源を使用する場合、電源コードを電話機に差し込み、電話本体の PC ポートの横に付いているクリップで、コードをはさんで固定します。
- d) (任意) ケーブルの終端が壁面ブラケットの中にある場合は、ケーブルをジャックに接続します。



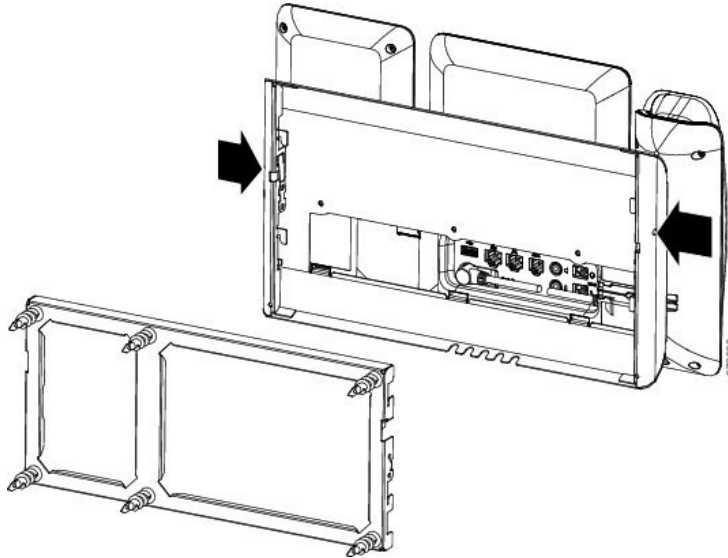
- ステップ 4** 電話機用ブラケットの上部にあるタブを壁面ブラケットのスロットに挿入して、電話機を壁面ブラケットに装着します。
 ケーブルをブラケット外で終端する場合は、ブラケット下部のケーブル差し込み口を使用して電源コードやブラケットの後ろの壁で終端しない他のケーブルを配置します。電話機用ブラケットと壁面用ブラケットの開口部によって、複数の円形の開口部ができ、1つの開口部に1本のケーブルを通すことができるようになっています。



- ステップ 5** ハンドセットレストの調整、(139 ページ)に進みます。

ロック非対応壁面取り付けからの電話機とキー拡張モジュールの取り外し

電話機のマウントプレートには、壁面用ブラケットにプレートをロックするための2個のタブが付いています。次の図は、タブの位置と形状を示します。



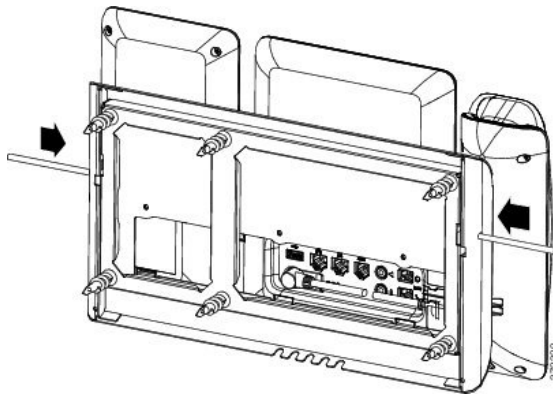
壁面用ブラケットから電話とマウントプレートを取り外すには、これらのタブを外す必要があります。

はじめる前に

金属棒2本が必要です。

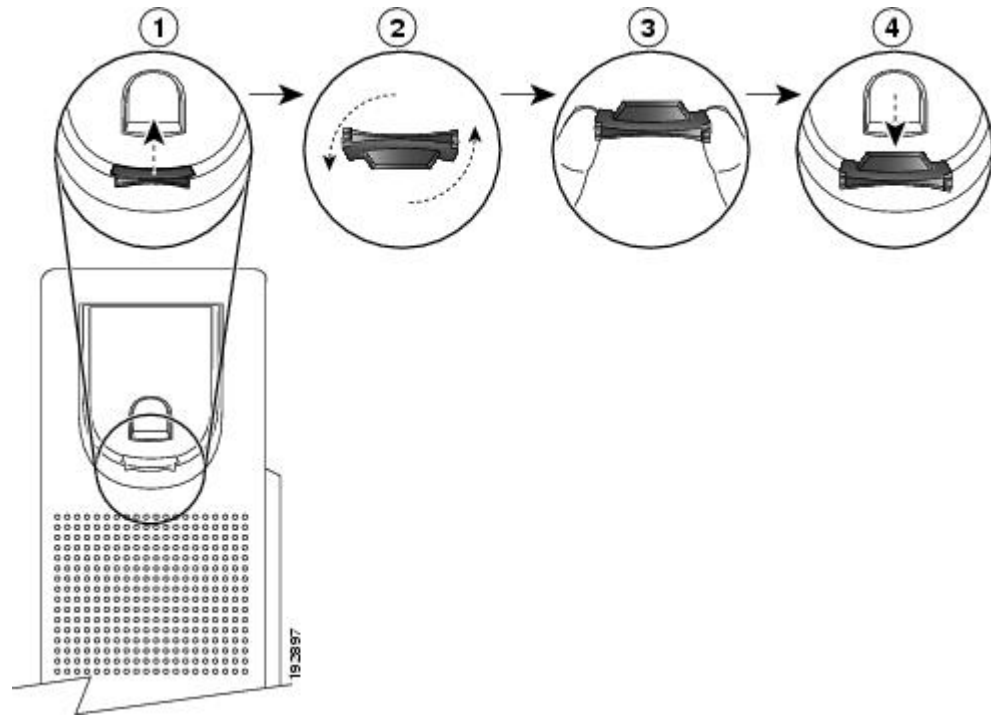
手順

- ステップ1 電話マウントプレートにある左右の穴に棒を0.25インチ（0.5 cm）ほど差し込みます。
- ステップ2 内側にしっかりと押して（電話に向けて）タブを解除し、電話機を持ち上げて壁面用ブラケットから電話を取り外し、自分の方に電話を引き寄せます。



ハンドセットレストの調整

電話機が壁に取り付けられている場合は、受話器が受け台から滑り落ちないように受話器の受け台を調整する必要があります。



手順

-
- ステップ1 受け台からハンドセットを外し、ハンドセットレストからプラスチック タブを引き出します。
 - ステップ2 タブを 180 度回します。
 - ステップ3 角のノッチが手前になるように、2 本指でタブを持ちます。
 - ステップ4 タブを受け台のスロットに合わせ、タブをスロット内に均等に押し込みます。回したタブの上部から突起が出ている状態になります。
 - ステップ5 ハンドセットをハンドセットレストに戻します。
-



第 **IV** 部

Cisco IP Phone の管理

- [Cisco IP Phone のセキュリティ, 143 ページ](#)
- [Cisco IP Phone のカスタマイズ, 161 ページ](#)
- [電話機の機能および設定, 169 ページ](#)
- [社内ディレクトリとパーソナルディレクトリ, 233 ページ](#)



第 9 章

Cisco IP Phone のセキュリティ

- [電話機の現在のセキュリティ機能の表示, 143 ページ](#)
- [セキュリティプロファイルの表示, 143 ページ](#)
- [サポート対象のセキュリティ機能, 144 ページ](#)

電話機の現在のセキュリティ機能の表示

Cisco Unified Communications Manager をサポートしている Cisco IP Phone は、すべてセキュリティプロファイルを使用します。このプロファイルは、電話機がセキュリティ保護、認証、または暗号化の対象になるかどうかを定義するものです。セキュリティプロファイルの設定、および電話機へのプロファイルの適用については、『*Cisco Unified Communications Manager Security Guide*』を参照してください。

手順

- ステップ 1** [アプリケーション (Applications)] を押します。
- ステップ 2** [管理者設定 (Administrator Settings)] > [セキュリティのセットアップ (Security Setup)] を選択します。

セキュリティプロファイルの表示

Cisco Unified Communications Manager をサポートしている Cisco IP Phone は、すべてセキュリティプロファイルを使用します。このプロファイルは、電話機がセキュリティ保護、認証、または暗号化の対象になるかどうかを定義するものです。セキュリティプロファイルの設定、および電話機へのプロファイルの適用については、『*Cisco Unified Communications Manager Security Guide*』を参照してください。

手順

[セキュリティ設定 (Security Configuration)]メニューの [セキュリティモード (Security Mode)]設定を参照してください。

サポート対象のセキュリティ機能

セキュリティ機能は、電話機の ID やデータへの脅威など、複数の脅威を防止します。セキュリティ機能は、電話機と Cisco Unified Communications Manager サーバ間に認証された通信ストリームを確立し、これを維持するとともに、電話機がデジタル署名されたファイルのみを使用することを確認します。

Cisco Unified Communications Manager Release 8.5(1) 以降にはデフォルトでセキュリティ機能が搭載されており、CTL クライアントを実行しなくても、Cisco IP Phone に次のセキュリティ機能が提供されます。

- 電話機の設定ファイルの署名
- 電話機の設定ファイルの暗号化
- HTTPS with Tomcat および他の Web サービスの利用



(注) シグナリングおよびメディア機能を保護するには、引き続き、CTL クライアントを実行し、ハードウェア eToken を使用する必要があります。

Cisco Unified Communications Manager システムにセキュリティを実装すると、電話機や Cisco Unified Communications Manager サーバの ID 盗用、データの改ざん、およびコールシグナリングとメディアストリームの改ざんを防止できます。

これらの脅威を軽減するため、Cisco Unified IP テレフォニー ネットワークは、電話機とサーバの間にセキュアな (暗号化された) 通信ストリームを確立し、維持します。ファイルはデジタル署名してから電話機に転送し、Cisco IP Phone 間では、メディアストリームとコールシグナリングを暗号化します。

認証局プロキシ関数 (CAPF) に関連付けられた必要なタスクの実行後、ローカルで有効な証明書 (LSC) が電話機にインストールされます。LSC は Cisco Unified Communications Manager の管理ページで設定できます。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Security Guide』を参照してください。あるいは、電話機の [セキュリティのセットアップ (Security Setup)]メニューから LSC のインストールを開始することもできます。このメニューでは、LSC の更新および削除も実行できます。

Cisco IP Phone 8841、8851、8861 では、電話セキュリティプロファイルを使用して、デバイスがセキュアかどうかを定義します。電話セキュリティプロファイルの電話機への適用については、『Cisco Unified Communications Manager Security Guide』を参照してください。

Cisco Unified CM の管理でセキュリティ関連の設定を行うと、電話機の設定ファイルに重要な情報が保存されます。設定ファイルのプライバシーを確保するには、そのファイルを暗号化用に設定

する必要があります。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Security Guide』の「Configuring Encrypted Phone Configuration Files」の章を参照してください。

次の表は、Cisco IP Phone 8841、8851、および 8861 でサポートされているセキュリティ機能の概要を示しています。これらの機能と、Cisco Unified Communications Manager および Cisco IP Phone のセキュリティの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Security Guide』を参照してください。


電話機の現在のセキュリティ設定については、 を押し、[管理者設定 (Administrator Settings)] > [セキュリティのセットアップ (Security Setup)] を選択します。

表 14: セキュリティ機能の概要

機能	説明
イメージ認証	署名付きのバイナリ ファイル (拡張子 .sgn) によって、ファームウェア イメージが電話機へのロード前に改ざんされることを防止します。 イメージが改ざんされると、電話機は認証プロセスに失敗し、新しいイメージを拒否します。
イメージの暗号化	暗号化バイナリ ファイル (拡張子 .sebn) によって、ファームウェア イメージが電話機へのロード前に改ざんされることを防止します。 イメージが改ざんされると、電話機は認証プロセスに失敗し、新しいイメージを拒否します。
カスタマーサイト証明書のインストール	各 Cisco IP Phone は、デバイス認証に一意の証明書が必要とします。電話機には Manufacturing Installed Certificate (MIC; 製造元でインストールされる証明書) が含まれますが、追加のセキュリティについては、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、Certificate Authority Proxy Function (CAPF; 認証局プロキシ関数) を使用して証明書のインストールを指定できます。あるいは、電話機の [セキュリティ設定 (Security Configuration)] メニューからローカルで有効な証明書 (LSC) をインストールします。
デバイス認証	Cisco Unified Communications Manager サーバと電話機間で、一方のエンティティが他方のエンティティの証明書を受け入れるときに行われます。電話機と Cisco Unified Communications Manager の間でセキュアな接続を確立するかどうかを判別し、必要に応じて TLS プロトコルを使用してエンティティ間にセキュアなシグナリングパスを作成します。Cisco Unified Communications Manager では、認証できない電話機は登録されません。
ファイル認証	電話機がダウンロードするデジタル署名ファイルを検証します。ファイルの作成後、ファイルの改ざんが発生しないように、電話機でシグニチャを検証します。認証できないファイルは、電話機のフラッシュメモリに書き込まれません。電話機はこのようなファイルを拒否し、処理を続行しません。

機能	説明
ファイルの暗号化	暗号化により、ファイルの機密性の高い情報が電話機に転送される間に漏えいしないように保護されます。さらに、電話機でも、ファイルが作成後に改ざんされていないことを、署名を確認することで確認します。認証できないファイルは、電話機のフラッシュメモリに書き込まれません。電話機はこのようなファイルを拒否し、処理を続行しません。
シグナリング認証	TLS プロトコルを使用して、シグナリング パケットが転送中に改ざんされていないことを検証します。
製造元でインストールされる証明書	各 Cisco IP Phone には、固有の製造元でインストールされる証明書 (MIC) が内蔵されており、デバイス認証に使用されます。MIC は、個々の電話機を識別するために長期的に割り当てられた証明を提供し、Cisco Unified Communications Manager はこれを使用して電話機を認証します。
メディアの暗号化	SRTP を使用して、サポートされるデバイス間のメディア ストリームがセキュアであること、および意図したデバイスのみがデータを受信し、読み取ることを保証します。デバイスのメディア マスターのキー ペアの作成、デバイスへのキーの配布、キーが転送される間のキーの配布のセキュリティの確保などが含まれます。
CAPF (Certificate Authority Proxy Function)	電話機に非常に高い処理負荷がかかる、証明書生成手順の一部を実装します。また、キーの生成および証明書のインストールのために電話機と対話します。電話機の代わりに、お客様指定の認証局に証明書を要求するように CAPF を設定できます。または、ローカルで証明書を生成するように CAPF を設定することもできます。
セキュリティ プロファイル	電話機がセキュリティ保護、認証、または暗号化の対象になるかどうかを定義します。この表の他の項目は、セキュリティ機能について説明しています。これらの機能と、Cisco Unified Communications Manager および Cisco IP Phone のセキュリティの詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager Security Guide</i> 』を参照してください。
暗号化された設定ファイル	電話機の設定ファイルのプライバシーを確保できるようにします。
電話機の Web サーバの無効化 (オプション)	セキュリティ上の目的で、電話機の Web ページ (ここには電話機のさまざまな処理の統計情報が表示される) とセルフ ケア ポータルへのアクセスを防止できます。詳細については、 電話機の Web ページへのアクセスの制御 、(225 ページ) を参照してください。

機能	説明
電話機のセキュリティの強化	<p>Cisco Unified Communications Manager の管理ページから制御する追加セキュリティオプション。</p> <ul style="list-style-type: none"> • PC ポートの無効化 • Gratuitous ARP (GARP) の無効化 • PC ボイス VLAN アクセスの無効化 • [設定 (Setting)]メニューへのアクセスの無効化。または、[設定 (Preferences)]メニューにアクセスすること、音量の変更を保存することのみ可能な、限定的なアクセスの提供 • 電話機の Web ページへのアクセスの無効化 • Bluetooth アクセサリ ポートの無効化
802.1X 認証	<p>Cisco IP Phone は 802.1X 認証を使用して、ネットワークへのアクセスの要求およびネットワーク アクセスができます。詳細については、802.1X 認証、(157 ページ) を参照してください。</p>
SRST 向けのセキュアな SIP フェールオーバー	<p>セキュリティ目的で Survivable Remote Site Telephony (SRST) リファレンスを設定してから、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで従属デバイスをリセットすると、TFTP サーバは電話機の cnf.xml ファイルに SRST 証明書を追加し、そのファイルを電話機に送信します。その後、セキュアな電話機は TLS 接続を使用して、SRST 対応ルータと相互に対話します。</p>
シグナリング暗号化	<p>デバイスと Cisco Unified Communications Manager サーバの間で送信されるすべての SIP シグナリング メッセージが暗号化されるようにします。</p>

[セキュリティのセットアップ (Security Setup)]メニューには、さまざまなセキュリティ設定に関する情報が表示されます。メニューでは、[信頼リスト (Trust List)]メニューにもアクセスでき、CTL ファイルまたは ITL ファイルが電話機にインストールされているかどうかを示します。

次の表に、[セキュリティのセットアップ (Security Setup)]メニューのオプションを示します。

表 15: [セキュリティのセットアップ (Security Setup)]メニュー

オプション	説明	変更の手順
セキュリティ モード (Security Mode)	<p>電話機に設定されているセキュリティモードを表示します。</p>	<p>Cisco Unified CM の管理で、[デバイス (Device)]>[電話 (Phone)]を選択します。この設定は [電話の設定 (Phone Configuration)]ウィンドウの [プロトコル固有情報 (Protocol Specific Information)]の部分に表示されます。</p>

オプション	説明	変更の手順
LSC	セキュリティ機能で使用される、ローカルで有効な証明書が電話機にインストールされている ([はい (Yes)]) かインストールされていない ([いいえ (No)]) かを示します。	電話機の LSC を管理する方法については、『Cisco Unified Communications Manager Security Guide』の「Using the Certificate Authority Proxy Function」の章を参照してください。
信頼リスト (Trust List)	<p>[信頼リスト (Trust List)] は、CTL ファイル、ITL ファイル、および署名済み設定ファイル用のサブメニューを備えています。</p> <p>[CTL ファイル (CTL File)] サブメニューは、CTL ファイルの内容を表示します。</p> <p>[ITL ファイル (ITL File)] サブメニューは、ITL ファイルの内容を表示します。</p> <p>[信頼リスト (Trust List)] メニューには、次の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [CTL 署名 (CTL Signature)] : CTL ファイルの SHA1 ハッシュ • [Unified CM/TFTP サーバ (Unified CM/TFTP Server)] : 電話機で使用される Cisco Unified Communications Manager と TFTP サーバの名前。このサーバに証明書がインストールされている場合は、証明書アイコンが表示されます。 • [CAPF サーバ (CAPF Server)] : 電話機が使用する CAPF サーバの名前。このサーバに証明書がインストールされている場合は、証明書アイコンが表示されます。 • [SRST ルータ (SRST Router)] : 電話機で使用可能な、信頼できる SRST ルータの IP アドレス。このサーバに証明書がインストールされている場合は、証明書アイコンが表示されます。 	詳細については、 ローカルで有効な証明書のセットアップ, (149 ページ) を参照してください。
802.1X 認証 (802.1X Authentication)	この電話機に 802.1X 認証を有効にできません。	802.1X 認証, (157 ページ) を参照してください。

ローカルで有効な証明書のセットアップ

電話機に LSC を設定するには、次の手順を使用します。

はじめる前に

次の点を調べて、対象の Cisco Unified Communications Manager および認証局プロキシ関数 (CAPF) のセキュリティ設定が完了していることを確認してください。

- CTL ファイルまたは ITL ファイルに CAPF 証明書が含まれていること。
- Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理ページで、CAPF 証明書がインストールされていることを確認してください。
- CAPF は実行および設定されています。


これらの設定の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Security Guide』の「Configuring the Cisco CTL Client」の章を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** CAPF の設定時に設定された CAPF 認証コードを入手します。
- ステップ 2** 電話機から、アプリケーション ボタンを押し、[管理者設定 (Administrator Settings)] > [セキュリティのセットアップ (Security Setup)] を選択します。
- (注) Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウにある [設定アクセス (Settings Access)] フィールドを使用すると、[設定 (Settings)] メニューへのアクセスを制御できます。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』を参照してください。
- ステップ 3** [LSC] を選択し、[選択 (Select)] または [更新 (Update)] を押します。認証文字列を要求するプロンプトが電話機に表示されます。
- ステップ 4** 認証コードを入力し、[送信 (Submit)] を押します。
- CAPF の設定に応じて、電話機で LSC のインストール、更新、または削除が開始されます。この作業の間、[セキュリティ設定 (Security Configuration)] メニューの [LSC] オプションフィールドに一連のメッセージが表示されるので、進捗状況をモニタできます。手順が完了すると、電話機に [インストール済み (Installed)] または [未インストール (Not Installed)] と表示されます。
- LSC のインストール、更新、または削除プロセスは、完了するのに長時間かかることがあります。
- 電話機のインストール手順が成功すると、[インストール済み (Installed)] というメッセージが表示されます。電話機に [未インストール (Not Installed)] と表示された場合は、認証文字列に誤りがあるか、電話機がアップグレード用に有効になっていない可能性があります。CAPF 操作で LSC を削除し、電話機に [未インストール (Not Installed)] と表示された場合は、操作が成功したことを示しています。CAPF サーバはエラー メッセージをログに記録します。ログの位置を調べ、エラー メッセージの意味を理解するには、CAPF サーバのマニュアルを参照してください。
-

電話コールのセキュリティ

電話機にセキュリティを実装している場合は、電話スクリーンに表示されるアイコンによって、セキュアな電話コールや暗号化された電話コールを識別できます。また、コールの開始時にセキュリティトーンが再生される場合は、接続された電話機がセキュアであり保護されているかどうか判断できます。

セキュアなコールでは、すべてのコールシグナリングとメディアストリームが暗号化されます。セキュアなコールは高度なレベルのセキュリティを提供し、コールに整合性とプライバシーを提供します。処理中のコールが暗号化されているときは、電話スクリーンのコール時間タイマーの右側にあるコール進捗アイコンが、次のアイコン  に変化します。



- (注) コールが PSTN などの非 IP コール レッグを経由してルーティングされる場合、コールが IP ネットワーク内で暗号化されており、鍵のアイコンが関連付けられていても、そのコールはセキュアではないことがあります。

セキュアなコールではコールの開始時にセキュリティトーンが再生され、接続先の電話機もセキュアな音声を送受信していることを示します。セキュアでない電話機にコールが接続されると、セキュリティトーンは再生されません。




- (注) セキュアなコールは、2台の電話機間でのみサポートされます。電話会議や共有回線などの一部の機能は、セキュアなコールが設定されているときは使用できません。

Cisco Unified Communications Manager で電話機をセキュア（暗号化および信頼された）として設定した場合、その電話機には「保護」ステータスを割り当てることができます。その後、必要に応じて、保護された電話機は、コールの初めに通知トーンを再生するように設定できます。

- [保護されたデバイス (Protected Device)] : セキュアな電話機のステータスを保護に変更するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウにある [保護されたデバイス (Protected Device)] チェックボックスをオンにします ([デバイス (Device)] > [電話 (Phone)]) 。
- [セキュア インディケーション トーンの再生 (Play Secure Indication Tone)] : 保護された電話機で、セキュアまたは非セキュアな通知トーンの再生を有効にするには、[セキュア インディケーション トーンの再生 (Play Secure Indication Tone)] 設定を [はい (True)] に設定します。デフォルトでは、[セキュア インディケーション トーンの再生 (Play Secure Indication Tone)] は [いいえ (False)] に設定されます。このオプションは、Cisco Unified Communications Manager の管理 ([システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)]) で設定します。サーバを選択してから、Unified Communications Manager サービスを選択します。[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウで、[機能 - セキュア トーン (Feature - Secure Tone)] 領域内にあるオプションを選択します。デフォルト設定は [いいえ (False)] です。

セキュアな会議コールの特定

セキュアな会議コールを開始し、参加者のセキュリティレベルをモニタすることができます。セキュアな電話会議は、次のプロセスに従って確立されます。

- 1 ユーザがセキュアな電話機で会議を開始します。
- 2 Cisco Unified Communications Manager が、コールにセキュアな会議ブリッジを割り当てます。
- 3 参加者が追加されると、Cisco Unified Communications Manager は、各電話機のセキュリティモードを検証し、セキュアな会議のレベルを維持します。
- 4 電話機に会議コールのセキュリティレベルが表示されます。セキュアな会議では、電話機の画面の [会議 (Conference)] の右側にセキュアアイコン  が表示されます。



(注) 参加者の電話機のセキュリティモードおよびセキュアな会議ブリッジの可用性によっては、会議コールのセキュリティレベルに影響する連携動作と制限事項があります。

次の表は、発信側の電話機のセキュリティレベル、参加者のセキュリティレベル、およびセキュアな会議ブリッジの可用性に応じた、会議のセキュリティレベルの変更に関する情報を示しています。


表 16: 会議コールのセキュリティの制限事項

発信側の電話機のセキュリティレベル	使用される機能	参加者のセキュリティレベル	アクションの結果
非セキュア (Nonsecure)	会議	セキュア (Secure)	非セキュアな会議ブリッジ 非セキュアな会議
セキュア (Secure)	会議	少なくとも 1 台のメンバーが非セキュア。	セキュアな会議ブリッジ 非セキュアな会議
セキュア (Secure)	会議	セキュア (Secure)	セキュアな会議ブリッジ セキュアな暗号化レベルの会議
非セキュア (Nonsecure)	ミーティング	最小限のセキュリティレベルが暗号化。	発信側は「セキュリティレベルを満たしていません。コールを拒否します (Does not meet Security Level, call rejected)」というメッセージを受け取る。
セキュア (Secure)	ミーティング	最小限のセキュリティレベルは非セキュア	セキュアな会議ブリッジ 会議はすべてのコールを受け入れる。

セキュアな電話コールの識別

ユーザの電話機および相手側の電話機でセキュアなコールが設定されている場合にセキュアなコールが確立されます。相手側の電話機は、同じ Cisco IP ネットワーク内にあっても、Cisco IP ネットワーク以外のネットワークにあってもかまいません。セキュアなコールは2台の電話機間でのみ形成できます。会議コールや、複数回線を使用するその他のコールはサポートされません。

セキュアなコールは、次のプロセスに従って確立されます。

- 1 ユーザがセキュアな電話機（セキュリティ モードで保護された電話機）でコールを開始します。
- 2 電話スクリーンにセキュアアイコン  が表示されます。このアイコンは、この電話機がセキュアなコール用に設定されていることを示しますが、接続する他の電話機もセキュアであるという意味ではありません。
- 3 そのコールが別のセキュアな電話機に接続された場合は、ユーザにセキュリティ トーンが聞こえ、通話の両端が暗号化および保護されていることを示します。コールが非セキュアな電話機に接続された場合は、ユーザにはセキュリティ トーンが聞こえません。



(注) セキュアなコールは、2台の電話機間の対話をサポートしています。電話会議や共有回線など一部の機能は、セキュアなコールが設定されているときは使用できません。

保護された電話機だけで、セキュアまたは非セキュアなインディケーション トーンが再生されません。保護されていない電話機ではトーンは聞こえません。コール中にコール全体のステータスが変化すると、それによって通知トーンも変化し、保護された電話機は対応するトーンを再生します。

このような状況にない場合、保護された電話機はトーンを再生しません。

- [セキュア インディケーション トーンの再生 (Play Secure Indication Tone)] オプションが有効になっている場合
 - エンドツーエンドのセキュアなメディアが確立され、コール ステータスがセキュアになった場合、電話機はセキュア インディケーション トーン（間に小休止を伴う3回の長いビーブ音）を再生します。
 - エンドツーエンドの非セキュアなメディアが確立され、コールステータスが非セキュアになった場合、電話機は、非セキュアのインディケーション トーンを再生します（間に小休止を伴う6回の短いビーブ音）。

[セキュア インディケーション トーンの再生 (Play Secure Indication Tone)] オプションが無効になっている場合、トーンは再生されません。



- (注) セキュアなコールは、2台の電話機間でのみサポートされます。セキュアなコールが設定されている場合は、会議コール、シェアドライン、エクステンションモビリティといった一部の機能は使用できません。

割り込みの暗号化

Cisco Unified Communications Manager は、会議の確立時に電話機のセキュリティステータスを確認し、会議のセキュリティ表示を変更するか、またはコールの確立をブロックしてシステムの整合性とセキュリティを維持します。

電話機に暗号化が設定されていない場合、その電話機を使用して暗号化されたコールに割り込むことはできません。この場合、割り込みに失敗すると、割り込みが開始された電話機でリオーダー トーン（速いビジー音）が聞こえます。

割り込みの開始側の電話機に暗号化が設定されている場合、割り込みの開始側は暗号化された電話機からセキュアでないコールに割り込むことができます。割り込みが発生すると、Cisco Unified Communications Manager はそのコールをセキュアでないコールに分類します。

割り込みの開始側の電話機に暗号化が設定されている場合、割り込みの開始側は暗号化されたコールに割り込むことができ、電話機はそのコールが暗号化されていることを示します。

WLAN セキュリティ (WLAN Security)

通信圏内にあるすべての WLAN デバイスは他の WLAN トラフィックをすべて受信できるため、WLAN内の音声通信の保護は重要です。侵入者による音声トラフィックの操作や傍受を防止するため、Cisco SAFE セキュリティアーキテクチャは、Cisco IP Phone と Cisco Aironet AP をサポートします。ネットワーク内のセキュリティの詳細については、http://www.cisco.com/en/US/netsol/ns744/networking_solutions_program_home.html を参照してください。

Cisco Wireless IP テレフォニーソリューションは、ワイヤレス Cisco IP Phone がサポートする次の認証方式を使用して、不正ログインおよび改ざんされた通信を防ぐワイヤレス ネットワーク セキュリティを提供します。

- オープン認証：オープンシステムでは、任意のワイヤレスデバイスが認証を要求できます。要求を受けた AP は、任意のリクエストまたはユーザのリスト上にあるリクエストだけに認証を与える場合があります。ワイヤレスデバイスと AP との間の通信は暗号化されない可能性もあります。暗号化される場合、デバイスは有線と同等のプライバシー (WEP) キーを使用してセキュリティを提供できます。WEP を使用しているデバイスは、WEP を使用している AP での認証だけを試みます。
- 共有キー認証：AP は、AP との通信を試みるすべてのデバイスに対して、暗号化されていないチャレンジテキストのストリングを送信します。認証を要求しているデバイスは、事前に設定された WEP キーを使用してチャレンジテキストを暗号化し、AP に返します。チャレンジテキストが正しく暗号化されている場合、AP は要求側のデバイスの認証を許可します。デバイスの WEP キーが AP 上の WEP キーと一致する場合にだけ、デバイスは認証を受けることができます。



(注) 共有キー認証は、Cisco IP Phone 8861 には適用されません。

共有キー認証は、他のユーザがチャレンジをモニタできるため、WEPによるオープン認証よりも安全性が低くなる可能性があります。暗号化されていないチャレンジテキストストリングと暗号化されているチャレンジテキストストリングを比較することにより、侵入者はWEPキーを計算できます。

- Extensible Authentication Protocol-Flexible Authentication via Secure Tunneling (EAP-FAST) 認証：このクライアントサーバのセキュリティアーキテクチャは、APと、Cisco Access Control Server (ACS) などのRADIUSサーバとの間のTransport Level Security (TLS) トンネル内のEAPトランザクションを暗号化します。

TLSトンネルでは、クライアント（電話機）とRADIUSサーバの間の認証にProtected Access Credential (PAC) が使用されます。サーバはAuthority ID (AID) をクライアント（電話機）に送信します。それを受けてクライアントは適切なPACを選択します。クライアント（電話機）はPAC-OpaqueをRADIUSサーバに返します。サーバは、そのマスターキーでPACを復号します。これで両方のエンドポイントに同じPACキーが含まれ、TLSトンネルが構築されます。EAP-FASTでは、自動PACプロビジョニングがサポートされていますが、RADIUSサーバ上で有効にする必要があります。



(注) Cisco ACSでのPACの有効期限は、デフォルトで1週間です。電話機に期限切れのPACが存在する場合、電話機が新しいPACを取得するまでの間は、RADIUSサーバでの認証に比較的長い時間がかかります。PACプロビジョニングの遅延を回避するには、ACSサーバまたはRADIUSサーバでPACの有効期間を90日以上に設定します。

- Protected Extensible Authentication Protocol (PEAP)：クライアント（電話機）とRADIUSサーバ間の、シスコ独自のパスワードベースの相互認証方式です。Cisco IP Phoneは、ワイヤレスネットワークでの認証にPEAPを使用できます。

次の認証方式では、RADIUSサーバを使用して認証キーを管理します。

- WPA/WPA2: 一意の認証キーを生成するためにRADIUSサーバの情報を使用します。これらのキーは、中央集中型のRADIUSサーバで生成されるため、WPA/WPA2は、APおよび電話機に格納されているWPA事前共有キーよりも高いセキュリティを提供します。
- Cisco Centralized Key Management (CCKM)：RADIUSサーバとワイヤレスドメインサーバ (WDS) の情報を使用して、キーの管理および認証をします。WDSは、高速でセキュアな再認証用に、CCKM対応クライアントデバイスのセキュリティクレデンシャルのキャッシュを作成します。

WPA/WPA2およびCCKMでは、暗号化キーは電話機に入力されず、APと電話機の間で自動的に生成されます。ただし認証で使用するEAPユーザ名とパスワードは、各電話機に入力する必要があります。

音声トラフィックの安全性を確保するため、Cisco IP Phone では、暗号化方式として WEP、TKIP、および Advanced Encryption Standards (AES) をサポートします。暗号化にこれらのメカニズムを使用すると、AP と Cisco IP Phone との間で、シグナリング SIP パケットと音声リアルタイムトランスポートプロトコル (RTP) パケットの両方が暗号化されます。

WEP

ワイヤレスネットワークで WEP を使用すると、オープン認証または共有キー認証を使用することにより、AP で認証が行われます。正常に接続させるには、電話機で設定された WEP キーと AP で設定された WEP キーが一致する必要があります。Cisco IP Phone は、40 ビット暗号化または 128 ビット暗号化を使用し、電話機および AP で静的なままの WEP キーをサポートしています。

EAP と CCKM の認証では、暗号化に WEP キーを使用できます。RADIUS サーバは WEP キーを管理し、すべての音声パケットの暗号化を認証した後で一意的なキーを AP に渡します。そのため、次の WEP キーを各認証で変更できます。

TKIP

WPA と CCKM は、WEP にいくつかの改良が加えられた TKIP 暗号化を使用します。TKIP は、パケットごとのキーの暗号化、および暗号化が強化されたより長い初期ベクトル (IV) を提供します。さらに、メッセージ完全性チェック (MIC) は、暗号化されたパケットが変更されていないことを確認します。TKIP は、侵入者が WEP を使用して WEP キーを解読する可能性を排除します。

AES

WPA2 認証に使用される暗号化方式。この暗号化の国内規格は、暗号化と復号化に同じキーを持つ対称型アルゴリズムを使用します。AES は、128 ビットサイズの暗号ブロック連鎖 (CBC) 暗号化を使用し、最小のキーサイズとして 128、192、および 256 ビットのキーをサポートします。Cisco IP Phone は 256 ビットのキーサイズをサポートします。



(注) Cisco IP Phone は、CMIC による Cisco Key Integrity Protocol (CKIP) をサポートしません。

認証方式と暗号化方式は、ワイヤレス LAN 内で設定されます。VLAN は、ネットワーク内および AP 上で設定され、認証と暗号化の異なる組み合わせを指定します。SSID は、VLAN と VLAN の特定の認証および暗号化方式に関連付けられます。ワイヤレスクライアントデバイスを正常に認証するには、認証および暗号化方式で使用する SSID と同じ SSID を AP と Cisco IP Phone に設定する必要があります。

一部の認証方式では、特定のタイプの暗号化が必要です。オープン認証では、セキュリティを高めるために、暗号化で静的 WEP を使用できます。ただし、共有キー認証を使用している場合は、暗号化に静的 WEP を設定し、電話機で WEP キーを設定する必要があります。



(注)

- WPA 事前共有キーまたは WPA2 事前共有キーを使用する場合、その事前共有キーを電話機で静的に設定する必要があります。これらのキーは、AP に存在するキーと一致している必要があります。
- Cisco IP Phone は、自動 EAP ネゴシエーションをサポートしていません。EAP-FAST モードを使用するには、EAP-FAST モードを指定する必要があります。

次の表に、Cisco IP Phone がサポートしている、Cisco Aironet AP で設定される認証方式と暗号化方式のリストを示します。表には、AP の設定に対応する電話機のネットワーク設定オプションを示します。

表 17: 認証方式と暗号化方式

Cisco AP の設定			Cisco IP Phone の設定
認証	キー管理	共通の暗号化	認証
オープン (Open)		なし	オープン (Open)
オープン (静的 WEP) (Open (Static WEP))		WEP	オープン+WEP (Open+WEP)
共有キー (静的 WEP) (Shared key (Static WEP))		WEP	共有+WEP (Shared+WEP)
PEAP 802.1x	オプションの CCKM	WEP	PEAP
PEAP WPA	WPA (オプションで CCKM を使用)	TKIP	PEAP
PEAP WPA2	WPA2	AES	PEAP
EAP-FAST 802.1x	オプションの CCKM	WEP	EAP-FAST
WPA を使用した EAP-FAST (EAP-FAST with WPA)	WPA オプションの CCKM	TKIP	EAP-FAST
WPA2 を使用した EAP-FAST (EAP-FAST with WPA2)	WPA2	AES	EAP-FAST

シスコの WLAN セキュリティの詳細については、http://www.cisco.com/en/US/products/hw/wireless/ps430/prod_brochure09186a00801f7d0b.html を参照してください。

認証方式と暗号化方式を AP に設定する方法の詳細については、次の URL で入手可能なご使用のモデルおよびリリースの『Cisco Aironet Configuration Guide』を参照してください。

<http://www.cisco.com/cisco/web/psa/configure.html?mode=prod&level0=278875243>

802.1X 認証

Cisco IP Phone は 802.1X 認証をサポートします。

Cisco IP Phone と Cisco Catalyst スイッチは、従来 Cisco Discovery Protocol (CDP) を使用して互いを識別し、VLAN 割り当てやインライン所要電力などのパラメータを決定します。CDP では、ローカルに接続されたワークステーションは識別されません。Cisco IP Phone は、EAPOL パススルーメカニズムを提供します。このメカニズムを使用すると、Cisco IP Phone に接続されたワークステーションは、LAN スイッチにある 802.1X オーセンティケータに EAPOL メッセージを渡すことができます。パススルーメカニズムにより、IP フォンはネットワークにアクセスする前にデータエンドポイントを認証する際 LAN スイッチとして動作しません。

Cisco IP Phone はまた、プロキシ EAPOL ログオフメカニズムも提供します。ローカルに接続された PC が IP フォンから切断された場合でも、LAN スイッチと IP フォン間のリンクは維持されるので、LAN スイッチは物理リンクの障害を認識しません。ネットワークの完全性が脅かされるのを避けるため、IP フォンはダウンストリーム PC の代わりに EAPOL ログオフメッセージをスイッチに送ります。これは、LAN スイッチにダウンストリーム PC の認証エントリをクリアさせます。

802.1X 認証のサポートには、次のようなコンポーネントが必要です。

- Cisco IP Phone: 電話機は、ネットワークへのアクセス要求を開始します。Cisco IP Phone には、802.1x サプリカントが含まれています。このサプリカントを使用して、ネットワーク管理者は IP 電話と LAN スイッチポートの接続を制御できます。電話機に含まれる 802.1X サプリカントの現在のリリースでは、ネットワーク認証に EAP-FAST オプションと EAP-TLS オプションが使用されています。
- Cisco Secure Access Control Server (ACS) (またはその他のサードパーティ製認証サーバ) : 認証サーバと電話機の両方に、電話機を認証するための共有秘密が設定されている必要があります。
- Cisco Catalyst スイッチ (またはその他のサードパーティ製スイッチ) : スイッチは、オーセンティケータとして機能し、電話機と認証サーバの間でメッセージを渡すことができるように、802.1X をサポートしている必要があります。この交換が完了した後、スイッチはネットワークへの電話機のアクセスを許可または拒否します。

802.1X を設定するには、次の手順を実行する必要があります。

- 電話機で 802.1X 認証をイネーブルにする前に、他のコンポーネントを設定します。
- PC ポートの設定 : 802.1X 標準では VLAN が考慮されないため、特定のスイッチポートに対してデバイスを 1 つだけ認証することを推奨します。ただし、複数ドメインの認証をサポート

トしているスイッチもあります（Cisco Catalyst スイッチなど）。スイッチの設定により、PC を電話機の PC ポートに接続できるかどうかが決まります。

- 有効：複数ドメインの認証をサポートするスイッチを使用している場合、PC ポートを有効化し、そのポートに PC を接続できます。この場合、スイッチと接続先 PC 間の認証情報の交換をモニタするために、Cisco IP Phone はプロキシ EAPOL ログオフをサポートします。Cisco Catalyst スイッチでの IEEE 802.1X サポートの詳細については、次の URL にある Cisco Catalyst スイッチのコンフィギュレーションガイドを参照してください。
http://www.cisco.com/en/US/products/hw/switches/ps708/tsd_products_support_series_home.html
- 無効：スイッチで同じポート上の複数の 802.1X 準拠デバイスがサポートされていない場合は、802.1X 認証を有効にするときに PC ポートを無効にするようにしてください。このポートを無効にしないで PC を接続しようとすると、スイッチは電話機と PC の両方に対してネットワーク アクセスを拒否します。
- ボイス VLAN の設定：802.1X 標準では VLAN が考慮されないため、この設定をスイッチのサポートに基づいて行うようにしてください。
 - 有効：複数ドメインの認証をサポートするスイッチを使用している場合は、ボイス VLAN を引き続き使用できます。
 - 無効：スイッチで複数ドメインの認証がサポートされていない場合は、ボイス VLAN を無効にし、ポートをネイティブ VLAN に割り当てることを検討してください。
- MD5 共有秘密の入力：電話機で 802.1X 認証を無効にするか、工場出荷時の状態にリセットすると、以前に設定された MD5 共有秘密は削除されます。

802.1X 認証へのアクセス

次の手順に従って、802.1X 認証の設定にアクセスできます。

手順

-
- ステップ 1 [アプリケーション (Applications)] を押します。
 - ステップ 2 [管理者設定 (Administrator Settings)] > [セキュリティのセットアップ (Security Setup)] > [802.1X 認証 (802.1X Authentication)] を選択します。
 - ステップ 3 [802.1X 認証 (802.1X Authentication)] オプション, (158 ページ) の説明に従ってオプションを設定します。
 - ステップ 4 メニューを終了するには、[終了 (Exit)] を押します。
-

[802.1X 認証 (802.1X Authentication)] オプション


次の表では、802.1X 認証オプションについて説明します。

表 18 : 802.1X 認証の設定

オプション	説明	変更の手順
デバイス認証 (Device Authentication)	802.1X 認証が有効かどうかを示します。 <ul style="list-style-type: none"> • [有効 (Enabled)] : 電話機は 802.1X 認証を使用してネットワークアクセスを要求します。 • [無効 (Disabled)] : デフォルト設定です。電話機は、CDP を使用して VLAN およびネットワークアクセスを取得します。 	[デバイス認証 (Device Authentication)] フィールドの設定、(159 ページ) を参照してください。
トランザクションステータス (Transaction Status)	[状態 (State)] : 802.1x 認証の状態を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> • [切断済み (Disconnected)] : 802.1x 認証が電話機に設定されていないことを示します。 • [認証済 (Authenticated)] : 電話が認証されたことを示します。 • [保留 (Held)] : 認証プロセスが進行中であることを示します。 [プロトコル (Protocol)] : 802.1x 認証に使用される EAP 方式を表示します (EAP-FAST または EAP-TLS である場合があります) 。	表示専用。変更不可。

[デバイス認証 (Device Authentication)] フィールドの設定

手順

-
- ステップ 1** アプリケーション ボタン  を押した後、[管理者設定 (Administrator Settings)] > [セキュリティのセットアップ (Security Setup)] > [802.1X 認証 (802.1X Authentication)] を選択します。
- ステップ 2** [デバイス認証 (Device Authentication)] オプションを [はい (Yes)] または [いいえ (No)] に設定します。
- ステップ 3** [適用 (Apply)] を押します。
-



第 10 章

Cisco IP Phone のカスタマイズ

- [カスタム電話呼出音, 161 ページ](#)
- [カスタム背景イメージ, 163 ページ](#)
- [ワイドバンドコーデックのセットアップ, 166 ページ](#)
- [未使用時画面のセットアップ, 167 ページ](#)

カスタム電話呼出音

Cisco IP Phone は、ハードウェアに組み込みの「Sunshine」をデフォルトの呼出音として出荷されます。Cisco Unified Communications Manager には、一連の追加の電話呼出音もデフォルトで付属しており、これらはパルス符号変調 (PCM) ファイルとしてソフトウェアに実装されています。PCM ファイルは、サイトで使用できる呼出音リストオプションを記述した XML ファイル (Ringlist-wb.xml) とともに、各 Cisco Unified Communications Manager サーバの TFTP ディレクトリに配置されています。



注目 すべてのファイル名で大文字と小文字が区別されます。ファイル名に ringlist-wb.xml を使用すると、電話機には変更が適用されません。

詳細については、『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco TFTP」の章、および『Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide』の「Software Upgrades」の章を参照してください。

カスタム電話呼出音のセットアップ

Cisco IP Phone のカスタム電話呼出音を作成するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** 各カスタム呼出音の PCM ファイルを作成します（ファイルごとに呼出音 1 つ）。PCM ファイルが、[カスタム呼出音のファイル形式](#)、[（162 ページ）](#) に示す形式のガイドラインに準拠していることを確認します。
- ステップ 2** 作成した新しい PCM ファイルを、クラスタ内の各 Cisco Unified Communications Manager の Cisco TFTP サーバにアップロードします。詳細については、『*Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide*』の「Software Upgrades」を参照してください。
- ステップ 3** テキストエディタを使用して Ringlist-wb.xml ファイルを編集します。このファイルの形式とサンプルの Ringlist.xml ファイルについては、[カスタム呼出音のファイル形式](#)、[（162 ページ）](#) を参照してください。
- ステップ 4** 修正内容を保存し、Ringlist-wb.xml ファイルを閉じます。
- ステップ 5** 新しい Ringlist-wb.xml ファイルをキャッシュするには、Cisco Unified Serviceability を使用して TFTP サービスを停止してから起動するか、[起動時の定数および bin ファイルのキャッシングの有効化 (Enable Caching of Constant and Bin Files at Startup)] TFTP サービス パラメータ ([拡張サービスパラメータ (Advanced Service Parameters)] 領域に含まれる) を無効にしてから再度有効にします。
-

カスタム呼出音のファイル形式

Ringlist.xml ファイルは、電話呼出音タイプのリストを保持した XML オブジェクトを定義しています。このファイルには、呼出音タイプを 50 個まで記述します。呼出音タイプごとに、呼出音タイプに使用される PCM ファイルへのポインタ、および Cisco IP Phone の [呼出音タイプ (Ring Type)] メニューに表示されるテキストを記述します。このファイルは、各 Cisco Unified Communications Manager の Cisco TFTP サーバに保持されます。

CiscoIPPhoneRinglistXML オブジェクトは、次の簡単なタグセットを使用して情報を記述します。

```
<CiscoIPPhoneRingList>
  <Ring>
    <DisplayName/>
    <FileName/>
  </Ring>
</CiscoIPPhoneRingList>
```

定義名については、次の規則があります。それぞれの電話呼出音タイプについて、必須の DisplayName と FileName を記述する必要があります。

- DisplayName には、関連付けられた PCM ファイルのカスタム呼出音の名前を指定します。この名前は、Cisco IP Phone の [呼出音タイプ (Ring Type)] メニューに表示されます。
- FileName には、DisplayName に関連付けるカスタム呼出音の PCM ファイルの名前を指定します。



(注) DisplayName フィールドと FileName フィールドは、長さ 25 文字以下にする必要があります。

次に、2 つの電話呼出音タイプを定義した Ringlist.xml ファイルの例を示します。

```
<CiscoIPPhoneRingList>
  <Ring>
    <DisplayName>Analog Synth 1</DisplayName>
    <FileName>Analog1.raw</FileName>
  </Ring>
  <Ring>
    <DisplayName>Analog Synth 2</DisplayName>
    <FileName>Analog2.raw</FileName>
  </Ring>
</CiscoIPPhoneRingList>
```

呼出音の PCM ファイルを Cisco IP Phone で正常に再生するには、ファイルが次の要件を満たしている必要があります。

- 未加工の PCM（ヘッダーなし）。
- サンプリング回数：8,000 回/秒。
- 1 サンプルあたり 8 ビット。
- Mu-law 圧縮
- 呼出音の最大サイズ = 16080 サンプル
- 呼出音の最小サイズ = 240 サンプル
- 呼出音のサンプル数 = 240 の倍数。
- 呼出音は、ゼロ交差で開始および終了する。

カスタム呼出音用の PCM ファイルを作成するには、次のファイル形式の要件に対応する任意の標準オーディオ編集パッケージを使用します。

カスタム背景イメージ

電話機の LCD スクリーンに表示される背景イメージ（または壁紙）をユーザに提供し、選択させることができます。ユーザは、電話機でアプリケーション>[設定 (Settings)]>[壁紙 (Wallpaper)] を選択して、背景イメージを選択できます。

ユーザに見える画像の種類は、電話機が使用している TFTP サーバに保存されている PNG 画像と XML ファイル (List.xml) を元にしています。独自の PNG ファイルを保存し、TFTP サーバ上の XML ファイルを編集すれば、ユーザが選択できる背景イメージを指定できます。この方法を利用すれば、会社のロゴなどのカスタム画像をユーザに提供することができます。



(注) PNG と List.xml イメージの寸法は 800x480x24 内である必要があります。



注目 すべてのファイル名で大文字と小文字が区別されます。ファイル名に list.xml を使用すると、電話機には変更が適用されません。

Cisco Unified Communications Manager Administration ([デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)]) の [共通の電話プロファイルの設定 (Common Phone Profile Configuration)] ウィンドウで [背景イメージ設定へのアクセスの有効化 (Enable End User Access to Phone Background Image Setting)] チェックボックスへのエンドユーザアクセスをオフにして、背景イメージを選択するユーザのオプションをディセーブルにできます。このチェックボックスをオフにしないと、[アプリケーション (Applications)] > [設定 (Settings)] > [壁紙 (Wallpaper)] オプションが電話機に表示されません。

カスタム背景イメージのセットアップ

Cisco IP Phone のカスタム背景画像を作成するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** 各画像に 2 つの PNG ファイル (フルサイズ画像とサムネイル画像) を作成します。PNG ファイルが、[カスタム背景ファイル形式, \(165 ページ\)](#) に示す形式のガイドラインに準拠していることを確認します。
- ステップ 2** 作成した新しい PNG ファイルを、Cisco Unified Communications Manager の TFTP サーバの次のサブディレクトリにアップロードします。
Desktops/800x480x24
- (注) ファイル名とサブディレクトリのパラメータは大文字と小文字を区別します。サブディレクトリのパスを指定する場合は、前方スラッシュ「/」を使用してください。
ファイルをアップロードするには、Cisco Unified Communications Operating System の管理ページで、[ソフトウェアアップグレード (Software Upgrades)] > [TFTP サーバファイルのアップロード (Upload TFTP Server File)] を選択します。詳細については、『Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide』の「Software Upgrades」を参照してください。
- (注) フォルダが存在しない場合、フォルダが作成され、そのフォルダにファイルがアップロードされます。
- ステップ 3** カスタマイズした画像とファイルは、電話機がファイルを取得するためにアクセスする可能性がある他の TFTP サーバにもコピーする必要があります。
- (注) Cisco はカスタム画像ファイルのバックアップコピーを他の場所にも保存することを推奨します。これらのバックアップコピーは、Cisco Unified Communications Manager のアップグレードの際、カスタマイズしたファイルが上書きされてしまうときに使用することができます。

- ステップ 4** テキスト エディタを使用して、List.xml ファイルを編集します。このファイルがある場所、形式の要件、およびサンプルファイルについては、[カスタム背景ファイル形式](#)、(165 ページ) を参照してください。
- ステップ 5** 修正内容を保存し、List.xml ファイルを閉じます。
- (注) Cisco Unified Communications Manager をアップグレードする際、デフォルトの List.xml ファイルによって、カスタマイズした List.xml ファイルが置き換えられます。List.xml ファイルをカスタマイズした後、ファイルのコピーを作成し他の場所に保存してください。Cisco Unified Communications Manager をアップグレードした後、デフォルトの List.xml ファイルを保存しておいたコピーに置き換えます。
- ステップ 6** 新しい List.xml ファイルをキャッシュするには、Cisco Unified Serviceability を使用して TFTP サービスを停止してから起動するか、[起動時の定数および bin ファイルのキャッシングの有効化 (Enable Caching of Constant and Bin Files at Startup)] TFTP サービス パラメータ ([拡張サービス パラメータ (Advanced Service Parameters)] 領域に含まれる) を無効にしてから再度有効にします。

カスタム背景ファイル形式

List.xml ファイルは、背景イメージのリストを保持した XML オブジェクトを定義しています。List.xml ファイルは TFTP サーバ上の次のサブディレクトリに保存されます。

Desktops/800x480x24



ヒント

ディレクトリ構造と List.xml ファイルを手動で作成する場合、TFTP サービスで使用されるユーザ (CCMSERVICE) からディレクトリとファイルがアクセスできることを確認してください。

詳細については、『Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide』の「Software Upgrades」を参照してください。

List.xml ファイルには、背景イメージを 50 個まで記述できます。画像は電話機の [背景イメージ (Background Images)] メニューに表示される順番にします。各画像に対して、List.xml ファイルに ImageItem と呼ばれる要素タイプを 1 つ記述します。ImageItem 要素には 2 つの属性があります。

- Image : 電話機の [背景イメージ (Background Images)] メニューに表示されるサムネール画像の取得先を示す Uniform Resource Identifier (URI) 。
- URL : フルサイズ画像の取得先を指定する URI。

次の例は、2 つの画像を定義した List.xml ファイルを示しています。それぞれの画像について、必須の Image および URL 属性を記述する必要があります。フルサイズ画像とサムネール画像にリンクするメソッドとしては、例で示されている TFTP URI のみがサポートされています。HTTP URL はサポートされていません。

List.xml の例

```
<CiscoIPPhoneImageList>
<ImageItem Image="TFTP:Desktops/800x480x24/TN-Fountain.png"
URL="TFTP:Desktops/640x480x24/Fountain.png"/>
<ImageItem Image="TFTP:Desktops/800x480x24/TN-FullMoon.png"
URL="TFTP:Desktops/640x480x24/FullMoon.png"/>
</CiscoIPPhoneImageList>
```

Cisco IP Phone のファームウェアには、デフォルトの背景イメージが含まれています。List.xml ファイルでは、この画像を定義していません。デフォルト画像は、常に電話機の [背景イメージ (Background Images)] メニューの最初に表示されます。

背景イメージごとに 2 つの PNG ファイルが必要です。

- フルサイズ画像：電話機で表示される画像。
- サムネール画像：ユーザが画像を選択できる [背景イメージ (Background Images)] 画面に表示される画像。フルサイズ画像の 25% のサイズである必要があります。



ヒント

多くの画像プログラムで画像のサイズを変更する機能を提供しています。サムネール画像を作成する簡単な方法としては、まずフルサイズ画像を作成して保存します。そして、画像プログラムのサイズ変更機能を使用して元のサイズの 25% の画像を作成します。サムネール画像には異なる名前を付けて保存します。

背景画像の PNG ファイルを Cisco IP Phone で正常に表示するには、ファイルが次の要件を満たしている必要があります。

- フルサイズイメージ：800 ピクセル（幅） X 480 ピクセル（高さ）
- サムネール画像：139 ピクセル（幅） X 109 ピクセル（高さ）



ヒント

グレースケール用のポストリゼーション機能をサポートする画像プログラムを使用している場合、チャンネルごとの階調レベルの数を 16 に設定すると、画像は 16 段階のグレースケールになるようポストリゼーションがかかります。

ワイドバンドコーデックのセットアップ

デフォルトでは、G.722 コーデックが Cisco IP Phone 8841、8851、8861 で有効です。Cisco Unified Communications Manager が G.722 を使用するように設定されており、通話先が G.722 をサポートしている場合、G.711 の代わりに G.722 コーデックを使用してコールを接続します。

この状態は、ユーザがワイドバンドヘッドセットまたはワイドバンドハンドセットを有効にしているかどうかを問わず発生します。ヘッドセットまたはハンドセットが有効になっている場合、ユーザはコール中の音声の感度がより高く感じられます。感度が高いことで音声の明瞭さは増しますが、紙が擦れる音や近くの会話など通話先から聞こえる背景のノイズもより多く聞こえます。ワイドバンドヘッドセットまたはハンドセットがない場合でも、G.722 の高い感度を煩わしく感じるユーザもいます。ユーザの中には G.722 の高い感度を好むユーザもいます。

[G.722 および iSAC コーデックのアドバタイズ (Advertise G.722 and iSAC Codec)] サービスパラメータは、パラメータが設定されている [Cisco Unified Communications Manager の管理 (Cisco Unified Communications Manager Administration)] ウィンドウによって、この Cisco Unified Communications Manager サーバまたは特定の電話機に登録されたすべてのデバイスに対してワイドバンドがサポートされているかどうかに影響します。

手順

-
- ステップ 1** すべてのデバイスにワイドバンドのサポートを設定する方法 :
- a) Cisco Unified CM の管理で、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] を選択します。
 - b) [G.722 および iSAC コーデックのアドバタイズ (Advertise G.722 and iSAC Codec)] フィールドを設定します。
このエンタープライズパラメータのデフォルト値は True です。この Cisco Unified Communications Manager に登録されているすべての Cisco IP Phone モデルが Cisco Unified Communications Manager に G.722 をアドバタイズすることを意味します。コールにおいて通話元および通話先の電話機が機能セットで G.722 をサポートしている場合、Cisco Unified Communications Manager は可能な限りこのコーデックを選択します。
- ステップ 2** 特定のデバイスにワイドバンドのサポートを設定する方法 :
- a) Cisco Unified CM の管理で、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。
 - b) [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] 領域の [G.722 および iSAC コーデックのアドバタイズ (Advertise G.722 and iSAC Codec)] パラメータを設定します。
この製品固有のパラメータのデフォルト値には、エンタープライズパラメータで指定されている値を使用します。電話機ごとにこれを上書きする場合は、[有効 (Enabled)] または [無効 (Disabled)] を選択します。
-

未使用時画面のセットアップ

電話機のスクリーンに表示されるアイドル表示 (テキストのみ。テキストファイルのサイズは 1 MB 以下) を指定できます。アイドル表示は XML サービスです。このサービスは、指定された期間にわたって電話機がアイドル (未使用) 状態にあり、機能メニューが開いていない場合に、電話機によって呼び出されます。

アイドル表示の作成および表示方法の詳細については、次の URL で『*Creating Idle URL Graphics on Cisco IP Phone*』を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/products_tech_note09186a00801c0764.shtml

また、次の情報については、『*Cisco Unified Communications Manager Administration Guide*』または『*Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration Guide*』を参照してください。

- アイドル表示 XML サービスの URL の指定

- 1 台の電話機に指定する場合：Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [電話の設定 (Phone configuration)] ウィンドウにある [アイドル (Idle)] フィールド。
 - 複数の電話機に同時に指定する場合：[エンタープライズパラメータ設定 (Enterprise Parameters Configuration)] ウィンドウにある [URL アイドル (URL Idle)] フィールド、または一括管理ツール (BAT) の [アイドル (Idle)] フィールド
- アイドル表示 XML サービスを起動するまでの電話機の未使用時間の指定
 - 1 台の電話機に指定する場合：Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [電話の設定 (Phone configuration)] ウィンドウにある [アイドルタイマー (Idle Timer)] フィールド。
 - 複数の電話機に同時に指定する場合：[エンタープライズパラメータ設定 (Enterprise Parameters Configuration)] ウィンドウにある [URL アイドル時間 (URL Idle Time)] フィールド、または一括管理ツール (BAT) の [アイドルタイマー (Idle Timer)] フィールド

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager Administration で、[設定 (Settings)]>[デバイス設定 (Device Configuration)] を選択します。
 - ステップ 2** [アイドル URL (Idle URL)] フィールドに、未使用時画面 XML サービスの URL を入力します。
 - ステップ 3** [URL のアイドル時間 (Idle URL Time)] フィールドに、未使用時画面 XML サービスを表示するまでアイドル状態の電話機が待機する時間を入力します。
 - ステップ 4** [保存 (Save)] を選択します。
-



第 11 章

電話機の機能および設定

- 電話機の機能および設定の概要, 170 ページ
- Cisco IP Phone ユーザのサポート, 171 ページ
- テレフォニー機能, 171 ページ
- 機能ボタンとソフトキー, 192 ページ
- スピーカーフォンを無効にする, 194 ページ
- Cisco IP Phone での省電力のスケジュール, 194 ページ
- Cisco IP Phone での Power Save Plus (EnergyWise) のスケジュール, 196 ページ
- エージェント グリーティングの有効化, 200 ページ
- DF ビットのセットアップ, 201 ページ
- サイレントの設定, 202 ページ
- モニタリングと録音のセットアップ, 203 ページ
- LLDP の電力ネゴシエーションのセットアップ, 204 ページ
- Bluetooth プロファイルのセットアップ, 204 ページ
- 自動ポート同期の設定, 205 ページ
- SSH アクセスの設定, 205 ページ
- コールの転送通知のセットアップ, 206 ページ
- クライアント識別コードのセットアップ, 207 ページ
- コールの回線ステータスのリストの有効化, 208 ページ
- デュアルバンク情報のセットアップ, 208 ページ
- 強制承認コードの設定, 209 ページ
- 着信コール Toast タイマーの設定, 209 ページ

- [ピア ファームウェア共有の設定, 210 ページ](#)
- [リモート ポート設定のセットアップ, 211 ページ](#)
- [ヘッドセットの側音制御の設定, 212 ページ](#)
- [デバイスから呼び出された録音を有効化, 213 ページ](#)
- [Release ボタンからのダイヤル トーンの設定, 214 ページ](#)
- [パーク モニタリング, 214 ページ](#)
- [実行可能な着信呼警告の有効化, 218 ページ](#)
- [コール履歴表示拡張の有効化, 219 ページ](#)
- [共有回線のコール履歴の有効化, 220 ページ](#)
- [デフォルト回線フィルタのセットアップ, 220 ページ](#)
- [カスタム回線フィルタのセットアップ, 221 ページ](#)
- [電話ボタン テンプレート, 221 ページ](#)
- [電話機の Web ページへのアクセスの制御, 225 ページ](#)
- [ソフトキー テンプレートの設定, 226 ページ](#)
- [RTP/sRTP ポート範囲のセットアップ, 229 ページ](#)
- [TLS 再開タイマーのセットアップ, 230 ページ](#)
- [ビジュアル ボイスメールのセットアップ, 231 ページ](#)
- [特定ユーザのビジュアル ボイスメールのセットアップ, 232 ページ](#)
- [ユーザ グループのビジュアル ボイスメールのセットアップ, 232 ページ](#)

電話機の機能および設定の概要

Cisco IP Phone をネットワークに設置し、ネットワークの設定値を設定して、IP Phone を Cisco Unified Communications Manager に追加した後は、Cisco Unified Communications Manager の管理アプリケーションを使用して、テレフォニー機能を設定する必要があります。必要に応じて、電話テンプレートの修正、サービスのセットアップ、ユーザの割り当ても行います。

Cisco IP Phone のその他の設定値は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで変更できます。この Web ベースのアプリケーションを使用して、電話機登録基準とコーリング スペースのセットアップ、社内ディレクトリとサービスの設定、電話ボタンテンプレートの修正、その他のタスクを行うことができます。

関連トピック

[Cisco IP Phone ユーザのサポート, \(171 ページ\)](#)

[Cisco Unified Communications Manager のマニュアル, \(xv ページ\)](#)

[各言語ユーザのサポート, \(315 ページ\)](#)

Cisco IP Phone ユーザのサポート

システム管理者は、多くの場合、ネットワーク内や社内の Cisco IP Phone ユーザの主な情報源になります。最新の詳細な情報をエンドユーザに提供する必要があります。

Cisco IP Phone の機能（スピードダイヤル、サービス、ボイス メッセージ システムのオプションなど）を正常に使用するには、ユーザはシステム管理者やシステム管理者のネットワーク チームから情報を入手する必要があります。また、支援を受けるためにシステム管理者に問い合わせ可能な環境が必要です。支援を求める際の連絡先の担当者の名前、およびそれらの担当者に連絡する手順をユーザに提供しておく必要があります。

シスコでは、エンドユーザに Cisco IP Phone に関する重要な情報を提供するために、社内のサポート サイトに Web ページを作成することを推奨しています。

このサイトには、次のタイプの情報を含めるように考慮してください。

- サポートするすべての Cisco IP Phone モデルのユーザ ガイド
- Cisco Unified Communications セルフ ケア ポータルへのアクセス方法に関する情報
- サポートされている機能のリスト
- ボイスメール システムのユーザ ガイドまたはクイック リファレンス

テレフォニー機能

Cisco IP Phone を Cisco Unified Communications Manager に追加した後、電話機に機能を追加できません。次の表に、サポートされているテレフォニー機能のリストを示します。これらの多くは、Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して設定できます。

電話機のほとんどの機能の使用法の詳細については、『*Cisco Unified IP Phone 8841, 8851, and 8861 User Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。プログラム可能ボタンおよび専用のソフトキーや機能ボタンとして設定できる機能の一覧については、[機能ボタンとソフトキー](#)、(192 ページ) を参照してください。



(注) Cisco Unified Communications Manager の管理ページには、各種のテレフォニー機能を設定するためのサービス パラメータもいくつかあります。サービス パラメータへのアクセスと設定方法については、『*Cisco Unified Communications Manager Administration Guide*』を参照してください。

サービスの機能の詳細については、[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウでパラメータ名を選択するか、ヘルプ ボタン (?) を選択します。

機能	説明と詳細情報
短縮ダイヤル	<p>ユーザは、事前に割り当てておいたインデックス コード (1 ~ 199) を電話機のキーパッドで入力することで、電話番号をすばやくダイヤルできます。</p> <p>(注) 短縮ダイヤルは、オンフックでもオフフックでも使用できません。</p> <p>ユーザはセルフ ケア ポータルからインデックス コードを割り当てます。</p> <p>参照先：</p> <ul style="list-style-type: none"> 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Cisco Unified IP Phone setup」 『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phone」
エージェント グリーティング	<p>エージェントが事前録音したグリーティングを作成したり更新したりできるようにします。このグリーティングは、エージェントが発信者と話しはじめる前に、顧客コールの開始時に再生されます。エージェントは、必要に応じて1つまたは複数のグリーティングを事前録音できます。</p> <p>エージェント グリーティングの有効化 (200 ページ) を参照してください。</p>
すべてのコール ピックアップ	<p>コールがどのように電話機にルーティングされたかに関係なく、ユーザはコール ピックアップ グループ内の任意の回線でコールをピックアップできます。</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Call Pickup Configuration」の章を参照してください。</p>
処理されたダイレクト コールパーク	<p>ユーザは、ダイレクトパーク機能を使用して、1つのボタンを押すだけでコールをパークすることができます。管理者は、ビジーランプフィールド (BLF) の [処理されたダイレクト コールパーク (Assisted Directed Call Park)] ボタンを設定する必要があります。アクティブコールに対してアイドルな BLF の [処理されたダイレクト コールパーク (Assisted Directed Call Park)] ボタンを押すと、アクティブ コールは、[処理されたダイレクト コールパーク (Assisted Directed Call Park)] ボタンに関連付けられたダイレクトパーク スロットにパークされます。</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Assisted Directed Call Park」の章を参照してください。</p>
オーディオ メッセージ受信インジケータ (AMWI)	<p>ハンドセット、ヘッドセット、またはスピーカーフォンから聞こえるスタッター音により、ユーザが回線で新しいボイスメッセージを1つ以上受信したことが示されます。</p> <p>(注) スタッター音は回線によって異なります。この音が聞こえるのは、使用中の回線でメッセージを受信した場合のみです。</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phone」の章を参照してください。</p>

機能	説明と詳細情報
自動応答	<p>呼出音を 1 ～ 2 回鳴らした後に、着信コールを自動的に接続します。</p> <p>自動応答は、スピーカーフォンとヘッドセットのどちらでも機能します。</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Directory Number Configuration」の章を参照してください。</p>
自動ポート同期	<p>電話機のポート間で最も低い速度にポートを同期し、パケット損失を防止します。</p> <p>自動ポート同期の設定, (205 ページ) を参照してください。</p>
自動ピックアップ	<p>ユーザは、コールピックアップのための、ワンタッチのピックアップ機能を使用できます。</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Call Pickup」の章を参照してください。</p>
外線から外線への転送のブロック	<p>外線コールをユーザが別の外線コールに転送することを禁止します。</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「External Call Transfer Restrictions」の章を参照してください。</p>
ビジー ランプ フィールド (BLF)	<p>ユーザは、電話機のスピードダイヤルボタンに関連付けられている電話番号のコール状態をモニタできます。</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Presence」の章を参照してください。</p>
ビジー ランプ フィールド (BLF) ピックアップ	<p>BLF 短縮ダイヤルの拡張機能です。ユーザが着信コールをモニタリングできるように、電話番号を設定できます。電話番号が着信コールを受信すると、モニタリングしているユーザに対してシステムからアラートが発生し、コールをピックアップすることができます。</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Call Pickup」の章を参照してください。</p>
折り返し	<p>通話の相手が話し中や通話不能だった場合、その相手が通話可能になったときに、ユーザの電話機に音声による通知と画面表示による通知が送信されます。</p> <p>参照先：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phone」 • 『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Cisco Call Back」

機能	説明と詳細情報
コール表示の制限	<p>発信回線および接続回線について表示する情報を、コールに関する通話相手に応じて決定します。</p> <p>参照先：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Cisco Unified IP Phone Configuration」 • 『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Understanding Route Plans」 • 『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Call Display Restrictions」
コール転送	<p>ユーザが着信コールを別の番号にリダイレクトできるようにします。コール転送オプションには、すべてのコールの転送、話中転送、無応答時転送、およびカバレッジなし時転送があります。</p> <p>参照先：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Directory Number Configuration」 • 『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phone」 • セルフ ケア ポータルの表示のカスタマイズ, (94 ページ)
不在転送ループのブレイクアウト	<p>不在転送ループを検出して防止します。不在転送ループが検出されると、[すべてのコールの転送 (Call Forward All)] の設定が無視されて呼出音が鳴ります。</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phone」の章を参照してください。</p>
すべてのコールの転送のループ防止	<p>不在転送ループを検出して防止します。不在転送ループが検出されると、[すべてのコールの転送 (Call Forward All)] の設定が無視されて呼出音が鳴ります。</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phone」の章を参照してください。</p>

機能	説明と詳細情報
<p>コール転送時の表示内容の設定</p>	<p>ユーザが、[すべてのコールの転送 (Call Forward All)] の接続先を電話機で直接設定する際に、不在転送ループが生じたり、既存の Forward Maximum Hop Count サービスパラメータに定められたホップ数の上限を超える不在転送チェーンが生じたりしないように防止します。</p> <p>参照先：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Directory Number Configuration」 • 『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phone」
<p>不在転送の接続先の無効化</p>	<p>管理者は、すべてのコールの転送 (CFA) の接続先が CFA の転送元にコールを発信する場合には CFA を無効にすることができます。この機能により、CFA の接続先は、重要なコールがある場合に CFA の転送元に到達できるようになります。この無効化は、CFA の接続先の電話番号が内部か外部かに関係なく動作します。</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Understanding Directory Numbers」の章を参照してください。</p>
<p>コールの転送通知</p>	<p>転送されたコールを受信したときに表示される情報を設定できます。</p> <p>コールの転送通知のセットアップ、(206 ページ) を参照してください。</p>
<p>共有回線のコール履歴</p>	<p>電話機のコール履歴に共有回線のアクティビティを表示できるようにします。この機能により次の内容が可能になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 共有回線の不在着信をログに記録する • 共有回線のすべての応答済み着信と発信履歴をログに記録する <p>共有回線のコール履歴の有効化、(220 ページ) を参照してください。</p>
<p>コール パーク</p>	<p>ユーザがコールをパーク (一時的に保存) し、Cisco Unified Communications Manager システムの別の電話機を使用してそのコールに応答できます。</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Call Park and Directed Call Park」の章を参照してください。</p>

機能	説明と詳細情報
コール ピックアップ	<p>ユーザは、自分のピックアップグループに属する別の電話機で呼出音が鳴っている場合に、そのコールを自分の電話機にリダイレクトできます。</p> <p>電話機のプライマリ回線に、音声によるアラートと画面表示によるアラートを設定できます。このアラートによって、ピックアップグループ内でコールの呼び出しがあることが通知されます。</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Call Pickup」の章を参照してください。</p>
コール録音	<p>スーパーバイザは、アクティブ コールを記録できます。コールが記録されている場合、コール中に記録音声アラート トーンがユーザに聞こえることがあります。</p> <p>コールがセキュアな場合、そのコールのセキュリティ ステータスが Cisco IP Phone に鍵のアイコンとして表示されます。コールがセキュアであり、記録されていることを示す音声アラート トーンは、接続先の通話者にも聞こえることがあります。</p> <p>(注) アクティブ コールがモニタまたは記録されている場合、インターコム コールの受信または発信は可能ですが、インターコム コールを発信するとアクティブ コールが保留になります。これにより、録音セッションは終了し、モニタリングセッションは一時停止されます。モニタリングセッションを再開するには、コールをモニタされている通話者がコールを再開する必要があります。</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Monitoring and Recording」の章を参照してください。</p>
コール待機	<p>コールの最中に別の着信コールの呼出音が鳴っていることを通知し、ユーザが応答できるようにします。また、着信コールの情報を電話スクリーンに表示します。</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Understanding Directory Numbers」を参照してください。</p>
コール待機呼び出し音	<p>標準ビープ音の代わりに呼び出し音を鳴らすオプションを、コール待機中のユーザに提供します。</p> <p>オプションは、[一度鳴らす (Ring Once)]および[鳴らす (Ring)]です。</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Directory Numbers」を参照してください。</p>

機能	説明と詳細情報
<p>発信者 ID</p>	<p>電話番号、名前、その他の説明テキストなど、発信者の識別情報を電話スクリーンに表示します。</p> <p>参照先：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Cisco Unified IP Phone Configuration」 • 『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Understanding Route Plans」 • 『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Call Display Restrictions」 • 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Directory Number Configuration」
<p>発信者 ID ブロック</p>	<p>発信者 ID が有効になっている電話機から、ユーザが自分の電話番号または電子メールアドレスをブロックできるようにします。</p> <p>参照先：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Understanding Route Plans」 • 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Directory Number Configuration」
<p>発信側の正規化</p>	<p>発信側の正規化では、ダイヤル可能な電話番号として電話番号がユーザに示されます。エスケープコードが番号に付加されるため、ユーザは簡単に発信者に再度接続できます。ダイヤル可能な番号は通話履歴に保存され、個人アドレス帳に保存できます。</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Calling Party Normalization」の章を参照してください。</p>
<p>SIP の CAST サポート</p>	<p>Cisco Unified Video Advantage (CUVA) と Cisco IP Phone の間の通信を確立し、IP Phone がビデオ機能を装備していない場合でも PC でビデオを使用できるようにします。</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』を参照してください。</p>

機能	説明と詳細情報
C 割り込み	<p>ユーザが共有電話回線でプライベートコール以外のコールに参加できるようにします。C 割り込みでは、ユーザをコールに追加し、それを会議に変換することで、そのユーザと他の通話者が会議機能にアクセスできるようにします。</p> <p>参照先：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Cisco Unified IP Phone Configuration」 • 『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phone」 • 『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Barge and Privacy」
モバイル デバイスの充電	<p>Cisco IP Phone の USB ポートに接続することで、モバイル デバイスを充電できます。</p> <p>『Cisco IP Phone 8841, 8851, and 8861 User Guide for Cisco Unified Communications Manager (SIP)』の「Charge Your Mobile Device」を参照してください。</p>
Cisco エクステンション モビリティ	<p>共有 Cisco IP Phone から自分の Cisco IP Phone の設定（ライン アピアランス、サービス、スピードダイヤルなど）に一時的にアクセスできます。それには、共有 Cisco IP Phone の Cisco エクステンション モビリティ サービスにログインする際に、自分の電話機の Cisco エクステンション モビリティ サービスにログインします。</p> <p>Cisco エクステンション モビリティは、社内の複数の場所でユーザが業務を行う場合や、作業場を同僚と共有する場合に便利です。</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Cisco Extension Mobility」の章を参照してください。</p>
Cisco Extension Mobility Cross Cluster (EMCC)	<p>特定のクラスターで設定されたユーザが、別のクラスターにある Cisco IP Phone にログインできます。ユーザはホーム クラスターから、訪問先クラスターにある Cisco IP Phone にログインします。</p> <p>(注) EMCC を設定する前に、Cisco IP Phone で Cisco エクステンション モビリティを設定してください。</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Cisco Extension Mobility Cross Cluster」の章を参照してください。</p>
Cisco IP Phone 8800 キー拡張モジュール	<p>追加キーを提供します。</p> <p>Cisco IP Phone キー拡張モジュール、(111 ページ) を参照してください。</p>

機能	説明と詳細情報
Cisco Unified Communications Manager Express (Unified CME) のバージョンネゴシエーション	<p>Cisco Unified Communication Manager Express は、電話機に送信される情報内で特殊なタグを使用して自身を識別します。このタグにより、電話機はスイッチがサポートしているサービスをユーザに提供できます。</p> <p>参照先：</p> <ul style="list-style-type: none"> 『Cisco Unified Communications Manager Express System Administrator Guide』 Cisco Unified Communications Manager Express の連携, (15 ページ)
Cisco Unified Video Advantage (CUVA)	<p>Cisco IP Phone、パーソナル コンピュータ、および外付けビデオ カメラを使用することにより、ユーザがビデオ コールを発信できるようにします。</p> <p>(注) [電話の設定 (Phone Configuration)] の [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] で、ビデオ機能のパラメータを設定します。</p> <p>Cisco Unified Video Advantage のマニュアルを参照してください。</p>
Cisco WebDialer	<p>Web およびデスクトップアプリケーションから電話をかけることができます。</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Cisco WebDialer」の章を参照してください。</p>
従来の呼出音	<p>電話機ファームウェア組み込みの、または Cisco Unified Communications Manager からダウンロードされる呼出音をサポートします。この機能により、使用可能な呼出音を他の Cisco IP Phone と共通化できます。</p> <p>カスタム電話呼出音, (161 ページ) を参照してください。</p>
クライアント識別コード (CMC)	<p>コールが特定のクライアントに関連するように指定できます。</p> <p>クライアント識別コードのセットアップ, (207 ページ) を参照してください。</p>
会議	<p>ユーザは、各参加者を個別に呼び出して、複数の通話相手と同時に話すことができます。会議機能には、会議とミートミーがあります。</p> <p>標準 (アドホック) 会議では、開催者以外でも参加者を追加または削除できます。また、どの会議参加者でも同じ回線上の2つの標準会議を結合できます。</p> <p>[拡張アドホック会議 (Advance Adhoc Conference)] サービスパラメータ (Cisco Unified Communications Manager の管理ページではデフォルトで無効になっています) を使用すれば、これらの機能を有効化できます。</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Conference Bridges」および「Cisco Unified IP Phone」の章を参照してください。</p> <p>(注) ユーザに対し、これらの機能がアクティブであるかどうかを必ず通知してください。</p>

機能	説明と詳細情報
CTI アプリケーション	<p>Computer Telephony Integration (CTI) ルートポイントでは、仮想デバイスを指定して、アプリケーションが宛先変更を制御している多重同時コールを受信することができます。</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「CTI Route Point Configuration」の章を参照してください。</p>
すべて拒否	<p>ユーザは、呼び出し中のコール、接続されたコール、または保留中のコールを、ボイスメッセージシステムに直接転送できます。コールが拒否されると、その回線は新しいコールの発信または受信に使用できるようになります。</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Immediate Divert」の章を参照してください。</p>
デバイスから呼び出された録音	<p>エンドユーザがソフトキーを使用して電話コールを録音できる機能を提供します。</p> <p>また、管理者は CTI ユーザ インターフェイスを使用して電話コールの録音を継続できます。</p> <p>デバイスから呼び出された録音を有効化, (213 ページ) を参照してください。</p>
ダイレクト コール パーク	<p>ユーザが、使用可能なダイレクト コール パーク 番号をダイヤルまたは短縮ダイヤルし、その番号にアクティブなコールを転送できる機能です。コールパーク BLF ボタンは、ダイレクト コール パーク 番号が使用中かどうかを表示するとともに、ダイレクト コール パーク 番号への短縮ダイヤルアクセスにも使用できます。</p> <p>(注) ダイレクト コール パーク 機能を実装する場合は、[パーク (Park)] ソフトキーを設定しないでください。これは、ユーザが 2 つのコールパーク機能を混同するのを防ぐためです。</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Call Park and Directed Call Park」の章を参照してください。</p>
固有呼び出し音	<p>ユーザは、着信コールや新しいボイスメッセージを電話機で示す方法をカスタマイズできます。</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Call Pickup」の章を参照してください。</p>
サイレント (DND)	<p>DND をオンにすると、コールが呼び出し状態になっても呼出音が鳴らなくなります。またあらゆる種類の表示や音による通知も、一切行われません。</p> <p>サイレントの設定, (202 ページ) を参照してください。</p>

機能	説明と詳細情報
EnergyWise	<p>省エネのために、あらかじめ決められた時刻に IP Phone をスリープ（電源オフ）および復帰（電源オン）させることができます。</p> <p>Cisco IP Phone での Power Save Plus (EnergyWise) のスケジュール, (196 ページ) を参照してください。</p>
クラスタ間のセキュアなエクステンション モビリティの機能強化 (EMCC)	<p>この拡張によって、ネットワークとセキュリティの設定がログイン電話で保存されるため、クラスタ間のセキュアなエクステンションモビリティ (EMCC) 機能が強化されます。これにより、セキュリティ ポリシーが保持され、ネットワーク帯域幅が維持されて、訪問先クラスタ (VC) 内のネットワーク障害が回避されます。</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Cisco Extension Mobility Cross Cluster」の章を参照してください。</p>
ファスト ダイヤル サービス	<p>ユーザは、ファスト ダイヤル コードを入力してコールを発信できます。ファスト ダイヤル コードは、電話番号または [個人アドレス帳 (Personal Address Book)] エントリに割り当てることができます。この表の「サービス」を参照してください。</p> <p>PAB またはファスト ダイヤル用の電話ボタンテンプレートの変更, (224 ページ) を参照してください。</p>
Forced Authorization Code (FAC)	<p>特定のユーザが発信できるコールのタイプを制御します。</p> <p>強制承認コードの設定, (209 ページ) を参照してください。</p>
ヘッドセットの側音の制御	<p>管理者は、有線ヘッドセットの側音レベルを設定できます。</p> <p>ヘッドセットの側音制御の設定, (212 ページ) を参照してください。</p>
グループ コール ピックアップ	<p>ユーザが、別のグループの電話番号で呼び出し音が鳴っているコールに応答することができます。</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Call Pickup」の章を参照してください。</p>

機能	説明と詳細情報
保留復帰	<p>コールの保留時間を制限します。制限時間が経過すると、コールは保留にした側の電話機に復帰し、ユーザにアラートが通知されます。</p> <p>復帰コールの通知は、着信コールの場合とは異なり、1回の呼出音（回線の新規コールインジケータの設定によってはビープ音）によって行われます。この通知は、コールが再開されるまで、一定の間隔で繰り返されます。</p> <p>コールが保留復帰した場合は、さらに、コールバブルにアニメーションのアイコンが表示されます。コールのフォーカス優先度を着信コールまたは復帰コールのどちらかに設定できます。</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Hold Reversion」の章を参照してください。</p>
保留状態	<p>共有回線を持つ電話機では、ローカル回線とリモート回線のいずれがコールを保留したのかを区別できます。</p>
保留/復帰	<p>ユーザは、接続されたコールをアクティブな状態から保留状態に移行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 設定は必要ありません。ただし、保留音を使用する場合には必要です。詳細については、この表の「保留音」を参照してください。 • この表の「保留復帰」を参照してください。
HTTP ダウンロード	<p>HTTPをデフォルトで使用することで、電話機へのファイルのダウンロードプロセスが向上します。HTTPダウンロードが失敗した場合、電話機はTFTPダウンロードの使用に戻ります。</p>
ハント グループ	<p>主要な電話番号へのコールに対して、ロードシェアリングを行います。ハントグループには、着信コールに応答できる一連の電話番号が含まれています。ハントグループ内の最初の電話番号が話し中の場合、システムは、グループ内で次に使用可能な電話番号を所定の順序で検索して特定し、その電話機にコールを転送します。</p> <p>参照先：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 『Cisco Communications Manager Administration Guide』の「Hunt Group Configuration」 • 『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Understanding Route Plans」
着信コール Toast タイマー	<p>電話機の画面に着信コール Toast（通知）が表示される時間を設定できます。着信コール Toast タイマーの設定、(209 ページ) を参照してください。</p>

機能	説明と詳細情報
<p>インターコム</p>	<p>ユーザが、プログラム可能な電話のボタンを使用して、インターコムコールを発信したり受信したりできます。インターコム回線のボタンを設定すると、次を実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 特定のインターコム内線番号への直接的なダイヤル。 • インターコムコールを開始してから、有効なインターコム番号の入力をユーザに要求。 <p>(注) ユーザが毎日同じ電話機にログインする場合は、それらのユーザの Cisco Extension Mobility のプロファイルを使用し、インターコム情報を含む電話ボタンテンプレートをユーザのプロファイルに割り当て、その電話機をインターコム回線のデフォルトのインターコム デバイスとして指定します。</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Intercom」の章を参照してください。</p>
<p>ジッターバッファ</p>	<p>ジッターバッファ機能は、オーディオストリームについて 10 ミリ秒 (ms) ~ 1000 ms のジッターを処理します。</p>
<p>参加</p>	<p>ユーザが、同一電話回線上にある 2 つのコールを、1 つの会議コールとして接続したうえで、そのコールに留まることができます。</p>
<p>ハントグループからのログアウト</p>	<p>ユーザは、コールを受けることができない場合に、ハントグループからログアウトし、一時的にユーザの電話機で呼出音が鳴らないようにすることができます。ハントグループからログアウトしても、ハントグループ以外のコールでは、引き続き電話機で呼出音が鳴ります。</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Understanding Route Plans」を参照してください。</p>
<p>コールリストの回線ステータス</p>	<p>ユーザは、モニタ対象の回線番号の回線ステータス (可用性ステータス) を通話履歴リストで確認できます。回線ステータスには、次の状態があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • オフライン (Offline) • アイドル (Idle) • ビジー (Busy) • DND <p>コールの回線ステータスのリストの有効化, (208 ページ) を参照してください。</p>

機能	説明と詳細情報
迷惑呼 ID (MCID)	<p>ユーザが、不審なコールを受信したことをシステム管理者に通知できる機能です。</p> <p>参照先：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phone」 • 『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Malicious Call Identification」
ミーティング	<p>ユーザがミーティングを開始し、参加ユーザは予定の時刻に、あらかじめ決められた番号にコールをかけます。</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Meet Me Number/Pattern Configuration」の章を参照してください。</p>
メッセージ受信	<p>メッセージ受信のオンおよびオフのインジケータに対する電話番号を定義します。直接接続型のボイスメッセージシステムでは、指定された電話番号を使用して、特定の Cisco IP Phone のメッセージ受信インジケータを設定したりクリアしたりします。</p> <p>参照先：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Message Waiting Configuration」 • 『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Voice Mail Connectivity to Cisco Unified Communications Manager」
メッセージ受信インジケータ	<p>ハンドセットのランプの1つで、ユーザに対する1つまたは複数の新着ボイスメッセージが届いていることを示します。</p> <p>参照先：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Message Waiting Configuration」 • 『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Voice Mail Connectivity to Cisco Unified Communications Manager」
最小呼出音量	<p>IP Phone の最小呼出音量レベルを設定します。</p>
不在履歴のログ	<p>ユーザが、特定のラインアピランンスで不在履歴を不在履歴ディレクトリに記録するかどうかを指定できるようにします。</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Directory Number Configuration」の章を参照してください。</p>

機能	説明と詳細情報
モバイル コネクト	<p>ユーザは、1つの電話番号を使用してビジネス コールを管理したり、デスクトップ電話機および携帯電話などのリモート デバイスで、進行中のコールをピックアップしたりすることができます。また、電話番号や時刻に応じて、発信者グループを制限できます。</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Cisco Unified Mobility」の章を参照してください。</p>
モバイル ボイス アクセス	<p>モバイルコネクト機能が拡張され、ユーザは自動音声応答 (IVR) システムにアクセスして、携帯電話などのリモートデバイスからコールを発信できるようになります。</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Cisco Unified Mobility」の章を参照してください。</p>
モニタリングおよび録音	<p>スーパーバイザは、アクティブ コールのサイレント モニタリングを実行できます。スーパーバイザの音声はコールのどちらの側にも聞こえません。コールがモニタされている場合、コール中にモニタリング音声アラート トーンがユーザに聞こえることがあります。</p> <p>コールがセキュアな場合、そのコールのセキュリティ ステータスが Cisco IP Phone に鍵のアイコンとして表示されます。コールがセキュアであり、モニタリングされていることを示す音声アラート トーンは、接続先の通話者にも聞こえることがあります。</p> <p>(注) アクティブ コールがモニタまたは記録されている場合、インターコム コールの受信または発信は可能ですが、インターコム コールを発信するとアクティブ コールが保留になります。これにより、録音セッションは終了し、モニタリングセッションは一時停止されます。モニタリングセッションを再開するには、コールをモニタされている通話者がコールを再開する必要があります。</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Monitoring and Recording」の章を参照してください。</p>
ライン アピアランス 1 つあたりのコール数	<p>各回線は複数のコールに対応できます。デフォルトで、電話機は1回線あたり2つのアクティブ コールをサポートし、最大で1回線あたり6つのアクティブ コールをサポートします。ある時点では1コールだけが接続でき、他のコールは自動的に保留になります。</p> <p>システムでは、最大コール/ビジー トリガーを 6/6 以下で設定できます。6/6 を超える設定は公式にはサポートされていません。</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Directory Number Configuration」の章を参照してください。</p>

機能	説明と詳細情報
Music On Hold (保留音)	<p>発信者が保留状態になっている間、音楽を再生します。</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Music On Hold」の章を参照してください。</p>
ミュート	<p>ハンドセットまたはヘッドセットのマイクをミュート状態にします。</p>
アラート名なし	<p>元の発信者の電話番号を表示することで、エンドユーザが転送されたコールを簡単に識別できるようにします。コールはアラート コールとして表示され、その後に発信者の電話番号が表示されます。</p>
オンフック ダイヤル	<p>ユーザは、オフフックにすることなく、番号をダイヤルできます。次に、ハンドセットを持ち上げるか、[ダイヤル (Dial)] を押します。</p>
他のグループのピックアップ	<p>ユーザは、ユーザのグループに関連付けられている別のグループの電話機で呼出音が鳴っている場合に、そのコールに応答できます。</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Call Pickup」の章を参照してください。</p>
エクステンション モビリティ ユーザ向けの電話機の表示メッセージ	<p>この機能は、わかりやすいメッセージを提供することで、エクステンション モビリティ ユーザの電話インターフェイスを拡張します。</p>
キュー統計情報の PLK サポート	<p>キュー統計情報の PLK サポート機能により、ユーザは、ハントパイロットのコール キュー統計を照会することができ、情報が電話機の画面に表示されます。</p>
プラス ダイヤル	<p>ユーザが先頭にプラス (+) 記号を付けて E.164 番号をダイヤルできるようにします。</p> <p>+ 記号をダイヤルするには、ユーザはアスタリスク (*) キーを 1 秒以上押し続ける必要があります。これは、オンフック (編集モードを含む) またはオフフック コールの最初の桁のダイヤルに適用されます。</p>
LLDP での電力ネゴシエーション	<p>電話機では Link Level Endpoint Discovery Protocol (LLDP) および Cisco Discovery Protocol (CDP) を使用して電力をネゴシエートできます。</p> <p>LLDPの電力ネゴシエーションのセットアップ, (204ページ) を参照してください。</p>

機能	説明と詳細情報
<p>プライバシー</p>	<p>回線を共有しているユーザが、コールに自分を追加すること、および他のユーザのコールに関する情報を電話ディスプレイに表示することを禁止します。</p> <p>参照先：</p> <ul style="list-style-type: none"> 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Cisco Unified IP Phone Configuration」の章 『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phones」の章 『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Barge and Privacy」の章
<p>Private Line Automated Ringdown (PLAR)</p>	<p>Cisco Unified Communications Manager の管理者は、ハンドセットをオフフックにすると Cisco IP Phone がただちにダイヤルする電話番号を設定できます。この機能は、緊急連絡や「ホットライン」の番号にコールするための電話機を用意する場合に役立ちます。</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Directory Number Configuration」の章を参照してください。</p>
<p>プログラム可能な機能ボタン</p>	<p>発信、折返し、不在転送などの機能を回線ボタンに割り当てることができます。</p> <p>参照先：</p> <ul style="list-style-type: none"> 『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phones」の章 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Phone Button Template Configuration」の章
<p>品質レポートツール (QRT)</p>	<p>ユーザが、ボタンを押して、問題のあるコールの情報を送信できます。QRT は、QRT に必要なユーザ インタラクションの量に応じて、2つのユーザモードのどちらかに設定できます。</p> <p>参照先：</p> <ul style="list-style-type: none"> 『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phones」の章 『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Quality Report Tool」の章
<p>リダイヤル</p>	<p>ユーザは、ボタンを押すか、[リダイヤル (Redial)] ソフトキーを押して、最後にダイヤルした電話番号にコールをかけることができます。</p>

機能	説明と詳細情報
<p>リモート接続先へのダイレクトコールの会社電話番号への再ルーティング</p>	<p>ユーザの携帯電話に直接かかってきたコールを会社の電話番号（固定電話）にルーティングできます。リモート接続先（携帯電話）への着信コールでは、リモート接続先でのみ呼出音が鳴り、デスクトップフォンの呼出音は鳴りません。携帯電話でコールに応答すると、デスクフォンに「リモートで使用中（Remote In Use）」というメッセージが表示されます。これらのコール中、ユーザは自身の携帯電話のさまざまな機能を使用できます。</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Cisco Unified Mobility」の章を参照してください。</p>
<p>リモートポート設定</p>	<p>Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して、電話機のイーサネットポートの速度とデュプレックス機能をリモートで設定できます。これにより、具体的なポート設定を伴う大規模な導入のパフォーマンスが向上します。</p> <p>(注) Cisco Unified Communications Manager のリモートポート設定用にポートが設定されている場合は、電話機のデータを変更することはできません。</p> <p>リモートポート設定のセットアップ, (211 ページ) を参照してください。</p>
<p>呼出音の設定</p>	<p>電話機に別のアクティブコールが着信したときに、回線で使用される呼出音タイプを指定します。</p> <p>参照先：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Directory Number Configuration」の章 • カスタム電話呼出音, (161 ページ)
<p>SIP の RTCP 保留</p>	<p>保留中のコールがゲートウェイによってドロップされないようにします。ゲートウェイでは RTCP ポートのステータスを確認して、コールがアクティブかどうかを判別されます。電話ポートを開いたままにしておくことによって、ゲートウェイは保留中のコールを終了しません。</p>

機能	説明と詳細情報
セキュアな会議	<p>セキュアな電話機で、セキュアな会議ブリッジを使用して会議コールを発信できます。[会議 (Confrn)]、[参加 (Join)]、[C 割り込み (cBarge)]、[割り込み (Barge)] ソフトキーまたは MeetMe 会議を使用して新しい参加者が追加されると、すべての参加者がセキュアな電話機を使用している間はセキュアコールのアイコンが表示されます。</p> <p>会議の各参加者のセキュリティレベルが [会議リスト (Conference List)] に表示されます。開催者は、非セキュアの参加者を [会議参加者リスト (Conference List)] から削除できます。[拡張アドホック会議 (Advanced Adhoc Conference)] に [有効 (Enabled)] パラメータが設定されていれば、開催者でなくても会議参加者を追加または削除できます。</p> <p>参照先：</p> <ul style="list-style-type: none"> • サポート対象のセキュリティ機能, (144 ページ) • 『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Conference Bridges」の章 • 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Conference Bridge Configuration」の章 • 『Cisco Unified Communications Manager Security Guide』
セキュア EMCC	<p>リモートオフィスから電話機にログインするユーザに強化されたセキュリティを提供することで、EMCC 機能を改善します。</p>
サービス	<p>Cisco Unified Communications Manager の管理にある [IP Phone サービスの設定 (IP Phone Services Configuration)] メニューを使用して、ユーザが登録できる IP Phone サービスのリストを定義して管理できます。</p> <p>参照先：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Cisco Unified IP Phone Configuration」の章 • 『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phone Services」の章
サービス URL ボタン	<p>ユーザは、電話機の [サービス (Services)] メニューの代わりにプログラム可能なボタンを使用して、サービスにアクセスすることができます。</p> <p>参照先：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Cisco Unified IP Phone Configuration」の章 • 『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phone Services」の章

機能	説明と詳細情報
発信者 ID および発信者番号の表示	<p>電話機に、着信コールの発信者 ID と発信者番号の両方を表示できます。IP 電話機の LCD ディスプレイのサイズによって、表示される発信者 ID と発信者番号の長さが制限されます。</p> <p>発信者 ID および発信者番号の表示機能は、着信コールのアラートのみに適用されます。コール転送とハント グループの機能は変更されません。</p> <p>この表の「発信者 ID」を参照してください。</p>
スピードダイヤル	<p>記憶されている指定番号をダイヤルします。</p> <p>参照先：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Cisco Unified IP Phone Configuration」 • 『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phone」
SSH アクセス	<p>Cisco Unified Communications Manager の管理を使用して、SSH アクセス設定を有効または無効にできます。SSH サーバを有効にすると、電話機が SSH 接続を受け入れるようになります。電話機の SSH サーバ機能を無効にすると、その電話機への SSH アクセスがブロックされます。</p> <p>SSH アクセスの設定, (205 ページ) を参照してください。</p>
Time-of-Day ルーティング	<p>指定したテレフォニー機能へのアクセスを時間帯によって制限します。</p> <p>参照先：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Time Period Configuration」 • 『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Time-of-Day Routing」
タイムゾーンのアップデート	<p>タイムゾーンの変更に伴い、Cisco IP Phone を更新します。</p> <p>『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Date/Time Group Configuration」の章を参照してください。</p>
転送	<p>ユーザは、接続されているコールを自分の電話機から別の番号にリダイレクトできます。</p>

機能	説明と詳細情報
転送（直接転送）	<p>転送：転送では、常にまずアクティブコールを保留にした後、同じ電話番号を使用して新しいコールを開始します。</p> <p>ユーザは、アクティブコールの転送機能を使用して直接転送できます。</p> <p>一部の JTAPI/TAPI アプリケーションでは、Cisco IP Phone の参加および直接転送機能と互換性がないため、参加および直接転送ポリシーを設定して、同一回線上や、場合によっては複数の回線をまたいだ参加と直接転送を無効にする必要があります。『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Understanding Directory Numbers」を参照してください。</p>
TVS	<p>信頼検証サービス（TVS）により、証明書信頼リスト（CTL）のサイズを増やしたり、更新された CTL ファイルを電話機にダウンロードしたりせずに、電話機が署名済みの設定を認証し、他のサーバまたはピアを認証することができます。TVS はデフォルトで有効になっています。</p> <p>電話機の [セキュリティ設定（Security Setting）] メニューに TVS の情報が表示されます。</p>
UCR 2013	<p>Cisco IP Phone は、次の機能を提供することによって Unified Capabilities Requirements（UCR）2013 をサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 連邦情報処理標準（FIPS）140-2 のサポート • 80 ビット SRTCP タギングのサポート <p>IP Phone 管理者は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで特定のパラメータを設定する必要があります。</p>
表示によるボイスメール	<p>グラフィカルインターフェイスでボイスメールのオーディオプロンプトを置き換えます。</p> <p>http://www.cisco.com/en/US/partner/products/ps9829/prod_installation_guides_list.html#anchor3にある『Installation and Configuration Guide for Visual Voicemail』を参照してください。</p>
ボイス メッセージ システム	<p>コールに応答がない場合に、発信者がメッセージを残せるようにします。</p> <p>参照先：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Cisco Voice-Mail Port Configuration」の章。 • 『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Voice Mail Connectivity to Cisco Unified Communications Manager」の章。 • ビジュアルボイスメールのセットアップ、（231 ページ）

機能	説明と詳細情報
Web アクセスはデフォルトで無効になっています。	HTTP など、すべての Web サービスへのアクセスを無効にすると、セキュリティが強化されます。Web アクセスを有効にすると、ユーザは Web サービスにのみアクセスできます。

機能ボタンとソフトキー

次の表に、ソフトキーで使用可能な機能、専用機能ボタンで使用可能な機能、さらにプログラム可能な機能ボタンとして設定する必要がある機能を示します。この表の「X」は、その機能が対応するボタンのタイプまたはソフトキーでサポートされることを意味します。2つのボタンタイプとソフトキーのうち、プログラム可能な機能ボタンだけは Cisco IP Phone の管理ページでの設定が必要です。

プログラム可能な機能ボタンの設定の詳細については、[電話ボタンテンプレート](#)、(221 ページ) を参照してください。

表 19: 機能とボタンおよびソフトキーの対応

機能名	専用機能ボタン	プログラマブル機能ボタン	ソフトキー
アラート コール		X	
すべてのコール		X	
応答		X	X
割込み			X
折り返し		X	X
すべてのコールの転送			X
コール パーク		X	X
コールパークの回線ステータス		X	
コール ピックアップ (ピックアップ)		X	X
コールピックアップの回線ステータス		X	

機能名	専用機能ボタン	プログラマブル機能ボタン	ソフトキー
会議	X		X
即転送			X
サイレント		X	X
グループピックアップ		X	X
保留	X		X
ハント グループ		X	
インターコム		X	
迷惑呼 ID (MCID)		X	X
ミーティング		X	X
モバイルコネクト (モビリティ)		X	X
ミュート	X		
その他のピックアップ		X	X
キュー ステータスの PLK サポート			X
プライバシー		X	
キュー ステータス		X	
品質レポート ツール (QRT)		X	X
録音			X
リダイヤル		X	X
スピード ダイヤル		X	X
スピードダイヤルの回線ステータス		X	X

機能名	専用機能ボタン	プログラマブル機能ボタン	ソフトキー
USBヘッドセットの保留ボタンのサポート			X
転送	X		X

スピーカーフォンを無効にする

デフォルトでは、Cisco IP Phone でスピーカーフォンが有効です。

スピーカーを無効にするには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用します。

手順

-
- ステップ 1 [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。
 - ステップ 2 変更する電話機を選択します。
 - ステップ 3 電話機の [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで、 [スピーカーフォンの無効化 (Disable Speakerphone)] チェックボックスをオンにします。
 - ステップ 4 [保存 (Save)] を選択します。
-

Cisco IP Phone での省電力のスケジュール

電力を節約し、電話スクリーンディスプレイの寿命を確実に伸ばすには、不要なときに表示をオフにするように設定します。

Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用すると、ディスプレイを特定の曜日の指定時刻にオフにし、他の曜日では終日オフにするように設定できます。たとえば、ディスプレイを平日の勤務時間後にオフにし、土曜日と日曜日では終日オフにするように選択できます。

ディスプレイがオフのときはいつでも、次の操作でディスプレイをオンにできます。

- 電話機の任意のボタンを押す。
ディスプレイがオンになり、そのボタンで指定されているアクションが実行されます。
- ハンドセットを持ち上げる。

ディスプレイは、オンにするとそのままオン状態になりますが、指定された期間にわたって電話機がアイドル状態にあると、自動的にオフになります。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページから、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。
- ステップ 2** 設定する電話機を特定します。
- ステップ 3** [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] 領域に移動して、次のフィールドを設定します。

表 20 : PowerSave の設定フィールド

フィールド	説明
ディスプレイ非点灯日 (Days Display Not Active)	[ディスプレイ点灯時刻 (Display On Time)] フィールドで指定された時刻になっても、ディスプレイを自動的にオンにしない日。 ドロップダウンリストから単一または複数の曜日を選択します。複数の曜日を選択するには、Ctrl キーを押しながら目的の各曜日をクリックします。
ディスプレイ点灯時刻 (Display On Time)	毎日ディスプレイを自動的にオンにする時刻 ([ディスプレイ非点灯日 (Days Display Not Active)] フィールドで指定されている日を除く)。 このフィールドには、24 時間形式で入力します (0:00 は午前 0 時)。 たとえば、午前 7:00 (0700) にディスプレイを自動的にオンにするには、7:00 と入力します。午後 2:00 (1400) にバックライトをオンにするには、14:00 と入力します。 このフィールドがブランクの場合、ディスプレイは午前 0 時に自動的にオンになります。
ディスプレイ点灯継続時間 (Display On Duration)	[ディスプレイ点灯時刻 (Display On Time)] フィールドで指定した時刻にディスプレイがオンになった後、オン状態を保つ時間の長さ。 このフィールドには、時間:分の形式で値を入力します。 たとえば、ディスプレイを自動的にオンにしてから 4 時間 30 分にわたってオン状態を保つには、4:30 と入力します。 このフィールドがブランクの場合、電話機は午前 0 時 (0:00) にオフになります。 (注) [ディスプレイ点灯時刻 (Display On Time)] が 0:00 で、[ディスプレイ点灯継続時間 (Display On Duration)] がブランク (または 24:00) の場合、電話機は常にオン状態になります。

フィールド	説明
ディスプレイ放置時自動消灯 (Display Idle Timeout)	<p>ディスプレイをオフにするまでの電話機のアイドル時間。ディスプレイがスケジュールどおりにオフで、ユーザが（電話機ボタンを押す、またはハンドセットを持ち上げる操作で）オンにした場合にのみ適用されます。</p> <p>このフィールドには、時間:分の形式で値を入力します。</p> <p>たとえば、ユーザがディスプレイをオンにしてから 1 時間 30 分にかけて電話機がアイドル状態にあった場合にディスプレイをオフにするには、1:30 と入力します。</p> <p>デフォルト値は 0:30 です。</p>

ステップ 4 [保存 (Save)] を選択します。

Cisco IP Phone での Power Save Plus (EnergyWise) のスケジュール

消費電力を減らすには、ご使用のシステムに EnergyWise コントローラが含まれている場合に、電話機をスリープ（電源オフ）とウェイク（電源オン）に設定します。

Cisco Unified CM の管理で、EnergyWise を有効にして、スリープ時間とウェイク時間の設定を行います。これらのパラメータは、電話機の表示設定パラメータと緊密に結びついています。

EnergyWise が有効になっていて、スリープ時間が設定されていると、電話機を設定時刻に復帰させるように、電話機からスイッチに要求が送信されます。この要求の受諾または拒否が、スイッチから戻ります。スイッチが要求を拒否した場合、またはスイッチが応答しない場合は、電話機はオフになりません。スイッチが要求を受諾すると、アイドル状態の電話機がスリープ状態となり、消費電力をあらかじめ決められたレベルに減らすことができます。アイドル状態になっていない電話機にはアイドルタイマーが設定され、タイマーの期限が切れると、電話機がスリープ状態になります。

電話機をウェイクさせるには、選択ボタンを押します。スケジュールされているウェイク時間になると、システムは電話機の電力を元に戻して電話機を復帰させます。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager の管理ページから、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。
- ステップ 2 設定する電話機を特定します。
- ステップ 3 [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] 領域に移動して、次のフィールドを設定します。

表 21 : EnergyWise の設定フィールド

フィールド	説明
Power Save Plus の有効化 (Enable Power Save Plus)	<p>電話機の電源をオフにする日のスケジュールを選択します。スケジュールを設定する日をクリックしたら、Control キーを押したままにして、複数日を選択します。</p> <p>デフォルトでは、どの日も選択されていません。</p> <p>[Power Save Plus の有効化 (Enable Power Save Plus)] がオンになっていると、緊急 (e911) の問題について警告するメッセージを受け取ります。</p> <p>注意 Power Save Plus モード (「モード」) が有効である間は、モードに設定されたエンドポイントは、緊急コールでは無効で、インバウンドコールの受信ができません。このモードを選択することにより、次の条項に同意したものと見なされます。(i) モードが有効である間、緊急コールとコールの受信用の代替方法を責任を持って用意する必要があります。(ii) シスコはこのモードの選択に関して何の責任を負いません。このモードを有効にすることは、お客様の責任で行っていただきます。(iii) コール、発信、およびその他について、このモードを有効にした場合の影響をユーザにすべて通知する必要があります。</p> <p>(注) Power Save Plus を無効にするには、[EnergyWise オーバーライドを許可 (Allow EnergyWise Overrides)] チェックボックスをオフにする必要があります。[Power Save Plus の有効化 (Enable Power Save Plus)] フィールドで、日数を選択しないまま [EnergyWise オーバーライドを許可 (Allow EnergyWise Overrides)] チェックボックスをオンにしたままにしておくと、Power Save Plus は無効になりません。</p>
電話機をオンにする時刻 (Phone On Time)	<p>[Power Save Plus の有効化 (Enable Power Save Plus)] フィールドにある日について、電話機の電源を自動的にオンにする時刻を決定します。</p> <p>このフィールドには、24 時間形式で入力します (00:00 は午前 0 時)。</p> <p>たとえば、午前 7 時 (0700) に自動的に電話機の電源をオンにする場合は、7:00 と入力します。午後 2 時 (1400) に電話機の電源をオンにするには、14:00 と入力します。</p> <p>デフォルト値はブランクで、これは 00:00 を意味します。</p> <p>(注) [電話機をオンにする時刻 (Phone On Time)] は、[電話機をオフにする時刻 (Phone Off Time)] より 20 分以上遅い時刻に設定する必要があります。たとえば、[電話機をオフにする時刻 (Phone Off Time)] が 7:00 の場合、[電話機をオンにする時刻 (Phone On Time)] は 7:20 より前に設定しないでください。</p>

フィールド	説明
電話機をオフにする時刻 (Phone Off Time)	<p>[Power Save Plus の有効化 (Enable Power Save Plus)] フィールドで選択した日について、電話機の電源をオフにする時刻。[電話機をオンにする時刻 (Phone On Time)] フィールドと [電話機をオフにする時刻 (Phone Off Time)] フィールドに同じ値が含まれている場合、電話機はオフになりません。</p> <p>このフィールドには、24 時間形式で入力します (00:00 は午前 0 時)。</p> <p>たとえば、午前 7 時 (0700) に自動的に電話機の電源をオフにする場合は、7:00 と入力します。午後 2 時 (1400) に電話機の電源をオフにするには、14:00 と入力します。</p> <p>デフォルト値は空白で、これは 00:00 を意味します。</p> <p>(注) [電話機をオンにする時刻 (Phone On Time)] は、[電話機をオフにする時刻 (Phone Off Time)] より 20 分以上遅い時刻に設定する必要があります。たとえば、[電話機をオフにする時刻 (Phone Off Time)] が 7:00 の場合、[電話機をオンにする時刻 (Phone On Time)] は 7:20 より前に設定しないでください。</p>
電話機をオフにするアイドルタイムアウト (Phone Off Idle Timeout)	<p>電話機の電源をオフにする前に、電話機をアイドル状態にしておく必要がある時間の長さ。</p> <p>タイムアウトは次の条件で発生します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 電話機がスケジュールどおりに Power Save Plus モードになっていたが、電話機のユーザが [選択 (Select)] キーを押したために、Power Save Plus モードが解除された場合。 • 接続スイッチで電話機が再びオンになった場合 • [電話機をオフにする時刻 (Phone Off Time)] になったが、通話中の場合。 <p>このフィールドの範囲は 20 ~ 1440 分です。</p> <p>デフォルト値は 60 分です。</p>

フィールド	説明
音声アラートを有効にする (Enable Audio Alert)	<p>これを有効にすると、[電話機をオフにする時刻 (Phone Off Time)] で指定した時刻の 10 分前に電話機で音声アラートの再生が開始されます。</p> <p>音声アラートは、電話機の呼出音を使用します。この音は、10 分間のアラート期間中の特定期間、短く再生されます。呼出音は、ユーザが指定した音声レベルで再生されます。音声アラートのスケジュールは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 電源オフの 10 分前に、呼出音が 4 回再生されます。 • 電源オフの 7 分前に、呼出音が 4 回再生されます。 • 電源オフの 4 分前に、呼出音が 4 回再生されます。 • 電源オフの 30 秒前に、呼出音は、15 回再生されるか、電話機の電源がオフになるまで再生されます。 <p>このチェックボックスが表示されるのは、[Power Save Plus の有効化 (Enable Power Save Plus)] リストボックスで 1 日以上が選択されている場合だけです。</p>
EnergyWise ドメイン (EnergyWise Domain)	<p>その電話機が含まれる EnergyWise ドメイン。</p> <p>このフィールドの最大長は 127 文字です。</p>
EnergyWise シークレット (EnergyWise secret)	<p>EnergyWise ドメイン内でエンドポイントとの通信に使用されるセキュリティの秘密パスワード。</p> <p>このフィールドの最大長は 127 文字です。</p>

フィールド	説明
EnergyWise オーバーライドを許可 (Allow EnergyWise Overrides)	<p>このチェックボックスにより、電話機に電源レベルの更新を送信するためのEnergyWiseドメインコントローラのポリシーを許可するかどうかを決定します。次の条件が適用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Power Save Plus の有効化 (Enable Power Save Plus)] フィールドで 1 日以上を選択する必要があります。 • Cisco Unified Communications Manager の管理ページの設定は、EnergyWise がオーバーライドを送信しても、スケジュールに適用されます。 <p>たとえば、[電話機をオフにする時刻 (Phone Off Time)] が 22:00 (午後 10 時) に設定されていると仮定すると、[電話機をオンにする時刻 (Phone On Time)] フィールドの値は 06:00 (午前 6 時) となり、[Power Save Plus の有効化 (Enable Power Save Plus)] では 1 日以上が選択されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • EnergyWise が 20:00 (午後 8 時) に電話機をオフにするように指示すると、この指示は、午前 6 時に設定された [電話機をオンにする時刻 (Phone On Time)] まで有効となります (電話機ユーザによる介入が発生しないと仮定した場合)。 • 午前 6 時になると、電話機はオンとなり、Unified Communications Manager の管理ページの設定から電力レベルの変更の受信を再開します。 • 電力レベルを電話機で再び変更するには、EnergyWise は電力レベル変更コマンドを新たに再発行する必要があります。 <p>(注) Power Save Plus を無効にするには、[EnergyWise オーバーライドを許可 (Allow EnergyWise Overrides)] チェックボックスをオフにする必要があります。[Power Save Plus の有効化 (Enable Power Save Plus)] フィールドで、日数を選択しないまま [EnergyWise オーバーライドを許可 (Allow EnergyWise Overrides)] チェックボックスをオンにしたままにしておくと、Power Save Plus は無効になりません。</p>

ステップ 4 [保存 (Save)] を選択します。

エージェントグリーティングの有効化

エージェントグリーティング機能では、エージェントが事前録音したグリーティングを作成したり更新したりできます。このグリーティングは、エージェントが発信者と話しはじめる前に、顧客コールなどのコールの開始時に再生されます。エージェントは、必要に応じて 1 つまたは複数のグリーティングを事前録音し、グリーティングを作成および更新できます。

顧客が電話をかけてきた場合、エージェントと発信者が事前録音したグリーティングを聴くことになります。エージェントは、グリーティングが終わるまで待つこともできますし、グリーティングの途中で応答することもできます。

エージェントグリーティングコールでは、電話機でサポートされるすべてのコーデックがサポートされます。

詳細については、以下を参照してください。

- 『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Barge and Privacy」の章
- 『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Cisco Unified IP Phones」の章

手順

-
- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。
- ステップ 2** ユーザが設定する IP フォンを特定します。
- ステップ 3** [デバイス情報レイアウト (Device Information Layout)] ペインまでスクロールし、[ビルトインブリッジ (Built In Bridge)] を [オン (On)] または [デフォルト (Default)] に設定します。
- ステップ 4** [保存 (Save)] を選択します。
- ステップ 5** ブリッジの設定を確認します。
- a) [システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] を選択します。
 - b) 適切なサーバおよびサービスを選択します。
 - c) [クラスタワイドパラメータ (デバイス - 電話) (Clusterwide Parameters (Device - Phone))] ペインまでスクロールして、[ビルトインブリッジの有効 (Builtin Bridge Enable)] を [オン (On)] に設定します。
 - d) [保存 (Save)] を選択します。
-

DF ビットのセットアップ

設定可能な DF ビット機能は、ネットワークがどのように送信されるかを制御します。パケットをさまざまなサイズのチャンク (フラグメント) で送信できます。DF ビットがパケットヘッダーで 1 に設定されると、ネットワーク ペイロードは、スイッチやルータなどのネットワークを通過するときにフラグメント化しません。フラグメント化させないことで受信側の解析の誤りを回避できますが、わずかにスピードが低下します。デフォルトでは、DF ビットは 0 に設定されます。

DF ビット設定は、ICMP、VPN、VXC VPN、DHCP トラフィックには適用されません。

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified Communications Manager Administration)] で、次のいずれかのウィンドウに移動します。
- [システム (System)] > [エンタープライズ電話 (Enterprise Phone)]
 - [デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)]
 - [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)]
- ステップ 2** [DF ビット (DF Bit)] フィールドを設定します。
-

サイレントの設定

DND をオンにすると、コールが呼び出し状態になっても呼出音が鳴らなくなります。またあらゆる種類の表示や音による通知も、一切行われません。

電話ボタン テンプレートの機能の 1 つとして DND を選択して、電話機を設定できます。

詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide*』の「Do Not Disturb」の章を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。
- ステップ 2** 設定する電話を特定します。
- ステップ 3** 次のパラメータを設定します。
- [サイレント (Do Not Disturb)] : このチェックボックスを使用すると、電話機の DND を有効にすることができます。
 - [DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)] : 電話機で DND がアクティブのときに着信コールに対して発生させるアラート (存在する場合) のタイプを選択します。
 - (注) このパラメータは、[共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] ウィンドウおよび [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの両方にあります。[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの値が優先されます。
 - [DN を示す BLF ステータス (BLF Status Depicts DND)] : ビジーまたはアイドル状態を DND ステータスで上書きできます。

ステップ 4 [保存 (Save)] を選択します。

モニタリングと録音のセットアップ

モニタリングと録音の機能によって、スーパーバイザはアクティブ コールのモニタリングをサイレントに実行できます。スーパーバイザの音声はコールのどちらの側にも聞こえません。ユーザには、コールがモニタされている間、モニタ中であることを示す音声アラートが聞こえる場合があります。

コールがセキュリティで保護されている場合は、ロックアイコンが表示されます。発信者にも、コールがモニタされていることを示す音声アラートが聞こえる場合があります。コールがセキュアであり、モニタされていることを示す音声アラートは、接続先の通話者にも聞こえることがあります。

アクティブ コールがモニタまたは録音されている場合、ユーザは、インターコムコールを受信または発信できます。ただし、ユーザがインターコムコールを発信した場合、アクティブ コールは保留されます。この処理によって録音セッションは終了し、モニタリングセッションは中断されます。中断されたモニタリングセッションを再開するには、モニタされているユーザがコールを再開する必要があります。

詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide*』の「Monitoring and Recording」の章を参照してください。

以下の手順によって、標準モニタ ユーザ グループにユーザが追加されます。

はじめる前に

Cisco Unified Communications Manager は、モニタリングと録音をサポートするように設定する必要があります。

手順

-
- ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager の管理で、[ユーザ管理 (User Management)] > [アプリケーション ユーザ (Application User)] を選択します。
 - ステップ 2 Standard CTI Allow Call Monitoring および Standard CTI Allow Call Recording ユーザ グループを確認します。
 - ステップ 3 [選択項目の追加 (Add Selected)] をクリックします。
 - ステップ 4 [ユーザ グループに追加 (Add to User Group)] をクリックします。
 - ステップ 5 アプリケーション ユーザの制御デバイスのリストにユーザの電話機を追加します。
 - ステップ 6 [保存 (Save)] を選択します。
-

LLDP の電力ネゴシエーションのセットアップ

LLDP の電力ネゴシエーション機能によって、電話機では Link Level Endpoint Discovery Protocol (LLDP) および Cisco Discovery Protocol (CDP) を使用して電力をネゴシエートできます。

電話機が電力ネゴシエーションをサポートしているスイッチに接続されている場合は、電力ネゴシエーションを無効にしないでください。無効にした場合、スイッチによって電話機に対する電力がオフになる可能性があります。

電力ネゴシエーション機能は、デフォルトで有効になっています。

手順

-
- ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager の管理ページから、[デバイス (Device)]>[電話 (Phone)] を選択します。
 - ステップ 2 設定する電話機を特定します。
 - ステップ 3 [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 領域で、電力ネゴシエーションパラメータを設定します。
 - ステップ 4 [保存 (Save)] を選択します。
-

Bluetooth プロファイルのセットアップ

Bluetooth プロファイルの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』を参照してください。

手順

-
- ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager Administration で、[デバイス (Device)]>[電話 (Phone)] を選択します。
 - ステップ 2 Cisco Unified Communications Manager に表示された電話のリストからお使いの電話を検索します。
 - ステップ 3 電話機の [デバイス名 (Device Name)] をクリックします。
[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 4 [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] レイアウト エリアに移動し、[Bluetooth プロファイル (Bluetooth Profiles)] ドロップダウンリストから、適切なプロファイルを選択します。
ハンズフリー プロファイルは、デフォルトで選択されています。
 - ステップ 5 更新する [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] エリアで、任意の設定に対して [共通設定の上書き (Override Common Settings)] チェックボックスをオンにします。

- このチェックボックスをオンにしないと、対応するパラメータ設定が有効になりません。

- [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]エリアで設定したパラメータは、さまざまなデバイスの[デバイス設定 (Device Configuration)]ウィンドウと[エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)]ウィンドウにも表示されることがあります。

これらの他のウィンドウでも同じパラメータを設定した場合、優先される設定は、次の順序で決定されます。

- 1 [デバイス設定 (Device Configuration)]ウィンドウの設定値 (最も高い優先順位)
- 2 [共通の電話プロファイルの設定 (Common Phone Profile Configuration)]ウィンドウの設定値
- 3 [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)]ウィンドウの設定値 (最も低い優先順位)

自動ポート同期の設定

単一の電話機または電話機のグループで同期を設定できます。

手順

- ステップ 1** 単一の電話機の自動ポート同期を設定するには、
- a) Cisco Unified Communications Manager の管理アプリケーションで、[デバイス (Device)]>[電話 (Phone)]を選択します。
 - b) 電話機を特定します。
 - c) [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)]ペインで、自動ポート同期パラメータを設定します。
 - d) [保存 (Save)]を選択します。
- ステップ 2** 電話機のグループに対して自動ポート同期を設定するには、
- a) Cisco Unified Communications Manager の管理アプリケーションで、[システム (System)]>[エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)]を選択します。
 - b) 自動ポート同期パラメータを設定します。
 - c) [保存 (Save)]を選択します。

SSH アクセスの設定

ポート 22 を経由する SSH デーモンへのアクセスを有効または無効にすることができます。ポート 22 を開いたままにしておくと、電話機はサービス拒否 (DoS) 攻撃を受けやすい状態になります。デフォルトでは、SSH ドメインは無効になっています。

SSH アクセス パラメータはデフォルトで無効になっています。これらの電話機のユーザが SSH を使用する前に、SSH アクセス パラメータを有効にする必要があります。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理で、次のいずれかのウィンドウを選択してください。
- [デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)]
 - [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] > [電話の設定 (Phone Configuration)]
- (注) 両方のウィンドウでパラメータを設定すると、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] > [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] ウィンドウの設定が優先されます。
- ステップ 2** 適切な電話機を選択します。
- ステップ 3** [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] ペインまでスクロールし、[SSH アクセス (SSH Access)] ドロップダウンリスト ボックスから [有効 (Enable)] を選択します。
- ステップ 4** [保存 (Save)] を選択します。
-

コールの転送通知のセットアップ

コール転送設定を制御できます。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。
- ステップ 2** セットアップする電話を特定します。
- ステップ 3** [コールの転送通知 (Call Forward Notification)] フィールドを設定します。

表 22 : [コールの転送通知 (Call Forward Notification)] フィールド

フィールド	説明
発信者名 (Caller Name)	このチェックボックスをオンにした場合、発信者名が通知ウィンドウに表示されます。 デフォルトでは、このチェックボックスはオンになっています。

フィールド	説明
発信者番号 (Caller Number)	このチェックボックスをオンにした場合、発信者番号が通知ウィンドウに表示されます。 デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。
転送元番号 (Redirected Number)	このチェックボックスをオンにした場合、コールを最後に転送した発信者に関する情報が通知ウィンドウに表示されます。 例：発信者 A が B にコールを発信したが、B はすべてのコールを C に転送し、C はすべてのコールを D に転送した場合、D に対して表示される通知ボックスには、発信者 C の電話機情報が表示されます。 デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。
ダイヤル番号 (Dialed Number)	このチェックボックスをオンにした場合、コールの最初の受信者に関する情報が通知ウィンドウに表示されます。 例：発信者 A が B にコールを発信したが、B はすべてのコールを C に転送し、C はすべてのコールを D に転送した場合、D に対して表示される通知ボックスには、発信者 B の電話機情報が表示されます。 デフォルトでは、このチェックボックスはオンになっています。

ステップ 4 [保存 (Save)] を選択します。

クライアント識別コードのセットアップ

コールを発信するとき、ユーザにクライアント識別コード (CMC) を入力するよう強制できます。詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide*』の「Client Matter Codes and Forced Authorization Codes」の章を参照してください。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理で、[コールルーティング (Call Routing)] > [クライアント識別コード (Client Matter Code)] を選択します。
- ステップ 2** [クライアント識別コードが必須 (Require Client Matter Code)] フィールドを設定します。このチェックボックスでは、コールの発信時に CMC の入力をユーザに求めるかどうかを制御します。
- ステップ 3** [保存 (Save)] を選択します。

コールの回線ステータスのリストの有効化

コールの回線ステータスのリストを有効にするには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理に移動し、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] を選択します。
- ステップ 2** [コールの回線ステータスのリスト (Line Status for Call Lists)] ドロップダウンリストボックスから適切なプロファイルを選択します。
[無効 (Disabled)] オプションはデフォルトで選択されています。
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] エリアで設定したパラメータは、さまざまなデバイスの [デバイス設定 (Device Configuration)] ウィンドウと [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)] ウィンドウにも表示されることがあります。これらの他のウィンドウでも同じパラメータを設定した場合、優先される設定は、次の順序で決定されます。
- 1 [デバイス設定 (Device Configuration)] ウィンドウの設定値
 - 2 [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] ウィンドウの設定値
 - 3 [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)] ウィンドウの設定値
- ステップ 3** [保存 (Save)] を選択します。
-

デュアルバンク情報のセットアップ

デュアルバンク情報をセットアップするには、次の手順に従います。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager Administration で、[デバイス (Device)] > [デバイスのデフォルト (Device Defaults)] を選択します。
- ステップ 2** [非アクティブロード情報 (Inactive Load Information)] フィールドで、ロード情報をチェックします。
- ステップ 3** [一括管理 (Bulk Administration)] > [インポート/エクスポート (Import/Export)] > [エクスポート (Export)] > [デバイスのデフォルト (Device Defaults)] と選択し、エクスポートジョブをスケジュールします。
- ステップ 4** エクスポートされた tar ファイルをダウンロードし、untar します。
- ステップ 5** エクスポートされた CSV ファイルでファイル形式をチェックし、その CSV ファイルに、値が正しい [非アクティブロード情報 (Inactive Load Information)] の列があることを確認します。

- (注) CSV ファイルの値は、[Cisco Unified Communications Manager の管理 (Cisco Unified Communications Manager Administration)] ウィンドウの [デバイスのデフォルト (Device Default)] 値と一致する必要があります。

強制承認コードの設定

コールを発信するとき、ユーザに強制承認コード (FAC) を入力するよう強制できます。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Client Matter Codes and Forced Authorization Codes」の章を参照してください。

手順

ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager の管理で、[コール ルーティング (Call Routing)] > [強制承認コード (Forced Authorization Code)] を選択します。

ステップ 2 次のフィールドを設定します。

フィールド	説明
強制承認コードが必須 (Require Forced Authorization Code)	FAC の入力をユーザに要求するには、このチェックボックスをオンにします。
承認レベル (Authorization Level)	コールの発信を承認されるために、ユーザが入力する必要があるコード。

ステップ 3 [保存 (Save)] を選択します。

着信コール Toast タイマーの設定

着信コール Toast (着信コール通知ウィンドウ) がユーザの電話機に表示される時間を設定できます。

手順

ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager の管理で、次のいずれかのウィンドウを選択してください。

- [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)]
- [デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)]

- [システム (System)] > [エンタープライズ電話 (Enterprise Phone)]

複数のウィンドウにパラメータを設定した場合、優先順位は次のとおりです。

- 1 [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)]
- 2 [デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)]
- 3 [システム (System)] > [エンタープライズ電話 (Enterprise Phone)]

ステップ 2 必要に応じて、電話機を特定します。

ステップ 3 [着信コール Toast タイマー (Incoming Call Toast Timer)] フィールドを設定します。

フィールド	説明
着信コール Toast タイマー (Incoming Call Toast Timer)	Toastが表示される時間を秒単位で指定します。この時間には、ウィンドウのフェードインとフェードアウトの時間も含まれます。 有効値は、0、3、4、および5です。 0は着信コール Toast の無効を指定します。

ステップ 4 [保存 (Save)] を選択します。

ピアファームウェア共有の設定

この機能を有効にすると、電話機は、ファームウェアイメージを構成するファイルを要求しているサブネット上の同じ電話機を検出し、転送階層をファイル単位で自動的に構築できます。ファームウェアイメージを構成する個々のファイルは、階層内のルートの電話機だけを使用して TFTP から取得され、これらのファイルは TCP 接続によって転送階層に沿ってサブネット上の他の電話機に迅速に転送されます。

この機能は、高速キャンパス LAN 設定で次のメリットを提供します。

- 中央集中型リモート TFTP サーバへの TFTP 転送における輻輳が制限されます。
- ファームウェアのアップグレードを手動で制御する必要がなくなります。
- アップグレード時に多数の電話機が同時にリセットされた場合の電話機のダウンタイムが削減されます。

帯域幅が制限された WAN リンクを経由するブランチまたは遠隔オフィス導入シナリオでは、ピアファームウェア共有がファームウェアのアップグレードに役立つ場合もあります。

このメニューオプションは、電話機がピアファームウェア共有をサポートしているかどうかを示します。次の設定があります。

- 有効 (Enabled) (デフォルト値)
- 無効 (Disabled)

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager Administration で、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。
- ステップ 2** Cisco Unified Communications Manager に関連付けられた電話のリストからお使いの電話を検索します。
- ステップ 3** 電話機の [デバイス名 (Device Name)] をクリックします。
- ステップ 4** [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] レイアウトエリアに移動し、[ピアファームウェア共有 (Peer Firmware Sharing)] ドロップダウンリストから [有効 (Enable)] を選択します。
ピアファームウェア共有は、デフォルトで有効になっています。
- ステップ 5** 更新する [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] エリアで、任意の設定に対して [共通設定の上書き (Override Common Settings)] チェックボックスをオンにします。
- このチェックボックスをオンにしないと、対応するパラメータ設定が有効になりません。
 - [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] エリアで設定したパラメータは、さまざまなデバイスの [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウと [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)] ウィンドウにも表示されることがあります。
- これらの他のウィンドウでも同じパラメータを設定した場合、優先される設定は、次の順序で決定されます。
- 1 [デバイス設定 (Device Configuration)] ウィンドウの設定値 (最も高い優先順位)
 - 2 [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] ウィンドウの設定値
 - 3 [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)] ウィンドウの設定値 (最も低い優先順位)
- ステップ 6** [保存 (Save)] を選択します。
-

リモートポート設定のセットアップ

スイッチリモートポート設定パラメータまたはPCのリモートポート設定パラメータを設定するには、個々の電話機または複数の電話機を設定できます。

手順

-
- ステップ 1** 個々の電話機にパラメータを設定するには、次の手順を実行します。
- Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。
 - 適切な IP Phone を選択します。
 - [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] (スイッチポートのリモート設定または PC ポートのリモート設定) 領域にスクロールして、パラメータを設定します。
 - [保存 (Save)] を選択します。
- ステップ 2** 複数の電話機の設定を同時に設定するには、次の手順を実行します。
- Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[システム (System)] > [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)] を選択します。
 - リモートポート設定パラメータを設定します。
 - [保存 (Save)] を選択します。
-

ヘッドセットの側音制御の設定

ユーザがヘッドセットを使用してコールを処理する場合、話し中にフィードバックが聞こえると感じることがあります。このような追加音声は側音と呼ばれます。側音が多すぎると、ユーザにはヘッドセットの受話口に自分の声が聞こえるので、この側音が邪魔になります。側音の量はヘッドセットによって異なります。

側音レベルは調整が可能です。使用可能な側音レベルは次のとおりです。

- 大 (High)
- 標準 (Normal) (デフォルト)
- 低 (Low)
- オフ (Off)

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理に移動し、[デバイス (Device)]>[電話 (Phone)] を選択します。
- ステップ 2** 電話機のリストから電話機を検索します。
- ステップ 3** 電話機の [デバイス名 (Device Name)] をクリックします。
- ステップ 4** [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] 領域に移動し、[ワイドバンドヘッドセット UI 設定 (Wideband Headset UI Control)] ドロップダウン リスト ボックスから、適切なプロファイルを選択します。
- [オフ (Off)] オプションがデフォルトで選択されます (ユーザのヘッドセットがワイドバンドをサポートする場合だけイネーブルにします) 。
- [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] エリアで設定したパラメータは、さまざまなデバイスの [デバイス設定 (Device Configuration)] ウィンドウと [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)] ウィンドウにも表示されることがあります。
- これらの他のウィンドウでも同じパラメータを設定した場合、優先される設定は、次の順序で決定されます。
- 1 [デバイス設定 (Device Configuration)] ウィンドウの設定値
 - 2 [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] ウィンドウの設定値
 - 3 [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)] ウィンドウの設定値
- ステップ 5** [保存 (Save)] を選択します。
-

デバイスから呼び出された録音を有効化

Cisco Unified Communications Manager の管理から、デバイス起動録音の機能を設定します。詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide*』の「Monitoring and Recording」の章を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** IP Phone のビルトインブリッジを [オン (On)] に設定します。
- ステップ 2** 録音オプションを [選択的コール録音を有効 (Selective Call Recording Enabled)] に設定します。
- ステップ 3** 適切な [録音プロファイル (Recording Profile)] を選択します。
-

Release ボタンからのダイヤル トーンのセットアップ

アクティブ コールから [発信 (New Call)] ウィンドウおよびダイヤル トーンへの 1 ボタン アクセスをユーザに提供できます。

次の表に、Release ボタン機能のダイヤル トーンのフィールドについて説明します。

フィールド	説明
リリースボタンからダイヤル トーンを提供 (Provide Dial Tone from Release Key)	Release キーを押したとき、ユーザにダイヤル トーンが聞こえるか ([有効 (Enabled)]) 聞こえないか ([無効 (Disabled)]) を指定します。 [有効 (Enabled)] または [無効 (Disabled)] を指定します。 デフォルトは [無効 (Disabled)] です。

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified Communications Manager Administration)] で、次のいずれかのウィンドウに移動します。
- [システム (System)] > [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)]
 - [デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)]
 - [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] > [電話の設定 (Phone Configuration)]
- ステップ 2** [リリースボタンからダイヤル トーンを提供 (Provide Dial Tone from Release Key)] フィールドを設定します。
-

パーク モニタリング

パーク モニタリングがサポートされるのは、Cisco IP Phone 8841、8851 または 8861 でコールをパークする場合だけです。パーク モニタリングによって、パークされたコールのステータスがモニタされます。パーク中のコールが取得されるか、またはパークされたコールによって破棄されるまで、パーク モニタリング コール バブルはクリアされません。このパークされたコールは、コールをパークした電話機で同じコール バブルを使用して取得できます。

パーク モニタリング タイマーのセットアップ

[Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified Communications Manager Administration)] には、パーク モニタリング用として、パーク モニタリング復帰タイマー、パーク モニタリング定期復帰タイマー、未取得時のパーク モニタリング転送タイマーという3種類のクラスタ全体に対応するサービス タイマー パラメータがあります。各サービス パラメータにはデフォルトが含まれており、特別な設定は必要ありません。これらのタイマー パラメータはパーク モニタリング専用です。コール パーク表示タイマーとコール パーク復帰タイマーはパーク モニタリングには使用できません。これらのパラメータの詳細については、次の表を参照してください。

[Cisco Unified CM サービスパラメータ (Cisco Unified Communications Manager Service Parameters)] ページでタイマーを設定します。

手順

- ステップ 1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified Communications Manager Administration)] で、[システム (System)] > [サービス パラメータ (Service Parameters)] を選択します。
- ステップ 2** [クラスタ全体のパラメータ (機能：一般) (Clusterwide Parameters (Feature-General))] ペインにある、[パークモニタリング復帰タイマー (Park Monitoring Reversion Timer)]、[パーク モニタリング定期復帰タイマー (Park Monitoring Periodic Reversion Timer)]、[未取得時のパーク モニタリング転送タイマー (Park Monitoring Forward No Retrieve Timer)] フィールドを更新します。

表 23: パーク モニタリングのサービス パラメータ

フィールド	説明
パーク モニタリング復帰タイマー (Park Monitoring Reversion Timer)	<p>デフォルト値は60秒です。このパラメータは、ユーザがパークしたコールを取得するようにユーザに求めるまで、Cisco Unified Communications Manager が待機する秒数を決定します。このタイマーが開始するのは、ユーザが電話機のParkを押したときです。タイマーが時間切れになるとアラームが鳴ります。</p> <p>このサービスパラメータに指定された値は[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウの[パーク モニタリング (Park Monitoring)] セクションで回線ごとに上書きできます (このウィンドウを表示するには、Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[コールルーティング (Call Routing)] > [電話番号 (Directory Number)] を選択します)。値として0を指定すると、[パークモニタリング定期復帰タイマー (Park Monitoring Periodic Reversion Timer)] サービスパラメータに指定された定期復帰間隔がすぐに利用されます。(以下の説明を参照してください) たとえば、このパラメータを0に設定し、パークモニタリング定期復帰タイマーを15に設定した場合、パークしたコールについてユーザにすぐに通知され、その後も未取得時のパークモニタリング転送タイマー (下記を参照) が時間切れになるまで15秒おきに通知されます。</p>

フィールド	説明
パーク モニタリング定期復帰タイマー (Park Monitoring Periodic Reversion Timer)	デフォルト値は 30 秒です。このパラメータは、Cisco Unified Communications Manager が、コールがパークされていることをユーザに再通知するまでに待機する間隔 (秒) を決定します。ユーザはこのような通知の際にオフフックにするだけで、パークされたコールに接続できます。コールがパークされており、未取得時のパーク モニタリング転送タイマー (以下の説明を参照) に指定した時間が経過するまでは、Cisco Unified Communications Manager はパークされているコールについてユーザに通知し続けます。値として 0 を指定すると、パークされたコールに関する定期的な通知は無効になります。
パーク モニタリング転送非取得時タイマー (Park Monitoring Forward No Retrieve Timer)	デフォルトは 300 秒です。このパラメータは、パーク アラーム通知が発生するまでの秒数を決定します。その後、パークされたコールは、パークしたユーザが [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで指定した未取得時のパーク モニタリング転送の接続先に転送されます [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified Communications Manager Administration)] で転送先が指定されていない場合、コールは、パークされたときの回線に返されます。[パークモニタリング復帰タイマー (Park Monitoring Reversion Timer)] サービスパラメータが時間切れになると、このパラメータが開始します。[未取得時のパーク モニタリング転送タイマー (Park Monitoring Forward No Retrieve Timer)] が時間切れになると、コールはパークから削除され、指定された接続先に転送されるか、パークしたユーザの回線に返されます。

電話番号のパーク モニタリング パラメータ設定

[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウには、3 種類のパラメータを設定できる [パークモニタリング (Park Monitoring)] 領域が含まれます。

手順

- ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified Communications Manager Administration)] で、[コールルーティング (Call Routing)] > [電話番号 (Directory Number)] を選択します。
- ステップ 2 次の表に示すように、パーク モニタリングのフィールドを設定します。

表 24: パーク モニタリング パラメータ

フィールド	説明
未取得時のパーク モニタリング転送の接続先 (外部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination External)	パークされている側が外部の場合、パークしたユーザの [未取得時のパーク モニタリング転送の接続先 (外部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination External)] パラメータに指定された接続先にコールが転送されます。[未取得時のパーク モニタリング転送の接続先 (外部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination External)] フィールドの値が空の場合、パークされた側のコールはパークしたユーザの回線にリダイレクトされます。
未取得時のパーク モニタリング転送の接続先 (内部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination Internal)	パークされている側が内部の場合、パークしたユーザの [未取得時のパーク モニタリング転送の接続先 (内部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination Internal)] パラメータに指定された接続先にコールが転送されます。[未取得時のパーク モニタリング転送の接続先 (内部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination Internal)] が空の場合、パークされた側のコールはパークしたユーザの回線にリダイレクトされます。
パーク モニタリング復帰タイマー (Park Monitoring Reversion Timer)	このパラメータは、ユーザがパークしたコールを取得するようにユーザに求めるまで、Cisco Unified Communications Manager が待機する秒数を決定します。このタイマーが開始するのは、ユーザが電話機の Park を押したときです。タイマーが時間切れになるとアラームが鳴ります。 デフォルトは 60 秒です。 0 以外の値を設定すると、その値によって、[サービス パラメータ (Service Parameters)] ウィンドウで設定されたこのパラメータの値が上書きされます。ただし、ここで値 0 を設定すると、[サービス パラメータ (Service Parameters)] ウィンドウの値が使用されます。

ハント リストのパーク モニタリングのセットアップ

ハントリストを介してルーティングされたコールがパークされているとき、未取得時のパーク モニタリング転送タイマーが時間切れになると、ハントパイロットの [未取得時のパーク モニタリング転送の接続先 (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination)] パラメータの値が使用されます (空白でない場合)。

手順

- ステップ 1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified Communications Manager Administration)]で、[コールルーティング (Call Routing)]>[ルート/ハント (Route/Hunt)]>[ハントパイロット (Hunt Pilot)]と選択します。
- ステップ 2** [未取得時のパーク モニタリング転送の接続先 (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination)]パラメータを設定します。
ハントパイロットの[未取得時のパーク モニタリング転送の接続先 (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination)]パラメータの値が空白の場合、未取得時のパーク モニタリング転送タイマーが時間切れになると、コールは[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)]ウィンドウで設定された接続先に転送されます。

実行可能な着信呼警告の有効化

この機能が有効である場合、着信コールがあったときに実行可能なアラートが表示されます。アラートは従来の着信コールのポップアップ通知に代わるもので、ユーザはアラートに応答する必要があります。



- (注) カスタム ラインフィルタと実行可能な着信コールアラート機能の両方を有効にすると、実行可能なコールアラートはフィルタの対象回線だけに適用されます。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理で、次のいずれかを選択してください。
- [システム (System)]>[エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)]
 - [デバイス (Device)]>[デバイスの設定 (Device Settings)]>[共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)]
 - [デバイス (Device)]>[電話 (Phone)]
- ステップ 2** 実行可能な着信コールアラートのフィールドを特定し、適切な設定にフィールドを設定します。設定可能なフィールドの値は次のとおりです。
- [無効 (Disabled)]: (デフォルト) 実行可能な着信コールアラートは無効になっています。従来の着信コールのポップアップアラートが表示されます。
 - [すべての着信コールについて表示 (Show for all Incoming Call)]: 可視性に関係なくすべてのコールの実行可能な着信アラートを表示します。

- [非表示の着信コールについて表示 (Show for Invisible Incoming Call)] : 電話機に表示されないコールの実行可能な着信アラートを表示します。このパラメータは、着信アラートのポップアップ通知と同様に動作します。

他のウィンドウでこのフィールドを設定すると、設定の優先順位は次のとおりです。

- 1 [デバイス設定 (Device Configuration)] ウィンドウの設定値
- 2 [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] ウィンドウの設定値
- 3 [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)] ウィンドウの設定値

ステップ 3 [保存 (Save)] を選択します。

コール履歴表示拡張の有効化

手順

- ステップ 1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified Communications Manager Administration)] に移動して、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。
- ステップ 2** Cisco Unified CM に関連付けられた電話機のリストからユーザの電話機を探します。
- ステップ 3** 電話機の [デバイス名 (Device Name)] をクリックします。
[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] 領域に移動し、[ログ表示 (Logging Display)] ドロップダウンリストボックスから、[有効 (Enable)] を選択します。
[無効 (Disabled)] オプションはデフォルトで選択されています。

[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] エリアで設定したパラメータは、さまざまなデバイスの [デバイス設定 (Device Configuration)] ウィンドウと [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)] ウィンドウにも表示されることがあります。

これらの他のウィンドウでも同じパラメータを設定した場合、優先される設定は、次の順序で決定されます。
 - 1 [デバイス設定 (Device Configuration)] ウィンドウの設定値
 - 2 [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] ウィンドウの設定値
 - 3 [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)] ウィンドウの設定値

共有回線のコール履歴の有効化

詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』を参照してください。

手順

-
- ステップ 1 Cisco Unified CM の管理ページに移動し、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。
 - ステップ 2 Cisco Unified CM に関連付けられた電話機のリストからユーザの電話機を探します。
 - ステップ 3 電話機の [デバイス名 (Device Name)] をクリックします。
 - ステップ 4 [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] 領域に移動し、[ログ表示 (Logging Display)] ドロップダウン リスト ボックスから、適切なプロファイルを選択します。
[無効 (Disabled)] オプションはデフォルトで選択されています。

[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] エリアで設定したパラメータは、さまざまなデバイスの [デバイス設定 (Device Configuration)] ウィンドウと [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)] ウィンドウにも表示されることがあります。

これらの他のウィンドウでも同じパラメータを設定した場合、優先される設定は、次の順序で決定されます。

- 1 [デバイス設定 (Device Configuration)] ウィンドウの設定値
 - 2 [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] ウィンドウの設定値
 - 3 [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)] ウィンドウの設定値
-

デフォルト回線フィルタのセットアップ

手順

-
- ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified Communications Manager Administration)] に移動して、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。
 - ステップ 2 [デフォルト回線フィルタ (Default line filter)] フィールドを見つけ、回線 DN を入力します。デバイス名エントリはカンマで区切ります。
指定された回線がデフォルト フィルタに追加されます。
-

カスタム回線フィルタのセットアップ

カスタム回線フィルタ機能は、必要に応じて優先度の高い回線だけにアラートをフィルタリングすることでアラートアクティビティを減らす、設定可能なオプションを提供します。デフォルトの電話フィルタだけを設定または編集できます。

デフォルトの回線フィルタが設定されると、[毎日のスケジュール (Daily schedule)] というフィルタを、電話機の [設定 (Settings)] > [初期設定 (Preferences)] メニューにある [コール通知 (Call notifications)] から使用できるようになります。[毎日のスケジュール (Daily schedule)] フィルタは、[すべての通話 (All Calls)] フィルタの追加です。

デフォルト回線フィルタが設定されていない場合、電話機はプロビジョニングされたすべての回線を検査します。設定されている場合、[デフォルト (Default)] フィルタがアクティブフィルタとして選択されているか、カスタムフィルタがないのであれば、Cisco Unified Communications Manager で設定された回線を検査します。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager Administration で、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。
- ステップ 2** [デフォルト回線フィルタ (Default line filter)] フィールドを設定します。デフォルト フィルタに含める電話機デバイス名のカンマ区切りリスト。デフォルトではリストは空白で、プロビジョニングされたすべての回線が検査されます。
-

電話ボタン テンプレート

電話ボタンテンプレートを使用すると、スピードダイヤルやコール処理機能をプログラム可能なボタンに割り当てることができます。ボタンに割り当てられるコール処理機能には、応答 (Answer)、モビリティ (Mobility)、すべてのコール (All Calls) が含まれます。

テンプレートの変更は、可能な限り電話機をネットワークに登録する前に行ってください。この順序に従うと、登録の実行中、カスタマイズした電話ボタンテンプレート オプションに Cisco Unified Communications Manager からアクセスできます。

電話ボタン テンプレートの変更

IP Phone サービスの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Cisco Unified IP Phone Services Configuration」の章を参照してください。回線ボタンの設定の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Cisco Unified IP Phone Configuration」の章および「Configuring Speed-Dial Buttons」の項を参照してください。

手順

-
- ステップ 1 Cisco Unified CM の管理で、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)] を選択します。
 - ステップ 2 [検索 (Find)] をクリックします。
 - ステップ 3 電話機のモデルを示します。
 - ステップ 4 [コピー (Copy)] を選択し、新しいテンプレートの名前を入力して、[保存 (Save)] を選択します。
[電話ボタンテンプレートの設定 (Phone Button Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 5 割り当てるボタンを確認して、機能が表示されるドロップダウンリストから、その回線に関連付ける [サービス URL (Service URL)] を選択します。
 - ステップ 6 [保存 (Save)] を選択して、サービス URL を使用して新しい電話ボタンテンプレートを作成します。
 - ステップ 7 [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択して、電話機の [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウを開きます。
 - ステップ 8 [電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)] ドロップダウンリストから、新しい電話ボタンテンプレートを選択します。
 - ステップ 9 [保存 (Save)] を選択して変更を保存し、次に [リセット (Reset)] を選択して変更を実装します。
これで電話機のユーザが、セルフケアポータルにアクセスできるようになり、電話機のボタンにサービスが関連付けられました。
-

すべてのコールの電話ボタンテンプレートの割り当て

複数のシェアドラインを持つユーザに、電話テンプレートの [すべてのコール (All Calls)] ボタンを割り当てます。

電話機に [すべてのコール (All Calls)] ボタンを設定すると、ユーザはそのボタンを使用して次の操作を実行できます。

- 電話機の全回線から、現在のコールの全リストを表示します。
- ([通話履歴 (Call History)] の下に) 電話機の全回線から、すべての不在着信の一覧を表示します。
- ユーザがオフフックにすると、ユーザのプライマリ回線でコールを発信できます。すべてのコール (All Calls) のデフォルトは、すべての発信コールに関してユーザのプライマリ回線になります。

手順

-
- ステップ 1** [すべてのコール (All Calls)] ボタンを含むように電話ボタンテンプレートを変更します。
- ステップ 2** 電話機にテンプレートを割り当てます。
-

IP Phone サービスとしての PAB またはスピードダイヤルのセットアップ

電話ボタンテンプレートを変更して、サービス URL をプログラム可能なボタンに関連付けることができます。これを行うと、ユーザは、1つのボタンで、PAB とスピードダイヤルにアクセスできます。電話ボタンテンプレートを変更する前に、PAB やスピードダイヤルを IP Phone サービスとして設定する必要があります。

(まだサービスでない) PAB やスピードダイヤルを IP Phone サービスとして設定するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [IP Phone サービス (Phone Services)] を選択します。
[IP Phone サービスの検索と一覧表示 (Find and List IP Phone Services)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
[IP Phone サービスの設定 (IP Phone Services Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** 次の設定値を入力します。
- [サービス名 (Service Name)] および [ASCII サービス名 (ASCII Service Name)] : Personal Address Book と入力します。
 - [サービスの説明 (Service Description)] : (オプション) サービスの説明を入力します。
 - サービス URL (Service URL)
PAB の場合は、次の URL を入力します。
http://<Unified CM-server-name>:8080/ccmpd/login.do?name=#DEVICENAME#&service=pab
ファストダイヤルの場合は、次の URL を入力します。
http://<Unified-CM-server-name>:8080/ccmpd/login.do?name=#DEVICENAME#&service=fd
 - セキュア サービス URL (Secure Service URL)
PAB の場合は、次の URL を入力します。
https://<Unified CM-server-name>:8443/ccmpd/login.do?name=#DEVICENAME#&service=pab
ファストダイヤルの場合は、次の URL を入力します。

https://<Unified-CM-server-name>:8443/ccmpd/login.do?name=#DEVICENAME#&service=fd

- [サービス カテゴリ (Service Category)] : [XML サービス (XML Service)] を選択します。
- [サービス タイプ (Service Type)] : [ディレクトリ (Directories)] を選択します。
- [有効 (Enable)] : チェックボックスを選択します。

http://<IP_address> または *https://<IP_address>* (Cisco Unified IP Phone がサポートするプロトコルによって異なります)。

ステップ 4 [保存 (Save)] を選択します。

『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Cisco Unified IP Phone Services Configuration」の章の説明に従い、サービス パラメータを追加、変更、または削除することができます。

(注) サービス URL を変更した場合、IP Phone サービス パラメータを削除した場合、またはユーザの登録先の IP Phone サービス名を変更した場合は、[登録の更新 (Update Subscriptions)] をクリックして、現在のすべての登録ユーザを更新し、変更を適用する必要があります。このボタンをクリックしなかった場合は、ユーザがそのサービスに登録して、正しい URL を再作成する必要があります。

PAB またはファスト ダイヤル用の電話ボタン テンプレートの変更

電話ボタンテンプレートを変更して、サービス URL をプログラム可能なボタンに関連付けることができます。これを行うと、ユーザは、1つのボタンで、PAB とスピードダイヤルにアクセスできます。電話ボタンテンプレートを変更する前に、PAB やスピードダイヤルを IP Phone サービスとして設定する必要があります。

IP Phone サービスの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Cisco Unified IP Phone Services Configuration」の章を参照してください。回線ボタンの設定の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Cisco Unified IP Phone Configuration」の章および「Configuring Speed-Dial Buttons」の項を参照してください。

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM の管理で、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)] を選択します。

ステップ 2 [検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 3 電話機のモデルを示します。

ステップ 4 [コピー (Copy)] を選択し、新しいテンプレートの名前を入力して、[保存 (Save)] を選択します。
[電話ボタンテンプレートの設定 (Phone Button Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 5** 割り当てるボタンを確認して、機能が表示されるドロップダウンリストから、その回線に関連付ける [サービス URL (Service URL)] を選択します。
- ステップ 6** [保存 (Save)] を選択して、サービス URL を使用して新しい電話ボタンテンプレートを作成します。
- ステップ 7** [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択して、電話機の [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウを開きます。
- ステップ 8** [電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)] ドロップダウンリストから、新しい電話ボタンテンプレートを選択します。
- ステップ 9** [保存 (Save)] を選択して変更を保存し、次に [リセット (Reset)] を選択して変更を実装します。
これで電話機のユーザが、セルフケアポータルにアクセスできるようになり、電話機のボタンにサービスが関連付けられました。

電話機の Web ページへのアクセスの制御

セキュリティ上の理由から、電話機の Web ページへのアクセスはデフォルトで無効になっています。これにより、電話機の Web ページおよび Cisco Unified Communications セルフ ケア ポータルへのアクセスが禁止されます。



- (注) Cisco Quality Report Tool などの一部の機能は、電話機の Web ページにアクセスしないと正しく動作しません。また、Web アクセスを無効にすると、CiscoWorks などの Web アクセスに依存するサービスアビリティアプリケーションにも影響します。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。
- ステップ 2** 電話機の検索条件を指定して [検索 (Find)] を選択します。または、[検索 (Find)] を選択してすべての電話機を表示します。
- ステップ 3** デバイス名を選択して、そのデバイスの [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウを開きます。
- ステップ 4** [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)] 領域までスクロールします。
- ステップ 5** アクセスを有効にするには、[Web アクセス (Web Access)] ドロップダウンリストで、[有効 (Enabled)] を選択します。
- ステップ 6** アクセスを無効にするには、[Web アクセス (Web Access)] ドロップダウンリストで、[無効 (Disabled)] を選択します。
- ステップ 7** [設定の適用 (Apply Config)] を選択します。

ソフトキーテンプレートの設定

Cisco Unified Communications Manager の管理ページを使用して、最大 18 のソフトキーを電話機でサポートされているアプリケーションに関連付けることができます。Cisco Unified Communications Manager では、Standard User および Standard Feature というソフトキーテンプレートがサポートされています。

ソフトキーをサポートするアプリケーションには、関連付けられた標準ソフトキーテンプレートが 1 つ以上あります。標準ソフトキーテンプレートを変更するには、コピーしてリネームしてから、新しいテンプレートを更新します。非標準のソフトキーテンプレートも修正できます。

[ソフトキーの制御 (Softkey Control)]パラメータは、電話機のソフトキーが機能管理ポリシーとソフトキーテンプレート機能のどちらによって制御されるかどうかを示します。[ソフトキーの制御 (Softkey Control)]パラメータは必須入力フィールドです。

デフォルトは、[機能管理ポリシー (Feature Control Policy)]です。

この機能の設定の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「Softkey Template setup」の章および『Cisco Unified Communications Manager System Guide』の「Softkey Template」の章を参照してください。

Cisco Unified IP Phone は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [ソフトキーテンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)]で設定可能なすべてのソフトキーをサポートしているわけではありません。Cisco Unified Communications Manager では、管理ポリシー設定によって一部のソフトキーを有効/無効にできます。次の表に、機能およびソフトキーテンプレートで設定可能なソフトキー、および Cisco Unified IP Phone でのサポートの有無を示します。



(注) Cisco Unified Communications Manager では、ソフトキーテンプレートに任意のソフトキーを設定できますが、サポートされていないソフトキーは、電話機に表示されません。

表 25: 設定可能なソフトキー

機能	[ソフトキーテンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)]で設定可能なソフトキー	Cisco Unified IP Phone 8841、8851、8861 でのソフトキーとしてのサポート	注記
応答	応答 (Answer)	Yes	—
折り返し	折返し (CallBack)	Yes	—

機能	[ソフトキーテンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] で設定可能なソフトキー	Cisco Unified IP Phone 8841、8851、8861 でのソフトキーとしてのサポート	注記
すべてのコールの転送	不在転送 (cfwdAll)	Yes	電話機は [不在転送 (Forward all)] または [不在オフ (Forward off)] を表示。
コールパーク	パーク (Park)	Yes	—
コールピックアップ	ピックアップ (Pickup)	Yes	—
C 割り込み	C 割り込み (cBarge)	Yes	C 割り込みだけがサポートされ、電話機に [割り込み (Barge)] として表示。
会議	会議 (Confm)	Yes	会議は専用ボタンです。
会議リスト	参加者 (ConfList)	Yes	電話機は [詳細の表示 (Show detail)] と表示。
即転送	即転送 (iDivert)	Yes	電話機は [拒否 (Decline)] と表示。
サイレント	サイレント (DND)	Yes	サイレントをプログラム可能な回線ボタンまたはソフトキーとして設定します。
終了	終了 (EndCall)	Yes	—
グループピックアップ	G ピック (GPickUp)	Yes	—
保留	保留 (Hold)	Yes	保留は専用ボタンです。
ハントグループ	ハント (HLog)	Yes	ハントグループは、プログラム可能な回線ボタンとして設定します。
参加	参加 (Join)	No	—

機能	[ソフトキー テンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] で設定可能なソフトキー	Cisco Unified IP Phone 8841、8851、8861 でのソフトキーとしてのサポート	注記
迷惑呼 ID	迷惑呼 ID (MCID)	Yes	迷惑呼 ID をプログラム可能な機能ボタンまたはソフトキーとして設定します。
ミー トミー	ミー トミー (MeetMe)	Yes	—
モバイルコネクト	モビリティ (Mobility)	Yes	モバイルコネクトをソフトキーとして設定します。
発信	発信 (NewCall)	Yes	—
その他のピックアップ	他 Grp (oPickup)	Yes	—
キュー統計情報の PLK サポート	キュー ステータス (Queue Status)	No	—
品質レポート ツール	品質レポート ツール (QRT)	Yes	品質レポートツールをプログラム可能な機能ボタンまたはソフトキーとして設定します。
リダイヤル	リダイヤル (Redial)	Yes	—
会議の最後の参加者の削除	会議の最後の参加者の削除 (Remove)	No	—
復帰	復帰 (Resume)	Yes	—
選択	選択 (Select)	No	—
スピードダイヤル	短縮 (AbbrDial)	Yes	電話機には、[スピードダイヤル (SpeedDial)] と表示されます。
転送	転送 (Trfr)	Yes	転送は専用ボタンです。
ビデオ モード コマンド	ビデオ (VidMode)	No	—

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified Communications Manager Administration)] にアクセスします。
- ステップ 2** ソフトキー テンプレートを設定するには、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [ソフトキーテンプレート (Softkey Template)] を選択します。
- ステップ 3** ソフトキー テンプレートを電話機に割り当てるには、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択し、[ソフトキー テンプレート (Softkey Template)] フィールドを設定します。
-

RTP/sRTP ポート範囲のセットアップ

SIP プロファイルでリアルタイム転送プロトコル (RTP) およびセキュア リアルタイム転送プロトコル (sRTP) のポートの値を設定します。 RTP および sRTP ポートの値の範囲は 2048 ~ 65535 で、デフォルト範囲は 16384 ~ 32764 です。 RTP および sRTP ポート範囲内のポート値の一部は、他の電話サービスに指定されています。 これらのポートは RTP および SRTP 用に設定できません。

詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』の「SIP profile setup」の章を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** [デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [SIP プロファイル (SIP Profile)] の順に選択します。
- ステップ 2** 使用する検索条件を選択し、[検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 3** 変更するプロファイルを選択します。
- ステップ 4** ポート範囲の開始と終了を含むように [開始メディアポート (Start Media Port)] および [終了メディアポート (Stop Media Port)] を設定します。
次のリストでは、他の電話サービスに使用されるため、RTP および SRTP で利用できない UDP ポートを判別します。

ポート 4051

ピア ファームウェア共有 (PFS) 機能に使用される

ポート 5060

UDP を介した SIP に使用される

ポート 49152 ~ 53247

ローカル エフェメラル ポートに使用される

ポート 53248 ~ 65535

VxC シングル トンネル VPN 機能に使用される

- ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 6 [設定の適用 (Apply Config)] をクリックします。

TLS 再開タイマーのセットアップ

TLS セッション再開は、認証プロセス全体を繰り返さずに TLS セッションを再開できるようにします。TLS 接続のデータ交換にかかる時間を大幅に短縮できます。

Cisco Unified IP 電話 8961、9951、9971 は TLS セッションをサポートしていますが、TLS セッションはいずれも TLS 再開をサポートしていません。次に、さまざまなセッションと TLS 再開のサポートについて説明します。

- SIP シグナリングの TLS セッション：再開をサポートします
- HTTPS クライアント：再開をサポートします
- CAPF：再開をサポートします
- TVS：再開をサポートします
- EAP-TLS：再開をサポートしません
- EAP-FAST：再開をサポートしません
- VPN クライアント：再開をサポートしません

詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Administration Guide*』を参照してください。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。
- ステップ 2 [TLS 再開タイマー (TLS Resumption Timer)] パラメータを設定します。タイマーの範囲は 0 ~ 3600 秒です。デフォルト値は 3600 です。フィールドが 0 に設定された場合は、TLS セッション再開は無効になります。

ビジュアルボイスメールのセットアップ

ビジュアルボイスメールは、[Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified Communications Manager Administration)] から、すべての Cisco IP Phone または個別ユーザまたはユーザグループに設定されます。すべての Cisco IP Phone デバイスに対してビジュアルボイスメールを設定する場合は、次の手順を使用します。



(注) 設定情報については、<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/visual-voicemail/model.html>で Cisco ビジュアルボイスメールのマニュアルを参照してください。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager Administration で、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [電話サービス (Phone Services)] を選択します。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] を選択し、ビジュアルボイスメールの新しいサービスを作成します。
- ステップ 3** [IP Phone サービスの設定 (IP Phone Services Configuration)] ウィンドウで、各フィールドに次の情報を入力します。
- サービス名 (Service Name)
 - サービス URL (Service URL)
 - サービス カテゴリ (Service Category)
 - サービス タイプ (Service Type)
- ステップ 4** [有効 (Enable)] をチェックし、[保存 (Save)] をクリックします。
- (注) [エンタープライズ登録 (Enterprise Subscription)] はチェックしないでください。
- ステップ 5** [サービスパラメータ情報 (Service Parameter Information)] ウィンドウで、[新規パラメータ (New Parameter)] をクリックし、各フィールドに次の情報を入力します。
- パラメータ名 (Parameter Name)
 - パラメータ表示名 (Parameter Display Name)
 - デフォルト値 (Default Value)
 - パラメータの説明 (Parameter Description)
- ステップ 6** [パラメータは必須 (Parameter is Required)] をオンにして、[保存 (Save)] をクリックします。
- (注) [パラメータはパスワード (コンテンツをマスクする) (Parameter is a Password (mask contents))] はチェックしないでください。

- ステップ 7** ウィンドウを閉じ、[Phone サービスの設定 (Phone Services Configuration)] ウィンドウで [保存 (Save)] をもう一度選択します。

特定ユーザのビジュアルボイスメールのセットアップ

特定のユーザにビジュアルボイスメールを設定する場合は、次の手順を使用します。



- (注) 設定情報については、<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/visual-voicemail/model.html> で Cisco ビジュアルボイスメールのマニュアルを参照してください。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager Administration で、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。
- ステップ 2** 目的のユーザに関連付けられているデバイスを選択します。
- ステップ 3** [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンで、[サービスの登録/登録解除 (Subscribe/Unsubscribe Services)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ 4** 作成した VisualVoiceMail サービスを選択し、[次へ (Next)] > [登録 (Subscribe)] を選択します。

ユーザグループのビジュアルボイスメールのセットアップ

複数の Cisco IP Phone 8841、8851、8861 を一括で Cisco Unified Communications Manager にビジュアルボイスメールが登録された状態で追加するには、各電話機テンプレートで、電話機タイプに応じた BAT ツールで電話機テンプレートを作成します。その後、ビジュアルボイスメールサービスに登録し、テンプレートを使用して電話機を挿入します。

すでに Cisco IP Phone 8841、8851、8861 電話機を登録してある状態から、ビジュアルボイスメールサービスへの登録を実行する場合は、BAT で電話機テンプレートを作成し、テンプレート内でビジュアルボイスメールサービスに登録し、それから BAT ツールを使用して電話機を更新します。

詳細については、<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/visual-voicemail/model.html> を参照してください。



第 12 章

社内ディレクトリとパーソナルディレクトリ

- [社内ディレクトリのセットアップ, 233 ページ](#)
- [パーソナルディレクトリのセットアップ, 233 ページ](#)
- [ユーザのパーソナルディレクトリのエントリのセットアップ, 234 ページ](#)

社内ディレクトリのセットアップ

社内ディレクトリによって、ユーザが同僚の電話番号を調べることができます。この機能をサポートするには、社内ディレクトリを設定する必要があります。

Cisco Unified Communications Manager では、Cisco Unified Communications Manager と連動する Cisco Unified Communications Manager アプリケーションのユーザの認証情報と認可情報を保存するために、Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) ディレクトリを使用しています。認証によって、システムに対するユーザのアクセス権が確立します。認可とは、ユーザが使用を許可されるテレフォニーリソース、たとえば特定の電話内線などを識別することです。

詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager System Guide*』の「Understanding Directory Numbers」を参照してください。

LDAP ディレクトリの設定が完了すると、ユーザは電話機の社内ディレクトリサービスを使用して、社内ディレクトリでユーザを検索できるようになります。

パーソナルディレクトリのセットアップ

パーソナルディレクトリには、ユーザが一連の個人の番号を保存できます。

パーソナルディレクトリは、次の機能で構成されています。

- 個人アドレス帳 (PAB)
- スピードダイヤル

- アドレス帳同期化ツール (TABSynch)

ユーザはこれらの方法を使用してパーソナルディレクトリの機能を利用できます。

- Web ブラウザから : Cisco Unified Communications セルフ ケア ポータルから PAB やスピードダイヤル機能を利用できます。
- Cisco IP Phone から : 連絡先を選択して、社内ディレクトリやユーザのパーソナルディレクトリを検索できます。
- Microsoft Windows アプリケーションから : TABSynch ツールを使用して、PAB を Microsoft Windows Address Book (WAB) と同期化することができます。Microsoft Outlook Address Book (OAB) を使用するユーザは、まず OAB から WAB にデータをインポートする必要があります。次に TabSync を使用して WAB をパーソナルディレクトリと同期化します。TABSynch の使用方法については、[Cisco IP Phone Address Book Synchronizer のダウンロード](#)、(234 ページ) および [Synchronizer のセットアップ](#)、(236 ページ) を参照してください。

Cisco IP Phone Address Book Synchronizer を使用しているユーザが、エンドユーザデータのみアクセスできるようにするには、Cisco Unified サービスアビリティで Cisco UXL Web Service をアクティブ化します。

パーソナルディレクトリを Web ブラウザから設定するには、ユーザがセルフ ケア ポータルにアクセスする必要があります。管理者は、ユーザに対して URL とサインイン情報を提供する必要があります。

ユーザのパーソナルディレクトリのエントリのセットアップ

ユーザは、Cisco IP Phone で、パーソナルディレクトリのエントリを設定できます。パーソナルディレクトリを設定するには、ユーザが以下にアクセスする必要があります。

- セルフ ケア ポータル : セルフ ケア ポータルへのアクセス方法をユーザに必ず伝えてください。詳細については、[セルフ ケア ポータルへのアクセスの設定](#)、(94 ページ) を参照してください。
- Cisco IP Phone Address Book Synchronizer : ユーザにインストーラを必ず配布してください。[Cisco IP Phone Address Book Synchronizer のダウンロード](#)、(234 ページ) を参照してください。

Cisco IP Phone Address Book Synchronizer のダウンロード

Synchronizer のコピーをダウンロードしてユーザに送信するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1 インストーラを入手するには、Cisco Unified CM の管理で、[アプリケーション (Application)] > [プラグイン (Plugins)] を選択します。
 - ステップ 2 Cisco IP Phone Address Book Synchronizer プラグイン名の横にある [ダウンロード (Download)] を選択します。
 - ステップ 3 ファイルをダウンロードするダイアログボックスが表示されたら、[保存 (Save)] を選択します。
 - ステップ 4 TabSyncInstall.exe ファイル、および [Cisco IP Phone Address Book Synchronizer の導入](#)、(235 ページ) の手順を、このアプリケーションを必要としているすべてのユーザに送信します。
-

Cisco IP Phone Address Book Synchronizer の導入

Cisco IP Phone Address Book Synchronizer は、Microsoft Windows のアドレス帳に格納されているデータを、Cisco Unified Communications Manager ディレクトリおよびセルフ ケア ポータルの個人アドレス帳サービスと同期させることができます。



-
- ヒント Windows のアドレス帳と個人アドレス帳を適切に同期させるには、次の手順を実行する前に、Windows アドレス帳のすべてのユーザを Windows アドレス帳に入力する必要があります。
-

Synchronizer のインストール

Cisco IP Phone Address Book Synchronizer をインストールするには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1 システム管理者から Cisco IP Phone Address Book Synchronizer のインストーラ ファイルを入手してください。
 - ステップ 2 管理者から提供された TabSyncInstall.exe ファイルをダブルクリックします。パブリッシャのダイアログボックスが表示されます。
 - ステップ 3 [実行 (Run)] を選択します。
[Cisco Unified CallManager Personal Address Book Synchronizer の InstallShield ウィザードへようこそ (Welcome to the InstallShield Wizard for Cisco Unified CallManager Personal Address Book Synchronizer)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 4 [次へ (Next)] を選択します。
[使用許諾契約 (License Agreement)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 5 ライセンス契約に関する情報を読み、[同意します (I Accept)] を選択します。[次へ (Next)] を選択します。

[インストール先 (Destination Location)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 6 アプリケーションのインストール先ディレクトリを選択し、[次へ (Next)] を選択します。
[インストールの開始 (Ready to Install)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 7 [インストール (Install)] を選択します。
インストール ウィザードによって、アプリケーションがコンピュータにインストールされます。
インストールが完了すると、[InstallShield ウィザードの完了 (InstallShield Wizard Complete)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 8 [完了 (Finish)] を選択します。

ステップ 9 プロセスを完了するために、[Synchronizer のセットアップ](#)、(236 ページ) の手順を実行します。

Synchronizer のセットアップ

Cisco IP Phone Address Book Synchronizer を設定するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 Cisco IP Phone Address Book Synchronizer を開きます。
デフォルトのインストール ディレクトリを受け入れた場合は、[スタート (Start)] > [すべてのプログラム (All Programs)] > [Cisco Systems] > [TabSync] を選択することでアプリケーションを開くことができます。

ステップ 2 ユーザ情報を設定するには、[ユーザ (User)] を選択します。
[Cisco Unified CallManager ユーザ情報 (Cisco Unified CallManager User Information)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 Cisco IP Phone のユーザ名とパスワードを入力し、[OK] を選択します。

ステップ 4 Cisco Unified Communications Manager サーバ情報を設定するには、[サーバ (Server)] を選択します。
[Configure Cisco Unified CallManager サーバ情報の設定 (Configure Cisco Unified CallManager Server Information)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 Cisco Unified Communications Manager サーバの IP アドレスまたはホスト名とポート番号を入力し、[OK] を選択します。
この情報が不明な場合は、システム管理者に問い合わせてください。

ステップ 6 ディレクトリ同期プロセスを開始するには、[同期 (Synchronize)] を選択します。
[同期の状況 (Synchronization Status)] ウィンドウに、アドレス帳の同期の状況が表示されます。
重複エントリに関するルールでユーザによる調整を選択しており、アドレス帳のエントリが重複している場合は、[選択の重複 (Duplicate Selection)] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 7** 個人アドレス帳に登録するエントリを選択し、[OK] を選択します。
- ステップ 8** 同期化が完了したら、[終了 (Exit)] を選択して Cisco Unified CallManager Address Book Synchronizer を閉じます。
- ステップ 9** 同期化が機能しているかを確認するには、セルフ ケア ポータルにログインし、[個人アドレス帳 (Personal Address Book)] を選択します。機能している場合は、Windows のアドレス帳のユーザが表示されます。
-



第 **V** 部

Cisco IP Phone のトラブルシューティング

- [電話システムの監視, 241 ページ](#)
- [トラブルシューティング, 287 ページ](#)
- [メンテナンス, 307 ページ](#)
- [各言語ユーザのサポート, 315 ページ](#)



第 13 章

電話システムの監視

- [Cisco IP Phone のステータス](#), 241 ページ
- [Cisco IP Phone Web ページ](#), 266 ページ
- [XML での電話からの情報要求](#), 284 ページ

Cisco IP Phone のステータス

ここでは、Cisco IP Phone 8841、8851、8861 でモデル情報、ステータス メッセージ、およびネットワーク統計を表示する方法について説明します。

- [モデル情報 (Model Information)] : 電話機のハードウェアとソフトウェアに関する情報を表示します。
- [ステータス (Status)] メニュー : ステータス メッセージ、ネットワーク統計、および現在のコールに関する統計を表示する画面にアクセスできます。

これらの画面に表示される情報は、電話機の操作のモニタやトラブルシューティングに役立てることができます。

また、これらの情報の大半およびその他の関連情報は、電話機の Web ページからリモートで取得することもできます。詳細については、[Cisco IP Phone Web ページ](#), (266 ページ) を参照してください。

Cisco IP Phone 8841、8851、8861 のトラブルシューティングの詳細については、[トラブルシューティング](#), (287 ページ) を参照してください。

[モデル情報 (Model Information)] ウィンドウの表示

[モデル情報 (Model Information)] 画面を表示するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [アプリケーション (Applications)] を押します。
- ステップ 2** [電話の情報 (Phone Information)] を選択します
 ユーザがセキュアまたは認証済みのサーバに接続している場合、サーバオプションの右側にある [電話の情報 (Phone Information)] 画面に対応するアイコン (ロックまたは認証マーク) が表示されます。 ユーザがセキュアまたは認証済みのサーバに接続していない場合、アイコンは表示されません。
- ステップ 3** [モデル情報 (Model Information)] 画面を終了するには、[終了 (Exit)] を押します。
-

[モデル情報 (Model Information)] のフィールド

次の表で、[モデル情報 (Model Information)] 設定フィールドを説明します。

表 26: モデル情報の設定

オプション	説明
モデル番号 (Model Number)	電話機のモデル番号。
IP アドレス (IP Address)	電話機の IP アドレス。
ホスト名 (Host name)	電話機のホスト名。
アクティブロード (Active Load)	現在、電話機にインストールされているファームウェアのバージョン。ユーザは、[詳細 (Details)] を押して詳細を確認できます。

オプション	説明
非アクティブ ロード (Inactive Load)	<p>[非アクティブ ロード (Inactive Load)] はダウンロード進行中のときにだけ表示されます。ダウンロードアイコン、および [アップグレード中 (Upgrade in Progress)] または [アップグレードに失敗しました (Upgrade Failed)] という状態も表示されます。ユーザがアップグレード中に [詳細 (Details)] を押すと、ダウンロードファイル名とコンポーネントがリストされます。</p> <p>新しいファームウェアイメージは、保守ウィンドウより先にダウンロードするよう設定できます。この場合、すべての電話機でファームウェアがダウンロードされるまで待たずに、非アクティブ ステータスに対する既存ロードのリセットから、新しいロードのインストールへと急速に切り替えられます。</p> <p>ダウンロードが完了したときに、アイコンは完了ステータスを示すように変更され、ダウンロードの成功に対してチェックマークが表示され、ダウンロードの失敗に対して「X」が表示されます。可能な場合は、残りのロードのダウンロードが継続されます。</p>
前回のアップグレード (Last Upgrade)	前回ファームウェアをアップグレードした日付。
アクティブ サーバ (Active Server)	電話機が登録されているサーバのドメイン名。
スタンバイ サーバ (Stand-by Server)	スタンバイ サーバのドメイン名。

[ステータス (Status)] メニューの表示

[ステータス (Status)] メニューには次のオプションが含まれます。これらは電話機とその動作に関する情報を示します。

- [ステータス メッセージ (Status Messages)] : [ステータス メッセージ (Status Messages)] 画面を表示します。ここには、重要なシステム メッセージのログが示されます。
- [イーサネット統計 (Ethernet Statistics)] : [イーサネット統計 (Ethernet Statistics)] 画面を表示します。ここには、イーサネット トラフィック統計が表示されます。
- [ワイヤレス統計 (Wireless Statistics)] : [ワイヤレス統計 (Wireless Statistics)] 画面が表示されます (該当する場合)
- [コール統計 (Call Statistics)] : 現在のコールのカウンタおよび統計を表示します。
- [現在のアクセス ポイント (Current Access Point)] : [現在のアクセス ポイント (Current Access Point)] 画面が表示されます (該当する場合)

[ステータス (Status)]メニューを表示するには、次の手順を実行します。


手順

-
- ステップ 1** [ステータス (Status)]メニューを表示するには、[アプリケーション (Applications)]を押します。
- ステップ 2** [管理者設定 (Administrator Settings)]>[ステータス (Status)]を選択します。
- ステップ 3** [ステータス (Status)]メニューを終了するには、[終了 (Exit)]を押します。
-

[ステータス メッセージ (Status Messages)]ウィンドウの表示

[ステータス メッセージ (Status Messages)]画面には、電話機が最近生成したステータスメッセージが 30 件表示されます。この画面には、電話機が起動を完了していない場合でも、いつでもアクセスできます。

手順

-
- ステップ 1** アプリケーション ボタン  を押します。
- ステップ 2** 状態のステータス メッセージを [管理者設定 (Administrator Settings)]>[ステータス (Status)]>[ステータス メッセージ (Status Messages)]を選択します。
- ステップ 3** 現在のステータス メッセージを削除するには、[リストのクリア (Clear List)]を押します。
- ステップ 4** [ステータス メッセージ (Status Messages)]画面を終了するには、[終了 (Exit)]を押します。
-

ステータス メッセージ フィールド

次の表に、電話機の [ステータス メッセージ (Status Messages)]画面に表示されるステータスメッセージを示します。

表 27 : Cisco Unified IP Phone のステータス メッセージ

メッセージ	説明	考えられる状況と対処方法
CFG TFTP サイズ エラー (CFG TFTP Size Error)	電話機のファイルシステムに対して、設定ファイルのサイズが大きすぎます。	電話機の電源をオフ/オンにします。

メッセージ	説明	考えられる状況と対処方法
チェックサム エラー (Checksum Error)	ダウンロードしたソフトウェア ファイルが破損しています。	電話機のファームウェアの新しい コピーを入手し、それを TFTPPath ディレクトリに置きます。 ファイルをこのディレクトリ にコピーできるのは、TFTP サーバソフトウェアがシャット ダウンされているときだけです。 それ以外の場合にコピーすると、 ファイルが破損する可能性があります。
CTL と ITL がインストール されました (CTL and ITL installed)	電話機に Certificate Trust List (CTL) ファイルおよび証明書 信頼リスト (ITL) ファイルがイ ンストールされています。	なし。このメッセージは情報を 通知するだけです。CTL ファイル と ITL ファイルのどちらも、過 去にインストールされていま せん。 信頼リストの詳細については、 『Cisco Unified Communications Manager Security Guide』を参照し てください。
CTL がインストールされま した (CTL Installed)	証明書信頼リスト (CTL) ファ イルが電話機にインストールさ れました。	なし。このメッセージは情報を 通知するだけです。CTL ファイル は過去にインストールされてい ません。 CTL ファイルの詳細については、 『Cisco Unified Communications Manager Security Guide』を参照し てください。
CTL の更新失敗 (CTL update failed)	電話機で証明書信頼リスト (CTL) ファイルを更新できま せんでした。	TFTP サーバの CTL ファイルに問 題があります。 詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Security Guide』を参照してください。

メッセージ	説明	考えられる状況と対処方法
DHCPタイムアウト (DHCP timeout)	DHCP サーバが応答しませんでした。	<p>ネットワークがビジーになっている：このエラーは、ネットワーク負荷が軽減されると、自動的に解決します。</p> <p>DHCP サーバと電話機との間にネットワーク接続がない：ネットワーク接続を確認してください。</p> <p>DHCP サーバがダウンしている：DHCP サーバの設定を確認してください。</p> <p>エラーが続く：スタティック IP アドレスを割り当てることを検討してください。スタティック IP アドレスの割り当ての詳細については、ネットワークの設定、(54 ページ) を参照してください。</p>
DNS タイムアウト (DNS timeout)	DNS サーバが応答しませんでした。	<p>ネットワークがビジーになっている：このエラーは、ネットワーク負荷が軽減されると、自動的に解決します。</p> <p>DNS サーバと電話機との間にネットワーク接続がない：ネットワーク接続を確認してください。</p> <p>DNS サーバがダウンしている：DNS サーバの設定を確認してください。</p>
DNS 不明ホスト (DNS unknown host)	DNS が TFTP サーバまたは Cisco Unified Communications Manager の名前を解決できませんでした。	<p>TFTP サーバまたは Cisco Unified Communications Manager のホスト名が DNS に正しく設定されていることを確認してください。</p> <p>ホスト名ではなく、IP アドレスを使用することを検討してください。</p>

メッセージ	説明	考えられる状況と対処方法
IP が重複しています (Duplicate IP)	別のデバイスが、電話機に割り当てられた IP アドレスを使用中です。	電話機にスタティック IP アドレスが割り当てられている場合は、重複する IP アドレスを割り当てていないことを確認してください。詳細については、 ネットワークの設定 、(54 ページ) を参照してください。 DHCP を使用している場合は、DHCP サーバの設定を確認してください。
CTL および ITL ファイルを削除中 (Erasing CTL and ITL files)	CTL および ITL ファイルを削除中です。	なし。このメッセージは情報を通知するだけです。 CTL ファイルおよび ITL ファイルの詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager Security Guide</i> 』を参照してください。
ロケールの更新エラー (Error update locale)	1 つ以上のローカリゼーションファイルが TFTPPath ディレクトリで見つからなかったか、または有効ではありませんでした。ロケールは変更されませんでした。	Cisco Unified Communications Operating System の管理ページから、次のファイルが [TFTP ファイルの管理 (TFTP File Management)] のサブディレクトリに存在することを確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> • ネットワーク ロケールと同じ名前のサブディレクトリに存在するファイル： <ul style="list-style-type: none"> ◦ tones.xml • ユーザ ロケールと同じ名前のサブディレクトリに存在するファイル： <ul style="list-style-type: none"> ◦ glyphs.xml ◦ dictionary.xml ◦ kate.xml

メッセージ	説明	考えられる状況と対処方法
ファイルが見つかりません <Cfg ファイル> (File not found <Cfg File>)	TFTPサーバで、名前ベースのデフォルトの設定ファイルが見つかりませんでした。	<p>電話機の設定ファイルは、電話機が Cisco Unified Communications Manager データベースに追加されたときに作成されます。電話機が Cisco Unified Communications Manager データベースに存在しない場合、TFTP サーバは「CFG ファイルが見つかりません (CFG File Not Found)」という応答を生成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 電話機が Cisco Unified Communications Manager に登録されていません。電話機を自動登録できない場合は、手動で電話機を Cisco Unified Communications Manager に追加する必要があります。詳細については、電話機の追加方法、(82 ページ) を参照してください。 • DHCP を使用している場合は、DHCP サーバが正しい TFTP サーバを指定していることを確認してください。 • スタティック IP アドレスを使用している場合は、TFTP サーバの設定を確認してください。TFTP サーバの割り当ての詳細については、ネットワークの設定、(54 ページ) を参照してください。
「ファイルが見つかりません <CTLFile.tlv> (File Not Found <CTLFile.tlv>)」	Cisco Unified Communications Manager クラスタがセキュアモードでない場合にこのメッセージが電話機に表示されます。	影響はありません。引き続き電話機は Cisco Unified Communications Manager に登録できます。

メッセージ	説明	考えられる状況と対処方法
IP アドレス解放 (IP address released)	電話機は、IP アドレスを解放するように設定されます。	電話機は、電源をオフ/オンにするか、または DHCP アドレスをリセットするまで、アイドル状態のままです。詳細については、 ネットワークの設定 、(54 ページ) を参照してください。
ITL がインストールされました (ITL installed)	電話機に ITL ファイルがインストールされています。	なし。このメッセージは情報を通知するだけです。ITL ファイルは過去にインストールされていません。 ITL ファイルの詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager Security Guide</i> 』を参照してください。
拒否された HC のロード (Load rejected HC)	ダウンロードされたアプリケーションには、電話機のハードウェアとの互換性がありません。	この電話機でのハードウェア変更をサポートしていないバージョンのソフトウェアをインストールしようとすると発生します。 電話機に割り当てられたロード ID を確認します (Cisco Unified Communications Manager で [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します)。電話機に表示されたロードを再入力します。
デフォルト ルータがありません (No default router)	DHCP またはスタティック設定でデフォルトルータが指定されていませんでした。	電話機にスタティック IP アドレスが割り当てられている場合は、デフォルトルータが設定されていることを確認してください。詳細については、 ネットワークの設定 、(54 ページ) を参照してください。 DHCP を使用している場合は、DHCP サーバがデフォルトルータを提供していません。DHCP サーバの設定を確認してください。

メッセージ	説明	考えられる状況と対処方法
DNS サーバ IP がありません (No DNS server IP)	名前は指定されていましたが、DHCP またはスタティック IP 設定で DNS サーバのアドレスが指定されていませんでした。	電話機にスタティック IP アドレスが割り当てられている場合は、DNS サーバが設定されていることを確認してください。詳細については、 ネットワークの設定 、(54 ページ) を参照してください。 DHCP を使用している場合は、DHCP サーバが DNS サーバを提供していません。DHCP サーバの設定を確認してください。
信頼リストがインストールされていません (No Trust List installed)	CTL ファイルまたは ITL ファイルが電話機にインストールされていません。	信頼ファイルが Cisco Unified Communications Manager で設定されていません。Cisco Unified Communications Manager はデフォルトではセキュリティをサポートしません。 信頼リストの詳細については、『 <i>Cisco Unified Communications Manager Security Guide</i> 』を参照してください。
「CUCM 要求による再起動 (Restart requested by CUCM) 」	Cisco Unified Communications Manager (CUCM) からの要求に基づいて電話機が再起動します。	Cisco Unified Communications Manager で電話機の設定変更が行われ、変更を有効にするために [適用 (Apply)] ボタンが押された可能性があります。
TFTP アクセス エラー (TFTP access error)	TFTP サーバが、存在しないディレクトリを指定しています。	DHCP を使用している場合は、DHCP サーバが正しい TFTP サーバを指定していることを確認してください。 スタティック IP アドレスを使用している場合は、TFTP サーバの設定を確認してください。TFTP サーバの割り当ての詳細については、 ネットワークの設定 、(54 ページ) を参照してください。

メッセージ	説明	考えられる状況と対処方法
TFTP エラー (TFTP error)	電話機が TFTP サーバから提供されたエラーコードを認識しません。	Cisco TAC に連絡してください。
TFTP タイムアウト (TFTP timeout)	TFTP サーバが応答しませんでした。	ネットワークがビジーになっている：このエラーは、ネットワーク負荷が軽減されると、自動的に解決します。 TFTP サーバと電話機との間にネットワーク接続がない：ネットワーク接続を確認してください。 TFTP サーバがダウンしている：TFTP サーバの設定を確認してください。
タイムアウト (Timed Out)	サブリカントが 802.1X トランザクションを実行しようとしたが、オーセンティケータが存在しないためにタイムアウトになりました。	認証は一般的に、スイッチで 802.1x が設定されていない場合にタイムアウトします。

メッセージ	説明	考えられる状況と対処方法
信頼リストの更新に失敗しました (Trust List update failed)	CTL ファイルおよび ITL ファイルの更新に失敗しました。	

メッセージ	説明	考えられる状況と対処方法
		<p>電話機はCTL ファイルおよびITL ファイルをインストールしていますが、新しい CTL ファイルおよびITL ファイルの更新に失敗しました。</p> <p>失敗の理由として次が考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ネットワークの障害が発生した。 • TFTP サーバがダウンしていた。 • CTL ファイルの署名に使用された新しいセキュリティトークン、および、ITL ファイルの署名に使用された TFTP 証明書が導入されたが、電話機の現在の CTL ファイルおよび ITL ファイルには使用できない。 • 内部的な電話障害が発生した。 <p>解決策として次が考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ネットワーク接続を確認します。 • TFTP サーバがアクティブで、正常に機能しているかどうかを確認する。 • Transactional Vsam Services (TVS) サーバが Cisco Unified Communications Manager でサポートされている場合は、TVS サーバがアクティブで、正常に機能しているかどうかを確認する。 • セキュリティ トークンおよび TFTP サーバが有効かどうかを確認する。


メッセージ	説明	考えられる状況と対処方法
		上述の解決策がすべて失敗した場合は、手動で CTL ファイルおよび ITL ファイルを削除し、電話機をリセットする。
信頼リストが更新されました (Trust List updated)	CTL ファイル、ITL ファイル、またはその両方が更新されます。	なし。このメッセージは情報を通知するだけです。 信頼リストの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Security Guide』を参照してください。
バージョンエラー (Version error)	電話機のロードファイルの名前が不正です。	電話機のロードファイルが正しい名前であることを確認してください。
XmlDefault.cnf.xml (または電話機のデバイス名に対応した .cnf.xml)	設定ファイルの名前。	なし。このメッセージは、電話機の設定ファイル名を示します。

[イーサネット統計 (Ethernet Statistics)] 画面の表示

[イーサネット統計 (Ethernet Statistics)] 画面には、電話機およびネットワークのパフォーマンスに関する情報が表示されます。

[イーサネット統計 (Ethernet Statistics)] 画面を表示するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1 アプリケーション  を押します。
 - ステップ 2 [管理者設定 (Administrator Settings)] を選択します。
 - ステップ 3 [ステータス (Status)] を選択します。
 - ステップ 4 [ステータス (Status)] > [イーサネット統計 (Ethernet Statistics)] を選択します。
 - ステップ 5 [Rx Frames]、[Tx Frames]、および [Rx Broadcasts] の統計を 0 にリセットするには、[リストのクリア (Clear List)] を押します。
 - ステップ 6 [イーサネット統計 (Ethernet Statistics)] 画面を終了するには、[終了 (Exit)] を押します。
-

イーサネット統計情報

次の表では、[イーサネット統計 (Ethernet Statistics)] 画面の情報について説明します。

表 28: イーサネット統計情報

項目	説明
Rx フレーム (Rx Frames)	電話機が受信したパケットの数。
Tx フレーム (Tx Frames)	電話機が送信したパケットの数。
Rx Broadcasts	電話機が受信したブロードキャストパケットの数。
リスタートの原因 (Restart Cause)	<p>電話機が最後にリセットされた原因。次のいずれかの値を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 初期化済み (Initialized) • TCP-timeout • CM-closed-TCP • TCP-Bad-ACK • CM-reset-TCP • CM-aborted-TCP • CM-NAKed • KeepaliveTO • Failback • Phone-Keypad • Phone-Re-IP • Reset-Reset • Reset-Restart • Phone-Reg-Rej • 拒否された HC のロード (Load Rejected HC) • CM-ICMP-Unreach • Phone-Abort
経過時間 (Elapsed Time)	電話機が最後にリポートしてから経過した時間。
ポート 1 (Port 1)	ネットワークポートのリンク状態と接続。たとえば、Auto 100 Mb Full-Duplex は、ネットワークポートがリンクアップ状態で、全二重の 100 Mbps 接続を自動ネゴシエーションしたことを意味します。
ポート 2 (Port 2)	PCポートのリンク状態と接続。

項目	説明
DHCP 状態 (DHCP state) (IPv4/IPv6)	<ul style="list-style-type: none"> • IPv4 モードでは、表示の DHCP BOUND などの DHCPv4 状態だけが表示されます。 • IPv6 モードでは、RPITER ADVERTISE., (GOOD IP) など、DHCPv6 状態だけが表示されます。 • デュアルスタック モードでは、DHCPv4 および DHCPv6 両方の情報が表示されます。

次の表に、DHCPv4 および DHCPv6 状態の表示メッセージについて説明します。

表 29 : DHCPv4 のイーサネット統計メッセージ

DHCPv4 状態	説明
CDP INIT	CDP がバインドされていないか、WLAN が稼働していない
DHCP BOUND	DHCPv4 は BOUND
DHCP DISABLED	DHCPv4 は無効
DHCP INIT	DHCPv4 は INIT
DHCP INVALID	DHCPv4 は INVALID (これが初期状態)
DHCP RENEWING	DHCPv4 は RENEWING
DHCP REBINDING	DHCPv4 は REBINDING
DHCP REBOOT	DHCPv4 は init-reboot
DHCP REQUESTING	DHCPv4 は要求中
DHCP RESYNC	DHCPv4 は RESYNCH
DHCP WAITING COLDBOOT TIMEOUT	DHCPv4 は起動中
DHCP UNRECOGNIZED	認識されない DHCPv4 状態
DISABLED DUPLICATE IP	重複した IPv4 アドレス
DHCP TIMEOUT	DHCPv4 タイムアウト

DHCPv4 状態	説明
IPV4 STACK TURNED OFF	電話機は IPv6 のみモードで、IPv4 スタックはオフ
ILLEGAL IPV4 STATE	不正な IPv4 状態、発生すべきでない

表 30: DHCPv6 のイーサネット統計メッセージ

DHCPv6 状態	説明
CDP INIT	CDP を初期化中
DHCP6 BOUND	DHCPv6 は BOUND
DHCP6 DISABLED	DHCPv6 は DISABLED
DHCP6 RENEW	DHCPv6 は更新中
DHCP6 REBIND	DHCPv6 は再バインド中
DHCP6 INIT	DHCPv6 は初期化中
DHCP6 SOLICIT	DHCPv6 は請求中
DHCP6 REQUEST	DHCPv6 は要求中
DHCP6 RELEASING	DHCPv6 は解放中
DHCP6 RELEASED	DHCPv6 は解放済み
DHCP6 DISABLING	DHCPv6 は無効化中
DHCP6 DECLINING	DHCPv6 は拒否中
DHCP6 DECLINED	DHCPv6 は拒否された
DHCP6 INFOREQ	DHCPv6 は INFOREQ
DHCP6 INFOREQ DONE	DHCPv6 は INFOREQ DONE
DHCP6 INVALID	DHCPv6 は INVALID (これが初期状態)
DISABLED DUPLICATE IPV6	DHCP6 は DISABLED だが、DUPLICATE IPV6 DETECTED


DHCPv6 状態	説明
DHCP6 DECLINED DUPLICATE IP	DHCP6 は DISABLED -- DUPLICATE IPV6 DETECTED
ROUTER ADVERTISE., (DUPLICATE IP)	重複した自動設定 IPv6 アドレス
DHCP6 WAITING COLDBOOT TIMEOUT	DHCPv6 は起動中
DHCP6 TIMEOUT USING RESTORED VAL	DHCPv6 タイムアウト、フラッシュメモリに保存された値を使用
DHCP6 TIMEOUT CANNOT RESTORE	DHCP6 はタイムアウト、フラッシュメモリからのバックアップなし
IPV6 STACK TURNED OFF	電話機は IPv4 のみモードで、IPv6 スタックはオフ
ROUTER ADVERTISE., (GOOD IP)	
ROUTER ADVERTISE., (BAD IP)	
UNRECOGNIZED MANAGED BY	IPv6 アドレスはルータまたはDHCPv6 サーバからのものではない
ILLEGAL IPV6 STATE	不正な IPv6 状態、発生すべきでない

[ワイヤレス統計 (Wireless Statistics)] 画面の表示

[ワイヤレス統計 (Wireless Statistics)] 画面には、ワイヤレス Cisco IP Phone 8841、8851、8861 に関する統計情報が表示されます。

[ワイヤレス統計 (Wireless Statistics)] 画面を表示するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1 アプリケーション  を押します。
 - ステップ 2 [管理者設定 (Administrator Settings)] を選択します。
 - ステップ 3 [ステータス (Status)] を選択します。
 - ステップ 4 [ワイヤレス統計 (Wireless Statistics)] を選択します。 [ワイヤレス統計 (Wireless Statistics)] の各フィールドについては、[WLAN 統計, \(259 ページ\)](#) を参照してください。
 - ステップ 5 ワイヤレス統計を 0 にリセットするには、[リストのクリア (Clear List)] を押します。
 - ステップ 6 [ワイヤレス統計 (Wireless Statistics)] 画面を終了するには、[終了 (Exit)] を押します。
-

WLAN 統計

次の表は、電話機での WLAN 統計を示します。

表 31 : Cisco Unified IP Phone の WLAN 統計

項目	説明
送信フレーム (Transmit Frames)	電話機が送信したパケットの数。
ダイレクトフレーム受信 (Directed Frames Received)	電話機が受信したダイレクトパケットの数。
マルチキャストフレーム受信 (Multicast Frames Received)	電話機が受信したマルチキャストパケットの数
ブロードキャストフレーム受信 (Broadcast Frames Received)	電話機が受信したブロードキャストパケットの数。
エラーの受信 (Receive Errors)	電話機が受信したエラーパケットの数。
バッファなしの受信 (Receive No Buffers)	電話機にパケットを受信するために利用できるバッファがありません。
FCS (フレームチェックサム) エラー (FCS Errors)	受信された MPDU で FCS エラーが検出されると増加します。
重複するフレーム (Duplicate Frames)	電話機が受信した重複パケットの数。
受信したフラグメント (Fragments Received)	電話機が受信したフラグメントパケットの数。
ビーコン受信 (Beacons Received)	電話機が受信したビーコンの数。
アソシエーション拒否 (Association Rejected)	電話機が受信した AP アソシエーション拒否の数。

項目	説明
アソシエーションタイムアウト (Association Timeouts)	電話機が受信した AP アソシエーション タイムアウトの数。
認証拒否 (Authentication Rejects)	電話機が受信した認証拒否の数。
認証タイムアウト (Authentication Timeouts)	電話機が受信した認証タイムアウトの数。
QOS Null フレーム (QOS Null Frames)	電話機が受信した QOS Null パケット。
次の WLAN 統計項目は、バックグラウンド (BK)、ベストエフォート (BE)、ビデオ (VI)、およびボイス (VO) の各 AP キューを表示します。	
QOS データ受信 (QOS Data Received)	電話機が受信した QOS パケットの数。
送信 OK (Transmit Ok)	電話機がエラーなしで送信したパケット数。
送信エラー (Transmit Errors)	電話機が送信したエラー パケットの数。
ダイレクトフレーム送信 (Direct Frames Transmitted)	電話機が送信したダイレクトパケットの数。
マルチキャストフレーム送信 (Multicast Frames Transmitted)	電話機が送信したマルチキャスト パケットの数
ブロードキャストフレーム送信 (Broadcast Frames Transmitted)	電話機が送信したブロードキャスト パケットの数
RTS 失敗 (RTS Failed)	対応する CTS が受信されませんでした。
ACK 失敗 (ACK Failed)	AP が送信に確認応答しませんでした。
再試行 (Retries)	合計再試行数のカウンタ。
複数回の再試行 (Multiple Retries)	成功まで複数の再試行が必要なパケットの送信。

項目	説明
再試行失敗 (Retry Failures)	失敗したパケットの送信。
送信タイムアウト (Transmit Timeouts)	キュー時間により失敗したパケットの送信。
成功カウンタ (Success Counter)	成功した送信のカウンタ。
最大再試行失敗数 (Max Retry Failure)	ローミング試行による連続送信失敗のカウンタ。

[コール統計 (Call Statistics)] ウィンドウの表示

電話機の [コールの統計 (Call Statistics)] 画面にアクセスすると、最新のコールのカウンタ、統計、および音声品質メトリックを表示できます。



- (注) また Web ブラウザを使用して [ストリームの統計 (Streaming Statistics)] Web ページにアクセスすることにより、リモートでコール統計情報を表示することもできます。この Web ページには、電話機では表示できない追加の RTCP 統計が含まれています。リモートモニタリングの詳細については、[Cisco IP Phone Web ページ](#)、(266 ページ) を参照してください。

単一のコールが複数の音声ストリームを使用する場合がありますが、最後の音声ストリームに関するデータだけがキャプチャされます。音声ストリームは、2つのエンドポイント間のパケットストリームです。一方のエンドポイントが保留になると、コールが引き続き接続されている場合でも、音声ストリームは停止します。コールが再開されると、新しい音声パケットストリームが開始され、以前のコールデータは新しいコールデータによって上書きされます。

手順

-
- ステップ 1** [アプリケーション (Applications)] を押します。
- ステップ 2** [管理者設定 (Administrator Settings)] > [ステータス (Status)] > [コール統計 (Call Statistics)] を選択します。
- ステップ 3** [コール統計 (Call Statistics)] 画面を終了するには、[終了 (Exit)] を押します。
-

コール統計のフィールド

次の表に、[コール統計 (Call Statistics)] 画面の項目を示します。

表 32 : Cisco Unified Phone の [コール統計 (Call Statistics)] の項目

項目	説明
受信コーデック (Rcvr Codec)	受信された音声ストリームのタイプ (RTP ストリーミング オーディオの送信元コーデック)。G.729、G.722、G.711 mu-law、G.711 A-law、iLBC。
送信コーデック (Sender Codec)	送信された音声ストリームのタイプ (RTP ストリーミング オーディオの送信元コーデック)。G.729、G.722、G.711 mu-law、G.711 A-law、iLBC。
受信サイズ (Rcvr Size)	受信中の音声ストリーム (RTP ストリーミング オーディオ) の音声パケット サイズ (ミリ秒)。
送信サイズ (Sender Size)	送信中の音声ストリームの音声パケット サイズ (ミリ秒)。
受信パケット (Rcvr Packets)	音声ストリームが開始されてから受信された RTP 音声パケットの数。 (注) コールが保留されていた可能性があるため、この数値は、必ずしもコールが開始されてから受信された RTP 音声パケットの数と同じであるとは限りません。
送信パケット (Sender Packets)	音声ストリームが開始されてから送信された RTP 音声パケットの数。 (注) コールが保留されていた可能性があるため、この数値は、必ずしもコールが開始されてから送信された RTP 音声パケットの数と同じであるとは限りません。
平均ジッター (Avg Jitter)	受信中の音声ストリームが開始されてから測定された、RTP パケットジッターの推定平均値 (パケットがネットワークを経由する際の動的な遅延) (ミリ秒単位)。
最大ジッター (Max Jitter)	受信中の音声ストリームが開始されてから測定された最大ジッター (ミリ秒単位)。
受信削除 (Rcvr Discarded)	受信中の音声ストリームで廃棄された RTP パケットの数 (不良パケット、過度の遅延などによる)。 (注) シスコ ゲートウェイが生成したペイロードタイプ 19 のコンフォート ノイズ パケットはこのカウンタを増分するため、電話機はこれらのパケットを破棄します。
受信喪失パケット (Rcvr Lost Packets)	失われた RTP パケット (転送中に喪失)。
音声品質メトリック (Voice Quality Metrics)	


項目	説明
累積フレーム損失率 (Cumulative Conceal Ratio)	隠蔽フレームの総数を、音声ストリームの開始以降に受信された音声フレームの総数で割った値。
直近フレーム損失率 (Interval Conceal Ratio)	アクティブな音声に先行する 3 秒間の間隔における、音声フレームに対する隠蔽フレームの比率。音声アクティビティ検出 (VAD) を使用する場合は、アクティブな音声を 3 秒集めるために、もっと長い間隔が必要になる可能性があります。
最大フレーム損失率 (Max Conceal Ratio)	音声ストリームの開始以降、最も高い間隔の損失率。
フレーム損失発生秒数 (Conceal Secs)	音声ストリームの開始以降、隠蔽イベント (フレーム損失) があつた秒数 ([深刻なフレーム損失発生秒数 (Severely Conceal Secs)] の値を含む)。
深刻なフレーム損失発生秒数 (Severely Conceal Secs)	音声ストリームの開始以降、5 % を超える隠蔽イベント (フレーム損失) があつた秒数。
遅延 (Latency)	ネットワーク遅延の推定値 (ミリ秒単位)。ラウンドトリップ遅延の実行中の平均値を表します。これは、RTCP 受信レポートブロックの受信時に測定されます。

[現在のアクセスポイント (Current Access Point)] ウィンドウの表示

[現在のアクセスポイント (Current Access Point)] 画面は、ワイヤレス Cisco IP Phone 8841、8851、8861 の現在のアクセスポイントに関する統計情報を表示します。[現在のアクセスポイント (Current Access Point)] のフィールド、(264 ページ) に、この画面に表示される情報の説明を示します。

[現在のアクセスポイント (Current Access Point)] 画面を表示するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1 アプリケーション  を押します。
 - ステップ 2 [管理者設定 (Administrator Settings)] を選択します。
 - ステップ 3 [ステータス (Status)] を選択します。
 - ステップ 4 [現在のアクセスポイント (Current Access Point)] を選択します。
 - ステップ 5 [現在のアクセスポイント (Current Access Point)] 画面を終了するには、[終了 (Exit)] を押します。
-

[現在のアクセス ポイント (Current Access Point)]のフィールド

次の表に、[現在のアクセス ポイント (Current Access Point)]画面のフィールドを示します。

表 33: [現在のアクセス ポイント (Current Access Point)]の項目

項目	説明
AP 名 (AP Name)	CCX 準拠している場合は AP 名、それ以外は MAC アドレスが表示されます。
MAC アドレス (MAC Address)	AP の MAC アドレス。
周波数 (Frequency)	この AP で測定された最新の周波数。
前回の RSSI (Last RSSI)	この AP で測定された最新の RSSI。
ビーコン間隔 (Beacon Interval)	ビーコン間の時間単位の数。時間単位は 1.024 msec です。
機能 (Capability)	このフィールドには、要求またはアドバタイズされたオプション機能を示すのに使用されるサブフィールド数が含まれます。
基本レート (Basic Rates)	APが要求し、ステーションが動作に対応している必要がある AP のデータレート。
オプションレート (Optional Rates)	APがサポートし、ステーションにとってオプションで動作する AP のデータレート。
現在のチャンネル (Current Channel)	この AP で測定された最新のチャンネル。
DTIM 期間 (DTIM Period)	すべての nth ビーコンが DTIM 時間です。各 DTIM ビーコン後に、AP は、電力節約デバイスに対してキューに入っているブロードキャストパケットまたはマルチキャストパケットを送信します。
国コード (Country Code)	2 桁の国番号。国情報要素 (IE) がビーコン内に存在しない場合は表示されません。
チャンネル (Channels)	(国 IE で) サポートされているチャンネルのリスト。
電力制限 (Power Constraint)	規制区域の制限から最大伝送パワーが減らされる電力量。

項目	説明
電力上限 (Power Limit)	そのチャンネルに許容される dBm での最大送信電力。
チャンネル使用率 (Channel Utilization)	APによって検知されたメディアがビジーである、255に正規化された時間の割合。物理または仮想キャリア検知 (CS) メカニズムによって示されません。
ステーション数 (Station Count)	APが要求し、ステーションが動作に対応している必要があるデータレート。
アドミッションキャパシティ (Admission Capacity)	明示的なアドミッションコントロールを通じて使用可能なメディアの残り時間を指定する符号なし整数 (32 マイクロ秒/秒の単位)。 値が 0 の場合、AP はこの情報要素をサポートせず、キャパシティはわかりません。
WMM サポート済み (WMM Supported)	Wi-Fi マルチメディア エクステンションのサポート。
UAPSD サポート済み (UAPSD Supported)	APは Unscheduled Automatic Power Save Delivery をサポートします。WMM がサポートされている場合だけ使用可能です。この機能はワイヤレス IP Phone での通話時間と最大コール密度の達成にとって重要です。
プロキシ ARP (Proxy ARP)	CCX 準拠 AP は、関連ステーションに代わって IP ARP 要求に対して応答します。この機能は、ワイヤレス IP Phone のスタンバイ時間にとって重要です。
CCX バージョン (CCX Version)	APが CCX 準拠の場合、このフィールドは CCX バージョンを表示します。
ベストエフォート (Best Effort)	
バックグラウンド (Background)	
ビデオ (Video)	
音声 (Voice)	

Cisco IP Phone Web ページ

Cisco IP Phone には、それぞれ Web ページがあります。この Web ページで、電話機に関する次のような情報を表示できます。

- [デバイス情報 (Device Information)] : 電話機のデバイスの設定および関連情報を表示します。
- [ネットワークのセットアップ情報 (Network Setup Information)] : ネットワークのセットアップ情報とその他の電話機の設定情報を表示します。
- [ネットワーク統計情報 (Network statistics)] : ネットワーク トラフィックに関する情報を提供するハイパーリンクを表示します。
- [デバイス ログ (Device Logs)] : トラブルシューティングに利用できる情報を提供する次のハイパーリンクを表示します。
- [ストリームの統計 (Streaming Statistics)] : [音声とビデオの統計 (Audio and Video statistics)]、[ストリーム 1 (Stream 1)]、[ストリーム 2 (Stream 2)]、[ストリーム 3 (Stream 3)]、[ストリーム 4 (Stream 4)]、[ストリーム 5 (Stream 5)]、および [ストリーム 6 (Stream 6)] ハイパーリンクを含み、さまざまなストリームの統計情報が表示されます。

ここでは、電話機の Web ページから取得可能な情報について説明します。この情報は、電話機の操作のリモート モニタやトラブルシューティングに役立てることができます。

また、この情報の多くは、電話機から直接取得することもできます。詳細については、[モデル情報 (Model Information)] ウィンドウの表示、(241 ページ) を参照してください。

関連トピック

[電話機の Web ページへのアクセスの制御](#)、(225 ページ)

電話機の Web ページへのアクセス

Cisco IP Phone の Web ページにアクセスするには、次の手順を実行します。




(注) Web ページにアクセスできない場合は、デフォルトでアクセスが無効になっている可能性があります。

手順

ステップ 1 次の方法のいずれかを使用して、Cisco IP Phone の IP アドレスを入手します。

- a) Cisco Unified CM の管理で [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択して、電話機を検索します。Cisco Unified Communications Manager に登録されている電話機の IP アドレスが、

[電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ウィンドウと [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの上部に表示されます。

- b) Cisco IP Phone で、アプリケーション  ボタンを押して、[管理者設定 (Administrator Settings)] > [ネットワークのセットアップ (Network Setup)] > [イーサネットのセットアップ (Ethernet Setup)] > [IPv4 のセットアップ (IPv4 Setup)] を選択して、[IP アドレス (IP Address)] オプションまでスクロールします。

ステップ 2 Web ブラウザを開いて、次の URL を入力します。ここで、*IP_address* は Cisco IP Phone の IP アドレスです。
http://<IP_address>

デバイス情報

電話機の Web ページの [デバイス情報 (Device Information)] エリアには、電話機のデバイス設定と関連情報が表示されます。次の表に、これらの項目を示します。



(注) 次の表にリストしている一部の項目は、すべての電話機モデルに適用されません。

[デバイス情報 (Device Information)] 領域を表示するには、[電話機の Web ページへのアクセス](#)、[\(266 ページ\)](#) の説明に従って、電話機の Web ページにアクセスしてから、[デバイス情報 (Device Information)] ハイパーリンクをクリックします。

表 34: [デバイス情報 (Device Information)] 領域の項目

項目	説明
MAC アドレス (MAC Address)	電話機のメディア アクセス コントロール (MAC) アドレス。
ホスト名 (Host Name)	電話機の MAC アドレスに基づいて電話機に自動的に割り当てられる一意の固定された名前。
電話番号 (Phone DN)	電話機に割り当てられている電話番号。
バージョン (Version)	電話機で作動しているファームウェアの ID。
キー拡張モジュール 1 (Key Expansion Module 1)	該当する場合、最初の KEM の ID。
キー拡張モジュール 2 (Key Expansion Module 2)	該当する場合、2 番目の KEM の ID。

項目	説明
キー拡張モジュール 3 (Key Expansion Module 3)	該当する場合、3 番目の KEM の ID。
ハードウェアのリビジョン (Hardware Revision)	電話機のハードウェアのリビジョン値。
シリアル番号 (Serial Number)	電話機の固有のシリアル番号。
モデル番号 (Model Number)	電話機のモデル番号。
メッセージ受信 (Message Waiting)	この電話機のプライマリ回線で受信したボイス メッセージがあるかどうかを示します。
UDI	<p>電話機に関する次の Cisco Unique Device Identifier (UDI) 情報を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デバイス タイプ (Device Type)]: ハードウェア タイプを示します。たとえば、すべての電話モデルに対して「電話機」が表示されます。 • [デバイスの説明 (Device Description)]: 示されたモデルタイプに関連付けられている電話機の名前を表示します。 • [製品 ID (Product Identifier)]: 電話機モデルを指定します。 • [シリアル番号 (Serial Number)]: 電話機の一意的シリアル番号を表示します。
キー拡張モジュール UDI (Key Expansion Module UDI)	KEM の Cisco 固有デバイス識別情報 (UDI) 。
時刻 (Time)	電話機が属する日時グループの時間。この情報は、Cisco Unified Communications Manager から取得されます。
タイムゾーン (Time Zone)	電話機が属する日時グループのタイムゾーン。この情報は、Cisco Unified Communications Manager から取得されます。
日付 (Date)	電話機が属する日時グループの日付。この情報は、Cisco Unified Communications Manager から取得されます。

項目	説明
FIPS モード有効 (FIPS Mode Enabled)	連邦情報処理標準 (FIPS) モードが有効かどうかを示します。

ネットワークのセットアップ

電話機の Web ページにある [ネットワークのセットアップ (Network Setup)] エリアには、ネットワークの設定情報と電話機のその他の設定に関する情報が表示されます。次の表に、これらの項目を示します。

これらの項目の多くは、Cisco IP Phone の [ネットワークのセットアップ (Network Setup)] メニューで表示し、設定できます。

[ネットワークのセットアップ (Network Setup)] 領域を表示するには、[電話機の Web ページへのアクセス](#)、(266 ページ) の説明に従って電話機の Web ページにアクセスし、次に [ネットワークのセットアップ (Network Setup)] ハイパーリンクをクリックします。

表 35: [ネットワークのセットアップ (Network Setup)] 領域の項目

項目	説明
DHCP サーバ (DHCP Server)	電話機の IP アドレス取得元となる Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) サーバの IP アドレス。
BOOTP サーバ (BOOTP Server)	電話機が設定をブートストラッププロトコル (BootP) サーバから取得するかどうかを示します。
MAC アドレス (MAC Address)	電話機のメディア アクセス コントロール (MAC) アドレス。
ホスト名 (Host Name)	DHCP サーバが電話機に割り当てたホスト名。
ドメイン名 (Domain Name)	電話機が所属するドメイン ネーム システム (DNS) ドメインの名前。
IP アドレス (IP Address)	電話機のインターネットプロトコル (IP) アドレス。
サブネットマスク (Subnet Mask)	電話機で使用されるサブネットマスク。
TFTP サーバ 1 (TFTP Server 1)	電話機で使用される、プライマリの Trivial File Transfer Protocol (TFTP) サーバ。

項目	説明
TFTP サーバ 2 (TFTP Server 2)	電話機で使用される、バックアップの Trivial File Transfer Protocol (TFTP) サーバ。
デフォルト ルータ 1 (Default Router 1)	電話機で使用される、デフォルト ルータ。
DNS サーバ 1 ~ 3 (DNS Server 1-3)	電話機で使用されるプライマリ DNS サーバ ([DNS サーバ 1 (DNS Server 1)]) およびオプションのバックアップ DNS サーバ ([DNS サーバ 2 (DNS Server 2)] ~ [DNS サーバ 3 (DNS Server 3)]) 。
接続先 VLAN ID (Operational VLAN ID)	電話機が所属する、Cisco Catalyst スイッチに設定された接続先 Virtual Local Area Networks (VLAN)。
管理 VLAN ID (Admin. VLAN ID)	電話機がメンバーになっている補助 VLAN。
CUCM サーバ 1 (CUCM Server 1) ~CUCM サーバ 5 (CUCM Server 5)	<p>電話機を登録可能な Cisco Unified Communications Manager サーバのホスト名または IP アドレス (優先度順)。 限定された Cisco Unified Communications Manager 機能を提供できる SRST ルータが使用可能な場合、項目にそのルータの IP アドレスが表示されることもあります。</p> <p>使用可能なサーバについては、この項目に Cisco Unified Communications Manager サーバの IP アドレスと、次の状態のいずれかが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [アクティブ (Active)] : 電話機が現在コール処理サービスを受けている Cisco Unified Communications Manager サーバです。 • [スタンバイ (Standby)] : 現在のサーバがダウンした場合に、電話機が切り替える先の Cisco Unified Communications Manager サーバ。 • [空白 (Blank)] : この Cisco Unified Communications Manager サーバへの接続は現在ありません。 <p>項目には、Survivable Remote Site Telephony (SRST) 指定も含めることができます。これは、限定された Cisco Unified Communications Manager 機能を提供できる SRST ルータを特定します。このルータは、他のすべての Cisco Unified Communications Manager サーバが到達不能になった場合に、コールの処理を引き継ぎます。SRST Cisco Unified Communications Manager は、アクティブであっても、常にサーバのリストの最後尾に表示されます。SRST ルータ アドレスは、[Cisco Unified CM の設定 (Cisco Unified Communications Manager Configuration)] ウィンドウの [デバイス プール (Device Pool)] セクションで設定します。</p>

項目	説明
情報 URL (Information URL)	電話機に表示されるヘルプ テキストの URL。
ディレクトリ URL (Directories URL)	電話機でディレクトリ情報の取得元となるサーバの URL。
メッセージ URL (Messages URL)	電話機でメッセージ サービスの取得元となるサーバの URL。
サービス URL (Services URL)	電話機が Cisco Unified IP Phone サービスを取得するサーバの URL。
DHCP を使う (DHCP Enabled)	電話機が DHCP を使用するかどうかを示します。
DHCP アドレス解放 (DHCP Address Released)	電話機の [ネットワークの設定 (Network Configuration)] メニューの [DHCP アドレス解放 (DHCP Address Released)] オプションの設定を示します。
代替 TFTP (Alternate TFTP)	電話機が代替 TFTP サーバを使用しているかどうかを示します。
アイドル URL (Idle URL)	電話機が [URL のアイドル時間 (Idle URL Time)] フィールドで指定された時間にわたって使用されず、メニューが開かれていない場合に表示される URL。
URL のアイドル時間 (Idle URL Time)	電話機がアイドル状態で、いかなるメニューも開かれない時間 (秒数) であり、この時間の経過後、[アイドル URL (Idle URL)] で指定した XML サービスがアクティブになります。
プロキシサーバの URL (Proxy Server URL)	電話機の HTTP クライアントの代わりにローカル以外のホストアドレスに HTTP 要求を送信し、ローカル以外のホストから電話機の HTTP クライアントへの応答を提供するプロキシサーバの URL。
認証 URL (Authentication URL)	電話機の Web サーバに発行された要求を検証するために、電話機が使用する URL。

項目	説明
SW ポートのセットアップ (SW Port Setup)	<p>スイッチポートの速度とデュプレックス。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [A] : 自動ネゴシエーション • [10H] : 10-BaseT/半二重 • [10F] : 10-BaseT/全二重 • [100H] : 100-BaseT/半二重 • [100F] : 100-BaseT/全二重 • [1000F] : 1000-BaseT/全二重 • [リンクがありません (No Link)] : スイッチポートへの接続がありません。
PC ポートのセットアップ (PC Port Setup)	<p>スイッチポートの速度とデュプレックス。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [A] : 自動ネゴシエーション • [10H] : 10-BaseT/半二重 • [10F] : 10-BaseT/全二重 • [100H] : 100-BaseT/半二重 • [100F] : 100-BaseT/全二重 • [1000F] : 1000-BaseT/全二重 • [リンクがありません (NoLink)] : PCポートへの接続がありません。
TFTP サーバ 2 (TFTP Server 2)	<p>プライマリ TFTP サーバが使用不能になった場合に、電話機が使用するバックアップ TFTP サーバ。</p>
ユーザ ロケール (User Locale)	<p>電話機のユーザに関連付けられているユーザロケール。言語、フォント、日付と時刻の形式、および英数字キーボードのテキスト情報など、ユーザをサポートするための一連の詳細情報を示します。</p>
ネットワークロケール (Network Locale)	<p>電話機のユーザに関連付けられているネットワークロケール。電話機が使用するトーンと断続周期の定義など、特定の場所にある電話機をサポートするための一連の詳細情報を示します。</p>
ヘッドセットを使う (Headset Enabled)	<p>電話機のヘッドセットボタンが有効になっているかどうかを示します。</p>

項目	説明
ユーザ ロケールバージョン (User Locale Version)	電話機にロードされたユーザ ロケールのバージョン。
ネットワーク ロケールバージョン (Network Locale Version)	電話機にロードされたネットワーク ロケールのバージョン。
PCポートを無効にする (PC Port Disabled)	電話機のPCポートが有効になっているか無効になっているかを示します。
スピーカーを使う (Speaker Enabled)	電話機のスピーカフォンが有効になっているかどうかを示します。
GARP を使う (GARP Enabled)	電話機が Gratuitous ARP 応答から MAC アドレスを取得するかどうかを示します。
ビデオ機能を使う (Video Capability Enabled)	適切に準備されたカメラに接続されたときに、電話機がビデオ コールに参加できるかどうかを示します。
ボイス VLAN を使う (Voice VLAN Enabled)	電話機が、PCポートに接続されたデバイスに、ボイス VLAN へのアクセスを許可するかどうかを示します。
通話制御の DSCP (DSCP for Call Control)	コール制御シグナリングの DSCP IP 分類。
設定の DSCP (DSCP for Configuration)	電話機の設定転送の DSCP IP 分類。
サービスの DSCP (DSCP for Services)	電話機ベースのサービスの DSCP IP 分類。
セキュリティ モード (Security Mode)	電話機に設定されているセキュリティ モード。

項目	説明
Web アクセス可能 (Web Access Enabled)	電話機の Web アクセスが有効 ([はい (Yes)]) か無効 ([いいえ (No)]) かを示します。
PC ポートへのスパン (Span to PC Port)	ネットワーク ポートで送受信されるパケットをアクセス ポートに転送するかどうかを表示します。
PC VLAN	PC に送信されたパケットから 802.1P/Q タグを識別し、削除する VLAN。
PC ポートの CDP (CDP on PC Port)	PC ポートで CDP がサポートされているかどうかを示します (デフォルトでは有効)。 Cisco Unified Communications Manager で CDP が無効になっている場合は、PC ポートで CDP を無効にすると CVTA が動作しなくなることを示す警告が表示されます。 PC ポートとスイッチポートの CDP に関する現在の値は、[設定 (Settings)] メニューに表示されます。
SW ポートの CDP (CDP on SW Port)	スイッチポートで CDP がサポートされているかどうかを示します (デフォルトでは有効)。 電話機、電力ネゴシエーション、QoS 管理、および 802.1x セキュリティに VLAN を割り当てる場合は、スイッチポートで CDP を有効にします。 電話機を Cisco スイッチに接続した場合は、スイッチポートで CDP を有効にします。 CDP が Cisco Unified Communications Manager で無効になっているときは、電話機を Cisco スイッチ以外のスイッチに接続した場合に限り、スイッチポートで CDP を無効にする必要があることを示す警告が表示されます。 PC ポートとスイッチポートの CDP に関する現在の値は、[設定 (Settings)] メニューに表示されます。
LLDP-MED : SW ポート (LLDP-MED: SW Port)	スイッチポートで Link Layer Discovery Protocol Media Endpoint Discovery (LLDP-MED) が有効になっているかどうかを示します。
LLDP : PC ポート (LLDP: PC Port)	リンク層検出プロトコル (LLDP) が PC ポートで有効かどうかを示します。

項目	説明
LLDP 電源優先度 (LLDP Power Priority)	電話機の電源優先度をスイッチにアダプタイズし、スイッチが電力を適切に電話機に供給できるようにします。次の設定があります。 <ul style="list-style-type: none"> • 不明 (Unknown) : これがデフォルト値です。 • 低 (Low) • 大 (High) • クリティカル (Critical)
LLDP アセット ID (Critical)	在庫管理のため電話機に割り当てられているアセット ID を識別します。

ネットワーク統計 (Network Statistics)

電話機の Web ページにある次のネットワーク統計ハイパーリンクには、電話機のネットワークトラフィックに関する情報が表示されます。

- [イーサネット情報 (Ethernet Information)] : イーサネットトラフィックに関する情報を表示します。
- [アクセス (Access)] : 電話機の PC ポートとの間で送受信されるネットワークトラフィックに関する情報を表示します。
- [ネットワーク (Network)] : 電話機のネットワークポートとの間で送受信されるネットワークトラフィックに関する情報を表示します。

ネットワーク統計領域を表示するには、電話機の Web ページにアクセスして、[イーサネット情報 (Ethernet Information)]、[アクセス (Access)]、または [ネットワーク (Network)] ハイパーリンクをクリックします。

[イーサネット情報 (Ethernet Information)] Web ページ

次の表では、[イーサネット情報 (Ethernet Information)] Web ページの内容について説明しています。

表 36 : [イーサネット情報 (Ethernet Information)] の項目

項目	説明
Tx フレーム (Tx Frames)	電話機が送信するパケットの総数。
Tx ブロードキャスト (Tx broadcast)	電話機が送信するブロードキャストパケットの総数。

項目	説明
Tx マルチキャスト (Tx multicast)	電話機が送信するマルチキャストパケットの総数。
Tx ユニキャスト (Tx unicast)	電話機が送信するユニキャストパケットの総数。
Rx フレーム (Rx Frames)	電話機が受信したパケットの総数。
Rx ブロードキャスト (Rx broadcast)	電話機が受信するブロードキャストパケットの総数。
Rx マルチキャスト (Rx multicast)	電話機が受信するマルチキャストパケットの総数。
Rx ユニキャスト (Rx unicast)	電話機が受信するユニキャストパケットの総数。
Rx PacketNoDes	ダイレクトメモリアクセス (DMA) 記述子がないため廃棄されたパケットの総数。

[アクセス領域 (Access Area)] と [ネットワーク領域 (Network Area)] の Web ページ

次の表で、[アクセス領域 (Access Area)] および [ネットワーク領域 (Network Area)] の Web ページの情報を説明します。

表 37: [アクセス領域 (Access Area)] と [ネットワーク領域 (Network Area)] のフィールド

項目	説明
Rx totalPkt	電話機が受信したパケットの合計数
Rx crcErr	CRC が失敗した、受信されたパケットの合計数
Rx alignErr	フレーム チェック シーケンス (FCS) が無効であり、長さが 64 ~ 1522 バイトの受信されたパケットの合計数
Rx マルチキャスト (Rx multicast)	電話機が受信したマルチキャストパケットの合計数
Rx ブロードキャスト (Rx broadcast)	電話機が受信したブロードキャストパケットの合計数
Rx ユニキャスト (Rx unicast)	電話機が受信したユニキャストパケットの合計数

項目	説明
Rx shortErr	サイズが 64 バイトより小さい、受信された FCS エラー パケットまたは Align エラー パケットの合計数
Rx shortGood	サイズが 64 バイトより小さい、受信された有効なパケットの合計数
Rx longGood	サイズが 1522 バイトより大きい、受信された有効なパケットの合計数
Rx longErr	サイズが 1522 バイトより大きい、受信された FCS エラー パケットまたは Align エラー パケットの合計数
Rx size64	無効なパケットを含め、サイズが 0 ～ 64 バイトまでの受信されたパケットの合計数
Rx size65to127	無効なパケットを含め、サイズが 65 ～ 127 バイトまでの受信されたパケットの合計数
Rx size128to255	無効なパケットを含め、サイズが 128 ～ 255 バイトまでの受信されたパケットの合計数
Rx size256to511	無効なパケットを含め、サイズが 256 ～ 511 バイトまでの受信されたパケットの合計数
Rx size512to1023	無効なパケットを含め、サイズが 512 ～ 1023 バイトまでの受信されたパケットの合計数
Rx size1024to1518	無効なパケットを含め、サイズが 1024 ～ 1518 バイトまでの受信されたパケットの合計数
Rx tokenDrop	リソース不足 (FIFO オーバーフローなど) が原因でドロップされたパケットの合計数
Tx excessDefer	メディアが使用中であることが原因で送信が遅延したパケットの合計数
Tx lateCollision	パケット転送の開始後 512 ビット時間過ぎてから衝突が起こった回数
Tx totalGoodPkt	電話機が受信した有効なパケット (マルチキャスト、ブロードキャスト、およびユニキャスト) の合計数
Tx Collisions	パケットの送信中に生じた衝突の合計回数

項目	説明
Tx excessLength	パケット送信が16回試行されたために送信されなかったパケットの合計数
Tx ブロードキャスト (Tx broadcast)	電話機が送信したブロードキャストパケットの合計数
Tx マルチキャスト (Tx multicast)	電話機が送信したマルチキャストパケットの合計数
LLDP FramesOutTotal	電話機から送信された LLDP フレームの合計数
LLDP AgeoutsTotal	キャッシュ内でタイムアウトになった LLDP フレームの合計数
LLDP FramesDiscardedTotal	必須 TLV のいずれかについて、欠落している、順序に誤りがある、または範囲を超える文字列長が含まれているために廃棄された LLDP フレームの合計数
LLDP FramesInErrorsTotal	検出可能なエラーが1つ以上含まれる状態で受信された LLDP フレームの合計数
LLDP FramesInTotal	電話機が受信した LLDP フレームの合計数
LLDP TLVDiscardedTotal	破棄された LLDP TLV の総数。
LLDP TLVUnrecognizedTotal	電話機で認識されなかった LLDP TLV の総数。
CDP ネイバー デバイス ID (CDP Neighbor Device ID)	CDP が検出した、このポートに接続されているデバイスの ID
CDP ネイバー IP アドレス (CDP Neighbor IP Address)	CDP プロトコルで検出されたネイバー デバイスの IP アドレス
CDP ネイバー ポート (CDP Neighbor Port)	CDP プロトコルで検出された、電話機が接続されているネイバー デバイスのポート。
LLDP ネイバー デバイス ID (LLDP Neighbor Device ID)	LLDP で検出された、このポートに接続されているデバイスの ID。
LLDP ネイバー IP アドレス (LLDP Neighbor IP Address)	LLDP プロトコルで検出されたネイバー デバイスの IP アドレス。
LLDP ネイバー ポート (LLDP Neighbor Port)	LLDP プロトコルで検出された、電話機が接続されているネイバー デバイスのポート。

項目	説明
ポート情報 (Port Information)	速度と二重化モード。

デバイス ログ

電話機の Web ページにある次のデバイス ログのハイパーリンクには、電話機のモニタとトラブルシューティングに役立つ情報が表示されます。

- [コンソール ログ (Console Logs)] : 個々のログ ファイルへのハイパーリンクが含まれています。コンソール ログ ファイルには、電話機が受信したデバッグ メッセージとエラー メッセージが含まれます。
- [コア ダンプ (Core Dumps)] : 個々のダンプ ファイルへのハイパーリンクが含まれています。コア ダンプ ファイルには、電話のクラッシュ時のデータが含まれています。
- [ステータス メッセージ (Status Messages)] : 電話機に最後に電源が投入されてから電話機が生成したステータス メッセージの中で最近のものを最大 10 件表示します。電話機の [ステータス メッセージ (Status Messages)] 画面にも、この情報が表示されます。
- [デバッグの表示 (Debug Display)] : トラブルシューティングのサポートを依頼する際に、Cisco TAC に有用なデバッグ メッセージを提供します。

ストリームの統計

Cisco Unified IP Phone は、同時に最大で 3 つのデバイスとの間で情報をストリーミングできます。電話機は、コール中、または音声やデータの送受信サービスの作動中に、情報をストリーミングします。

電話機の Web ページにある [ストリームの統計 (Streaming Statistics)] 領域には、ストリームに関する情報が表示されます。

次の表に、[ストリームの統計 (Streaming Statistics)] 領域の項目を示します。

表 38 : [ストリームの統計 (*Streaming Statistics*)] 領域の項目

項目	説明
リモート アドレス (Remote Address)	ストリームの宛先の IP アドレスおよび UDP ポート。
ローカル アドレス (Local Address)	電話機の IP アドレスおよび UDP ポート。
開始時間 (Start Time)	Cisco Unified Communications Manager が電話機にパケットの送信開始を要求した時間を示す内部タイム スタンプ。

項目	説明
ストリーム ステータス (Stream Status)	ストリーミングがアクティブかどうかを示します。
ホスト名 (Host Name)	電話機の MAC アドレスに基づいて電話機に自動的に割り当てられる一意の固定された名前。
送信パケット (Sender Packets)	この接続の開始以降に電話機が送信した RTP データ パケットの総数。接続が受信専用モードに設定されている場合、値は 0 です。
送信オクテット (Sender Octets)	この接続の開始以降に電話が RTP データ パケットで送信したペイロードオクテットの総数。接続が受信専用モードに設定されている場合、値は 0 です。
送信コーデック (Sender Codec)	送信ストリームに対応する音声符号化のタイプ。
送信した送信レポート (Sender Reports Sent) (注を参照)	RTCP 送信レポートが送信された回数。
送信した送信レポート時間 (Sender Report Time Sent) (注を参照)	最後に RTCP 送信レポートが送信された時間を示す内部タイムスタンプ。
受信喪失パケット (Rcvr Lost Packets)	この接続でのデータの受信を開始してから失われた RTP データ パケットの総数。予期されたパケット数から実際に受信されたパケット数を差し引いた値として定義されます。受信パケット数には、遅延または重複パケットも含まれます。接続が送信専用モードに設定されていた場合、値は 0 として表示されます。
平均ジッター (Avg Jitter)	RTP データ パケットの内部到着時間の平均偏差の推定値 (ミリ秒単位)。接続が送信専用モードに設定されていた場合、値は 0 として表示されます。
受信コーデック (Rcvr Codec)	受信ストリームに使用された音声符号化のタイプ。
送信した受信レポート (Rcvr Reports Sent) (注を参照)	RTCP 受信レポートが送信された回数。

項目	説明
送信した受信レポート時間 (Rcvr Report Time Sent) (注を参照)	RTCP 受信レポートが送信された時間を示す内部タイムスタンプ。
受信パケット (Rcvr Packets)	この接続でのデータ受信開始以降に電話機が受信した RTP データパケットの総数。マルチキャストコールの場合は、さまざまな送信元から受信したパケットが含まれます。接続が送信専用モードに設定されていた場合、値は 0 として表示されます。
受信オクテット (Rcvr Octets)	この接続でのデータ受信開始以降にデバイスが RTP データパケットで受信したペイロードオクテットの総数。マルチキャストコールの場合は、さまざまな送信元から受信したパケットが含まれます。接続が送信専用モードに設定されていた場合、値は 0 として表示されます。
累積フレーム損失率 (Cumulative Conceal Ratio)	隠蔽フレームの総数を、音声ストリームの開始以降に受信された音声フレームの総数で割った値。
直近フレーム損失率 (Interval Conceal Ratio)	アクティブな音声の直前の 3 秒間の音声フレームに対する隠蔽フレームの比率。音声アクティビティ検出 (VAD) を使用している場合、3 秒間のアクティブな音声を蓄積するには、より長い間隔が必要になることがあります。
最大フレーム損失率 (Max Conceal Ratio)	音声ストリームの開始以降、最も高い間隔の損失率。
MOS LQK	リスニング品質 (LQK) の平均オピニオン評点 (MOS) を客観的に評価するスコアで、5 (優良) ~ 1 (不良) でランク付けされます。このスコアは、音声ストリームの先行 8 秒間でのフレーム損失に起因する音声隠蔽イベントに基づいています。詳細については、 音声品質のモニタリング 、(311 ページ) を参照してください。 (注) MOS LQK スコアは、Cisco Unified IP Phone が使用するコーデックタイプに基づいて変化する可能性があります。
平均 MOS LQK (Avg MOS LQK)	音声ストリーム全体で測定された平均 MOS LQK スコア。
最小 MOS LQK (Min MOS LQK)	音声ストリームの開始以降に測定された最も低い MOS LQK スコア。

項目	説明
最大 MOS LQK (Max MOS LQK)	音声ストリームの開始以降に測定されたベースライン MOS LQK スコアまたは最も高い MOS LQK スコア。 これらのコーデックは、フレーム損失なしの通常の条件で次の最大 MOS LQK スコアを提供します。 <ul style="list-style-type: none">• G.711 のスコア : 4.5。• G.729 A /AB のスコア : 3.7。
MOSLQK のバージョン (MOS LQK Version)	MOSLQK スコアを計算するために使用されるシスコ独自のアルゴリズムのバージョン。
フレーム損失発生秒数 (Conceal Secs)	音声ストリームの開始以降、隠蔽イベント (フレーム損失) があった秒数 ([深刻なフレーム損失発生秒数 (Severely Conceal Secs)] の値を含む)。
深刻なフレーム損失発生秒数 (Severely Conceal Secs)	音声ストリームの開始以降、5% を超える隠蔽イベント (フレーム損失) があった秒数。
遅延 (Latency) (注を参照)	ネットワーク遅延の推定値 (ミリ秒単位)。ラウンドトリップ遅延の実行中の平均値を表します。これは、RTCP 受信レポートブロックの受信時に測定されます。
最大ジッター (Max Jitter)	瞬時ジッターの最大値 (ミリ秒単位)。
送信サイズ (Sender Size)	送信ストリームの RTP パケット サイズ (ミリ秒単位)。
受信した送信レポート (Sender Reports Received) (注を参照)	RTCP 送信レポートが受信された回数。
受信した送信レポート時間 (Sender Report Time Received) (注を参照)	RTCP 送信レポートが最後に受信された時間。
受信サイズ (Rcvr Size)	受信ストリームの RTP パケット サイズ (ミリ秒単位)。

項目	説明
受信削除 (Rcvr Discarded)	ネットワークから受信されたが、ジッターバッファから廃棄された RPT パケット。
受信した受信レポート (Rcvr Reports Received) (注を参照)	RTCP 受信レポートが受信された回数。
受信した受信レポート時間 (Rcvr Report Time Received) (注を参照)	RTCP 受信レポートが最後に受信された時間。
音声品質メトリック (Voice Quality Metrics)	
累積フレーム損失率 (Cumulative Conceal Ratio)	隠蔽フレームの総数を、音声ストリームの開始以降に受信された音声フレームの総数で割った値。
直近フレーム損失率 (Interval Conceal Ratio)	アクティブな音声に先行する 3 秒間の間隔における、音声フレームに対する隠蔽フレームの比率。音声アクティビティ検出 (VAD) を使用している場合、3 秒間のアクティブな音声を蓄積するには、より長い間隔が必要になることがあります。
最大フレーム損失率 (Max Conceal Ratio)	音声ストリームの開始以降、最も高い間隔の損失率。
フレーム損失発生秒数 (Conceal Secs)	音声ストリームの開始以降、隠蔽イベント (フレーム損失) があった秒数 ([深刻なフレーム損失発生秒数 (Severely Conceal Secs)] の値を含む)。
深刻なフレーム損失発生秒数 (Severely Conceal Secs)	音声ストリームの開始以降、5 % を超える隠蔽イベント (フレーム損失) があった秒数。



(注) RTP 制御プロトコルが無効になっている場合、このフィールドのデータは生成されないため、0 が表示されます。

XML での電話からの情報要求

トラブルシューティングの目的で、電話機からの情報を要求できます。結果の情報は XML 形式です。次の情報を参照できます。

- CallInfo は特定の回線のコールセッション情報です。
- LineInfo は電話機の回線設定情報です。
- ModeInfo は電話モードの情報です。

はじめる前に

情報を入手するために Web アクセスが有効になっている必要があります。
電話機がユーザに関連付けられている必要があります。

手順

ステップ 1 Call Info については、ブラウザに次の URL を入力します。http://<phone ip address>/CGI/Java/CallInfo<x>

説明：

- <phone ip address> は電話機の IP アドレスです。
- <x> は情報を取得する回線番号です。

コマンドは XML ドキュメントを返します。

ステップ 2 Line Info については、ブラウザに次の URL を入力します。http://<phone ip address>/CGI/Java/LineInfo

説明：

- <phone ip address> は電話機の IP アドレスです。

コマンドは XML ドキュメントを返します。

ステップ 3 Model Info については、ブラウザに次の URL を入力します。http://<phone ip address>/CGI/Java/ModelInfo

説明：

- <phone ip address> は電話機の IP アドレスです。

コマンドは XML ドキュメントを返します。

CallInfo の出力例

次の XML コードは、CallInfo のコマンドの出力例を示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<CiscoIPPhoneCallLineInfo>
  <Prompt/>
  <Notify/>
  <Status/>
  <LineDirNum>1030</LineDirNum>
  <LineState>CONNECTED</LineState>
  <CiscoIPPhoneCallInfo>
    <CallState>CONNECTED</CallState>
    <CallType>INBOUND</CallType>
    <CallingPartyName/>
    <CallingPartyDirNum>9700</CallingPartyDirNum>
    <CalledPartyName/>
    <CalledPartyDirNum>1030</CalledPartyDirNum>
    < HuntPilotName/>
    <CallReference>30303060</CallReference>
    <CallDuration>12835</CallDuration>
    <CallStatus>null</CallStatus>
    <CallSecurity>UNAUTHENTICATED</CallSecurity>
    <CallPrecedence>ROUTINE</CallPrecedence>
    <FeatureList/>
  </CiscoIPPhoneCallInfo>
  <VisibleFeatureList>
    <Feature Position="1" Enabled="true" Label="End Call"/>
    <Feature Position="2" Enabled="true" Label="Show Detail"/>
  </VisibleFeatureList>
</CiscoIPPhoneCallLineInfo>
```

LineInfo の出力例

次の XML コードは LineInfo コマンドからの出力例を示します。

```
<CiscoIPPhoneLineInfo>
  <Prompt/>
  <Notify/>
  <Status>null</Status>
  <CiscoIPPhoneLines>
    <LineType>9</LineType>
    <lineDirNum>1028</lineDirNum>
    <MessageWaiting>NO</MessageWaiting>
    <RingerName>Chirp1</RingerName>
    <LineLabel/>
    <LineIconState>ONHOOK</LineIconState>
  </CiscoIPPhoneLines>
  <CiscoIPPhoneLines>
    <LineType>9</LineType>
    <lineDirNum>1029</lineDirNum>
    <MessageWaiting>NO</MessageWaiting> <RingerName>Chirp1</RingerName>
    <LineLabel/>
    <LineIconState>ONHOOK</LineIconState>
  </CiscoIPPhoneLines>
  <CiscoIPPhoneLines>
    <LineType>9</LineType>
    <lineDirNum>1030</lineDirNum>
    <MessageWaiting>NO</MessageWaiting>
    <RingerName>Chirp1</RingerName>
    <LineLabel/>
    <LineIconState>CONNECTED</LineIconState>
  </CiscoIPPhoneLines>
  <CiscoIPPhoneLines>
    <LineType>2</LineType>
    <lineDirNum>9700</lineDirNum>
    <MessageWaiting>NO</MessageWaiting>
    <LineLabel>SD9700</LineLabel>
```

```
<LineIconState>ON</LineIconState>
</CiscoIPPhoneLines>
</CiscoIPPhoneLineInfo>
```

ModeInfo の出力例

次の XML コードは ModeInfo コマンドからの出力例を示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
<CiscoIPPhoneModeInfo>
  <PlaneTitle>Applications</PlaneTitle>
  <PlaneFieldCount>12</PlaneFieldCount>
  <PlaneSoftKeyIndex>0</PlaneSoftKeyIndex>
  <PlaneSoftKeyMask>0</PlaneSoftKeyMask>
  <Prompt></Prompt>
  <Notify></Notify>
  <Status></Status>
  <CiscoIPPhoneFields>
    <FieldType>0</FieldType>
    <FieldAttr></FieldAttr>
    <fieldHelpIndex>0</fieldHelpIndex>
    <FieldName>Call History</FieldName>
    <FieldValue></FieldValue>
  </CiscoIPPhoneFields>
  <CiscoIPPhoneFields>
    <FieldType>0</FieldType>
    <FieldAttr></FieldAttr>
    <fieldHelpIndex>0</fieldHelpIndex>
    <FieldName>Preferences</FieldName>
    <FieldValue></FieldValue>
  </CiscoIPPhoneFields>
  ...
</CiscoIPPhoneModeInfo>
```



第 14 章

トラブルシューティング

- 一般的なトラブルシューティング情報, 287 ページ
- 起動時の問題, 289 ページ
- Cisco IP Phone のリセットの問題, 293 ページ
- 電話機が LAN に接続できない, 295 ページ
- Cisco IP Phone のセキュリティの問題, 296 ページ
- コールに関する一般的な問題, 300 ページ
- トラブルシューティング手順, 301 ページ
- その他のトラブルシューティング情報, 306 ページ

一般的なトラブルシューティング情報

次の表は、Cisco IP Phone の一般的なトラブルシューティング情報を示しています。

表 39: Cisco IP Phone のトラブルシューティング

要約	説明
Cisco IP Phone から別の Cisco IP Phone への接続。	シスコでは、PC ポートを経由した IP Phone 間の接続はサポートしていません。各 IP Phone はスイッチポートに直接接続する必要があります。電話機が PC ポートを使用して 1 つの回線にまとめて接続されている場合、それらの電話機は動作しません。
長時間のブロードキャストストームのために、IP Phone がリセットされたり、コールの発信や応答ができなかったりすることがあります。	ボイス LAN 上の長時間（数分間）にわたるレイヤ 2 ブロードキャストストームのために、IP Phone がリセットされたり、アクティブなコールが失われたり、コールの発信や応答ができなくなることがあります。ブロードキャストストームが終了するまで、電話機が起動しないことがあります。

要約	説明
<p>ネットワーク接続の電話機からワークステーションへの移行</p>	<p>ネットワーク接続を介して電話機に電力を供給している場合は、電話機のネットワーク接続を外して、そのケーブルをデスクトップコンピュータに接続する際に注意する必要があります。</p> <p>注意 コンピュータのネットワークカードには、ネットワーク接続を介して電力を供給できないため、接続を介して電力を供給すると、ネットワークカードが破損する場合があります。ネットワークカードを保護するために、電話機からケーブルを抜いた後、10秒以上待機してから、そのケーブルをコンピュータに接続してください。この待機している間に、スイッチは電話機が回線に存在しなくなったことを認識し、ケーブルへの電力供給を停止することができます。</p>
<p>電話機の設定変更</p>	<p>デフォルトでは、ネットワーク接続に影響を与える可能性のある変更をユーザが加えないように、ネットワーク設定オプションはロックされています。ネットワーク設定オプションを設定する前に、それらをロック解除する必要があります。詳細については、電話機パスワードの適用、(47 ページ) を参照してください。</p> <p>(注) 管理者パスワードが共通の電話プロファイルで設定されていない場合、ユーザはネットワーク設定を変更できます。</p>
<p>電話機と他のデバイスのコーデックの不一致</p>	<p>RxType 統計および TxType 統計に、この Cisco IP Phone と他のデバイスとのやり取りに使用されているコーデックが表示されます。これらの統計情報の値は、一致している必要があります。コーデックが一致しない場合、相手側のデバイスがコーデック会話を処理できるかどうか、またはトランスコーダがサービスを処理するように設置されているかどうかを確認します。</p>
<p>電話機と別のデバイスの音声サンプルの不一致</p>	<p>RxSize 統計および TxSize 統計に、この Cisco IP Phone と他のデバイスとのやり取りに使用される音声パケットのサイズが表示されます。これらの統計情報の値は、一致している必要があります。</p>

要約	説明
ループバック状態	<p>ループバック状態は、次の条件を満たすと発生します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 電話機の [ネットワークの設定 (Network Configuration)] メニューの [SW ポート設定 (SW Port Configuration)] オプションが [10 ハーフ (10 Half)] (10-BaseT/半二重) に設定されている。 電話機に外部電源から電力が供給されている。 電話機の電源が切れている (電源装置が接続されていない)。 <p>この場合、電話機のスイッチポートが無効になり、次のメッセージがスイッチのコンソールログに表示されます。</p> <p><code>HALF_DUX_COLLISION_EXCEED_THRESHOLD</code></p> <p>この問題を解決するには、スイッチからポートを再度有効にします。</p>

起動時の問題

下の関連項目で説明するとおり、ネットワークに Cisco IP Phone を設置し、Cisco Unified Communications Manager に追加すると、電話機は起動します。

電話機が正しく起動しない場合は、次の項のトラブルシューティング情報を参照してください。

Cisco IP Phone が通常の起動プロセスを実行しない

問題

Cisco IP Phone をネットワークポートに接続したとき、電話機が関連項目で説明されている通常の起動プロセスを実行せず、電話スクリーンに情報が表示されません。

原因

電話機が起動プロセスを実行しない場合、ケーブル不良、不正な接続、ネットワークの停止、電力の不足、または電話機が機能していないなどの原因が考えられます。

ソリューション

電話機が動作しているかどうかを確認するには、次の推奨事項に従って、考えられる他の問題を排除します。

- ネットワークポートが動作していることを確認します。

- イーサネット ケーブルを、動作することがわかっているケーブルと交換します。
 - 動作している Cisco IP Phone を別のポートから取り外してこのネットワーク ポートに接続し、このポートがアクティブであることを確認します。
 - 起動しない Cisco IP Phone を、正常であることがわかっている別のネットワーク ポートに接続します。
 - 起動しない Cisco IP Phone をスイッチのポートに直接接続して、オフィスのパッチ パネル接続を省きます。
- 電話機に電力が供給されていることを確認します。
 - 外部電源を使用している場合は、電気のコンセントが機能していることを確認します。
 - インラインパワーを使用している場合は、代わりに外部電源を使用します。
 - 外部電源を使用している場合は、動作することがわかっているユニットに切り替えます。
 - これらを実行しても電話機が正常に起動しない場合は、ハンドセットをオフフックにして電話機の電源を入れます。この方法で電話機に電源を投入すると、電話機はバックアップソフトウェアイメージを起動しようとします。
 - これらを試しても、電話機が正常に起動しない場合は、電話機を工場出荷時の状態にリセットします。
 - これらの解決策を試みた後、5分経過しても Cisco IP Phone の電話スクリーンに何も表示されない場合は、シスコのテクニカルサポートの担当者に連絡して、サポートを受けてください。

Cisco IP Phone が Cisco Unified Communications Manager に登録されない

電話機が起動プロセスの第1段階（LEDボタンが点滅する）を完了しても、引き続き電話スクリーンにメッセージが表示される場合、電話機は正常に起動していません。電話機は、イーサネットネットワークに接続され、Cisco Unified Communications Manager サーバに登録されていない限り、正常に起動できません。

これ以外に、セキュリティ上の問題によって電話機が正常に起動しないこともあります。詳細については、[トラブルシューティング手順](#)、(301 ページ) を参照してください。

電話機にエラー メッセージが表示される

問題

ステータス メッセージには、起動中のエラーが表示されます。

ソリューション

電話機が起動プロセスを繰り返している間は、問題の原因に関する情報を提供するステータスメッセージにアクセスできます。ステータスメッセージへのアクセスに関する説明、およびエラーの可能性とその説明、解決策の一覧については、[\[ステータスメッセージ \(Status Messages\)\] ウィンドウの表示](#)、(244 ページ) を参照してください。

電話機が TFTP サーバまたは Cisco Unified Communications Manager に接続できない

問題

電話機と、TFTP サーバまたは Cisco Unified Communications Manager の間のネットワークがダウンしている場合は、電話機が正しく起動できません。

ソリューション

現在、ネットワークが作動していることを確認してください。

電話機が TFTP サーバに接続できない

問題

TFTP サーバの設定が正しくない可能性があります。

ソリューション

TFTP 設定を確認します。

電話機がサーバに接続できない

問題

IP アドレッシングおよびルーティングのフィールドが正しく設定されていない可能性があります。

ソリューション

電話機の IP アドレッシングおよびルーティングの設定を確認する必要があります。DHCP を使用している場合は、DHCP サーバがこれらの値を提供します。電話機にスタティック IP アドレスを割り当てている場合は、これらの値を手動で入力する必要があります。

電話機が DNS を使用して接続できない

問題

DNS 設定が誤っている可能性があります。

ソリューション

TFTP サーバまたは Cisco Unified Communications Manager へのアクセスに DNS を使用する場合は、DNS サーバを指定してあることを確認してください。

Cisco Unified Communications Manager および TFTP サービスの未作動

問題

Cisco Unified Communications Manager または TFTP サービスが作動していない場合は、電話機が正常に起動できないことがあります。このような状況では、システム全体にわたる障害が発生しており、他の電話機やデバイスも正しく起動できない可能性があります。

ソリューション

Cisco Unified Communications Manager サービスが作動していない場合は、コールを確立するためにこのサービスに依存しているネットワーク上のすべてのデバイスが影響を受けます。TFTP サービスが作動していない場合は、多数のデバイスが正常に起動できません。詳細については、[サービスの開始](#)、(305 ページ) を参照してください。

設定ファイルの破損

問題

この章に記載された他の解決策を試みても解決しない問題が特定の電話機で存続する場合は、設定ファイルが破損している可能性があります。

ソリューション

電話機の新しい設定ファイルを作成します。詳細については、[新しい電話機設定ファイルの作成](#)、(304 ページ) を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager での電話機の登録

問題

電話機が Cisco Unified Communications Manager に登録されていません。

ソリューション

Cisco IP Phone は、電話機がサーバに追加されている場合、または自動登録が有効になっている場合にのみ、Cisco Unified Communications Manager サーバに登録できます。[電話機の追加方法](#)、(82 ページ) の情報と手順を見直して、電話機が Cisco Unified Communications Manager データベースに追加されていることを確認します。

電話機が Cisco Unified Communications Manager データベースに登録されていることを確認するには、Cisco Unified Communications Manager Administration から [デバイス (Device)] > [検索 (Find)]

を選択します。MACアドレスに基づいて電話機を検索するには、[検索 (Find)] をクリックします。MACアドレスの確認方法については、[電話機のMACアドレスの決定](#)、(81 ページ) を参照してください。

電話機がすでに Cisco Unified Communications Manager データベースに登録されている場合は、設定ファイルが損傷している可能性があります。解決策については、[設定ファイルの破損](#)、(292 ページ) を参照してください。

Cisco IP Phone が IP アドレスを取得できない

問題

電話機が起動時に IP アドレスを取得できない場合は、その電話機が DHCP サーバと同じネットワークまたは VLAN 上に存在しないか、または電話機が接続されている先のスイッチポートが無効になっている可能性があります。

ソリューション

電話機が接続されている先のネットワークまたは VLAN が DHCP サーバにアクセスできること、およびスイッチポートが有効になっていることを確認します。

Cisco IP Phone のリセットの問題

電話機が通話中やデスク上でアイドル状態のときにリセットされるという報告をユーザから受けた場合は、原因を調査する必要があります。ネットワーク接続と Cisco Unified Communications Manager の接続が安定している場合は、Cisco IP Phone がリセットされることはありません。

通常は、イーサネット ネットワークまたは Cisco Unified Communications Manager への接続に問題がある場合に電話機がリセットされます。

断続的なネットワークの停止による電話機のリセット

問題

ネットワークで断続的な停止が発生している可能性があります。

ソリューション

断続的なネットワークの停止は、データトラフィックと音声トラフィックにそれぞれ異なる影響を与えます。ネットワークで断続的な停止が、検出されずに発生している可能性があります。この場合、データトラフィックでは喪失パケットを再送信し、パケットが受信および送信されたことを確認できます。ただし、音声トラフィックでは、喪失パケットを取り戻すことはできません。電話機は、失われたネットワーク接続を再送信するのではなく、ネットワークをリセットして再接続しようとしています。音声ネットワークでの既知の問題については、システム管理者にお問い合わせください。

DHCP の設定エラーによって電話機がリセットされる

問題

DHCP 設定が正しくない可能性があります。

ソリューション

電話機が DHCP を使用するように正しく設定されていることを確認します。DHCP サーバが正しくセットアップされていることを確認します。DHCP リース期間を確認します。シスコでは、リース期間を 8 日に設定することを推奨しています。

誤ったスタティック IP アドレスによる電話機のリセット

問題

電話機に割り当てられたスタティック IP アドレスが正しくない可能性があります。

ソリューション

電話機にスタティック IP アドレスが割り当てられている場合は、正しい設定値が入力されていることを確認します。

ネットワーク使用量が多いときの電話機のリセット

問題

ネットワーク使用量が多いときに Cisco IP Phone がリセットされるように思われる場合は、ボイス VLAN が設定されていない可能性があります。

ソリューション

電話機を個別の補助 VLAN に分離することで、音声トラフィックの品質が向上します。

意図的なリセットでの電話機リセット

問題

Cisco Unified Communications Manager へのアクセス権を持つ管理者が 1 人だけではない場合は、他の管理者が意図的に電話機をリセットしていないかどうかを確認する必要があります。

ソリューション

Cisco IP Phone が Cisco Unified Communications Manager からリセット コマンドを受信したかどうかは、電話機の [アプリケーション (Applications)] を押し、[管理者設定 (Administrator Settings)]

>[ステータス (Status)]>[ネットワーク統計 (Network Statistics)]の順に選択することによって確認できます。

- [リスタートの原因 (Restart Cause)] フィールドに [Reset-Reset] が表示される場合、電話機は Cisco Unified Communications Manager の管理ページからリセット/リセットを受信していません。
- [リスタートの原因 (Restart Cause)] フィールドに [Reset-Restart] が表示される場合、電話機は Cisco Unified Communications Manager の管理ページからリセット/リスタートを受信したために切断されました。

DNS エラーまたは他の接続の問題による電話機のリセット

問題

電話機のリセットが続いており、DNS またはその他の接続の問題が疑われます。

ソリューション

電話機が引き続きリセットされる場合は、[DNS または接続の問題の特定 \(302 ページ\)](#) の手順に従って、DNS またはその他の接続エラーを排除します。

電話機に電源が入らない

問題

電話機に電源が入っているように見えません。

ソリューション

電話機が再起動するのは、ほとんどの場合、外部電源から電源が供給されていたが、その接続が失われて PoE に切り替わったときです。同様に、PoE を使用して電力が供給されている電話機が外部電源に接続された場合にも、電話機が再起動することがあります。

電話機が LAN に接続できない

問題

LAN への物理的な接続が切断されている可能性があります。

ソリューション

Cisco IP Phone が接続されている先のイーサネット接続が動作していることを確認します。たとえば、電話機が接続されている先の特定のポートまたはスイッチがダウンしていないか、またスイッチが再起動中でないかどうかを確認します。また、ケーブルの切断が存在しないことも確認してください。

Cisco IP Phone のセキュリティの問題

ここでは、Cisco IP Phone のセキュリティ機能のトラブルシューティングに関する情報を示します。これらの問題の任意の解決方法、およびセキュリティに関するトラブルシューティングの詳細情報については、『*Cisco Unified Communications Manager Security Guide*』を参照してください。

CTL ファイルの問題

ここでは、CTL ファイルの問題のトラブルシューティングについて説明します。

認証エラー。電話機が CTL ファイルを認証できない

問題

デバイスの認証エラーが発生しました。

原因

CTL ファイルに Cisco Unified Communications Manager の証明書がないか、証明書が不正です。

ソリューション

適切な証明書をインストールします。

電話機が CTL ファイルを認証できない

問題

電話機が CTL ファイルを認証できない。

原因

電話機の CTL ファイル内に、更新された CTL ファイルに署名したセキュリティ トークンがありません。

ソリューション

CTL ファイル内のセキュリティ トークンを変更し、新しいファイルを電話機にインストールします。

CTL ファイルは認証されるが、他の設定ファイルが認証されない

問題

電話機が CTL ファイル以外の設定ファイルを認証できません。

原因

不正な TFTP レコードが存在するか、電話機の信頼リストの対応する証明書によって設定ファイルが署名されていない可能性があります。

ソリューション

TFTP レコード、および信頼リストの証明書を確認します。

ITL ファイルは認証されるが、他の設定ファイルが認証されない**問題**

電話機が ITL ファイル以外の設定ファイルを認証できません。

原因

設定ファイルは、電話機の信頼リストの対応する証明書によって署名されていない可能性があります。

ソリューション

正しい証明書を使用してコンフィギュレーション ファイルに再署名します。

TFTP 認証が失敗する**問題**

電話機が TFTP 認証の失敗を報告する。

原因

CTL ファイルに電話機の TFTP アドレスがありません。

新しい TFTP レコードを含む新しい CTL ファイルを作成した場合は、電話機上の既存の CTL ファイルには新しい TFTP サーバ用のレコードが含まれない可能性があります。

ソリューション

電話機の CTL ファイルの TFTP アドレス設定を確認します。

電話機が登録されない**問題**

電話機が Cisco Unified Communications Manager に登録されない。

原因

CTL ファイルに Cisco Unified Communications Manager サーバ用の正しい情報が含まれていません。

ソリューション

CTL ファイル内の Cisco Unified Communications Manager サーバの情報を変更します。

署名付き設定ファイルが要求されない**問題**

電話機が、署名付き設定ファイルを要求しない。

原因

CTL ファイルに証明書付きの TFTP エントリが含まれていません。

ソリューション

証明書付きの TFTP エントリを CTL ファイルに設定します。

802.1X 認証の問題

801.1X 認証の問題は、次の表で説明するカテゴリに分けることができます。

表 40 : 802.1X 認証の問題の特定

次の条件がすべて該当する場合	参照先
<ul style="list-style-type: none"> • 電話機が DHCP 割り当ての IP アドレスを取得できない。 • 電話機が Cisco Unified Communications Manager に登録されない。 • 電話機のステータスが、[IP を設定中 (Configuring IP)] または [登録 (Registering)] として表示される。 • 802.1X 認証ステータスが [保留 (Held)] として表示される。 • [ステータス (Status)] メニューに 802.1x のステータスが [失敗 (Failed)] として表示される。 	<p>802.1X が電話機で有効だが、電話機が認証されない、(299 ページ)</p>

次の条件がすべて該当する場合	参照先
<ul style="list-style-type: none"> • 電話機が DHCP 割り当ての IP アドレスを取得できない。 • 電話機が Cisco Unified Communications Manager に登録されない。 • 電話機のステータスが、[IP を設定中 (Configuring IP)] または [登録 (Registering)] として表示される。 • 802.1X 認証ステータスが [無効 (Disabled)] として表示される。 • [ステータス (Status)]メニューに、DHCP ステータスがタイムアウトしたことが表示される。 	<p>802.1X が有効になっていない問題、 (300 ページ)</p>
<ul style="list-style-type: none"> • 電話機が DHCP 割り当ての IP アドレスを取得できない。 • 電話機が Cisco Unified Communications Manager に登録されない。 • 電話機のステータスが、[IP を設定中 (Configuring IP)] または [登録 (Registering)] として表示される。 • 802.1X ステータスを確認するための電話機メニューにアクセスできない。 	<p>電話機を工場出荷時の状態にリセットすると、802.1X 共有秘密が削除される、 (300 ページ)</p>

802.1X が電話機で有効だが、電話機が認証されない

問題

電話機を認証できません。

原因

このようなエラーは、802.1X 認証が電話機で有効になっていても、電話機を認証できないことを示します。

ソリューション

この問題を解決するには、802.1X および共有秘密設定を確認します。 [802.1X 認証の問題の識別](#)、[\(305 ページ\)](#) を参照してください。

802.1X が有効になっていない問題

問題

電話機に 802.1X が設定されていません。

原因

通常、このようなエラーは、802.1X 認証が電話機で有効になっていないことを示します。

ソリューション

電話機で 802.1X が有効になっていない場合は、[802.1X 認証](#)、[\(157 ページ\)](#) を参照してください。

電話機を工場出荷時の状態にリセットすると、802.1X 共有秘密が削除される

問題

リセット後に、電話機が認証されません。

原因

これらのエラーは通常、802.1X が有効である間に、電話機が工場出荷時の状態にリセットされたことを示します。工場出荷時の状態にリセットすると、802.1X 認証とネットワーク アクセスに必要な共有秘密が削除されます。

ソリューション

この問題を解決するには、802.1X 認証を使用していないネットワーク環境に電話機を一時的に移動します。電話機が正常に起動した後、802.1X 設定メニューにアクセスしてデバイス認証を有効にし、共有秘密を再入力できます。詳細については、[802.1X 認証](#)、[\(157 ページ\)](#) を参照してください。

コールに関する一般的な問題

次の各項は、コールに関する一般的な問題のトラブルシューティングに役立ちます。

コールを確立できない

問題

ユーザからコールを発信できないことについての苦情があります。

原因

DHCP IP アドレスが割り当てられていない電話機は、Cisco Unified Communications Manager に登録できません。LCD 画面付きの電話機には、「IP を設定中 (Configuring IP)」または「登録 (Registering)」というメッセージが表示されます。LCD 画面のない電話機では、ユーザがコールを発信しようとする、ハンドセットで (ダイヤル トーンの代わりに) リオーダー音が再生されます。

ソリューション

- 1 次のことを確認してください。
 - a イーサネット ケーブルが接続されている。
 - b Cisco CallManager サービスが Cisco Unified Communications Manager サーバで作動している。
 - c 両方の電話機が同じ Cisco Unified Communications Manager に登録されている。
- 2 両方の電話機で、オーディオサーバデバッグとキャプチャ ログが有効になっています。必要な場合は、Java デバッグを有効にしてください。

電話機が DTMF デイジットを認識しないか、または数字が遅い

問題

ユーザから、キーパッドを使用しているときに数字が消えるか、または遅いという苦情がありません。

原因

キーを速く押しすぎると、数字が消えたり、遅くなったりすることがあります。

ソリューション

キーをあまり速く押さないでください。

トラブルシューティング手順

これらの手順を使用すると、問題を識別したり、解決したりすることができます。

TFTP 設定の確認

手順

-
- ステップ 1** [アプリケーション (Applications)] を押し、[管理者設定 (Admin Settings)] > [ネットワークのセットアップ (Network Setup)] > [IPv4 設定 (IPv4 Setup)] > [TFTP サーバ 1 (TFTP Server 1)] を選択して、電話機が使用する TFTP サーバの IP アドレスを判断できます。
- ステップ 2** 電話機にスタティック IP アドレスを割り当てている場合は、手動で [TFTP サーバ 1 (TFTP Server 1)] オプションに設定値を入力する必要があります。
- ステップ 3** DHCP を使用している場合は、電話機は TFTP サーバのアドレスを DHCP サーバから取得します。オプション 150 で、IP アドレスが設定されていることを確認します。
- ステップ 4** また、電話機が代替 TFTP サーバを使用できるように設定することもできます。このような設定は、電話機の場所を最近移動した場合などに特に役立ちます。
- ステップ 5** ローカル DHCP が正しい TFTP アドレスを提供しない場合は、電話機で代替 TFTP サーバが使用できるようにします。
これは多くの場合、VPN シナリオで必要です。
-

DNS または接続の問題の特定

手順

-
- ステップ 1** [設定のリセット (Reset Settings)] メニューを使用して、電話機をデフォルト値にリセットします。
- ステップ 2** 次の操作を実行して、DHCP および IP の設定を変更します。
- a) DHCP を無効にします。
 - b) 電話機にスタティック IP 値を割り当てます。機能している他の Cisco IP Phone で使用しているものと同じデフォルト ルータの設定を使用します。

- c) TFTP サーバを割り当てます。機能している他の Cisco IP Phone で使用しているものと同じ TFTP サーバを使用します。
- ステップ 3** Cisco Unified Communications Manager サーバで、正しい IP アドレスにマッピングされている正しい Cisco Unified Communications Manager サーバ名がローカル ホスト ファイルに指定されていることを確認します。
- ステップ 4** Cisco Unified Communications Manager から [システム (System)] > [サーバ (Server)] の順に選択し、サーバが DNS 名ではなく IP アドレスで参照されていることを確認します。
- ステップ 5** Cisco Unified Communications Manager から、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。この電話機を検索するには、[検索 (Find)] をクリックします。この Cisco IP Phone に正しい MAC アドレスが割り当てられていることを確認します。
- ステップ 6** 電話機の電源をオフ/オンにします。

関連トピック

[電話機の MAC アドレスの決定, \(81 ページ\)](#)

DHCP 設定の確認

手順

- ステップ 1** Cisco IP Phone で、アプリケーションを押します。
- ステップ 2** [管理者設定 (Admin Settings)] > [ネットワークのセットアップ (Network Setup)] > [IPv4 のセットアップ (IPv4 Setup)] を選択して、次のオプションを確認します。
- [DHCP サーバ (DHCP Server)] : 電話機にスタティック IP アドレスを割り当てている場合は、[DHCP サーバ (DHCP Server)] オプションに値を入力する必要はありません。ただし、DHCP サーバを使用している場合は、このオプションに値が指定されている必要があります。値が見つからない場合は、IP ルーティングおよび VLAN の設定を確認してください。『*Troubleshooting Switch Port and Interface Problems*』を参照してください。このマニュアルは、次の URL から入手できます。
http://www.cisco.com/en/US/customer/products/hw/switches/ps708/prod_tech_notes_list.html
 - [IP アドレス (IP Address)]、[サブネットマスク (Subnet Mask)]、[デフォルトルータ (Default Router)] : 電話機にスタティック IP アドレスを割り当てている場合は、これらのオプションの設定値を手動で入力する必要があります。
- ステップ 3** DHCP を使用している場合は、DHCP サーバによって配布された IP アドレスを確認してください。『*Understanding and Troubleshooting DHCP in Catalyst Switch or Enterprise Networks*』を参照してください。このマニュアルは、次の URL から入手できます。
http://www.cisco.com/en/US/tech/tk648/tk361/technologies_tech_note09186a00800f0804.shtml

新しい電話機設定ファイルの作成



- (注)
- Cisco Unified Communications Manager データベースから電話機を削除すると、設定ファイルが Cisco Unified Communications Manager TFTP サーバから削除されます。電話機の電話番号（1 つまたは複数）は、Cisco Unified Communications Manager データベースに残ります。これらは、「未定義の DN」と呼ばれ、他のデバイスで使用できます。未定義の DN を他のデバイスで使用しない場合は、Cisco Unified Communications Manager データベースから削除します。ルートプランレポートを使用すると、未定義の DN を表示および削除できます。詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Administration Guide*』を参照してください。
 - 電話ボタン テンプレートのボタンを変更したり、異なる電話ボタン テンプレートを電話機に割り当てたりすると、電話機から電話番号にアクセスできなくなることがあります。Cisco Unified Communications Manager データベースでは、引き続き電話番号が電話機に割り当てられていますが、コールに応答するためのボタンがないためです。これらの電話番号は、電話機から消去し、必要に応じて削除してください。

新しい設定ファイルを作成するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager で、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択し、[検索 (Find)] をクリックして、問題が発生している電話機を特定します。
- ステップ 2** [削除 (Delete)] を選択して、電話機を Cisco Unified Communications Manager データベースから削除します。
- (注) Cisco Unified Communications Manager データベースから電話機を削除すると、設定ファイルが Cisco Unified Communications Manager TFTP サーバから削除されます。電話機の電話番号（1 つまたは複数）は、Cisco Unified Communications Manager データベースに残ります。これらは、「未定義の DN」と呼ばれ、他のデバイスで使用できます。未定義の DN を他のデバイスで使用しない場合は、Cisco Unified Communications Manager データベースから削除します。ルートプランレポートを使用すると、未定義の DN を表示および削除できます。詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Administration Guide*』を参照してください。
- ステップ 3** 電話機を Cisco Unified Communications Manager データベースに追加し直します。
- ステップ 4** 電話機の電源をオフ/オンにします。

関連トピック

[電話機の追加方法](#), (82 ページ)

802.1X 認証の問題の識別

手順

-
- ステップ 1** 必要なコンポーネントが正しく設定されていることを確認します。
- ステップ 2** 電話機で共有秘密が設定されていることを確認します。
- 共有秘密が設定されている場合は、認証サーバにそれと同じ共有秘密があることを確認します。
 - 電話機に共有秘密が設定されていない場合は、共有秘密を入力し、認証サーバの共有秘密と一致することを確認します。
-

関連トピック

[802.1X 認証, \(157 ページ\)](#)

DNS 設定の確認

DNS 設定を確認するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [アプリケーション (Applications)] を押します。
- ステップ 2** [管理者設定 (Administrator Settings)] > [ネットワークのセットアップ (Network Setup)] > [IPv4 のセットアップ (IPv4 Setup)] > [DNS サーバ 1 (DNS Server 1)] を選択します。
- ステップ 3** また、DNS サーバに、TFTP サーバと Cisco Unified Communications Manager システムの CNAME エントリが作成されていることを確認する必要があります。また、DNS が逆ルックアップを実行するように設定されていることも確認する必要があります。
-

サービスの開始



(注) サービスを開始または停止するには、事前にサービスをアクティブにする必要があります。

サービスを開始するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページで、[ナビゲーション (Navigation)] ドロップダウンリストから [Cisco Unified サービスアビリティ (Cisco Unified Serviceability)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ 2** [ツール (Tools)] > [コントロールセンター - 機能サービス (Control Center - Feature Services)] の順に選択します。
- ステップ 3** [サーバ (Server)] ドロップダウンリストで、プライマリの Cisco Unified Communications Manager サーバを選択します。
ウィンドウに、選択したサーバのサービス名、サービスのステータス、およびサービスを停止または開始するためのサービス コントロール パネルが表示されます。
- ステップ 4** サービスが停止している場合は、対応するオプション ボタンをクリックし、[開始 (Start)] ボタンをクリックします。
[サービス状況 (Service Status)] 記号が四角形から矢印に変わります。
-

その他のトラブルシューティング情報

電話機のトラブルシューティングに関する詳細については、次の Cisco Web サイトにアクセスして、目的の電話機モデルに移動してください。

<http://www.cisco.com/cisco/web/psa/troubleshoot.html>



第 15 章

メンテナンス

- [基本的なリセット, 307 ページ](#)
- [ネットワーク設定のリセット, 309 ページ](#)
- [ユーザとネットワークの設定のリセット, 309 ページ](#)
- [CTL ファイルの削除, 310 ページ](#)
- [Quality Report Tool, 310 ページ](#)
- [音声品質のモニタリング, 311 ページ](#)
- [Cisco IP Phone のクリーニング, 312 ページ](#)

基本的なリセット

Cisco IP Phone の基本的なリセットを実行すると、電話機にエラーが発生している状態から復旧したり、各種の設定およびセキュリティ設定をリセットまたは復元したりすることができます。

次の表で、基本的なリセットの実行方法を説明します。電話機が起動した後は、これらのいずれかの操作で電話機をリセットできます。状況に応じて適切な操作を選択します。

表 41 : 基本的なリセットの方法

操作	操作	説明
電話機の再起動	[サービス (Services)]、[アプリケーション (Applications)]、または [ディレクトリ (Directories)] を押し、次に *** を押します。	ユーザ セットアップおよびネットワーク セットアップに変更を加えていても、電話機がフラッシュメモリに書き込んでいない場合は、以前に保存された設定にリセットされ、その後、電話機が再起動されます。

操作	操作	説明
設定のリセット	設定をリセットするには、アプリケーションを押し、[管理者設定 (Administrator Settings)]>[設定のリセット (Reset Settings)]>[ネットワーク (Network)]を選択します。	ユーザ セットアップおよびネットワーク セットアップの設定値をデフォルト値にリセットし、電話機を再起動します。
	CTL ファイルをリセットするには、[アプリケーション (Applications)]を押し、[管理者設定 (Admin Settings)]>[設定のリセット (Reset Settings)]>[セキュリティ (Security)]を選択します。	CTL ファイルがリセットされます。

電話機のキーボードからの工場出荷時状態へのリセット

電話機のキーボードを使用して電話機を工場出荷時のデフォルト設定にリセットするには、次の手順を使用します。

手順

ステップ 1 電話機のプラグを抜きます。

- PoE を使用している場合、LAN ケーブルを抜きます。
- 電源キューブを使用している場合、電源キューブを外します。

ステップ 2 5 秒間待ちます。

ステップ 3 # を押したままにして電話機のプラグを再接続します。

ステップ 4 ミュートボタンのライトとハンドセットのライトストリップが消灯し、その他のすべてのライト（回線ボタン、ヘッドセットボタン、スピーカーフォンボタン、選択ボタン）が緑色に点灯しているときに、123456789*0# の順にボタンを押します。1 を押すと、回線ボタンのライトが赤く点灯します。ボタンを押すと、選択ボタンのライトが点滅します。

ボタンを押す順番を間違えると、回線ボタン、ヘッドセットボタン、スピーカーフォンボタン、選択ボタンは緑色に点灯します。もう一度最初から、123456789*0# の順にボタンを押します。これらのボタンを押すと、電話機を工場出荷時の状態にリセットするプロセスが実行されます。

注意 工場出荷時の状態にリセットするプロセスが完了して、メイン画面が表示されるまで、電話機の電源を切らないでください。

電話機のメニューからの工場出荷時状態へのリセット

電話機を工場出荷時の状態にリセットするには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [アプリケーション (Applications)] を押します。
- ステップ 2** リセットの設定はすべて、[管理者設定 (Administrator Settings)] > [設定のリセット (Reset Settings)] > [すべて (All)] を選択します。
必要に応じて、電話機のオプションのロックを解除します。
-

関連トピック

[電話機パスワードの適用, \(47 ページ\)](#)

ネットワーク設定のリセット

ネットワーク設定をデフォルト値にリセットし、電話機をリセットします。この方法を実行すると、DHCP が電話機の IP アドレスを再設定します。

手順

-
- ステップ 1** [管理者設定 (Admin Settings)] メニューから、必要に応じて、電話機のオプションのロックを解除します。
- ステップ 2** [設定のリセット (Reset Settings)] > [ネットワークのセットアップ (Network Setup)] を選択します。
-

関連トピック

[電話機パスワードの適用, \(47 ページ\)](#)

ユーザとネットワークの設定のリセット

ユーザ設定およびネットワーク設定に変更を加えていても、電話機がフラッシュメモリに書き込んでいない場合は、以前に保存された設定にリセットされます。

手順

-
- ステップ 1** [管理者設定 (Admin Settings)]メニューから、必要に応じて、電話機のオプションのロックを解除します。
- ステップ 2** [設定のリセット (Reset Settings)]>[デバイスのリセット (Reset Device)]を選択します。
-

関連トピック

[電話機パスワードの適用, \(47 ページ\)](#)

CTL ファイルの削除

電話機から CTL ファイルのみを削除します。

手順

-
- ステップ 1** [管理者設定 (Admin Settings)]メニューから、必要に応じて、電話機のオプションのロックを解除します。
- ステップ 2** [設定のリセット (Reset Settings)]>[セキュリティ設定 (Security Settings)]を選択します。
-

関連トピック

[電話機パスワードの適用, \(47 ページ\)](#)

Quality Report Tool

品質レポートツール (QRT) は、Cisco IP Phone の音声品質と一般的な問題をレポートするツールです。QRT 機能は、Cisco Unified Communications Manager のインストレーションの一環としてインストールされます。

QRT を使用してユーザの Cisco IP Phone を設定できます。この設定により、ユーザは [品質のレポート (Report Quality)]を押すことによって、電話機のコールの問題を報告できるようになります。このソフトキーまたはボタンは、Cisco IP Phone が [接続時 (Connected)]、[接続時 (会議打診) (Connected Conference)]、[接続時 (転送打診) (Connected Transfer)]、または [オンフック (On Hook)]の状態のときにだけ使用できます。

ユーザが [品質のレポート (Report Quality)]を押すと、問題のカテゴリのリストが表示されます。ユーザが該当する問題カテゴリを選択すると、このフィードバックが XML ファイルに記録されます。実際に記録される情報は、ユーザがどのカテゴリを選択したか、また送信先のデバイスが Cisco IP Phone かどうかによって異なります。

QRT の使用方法の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』を参照してください。

音声品質のモニタリング

ネットワーク内で送受信されるコールの音声品質を測定するために、Cisco IP Phone では隠匿イベントに基づいて次の統計メトリックを使用します。DSP は、音声パケットストリーム内でフレーム損失の部分マスクするために、隠蔽フレームを再生します。

- フレーム損失率のメトリック：音声フレームの総数に対する隠蔽フレームの比率を示します。直近フレーム損失率は、3 秒ごとに計算されます。
- フレーム損失発生秒数のメトリック：損失フレームが原因で DSP が隠蔽フレームを処理する場合の処理秒数を示します。深刻な「フレーム損失発生秒数」は、DSP が 5% を超える秘匿フレームを処理する場合の秒数です。



(注) フレーム損失率とフレーム損失発生秒数は、フレーム損失に基づいた主要な測定値です。フレーム損失率がゼロの場合は、IP ネットワークが損失なく時間どおりにフレームやパケットを配信していることを示しています。

[コール統計 (Call Statistics)] 画面を使用して、Cisco IP Phone から音声品質メトリックにアクセスできます。また、[ストリームの統計 (Streaming Statistics)] 画面を使用してリモートにアクセスすることもできます。

音声品質のトラブルシューティングのヒント

メトリックに大幅な変化が継続的に見られた場合は、次の表の一般的なトラブルシューティング情報を使用してください。

表 42: 音声品質メトリックの変化

メトリックの変化	条件
フレーム損失率とフレーム損失発生秒数が大幅に増加した	パケット損失または高いジッターによるネットワーク障害。

メトリックの変化	条件
フレーム損失率はほとんどゼロであるが、音声品質が悪い。	<ul style="list-style-type: none"> 音声チャネルのノイズや歪み（エコー レベルやオーディオ レベルなど）。 複数のエンコード/デコードが使用されているタンデムコール（セルラー ネットワークや電話カード ネットワークへのコールなど）。 スピーカーフォン、ハンドフリー携帯電話、またはワイヤレス ヘッドセットなどから発生する音響問題。 <p>送信パケット（TxCnt）と受信パケット（RxCnt）のカウンタをチェックし、音声パケットが流れていることを確認します。</p>
MOS LQK スコアが著しく減少	<p>パケット損失または高いジッター レベルによるネットワーク障害。</p> <ul style="list-style-type: none"> 平均 MOS LQK の減少は、広範囲の画一的な障害を示している可能性があります。 個別の MOS LQK の減少は、集中的な障害を示している可能性があります。 <p>フレーム損失率とフレーム損失発生秒数を照合して、パケット損失やジッターがないか確認してください。</p>
MOS LQK スコアが著しく増加	<ul style="list-style-type: none"> 電話機が適切なコーデック（RxType および TxType）を使用しているかどうかを確認してください。 MOS LQK のバージョンがファームウェアアップグレード以降に変更されたかどうかを確認してください。



(注) 音声品質メトリックでは、ノイズや歪みは考慮されません。フレーム損失だけが考慮されません。

Cisco IP Phone のクリーニング

Cisco IP Phone をクリーニングするには、必ず乾いた柔らかい布で軽く電話機とスクリーンを拭いてください。液体や粉末を直接電話機に付けないでください。すべての非耐候性の電子機器と同様に、液体や粉末はコンポーネントを損傷し、障害を引き起こすことがあります。

電話機がスリープモードになっているときは、スクリーンは空白で、選択ボタンは点灯しません。電話機がこの状態のときはスクリーンをクリーニングできますが、クリーニングを終了するまで電話機のスリープ状態が続くことがわかっている場合に限りです。



第 16 章

各言語ユーザのサポート

- [Unified Communications Manager Endpoints Locale インストーラ](#), 315 ページ
- [国際コールのロギングのサポート](#), 315 ページ

Unified Communications Manager Endpoints Locale インストーラ

デフォルトでは、Cisco IP Phone は英語（米国）のロケール用に設定されます。それ以外のロケールで Cisco IP Phone を使用するには、そのロケール固有のバージョンの Unified Communications Manager Endpoints Locale Installer を、クラスタ内の各 Cisco Unified Communications Manager サーバにインストールする必要があります。ロケールインストーラは電話機のユーザインターフェイス用の最新版の翻訳テキストおよび国別の電話トーンをシステムにインストールし、Cisco IP Phone に使用できるようにします。

リリースに必要なロケールインストーラにアクセスするには、<http://software.cisco.com/download/navigator.html?mdfid=286037605&flowid=46245> にアクセスし、お使いの電話機モデルに移動して、Unified Communications Manager Endpoints Locale Installer リンクを選択します。

詳細については、『Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide』の「Locale Installer」項を参照してください。



(注) 最新のロケールインストーラがすぐに利用できるとは限らないため、Web サイトの更新を継続的に確認してください。

国際コールのロギングのサポート

ご使用の電話システムで国際コールのロギング（発信側の正規化）が設定されている場合、通話履歴、リダイヤル、コールディレクトリの各エントリに通話場所の国際エスケープコードを表す「+」記号が表示されることがあります。電話システムの設定によっては、「+」記号ではなく正しい国際ダイヤルコードが表示される場合があります。国際ダイヤルコードが表示されない場合

は、必要に応じて、「+」記号を通話場所の国際エスケープコードに手動で置き換えて番号を編集した後にダイヤルします。また、コールログやディレクトリエントリには受信コールの完全な国際電話番号が表示され、電話機のディスプレイには国際コード（国番号）が省略された国内用の短い番号が表示される場合もあります。